

(受学管 8－11)

木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

図 面 リ ス ト							
建 築				機 械 設 備		電 気 設 備	
図面番号	図 面 内 容	図面番号	図 面 内 容	図面番号	図 面 内 容	図面番号	図 面 内 容
A-01	表紙	A-36	第一体育館 コートライン改修図（バレーボールコート）	M-01	機械設備工事特記仕様書-1	E-01	電気設備工事特記仕様書-1
A-02	建築改修工事特記仕様書 1	A-37	第一体育館 コートライン改修図（バトミントンコート）	M-02	機械設備工事特記仕様書-2	E-02	電気設備工事特記仕様書-2
A-03	建築改修工事特記仕様書 2	A-38	第一体育館 屋根部分詳細図	M-03	機械設備工事特記仕様書-3 機器取付参考図	E-03	改修幹線設備 外構図
A-04	建築改修工事特記仕様書 3	A-39	第一体育館 東側外部基礎、外構詳細図	M-04	配置図	E-04	高圧受変電設備 改修図
A-05	建築改修工事特記仕様書 4	A-40	第一体育館 東側外部基礎、外構、解体撤去図	M-05	第一体育館 機器表 系統図 断面図	E-05	キュービクル詳細図
A-06	建築改修工事特記仕様書 5	A-41	配置兼第二体育館仮設計画図	M-06	第一体育館 1階平面図	E-06	分電盤結線図
A-07	建築改修工事特記仕様書 6	A-42	第二体育館 仮設参考図 平面・立面	M-07	第一体育館 1階平面図 エア搬送ファン系統図	E-07	改修幹線設備 1階平面図
A-08	建築改修工事特記仕様書 7	A-43	第二体育館 改修仕上表	M-08	第一体育館 屋外機周り詳細図 断面詳細図 機器接続系統図	E-08	改修幹線設備 2階平面図
A-09	建築改修工事特記仕様書 8	A-44	第二体育館 1階平面図	M-09	第二体育館 機器表 系統図 断面図	E-09	第一体育館 部分詳細図、配線系統図
A-10	建築工事特記仕様書 1	A-45	第二体育館 2階平面図	M-10	第二体育館 1階平面図	E-10	第一体育館 空調電源1階平面図
A-11	建築工事特記仕様書 2	A-46	第二体育館 RF平面図	M-11	施工標準図 参考図	E-11	第一体育館 空調制御1階平面図
A-12	建築工事特記仕様書 3	A-47	第二体育館 立面図1			E-12	第一体育館 東西立面図
A-13	建築工事特記仕様書 4	A-48	第二体育館 立面図2			E-13	第一体育館 南北立面図
A-14	建築工事特記仕様書 5	A-49	第二体育館 断面詳細図1			E-14	第一体育館 キャットウォーク展開図・断面図
A-15	建築工事特記仕様書 6	A-50	第二体育館 断面詳細図2			E-15	第一体育館 ラック等敷設図 空調機廻り立面図断面図
A-16	付近見取図、配置兼第一体育館仮設計画図	A-51	第二体育館 1階天井伏図			E-16	第一体育館 電気設備雑改修各階平面図
A-17	第一体育館 仮設参考図 平面・立面	A-52	第二体育館 2階天井伏図			E-17	第一体育館 放送室内装改修図
A-18	第一体育館 改修仕上表	A-53	第二体育館 建具表			E-18	第二体育館 詳細図、配線系統図
A-19	第一体育館 1階平面図	A-54	第二体育館 展開図			E-19	第二体育館 幹線空調機電源設備1階平面図
A-20	第一体育館 2階平面図	A-55	第二体育館 部分詳細図 土間階段 SD			E-20	第二体育館 空調制御設備1階平面図
A-21	第一体育館 R階平面図	A-56	第二体育館 部分詳細図 ケーブル支持ラック			E-21	第二体育館 北東立面図
A-22	第一体育館 立面図1	A-57	第二体育館 屋根部分詳細図（改修前）			E-22	第二体育館 展開図
A-23	第一体育館 立面図2	A-58	第二体育館 屋根部分詳細図（改修後）			E-23	第二体育館 電灯コンセント設備1階平面図
A-24	第一体育館 断面詳細図1	A-59	第二体育館 北西外部基礎、外構詳細図			E-24	電気改修仮設平面図
A-25	第一体育館 断面詳細図2	A-60	第二体育館 既存 解体撤去図				
A-26	第一体育館 1階天井伏図	A-61	第二体育館 増築部分詳細図				
A-27	第一体育館 2階天井伏図						
A-28	第一体育館 R階天井伏図	S-01	構造特記仕様書				
A-29	第一体育館 建具表	S-02	鉄骨造基準図（1）				
A-30	第一体育館 放送室内装改修図	S-03	鉄骨造基準図（2）				
A-31	第一体育館 ステージ下部収納詳細図（既存）	S-04	増築部分構造図				
A-32	第一体育館 ステージ下部収納詳細図（改修）						
A-33	第一体育館 ステージ下部収納詳細図（台車）						
A-34	第一体育館 防球ネット詳細図						
A-35	第一体育館 コートライン改修図（バスケットボールコート）						

Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

Drawing 表紙

Scale Date 2025/09 №

敬啓建築事務所株式会社 京都府知事登録 04A第 02848号 一級建築士登録第320505号 敬啓 A-01/61

建築改修工事 特記仕様書		章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項					
【1】工 事 概 要		1	一般共通事項	③ 特別な材料の工法	1	一般共通事項	17 施工の検査等 (1.7.5)	見本施工の実施 ○ 適用する（ ） ○ 適用しない				
1. 工事場所				④ 風圧力及び積雪に対する性能								
2. 敷地面積				⑤ 現場代理人								
3. 建築物概要				⑥ 工事工程報告								
4. その他		14	一般共通事項	⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4)	14 石綿含有建材の調査 (1.5.1)	一般共通事項	18 化学物質の濃度測定 (1.7.9)	適用する (適用事項は、現場説明書による)				
【2】適用範囲				⑧ 設備工事との取合い								
【3】工事区分				⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3)			⑩ 完成図 (1.9.2)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。				
【4】工事仕様				⑩ 工事写真 (1.2.4)								
【5】工事区分		15	一般共通事項	⑪ 電気保安技術者 (1.3.3)	15 調査のための破壊部分の補修 (1.6.3)	一般共通事項	⑪ 完成図 (1.9.2)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。				
【6】工事区分				⑫ 施工条件 (1.3.5)								
【7】工事区分				⑬ 発生材の処理等 (1.3.12)			⑫ 安全に関する資料 (1.9.3)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。				
【8】工事区分				⑭ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【9】工事区分		16	一般共通事項	⑮ 発生材の処理等 (1.3.12)	16 技能士 (1.7.2)	一般共通事項						
【10】工事区分				⑯ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【11】工事区分				⑰ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【12】工事区分				⑱ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【13】工事区分		17	一般共通事項	⑲ 発生材の処理等 (1.3.12)	17 技能士 (1.7.2)	一般共通事項	⑬ 安全に関する資料 (1.9.3)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。				
【14】工事区分				⑳ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【15】工事区分				㉑ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【16】工事区分				㉒ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【17】工事区分		18	一般共通事項	㉓ 発生材の処理等 (1.3.12)	18 技能士 (1.7.2)	一般共通事項	⑭ 安全に関する資料 (1.9.3)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。				
【18】工事区分				㉔ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【19】工事区分				㉕ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【20】工事区分				㉖ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【21】工事区分		19	一般共通事項	㉗ 発生材の処理等 (1.3.12)	19 技能士 (1.7.2)	一般共通事項	⑮ 安全に関する資料 (1.9.3)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。				
【22】工事区分				㉘ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【23】工事区分				㉙ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【24】工事区分				㉚ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【25】工事区分		20	一般共通事項	㉛ 発生材の処理等 (1.3.12)	20 技能士 (1.7.2)	一般共通事項	⑯ 安全に関する資料 (1.9.3)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ 部) 詳細は監督職員の指示による。完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。				
【26】工事区分				㉜ 発生材の処理等 (1.3.12)								
【27】工事区分				㉝ 発生材の処理等 (1.3.12)								

2

5 工事用水

構内既存の施設 ○ 利用できない ○ 利用できる（○ 有償 ○ 無償）

6 工用電力

構内既存の施設 ○ 利用できない ○ 利用できる（○ 有償 ○ 無償）

⑦ 仮囲い等

⑧ 設計G L

○ 図示による ● 設計G L＝現状G L

① 埋め戻し及び盛土（3.2.3）

○ A 種 砂質土（山砂の類）を水締め又は機器による締固め（表3.2.1）
● B 種 根切り土の中の良質土を機器による締固め
○ C 種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め
○ D 種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め
○ その他（材料_____工法_____）
○ 建設発生土（盛土材）の外部からの受入土量（_____m3）
発生場所（_____）

② 建設発生土の処理（3.2.5）

下記に定めるほかは、現場説明書による
● 構外指示の受入場所に処分
受入場所 ●（一財）城陽山砂利採取地整備公社 ○ _____
土壌調査 ● 行う（受入場所指定の検査） ○ _____
● 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例
施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法
仮置場所 ● 構内
○ 構内指示の場所に敷き均し
○ 構内指示の場所にたひ積

③ 鉄筋の種類（5.2.1）

	種類の記号	径（mm）	備 考
異形鉄筋	※ S D 2 9 5	D 1 6 以下	
	※ S D 3 4 5	D 1 9 以上	
	○		

④ 溶接金網（5.2.2）

網目の形状、寸法 桁3150@_____ 鉄線の径 φ6 _____ mm

⑤ コンクリートの種類（6.2.1）

種類 ※ 普通コンクリート ○ _____（表6.2.1）
類別 ※ I 類 ○ II 類

⑥ コンクリートの強度（6.2.2）
（6.2.4）
（6.10.2）
（6.14.1）

設計基準強度（F c）

打 設 部 位	F c（N/mm 2）	スランプ（cm）	備 考
構造体	基礎 ● 2 4 ○	○ 1 5 ● 1 8	
	上部 ● 2 4 ○	○ 1 5 ● 1 8	土間スラブを含む
土間コンクリート	● 1 8 ○	● 1 5 ○ 1 8	側溝・犬走り
捨コンクリート	● 1 8 ○	● 1 5 ○ 1 8	
軽量コンクリート	○ 2 1 ○	※ 2 1 ○ 1 8	
無筋コンクリート	※ 1 8 ○	○ 1 5 ○ 1 8	標仕6.14.1による

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
〔F c＋構造体強度補正值{S}〕N/mm 2
（6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない）

⑦ セメントの類別（6.3.1）

※ 普通ボルトランドセメント又は混合セメントのA種
○ 高炉セメントB種（適用箇所_____）
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントB種（施工箇所_____）

⑧ 骨材（6.3.1）

粗骨材 ※ 砂利（JIS A5308）、砕石（JIS A5005） ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ
● 再生骨材H
細骨材 ※ 砂（JIS A5308）、砕砂（JIS A5005） ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ
○ 銅スラグ ○ 70℃以下スラグ
● 再生骨材H
アルカリシリカ反応性による区分 ※ A（無害） ○ _____

⑨ 混和材料（6.3.1）

● 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種（JIS A 6204）
防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤（JIS A 6025）
○ 混和材 ※ フライアッシュ（JIS A 6201）I 種、II 種若しくはIV種
○ コンクリート用高炉スラグ微粉末（JIS A 6206）
○ コンクリート用シリカフューム（JIS A 6207）
○ コンクリート用膨張材（JIS A 6202）

⑩ 構造体強度補正值（6.3.2）

※ 気温による構造体強度補正值（S）（表6.3.2）

予想平均気温（℃）	補正值（S）	期 間（打 設 日）		
普通	早強	南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3/6 ～ 6/30	3/11～ 7/20	3/11～ 7/10
		N/mm 2	9/11～ 11/15	9/1 ～ 11/5
0以上	0以上	6	11/16～ 3/5	11/ 6～ 3/10
8未満	5未満	N/mm 2		11/ 1～ 3/10

南部地域（京都市（一部を除く）、旧八木町、旧園部町以南の市町村）
北部地域（宮津市、旧加悦町以北の市町）
中部地域（上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む）

⑪ コンクリートの試験（6.9.2）
～（6.9.5）

12 軽量コンクリート（6.10.1）
～（6.10.3）
13 寒中コンクリート（6.11.1）

⑬ 暑中コンクリート（6.12.2）

⑮ コクリートミキサー車の過積載防止対策等

1 既存防水の処理（3.1.4）
（3.2.3）
～（3.2.5）

既存保護層の撤去
○ 行う（範囲 ○ 図示による ）
○ 行わない
既存防水層の撤去
○ 行う（範囲 ○ 図示による ）
○ 行わない
既存露出防水層表面の仕上塗装の除去
○ 行う（○ M4AS ○ M4ASI ○ M4C ○ M4DI ○ L4X ）○ 行わない

② 既存下地の処理（3.2.6）

3 アスファルト防水（3.3.2）
～（3.3.5）

○ 屋根保護防水工法

種 別	防水層	施 工 箇 所
○ P 1 B 工法	○ B-1 ○ B-2	表3.3.3
○ P 1 B I 工法	○ BI-1 ○ BI-2	表3.3.4
○ P 2 A I 工法	○ AI-1 ○ AI-2 ○ AI-3	表3.3.5
○ P 2 A 工法	○ A-1 ○ A-2 ○ A-3	表3.3.6

○ 屋根露出防水工法

種 別	防水層	施 工 箇 所	仕上塗料
			種類 使用量
○ M 4 C 工法	○ C-1 ○ C-2 ○ C-3 ○ C-4	表3.3.7	
○ M 3 D 工法	○ D-1 ○ D-2	表3.3.8	
○ P 0 D 工法			

○ 屋根露出防水絶縁断熱工法

種 別	防水層	施 工 箇 所	仕上塗料
			種類 使用量
○ P 0 D I 工法			
○ M 3 D I 工法	○ DI-1 ○ DI-2	表3.3.9	
○ M 4 D I 工法			

○ 屋内防水工法

種 別	防水層	施 工 箇 所
○ P 1 E 工法	○ E-1 ○ E-2	表3.3.10
○ P 2 E 工法		

3

防水改修工事

○ 断熱材（屋根保護防水断熱工法）
厚さ _____ mm
○ 断熱材（屋根露出防水断熱工法）
厚さ _____ mm
種類 _____
ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※ 図示による ○ _____
絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15mm以上（保護防水工法）
※ フラットヤーンクロス（70g/㎡程度）
○
立上り部の押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○
立上がり部の保護 ○ 乾式保護材
○ 窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様）（厚さ_____幅_____）
○ 窯業系パネルⅡ類（一般地仕様）（厚さ_____幅_____）
○ 普通れんが（JIS R 1250） ○ 化粧れんが（JIS R 1250）
○ コンクリート（工法_____）
保護層 平場の保護コンクリート厚さ（_____mm
○ こて仕上げ _____ mm
○ 床タイル張り等仕上げ _____ mm
コンクリート仕上りの平たんさ ○ a種 ○ b種 ○ c種（表8.1.5）
脱気装置 ○ 設ける 材 種（_____）
設置数量（ 1 箇所/ _____㎡ ）
伸縮目地 ※ 成形伸縮目地材 ○ _____
成形緩衝材 ※ ルーフィング 類製造所の指定品 ○ _____
屋上排水溝 ※ 図示による
○ 屋根露出防水密着工法

種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料
			種類 使用量
○ M 4 A S 工法	○ AS-T1 ○ AS-T2 ○ AS-J2	表3.4.1	

○ 屋根露出防水絶縁工法

種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料
			種類 使用量
○ M 3 A S 工法	○ AS-T3 ○ AS-T4	表3.4.2	
○ P 0 A S 工法	○ AS-J1 ○ AS-J3		

○ 屋根露出防水絶縁断熱工法

種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料
			種類 使用量
○ M 3 A S I 工法	○ ASI-T1	表3.4.3	
○ M 4 A S I 工法	○ ASI-J1		
○ P 0 A S I 工法			

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0（mm）程度 ○ _____
断熱材（屋根露出防水絶縁断熱工法）
厚さ _____ mm
種類 ○ _____
脱気装置（絶縁工法）※ 設ける 材種（_____） 設置数量（1箇所/ _____㎡）
防湿層（屋根露出防水絶縁断熱工法） ○ 設ける ○ 設けない
S-F1、S-M1、S-M2の仕様
※ 非歩行仕様
○ 軽歩行仕様
断熱材（断熱工法）
厚さ ○ _____mm
種類 _____
機械的固定工法の場合
○ _____
接着工法の場合
○ _____
SⅠ-M 1及びSⅠ-M 2の場合の防湿用フィルム ○ 設置する

4 改質アスファルトシート防水（3.4.2）
～（3.4.4）

5 合成高分子ルーフィングシート防水（3.5.2）
～（3.5.4）

3

防水改修工事

⑥ 塗膜防水（3.6.2）
～（3.6.3）

7 漏水試験

⑧ 保証書

9 施工標識

⑩ シーリング（3.1.4）
（3.7.2）
～（3.7.8）

11 とい（雨水）（3.8.2）
（3.8.3）

接着工法の場合で、P Cコンクリート部材下地の場合
目地処理 ※ 図示による ○ _____
入隅部の増張り（S-F 1、SⅠ-F 1の場合） ※ 図示による ○ _____
絶縁用シート及び可塑移行防止用シート ※ 発泡ポリエチレンシート ○ _____
仕上塗料 ○ カー ○ シル ○ _____
脱気装置（絶縁工法）※ 設ける 材種（_____） 設置数量（1箇所/ _____㎡）
※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。
固定金具の材質及び寸法形状
※ 防錆処理した鋼板、スチール鋼板又はそれらの片面若しくは両面に樹脂を
積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの
○ _____
種 別 及 ビ 工 程
防水層 施工箇所
仕上塗料
種類 使用量
○ P 0 X 工法 ※ X-1 ○ X-2
○ X-1H ○ X-2H 表3.6.1
● L 4 X 工法 ※ X-1 ※ X-2
○ X-1H ○ X-2H 表3.6.2
○ P 1 Y 工法 ※ Y-2 表3.6.3
○ P 2 Y 工法 ○ _____
脱気装置（X-1） ○ 設ける 材種（_____） 設置数量（1箇所/ _____㎡）
保護層 ○ 設ける ○ 設けない
※ 水張り試験を行う（○ 屋内 ○ 屋外）
※受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。
（保証年限は工事的物引渡しより10年間以上とする。）
工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。
材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ _____
設置数量（_____） 箇所
シーリング材の種類 ※ 改修標仕 表 3.7.1による
シーリング改修工法及び施工箇所
改 修 工 法 の 種 別 施 工 箇 所
○ シーリング充填工法
● シーリング再充填工法 CON打継、建具廻り、化粧パネル目地、
その他設備機器等取合い部
○ 拡幅シーリング再充填工法
○ブリッジ工法
仕上げを行わない施工箇所（ ● 図示による ○ _____
目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びびひ割れ誘発目地
※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ _____
ガラス回りの目地
※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ _____
その他の目地
※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ _____
シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験（部位 _____）
○ 引張接着性試験（部位 _____）
※ 外とい（外気に接するとい）
材 種 そ の 他
ルーフドレン ※ ルーフドレン（JCW 301）
○
※水はけ良く、床面より
下げ、周囲の隙間に
モルタルを充填する
軒とい ○ 硬質塩化ビニル製（角形）
○
（前高） 巾120mm
（カラー） 巾150mm
たてとい ○ 硬質塩化ビニル管（VP）
○
（カラー） 径 75mm
谷とい ○
とい受け金物、足金物 ※ 改修標仕 表 3.8.2 により溶融
垂鉛めっきを行ったもの
○
多雪地域の軒といの
取付間隔 0.5m 以下

Project

木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

Drawing

建築改修工事特記仕様書 2

Scale

Date

2025/09

Nº

03

02848号

京都府知事登録 04A第 02848号

京都府建築士登録第320505号 敬 啓

Kei Une Architectural design office inc.級建築士登録第320505号 敬 啓

敬 啓 建 築 事 務 所 株 式 会 社

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項										
5	建具 改修 工事	○ 引き戸用検出装置性能値 ※ 改修標仕 表5.9.3による ○ 放射無線周波数電磁界耐性	○ 耐電圧	○ 防 錆	○ 防 滴	○ 電 源	5	建具 改修 工事	⑳ ガラス留め材 (5.14.2)	○ 建 具 の 種 類	○ 材 質	○ アルミニウム製	※ シーリング材(SR-1) ○ グレイジングチャンネル	○ 樹脂製	○ グレイジングチャンネル	○ 鋼製・銅製軽量・ステンレス製	※ シーリング材(SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種	○ 木製	※ パテ (木製用)	※ 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 ※ 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。										
																					戸の開閉方式	※ 建具表による ○ _____	引き戸検出装置の種類	○ 表 5.9.4 (_____) による ※ 建具表による	タッチスイッチの種類	○ 無線式タッチスイッチ ○ 光線式タッチスイッチ	車椅子使用者用便房	○ 大形押しボタンスイッチ ○ 非接触スイッチ	凍結防止措置	○ 行 う
15 自閉式上吊り引戸装置 (5.10.3)	性能値等の区分 (表5.10.1)	適用戸の総質量 (kg)	○40以下	○40を超えるもの	手動開き力 (N)	※15以下 ○	※20以下 ○	手動閉じ力 (N)	※15以下 ○	※20以下 ○	性能等 _____	品質・規格 _____	種 類 ○ 管理用シャッター (シャッターケース ○ 設ける) 耐風圧強度 (_____) ○ 外壁用防火シャッター(シャッターケース ※ 設ける) 耐風圧強度 (_____) ○ 屋内用防火シャッター(シャッターケース ※ 設ける) ○ 屋内用防煙シャッター(シャッターケース ※ 設ける) 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 _____ Pa 開閉方式 ※ 電動式 (手動併用) ○ 手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ _____ スラット及びシャッターケース用鋼板	材 質	めっきの付着量	○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの ○	○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの ○											
16 重量シャッター (5.11.2)～(5.11.4)	種 類 ○ 管理用シャッター (シャッターケース ○ 設ける) 耐風圧強度 (_____) ○ 外壁用防火シャッター(シャッターケース ※ 設ける) 耐風圧強度 (_____) ○ 屋内用防火シャッター(シャッターケース ※ 設ける) ○ 屋内用防煙シャッター(シャッターケース ※ 設ける) 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 _____ Pa 開閉方式 ※ 電動式 (手動併用) ○ 手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ _____ スラット及びシャッターケース用鋼板	材 質	めっきの付着量	○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの ○	○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの ○																							
17 軽量シャッター (5.12.2)～(5.12.4)	開閉方式 ○ 電動式 (手動併用) ※ 手動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ _____ 耐風圧強度 _____ Pa スラット	材 質	めっきの付着量	○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの ○																							
18 オーバーヘッドドア (5.13.2)～(5.13.4)	セクション材 ※ スチールタイプ ○ アルミニウムタイプ ○ アルミバン-ゲ-ラスタイプ 耐風圧性能 _____ Pa 開閉方式 ※ バランス式 ○ チェーン式 ○ 電動式 電動式シャッターには安全装置を設ける 設置箇所 ※ 図示による ○ _____ 収納形式 ○ スタンダード形 ○ ローヘッド形 ○ ハイリフト形 ○ パーチカル形 ガイドレール等 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ○ ステンレス鋼板	材 質	めっきの付着量	○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの ○																							
⑰ ガラス (5.14.2)～(5.14.4)	材料	種 別	種類等	種 別	種類等	○ ガ-ト板が-ラス	● 強化ガラス	○ 型板ガラス	○ 熱線吸収板が-ラス	○ 網入板ガラス	○ 複層ガラス	○ 線入板ガラス	○ 熱線反射が-ラス	○ 合わせガラス	○ 倍強度ガラス	○	○	○	○											
⑰ ガラス (5.14.2)～(5.14.4)	ガラス溝の大きさ (図5.14.1)	種 別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代	○ アルミニウム建具	※ 建具製造所の仕様による	○ 鋼製建具	○ ステンレス建具	○	○	○	○																	
23 ポリカーボネイト樹脂板	種類 _____ 厚さ _____ mm	○ かまち戸	かまち樹種 (_____)	鏡板樹種 (_____)	見込み寸法	※ 36mm	○ ふすま	張りの種別	○ I 型 ○ II 型	上張り (押入等の裏側以外)	○ 鳥の子 ○ 新鳥の子又はビニル紙程度	見込み寸法	※ 19.5mm	○	○ 戸ぶすま	表面板の仕上	※ 図示による ○ _____	見込み寸法	※ 30mm	○	○ 紙張り障子	見込み寸法	※ 30mm	○						

① 揮発性有機化合物対策 (6.5.2)～(6.5.4) (6.8.2) (6.9.2) (6.10.2) (6.11.2) (6.11.4) (6.11.5) (6.13.2) (6.14.2) (6.16.4) (9.5.3) (9.5.4)	木材、木れんが、ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、合成樹脂塗床、フローリング、 タイル、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 木材塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ○ 図示による ○ 範囲 (_____) 仕上げ (_____) 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ○ 図示による ○ 範囲 (_____) 仕上げ (_____) 天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※ 既存のまま ○ 図示による ○ 範囲 (_____) 仕上げ (_____)
2 他の部分との取り合い等 (6.1.3)	既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ○ 図示による ○ 範囲 (_____) 仕上げ (_____)
3 既存床の撤去等 (6.2.2)	種 別 工 法 施 工 箇 所 ○ ビニル床シート等 ○ 下地材の除去 ※ 図示による ○ _____ ○ 合成樹脂塗床材 ○ 機械的除去工法 ※ 図示による ○ 目荒し工法 ○ _____ ○ フローリング張り床材 ○ 床タイル ○ 床組
4 既存壁の撤去等 (6.3.2)	間仕切壁撤去に伴う構造体の補修 ※ 改修標仕4.3.10によるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補修 ○行う ○行わない) ○ _____
⑤ 木下地等 (6.5.1)～(6.5.9)	材料のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆又は改修標仕6.5.2(1)(ウ)(b)による 含水率 下地材 ※ A種(15%以下) ○ B種(20%以下) 造作材 ※ A種(15%以下) ○ B種(18%以下) 以下に規定されているものは、その規定による。 JAS 1083 (製材) に基づく製材 ● 下地用製材 使用箇所 樹 種 寸 法 等級 含水率 保存処理 放送室 赤松 16*40*3000 ○ 1級 12%以下 壁・天井仕上下地 ※ 2級 ○ 造作用製材 使用箇所 樹 種 寸 法 等級 含水率 保存処理 ○ 広葉樹製材 使用箇所 樹 種 寸 法 等級 含水率 保存処理 ○ JAS 1083 (製材) 以外の製材 (表12.2.2) 使用箇所 樹 種 寸 法 材面の品質 防虫処理 含水率 ※ A種 ○ B種

使用木材のうち杉、ひのきについては京都府産木材とする。 ○ 工事完成までに、カット・マレージ・C02京都の木認証書（京都府産木材証明書及びカット・マレージ・C02計算書）（注1）を提出する事を原則とする。当該認証を受けた木材の使用が困難な場合には、京都の木証明書（京都府産材木材証明書）（注2）を提出すること。 証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。 一般財団法人京都府木材組合連合会 TEL：075-802-2991 注1)認証書 注2)証明書は製材助、流通業者の全てが取扱事業体又は認証機関登録事業体でなければ発行されない。 詳細は上記法人のホームページを参照すること。 ● 工事完成までに、京都府産木材の産地証明書を提出すること。 ※ 京都木材規格 (KTS)材を使用する場合は、京都木材規格 (KTS)材証明書（発行機関：（一社）京都府木材組合連合会）を提出すること。
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 ● 造作用集成材 使用箇所 品 名 樹 種 見付材面数 寸 法 見付材面の品質 放送室 木製棚 タモ集成材 タモ集成材 ※ 1等 ○ 2等 ○ 化粧ばり造作用集成材 使用箇所 品 名 樹 種 寸法 化粧板厚 見付材面数 見付材面の品質 化粧材 芯材 ※ 1等 ○ 2等
「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ○ 造作用集成材 使用箇所 樹 種 寸 法 見付材面の品質 含水率 ※15%以下 ○ ○ 化粧ばり造作用集成材 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 含水率 ※15%以下 ○
JAS 0701（単板積層材）に基づく造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 品 名 寸法 表面の品質 防虫処理 ○表面化粧加工なし ○ 1等 ○ 2等 ○ 3等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工
JAS 0701（単板積層材）以外の造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 寸法 表面の品質 含水率 防虫処理 ○表面化粧加工なし ○ 1等 ○ 2等 ○ 3等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工
○ JAS 3079（直交集成板） 施工箇所 品 名 曲げ性能（強度等級） 種別 接着性能（使用環境） 樹種 寸法 (mm)
合板等 「合板の日本農林規格」による普通合板 使用箇所 品 名 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 その他処理 ※押入れ、物入れ ※5.5mm ※ 1類 広葉樹 ○防虫処理 ○ 2類 ※ 2等以上 ○難燃処理 針葉樹 ○防炎処理 ※ C・D 以上 ○
「合板の日本農林規格」による構造用合板 使用箇所 品 名 等級 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 保存処理 その他処理 ※畳床 下地材、フローリング張り下地材 ※ 2級 ※12mm ※ 1類 ※ C・D 以上 ○防虫処理 ○強度等級
「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 使用箇所 品 名 厚さ 単板の樹種名 接着程度 防虫処理 ○ 1類 ○特類
「合板の日本農林規格」による天然化粧合板 使用箇所 化粧板に使用する単板の樹種名 厚さ 接着程度 防虫処理 放送室 壁・天井仕上下地 有孔シナ合板 5.5mm ○ 1類 ● 2類
「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 使用箇所 品 目 厚さ 接着程度 単板の樹種名 化粧加工の方法 防虫処理 ○ 1類 ○ 2類

Project	木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事
Drawing	建築改修工事特記仕様書 5
Scale	Date 2025/09
No 06	

京 都 府 知 事 登 録 〇 4 A 第 〇 2 8 4 8 号
Kei Une Architectural design office i n c 級 建 築 士 登 録 第 3 2 0 5 0 5 号 敬 啓

章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項
7	③ 素地ごしらえ (7.3.2)～(7.3.7)	(表7.3.2)～(表7.3.7)	8-1	1 鉄筋の種類 (8.2.1)	(表8.2.1)	8-2	3 構造体強度補正值 (8.2.5)	(表8.2.4)
	④ 錆止め塗料塗り (7.4.2)～(7.4.3)	錆止め塗料の種類		2 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状、寸法 鉄線の径 (mm)		4 構造体用モルタル (8.2.6)	モルタル圧縮強度 フロー値
5	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	鉄鋼面	8-2	3 鉄筋の継手 及び定着 (8.3.4)～(8.4.3)	部 位 接 合 方 法 径 (mm)	8-4	5 型枠 (せき板) (8.1.4)～(8.2.7)～(8.7.8)	合板の規格 ※ 「合板の日本農林規格」の「コンクリート用枠合板の規格」による合板 ○ 合板の材質 ※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ (mm) ※ 12 ○
		亜鉛めっき鋼面			○ 機械式継手 適用箇所、性能、種類、鉄筋相互のあき ※ 構造図による ○ 溶接継手 適用箇所、性能、工法、鉄筋相互のあき ※ 構造図による			打放し仕上げのせき板 ※ 合板せき板を用いる場合 種 別 板 面 の 品 質 施 工 箇 所 ○ A種 ※8.2.7 (2) (7) ○ ○ B種 ※8.2.7 (2) (4) ○ ○ C種 ※8.2.7 (2) (4) ○
	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	工程の種類別		4 鉄筋のかぶり厚さ 及び間隔 (8.3.5)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ※ 構造図による ○ 表8.3.6による (次の2項目のかぶり厚さを除く。) ○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。			コンクリートの仕上げの平たんさ 種 別 適 用 箇 所 ○ a種 ○ b種 ○ c種
8	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	工程の種類別	8-2	5 圧接完了後の 試験 (8.3.8)	試験方法 ○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。	8-4	6 コンクリートの 試験 (8.8.2)～(8.8.5)	スリーブの材質 (表8.2.6)
		記 号 名 称 種 別			形状 ○ スパイラル筋 ○ 種類の記号 ○ SR235 または SWM-P ○ 呼び径、曲げ直径、ピッチ ○ 図示による () ○			円形スリーブ (溶解亜鉛めっき鋼板) は、筒形の両側を外型に折り曲げてつばを設ける。 硬質ポリ塩化ビニル管は、防災区画を貫通する場合には使用しない。 外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ ※ 図示による ○ 20mm シアコネクターとセパレーターの兼用 ○ 可 ○ 不可
	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	記 号 名 称 種 別		6 割製補強筋 (8.21.6)～(8.22.7)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ※ 構造図による ○ 表8.3.6による (次の2項目のかぶり厚さを除く。) ○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。		7 軽量コンクリート (8.9.1)	※ フレッシュコンクリートの試験 ○ 省略する
8	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	記 号 名 称 種 別	8-2	1 コンクリートの 強度 (8.1.3)～(8.9.1)～(8.9.2)	コンクリートの類別 ※ I類 ○ II類 ○ 普通コンクリート 打 設 部 位 Fc (N/mm ²) スラブ (cm) 備 考 構造体 基礎 ○ 24 ○ ○ 18 ○ 上部 ○ 24 ○ ○ 18 ○	8-4	8 暑中コンクリート (8.10.2)	※ 暑中における構造強度補正值 (S)
		記 号 名 称 種 別			○ 軽量コンクリート 打 設 部 位 (適用箇所) Fc (N/mm ²) スラブ (cm) 備 考 ○ 1級 ふっ素樹脂系等 ※ 2.1 ○ ○ 2.1 ○ ○ 2級 シリコン系等 ○ 3級 ポリウレタン系等			地 域 日平均気温が25度を超える期間 (打設日) 補 正 値 北 部 地 域 7月11日～8月31日 ※ 6N/mm ² 中 部 地 域 7月21日～8月31日 ○ 3N/mm ² 南 部 地 域 7月1日～9月10日
	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	記 号 名 称 種 別		2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントのB種 (施工箇所) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントのB種 (施工箇所)		9 寒中コンクリート	※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11条 (寒中コンクリート) による。
8	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	記 号 名 称 種 別	8-2	1 コンクリートの 強度 (8.1.3)～(8.9.1)～(8.9.2)	骨材 粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、碎石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 銅スラグ ○ 70℃以下スラグ ○ 再生骨材H	8-4	8 暑中コンクリート (8.10.2)	※ 暑中における構造強度補正值 (S)
		記 号 名 称 種 別			アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○			地 域 日平均気温が25度を超える期間 (打設日) 補 正 値 北 部 地 域 7月11日～8月31日 ※ 6N/mm ² 中 部 地 域 7月21日～8月31日 ○ 3N/mm ² 南 部 地 域 7月1日～9月10日
	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	記 号 名 称 種 別		2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントのB種 (施工箇所) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントのB種 (施工箇所)		9 寒中コンクリート	※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11条 (寒中コンクリート) による。
8	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	記 号 名 称 種 別	8-2	1 コンクリートの 強度 (8.1.3)～(8.9.1)～(8.9.2)	骨材 粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、碎石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 銅スラグ ○ 70℃以下スラグ ○ 再生骨材H	8-4	8 暑中コンクリート (8.10.2)	※ 暑中における構造強度補正值 (S)
		記 号 名 称 種 別			アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○			地 域 日平均気温が25度を超える期間 (打設日) 補 正 値 北 部 地 域 7月11日～8月31日 ※ 6N/mm ² 中 部 地 域 7月21日～8月31日 ○ 3N/mm ² 南 部 地 域 7月1日～9月10日
	⑤ 塗装工程 (7.5.2)～(7.13.2)	記 号 名 称 種 別		2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)	※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントのB種 (施工箇所) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントのB種 (施工箇所)		9 寒中コンクリ	

章

項目

特記事項

9

10 表示・標識
(20.2.11)

衝突防止表示
※ 図示による（市販品 ○ ステンレス製 径 30 mm ○ _____）
○ なし
法令に基づく表示
※非常用進入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。

室名札
厚さ(mm)材質色書体印刷等の種別取付け形式
○ 5 ○ アクリル板 ○ 角太ゴシック ○ シルク印刷 ○ 平付型
○ アルミ板 ○ 丸 ○ 持出型
外国語表現 ○ 行う（○ 英語 ○ _____）
寸法(mm) ○ 50×250 ○ 60×250 ○ 図示による

ピクトグラフ（便所、車いす、階段等）
厚さ(mm)材質印刷等の種別取付け形式備考
○ 5 ○ アクリル板 ○ シルク印刷 ○ 平付型
○ アルミ板 ○ 持出型
寸法(mm) ○ 150×150 ○ 図示による

案内板（館内、各階、便所）
厚さ(mm)材質色書体印刷等の種別取付け形式
○ 5 ○ アクリル板 ○ 角太ゴシック ○ シルク印刷 ○ 平付型
○ アルミ板 ○ 丸 ○ 持出型
外国語表現 ○ 行う（○ 英語 ○ _____）
寸法(mm) ○ 600×600 ○ 100×600 ○ 200×200 ○ 図示による
館名板等
品質・規格 _____

11 タラップ
(20.2.12)
材質及び仕上げ
○ SUS304（スリップ止め加工 ※あり ○なし）
○ 鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき
（※（表14.2.2）による種別（※C種 ※__種）

12 ブラインド
(20.2.14)

形式	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックス・レールの材質
○ 横形	※ ギヤ式	※ 7%ミコム合金	※ 25	※ 鋼製
○ コード式			○ 35	○ _____
○ 縦形	※ 2本操作コード式	○ 7%ミコフト	○ 80	※ 7%ミコム
	○ 1本操作コード式	○ ガラスフト	○ 100	合金製

(20.2.15)

操作方法	スクリーンの材質	その他の材料	幅・高さ 取付箇所	品質等
○ スプリング式	○ ガラス繊維製	※ 製造所の仕様	○ 図示による	
○ コード式	○ 合成・天然繊維製		○ _____	
○ 電動式	○ 木製			

(20.2.16)

取付箇所	形式	開閉操作方法	カーテン用きれ地の 種類・品質・特務加工等	ひだの種類						
	シングル	ダブル	片引	引分	電動	ひも引	手引	つまみ	箱片	プレーン
	○	○	○	○	○	○	○			○
	○	○	○	○	○	○	○			○
	○	○	○	○	○	○	○			○
	○	○	○	○	○	○	○			○
	○	○	○	○	○	○	○			○

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

⑮ カーテンレール
(20.2.16)
材料 ※ アルミニウム 又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ○ ステンレス
○ _____
形式 ○ 片引き ● 引分け（暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。）
形状 ○ C型 ○ D型 ※ 角型
強さによる区分 ※ 10・90 ○ _____ 仕上げ ※ アルマイト ○ _____

16 ブラインドボックス
カーテンボックス
○ 図示による ○ 市販品（アルミニウム製 押し出し型材）
仕様等 溝幅×深さ (mm) ○ 90×150 ○ 150×80 ○ 120×80 ○ _____
表面処理 ○ C-1（無着色） ○ C-2（着色）

17 くつふきマット
材種 ○ 塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製（SUS304）受枠）
○ 硬質アルミニウム合金（受枠とも） ○
○ ゴム製（ステンレス製（SUS304）受枠）

18 鋼製書架及び棚

種類	規格等	JISによる種類
○ 鋼製書架	※ JIS S 1039 の規格による	○ 1種 ○ 2種 ○ 3種
○ 鋼製物品棚	○ 法務省型	○ 4種 ○ 5種 ○ 6種

材質、形状、寸法
※ 図示による ※ _____
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※ F☆☆☆☆ ※ _____

章

項目

特記事項

9

20 掲示板

品質・規格 _____

21 カウンター
品質・規格 _____

22 洗面カウンター
材種 ○ メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材） ○ 人工大理石（品質 図示）
奥行き (mm) ○ 約450 ○ 約600 ○ _____

23 流し台ユニット

種類	部品寸法 (mm)	規格	仕様
○ 流し台		○ 優良住宅部品	トラップ付き
○ コンロ台		○ 優良住宅部品	バックガード有り
○ 吊戸棚		○ 優良住宅部品	高さ 約500 mm
○ 水切り棚		○ 優良住宅部品	ステンレス製 1 段式
○			

24 非常用救助袋等
※ 垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとする。
形式 ○ 傾斜式 ○ 垂直式
品質・規格 _____

25 鍵箱
市販品 形式 ※ 釣下式 ○ 差込式
（○ 30 ○ 60 ○ 120 ○ _____） 組用（_____） 個

26 車止め

形式	材質	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)
○ 上下式鎖内蔵型	○ ステンレス製（SUS304）	○ φ76.3 t=2.0	○ GL+700
（○ スプリング付き）	○	○ φ114.3 t=2.5	○ GL+850

基礎 無筋コンクリート造 350×350 H250 程度

⑳ フェンス

表面仕上等	種類	門扉の仕様
○ 亜鉛めっき ○ 樹脂塗装	● メッシュフェンス ○ 鉄パイプフェンス	○ 片開き
○ ビニル被覆 ○	○ ネットフェンス ● 遮音フェンス	● 両開き

28 防煙垂れ壁

固定式	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考
※ 網入り磨き板ガラス		※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き
○ 線入り磨き板ガラス		○	○	

種類	材質	高さ (mm)	備考
※ 垂直降下式 （巻取り型）	※ 不燃布 （不燃認定品）	※ 500 ○ 800 ○	ガイドレール ※ 固定式（壁押込型） ○ 可動式（天井収納型）
※ 回転降下式	銅板制又はアルミ製	※ 500 ○ 800 ○	表面仕上げ ※ 天井材張り ○

降下機構
煙感知器運動及び手動開放装置（埋込型）

章

項目

特記事項

10

排水工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書（令和4年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。

材種（表21.2.1）	管の種類	呼び径	基床の厚さ
○ 透心力鉄筋コンクリート管 ※ 外圧管（1種）			
○ 硬質ポリ塩化ビニル管	○ VP ○ VU		
	○ RS ○ VU		
○ 硬質ポリ塩化ビニル管継手	○ DV ○ VU継手		

○ 凍上抑制層に用いる材料 ○ 砂（○ 砂の粒度試験） ○ _____

○ 側溝の形状および寸法 ※ 図示による ○ _____
○ 排水枡の種類 ※ 図示による ○ _____

○ 鋼鉄製マンホールふたの種類

種類	適用荷重（安全荷重）
○ 水封形 ○ 密閉形（フタ・バネ付式）	○ T-2用（5KN） ○ T-6用（115KN）
○ 中蓋付密閉形 ○ 簡易密閉形（バネ付式）	○ T-20用（50KN）

章

項目

特記事項

10

排水工事

○ グレーチングふた

種類	材質	形式	適用荷重	タイプ	上面形状
○ 溝ふた用	○ 鋼製	受枠 ※ なし	○ 歩行用	○ 普通目	○ 平形
○ 樹ふた用	○ ステンレス製	○ あり	○ T-2用	※ 細目	※ 凹凸形
○ 嵩上げ用	○ 鋳鉄製	○ 図示	○ T-6用		
○ U字溝用	○ 樹脂製	ボルト固定 ※ なし	○ T-14用		
		○ 図示	○ T-20用		

3 縁石（21.3.1）
歩車道境界ブロックのJIS による呼び名 ※ A ○ _____
地先境界ブロックのJIS による呼び名 ○ A ○ C ○ _____
砂利地業の厚さ ※ 100mm ○ _____

4 コンクリート側溝
(21.2.1)
(21.3.1)
鉄筋コンクリートL形のJIS による呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____
コンクリートL形のJIS による呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____
鉄筋コンクリートU形のJIS による呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ○ _____
現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2) ※ 1 8 ○ _____
スランブ(cm) ○ 1 5 ○ 1 8 ○ _____

現場打の鉄筋 種類の記号 ※ SD295 ○ _____

章

項目

特記事項

11

舗装工事

本章の項目及び特記事項の（ ）内表示番号は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書（令和4年版）の該当項目、該当図又は該当表を示す。

1 路床（22.2.2）
(22.2.3)
(22.2.5)
路床の構成
○ 凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○ _____
○ 透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○ _____
歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○ _____
（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験）
○ 行う ○ 行わない
盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種（表3.2.1）
路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない
路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理（表22.2.1）
種類 ○ 地盤改良材（ _____ ） ○ 高炉セメント B種
○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号
○ フライアッシュセメント B種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号
添加量 _____ kg/m3
路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う（※ 乱した土 ○ 乱さない土）
路床締固め度の試験 ※ 行う（埋戻し部、盛土部） ○ 行わない

② 路盤（22.3.2）
(22.3.3)
(22.3.5)
路盤の厚さ 100 _____ mm
材料 ● 再生クラッシュラン（RC-40,30,20）
○ クラッシュラン（C-40,30,20） ○ クラッシュ鉄鋼スラグ（CS-40）
路盤締固め度の試験 ※ 行う

3 アスファルト舗装
(22.4.2)
～(22.4.6)

舗装の種類	表層(mm)	基層(mm)	カラー舗装の種類
※ アスファルト舗装			※ 顔料混入加熱アスファルト混合物

アスファルト ○ 再生アスファルト（○ 60～80 ○ 80～100）
○ ストレートアスファルト

再生加熱アスファルト混合物の種類

区分	一般地域	寒冷地域
表層	○ 密粒度アスファルト混合物（13） ○ 細粒度アスファルト混合物（13）	※ 密粒度アスファルト混合物（13F）

施工
アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ○ 行わない
アスファルト締固め度、厚さの試験 ○ 行う ○ 行わない

構成

コンクリートの種類	部位	厚さ(mm)	設計基準強度(N/㎡)	スランブ(cm)
普通コンクリート	歩道部	100	21	8

早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する
目地
注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ
種類 ○ 突合せ目地 ○ 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○ _____
間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ○ 3m程度ごと ○ _____
コンクリート版厚さの試験 ※ 行う

章

項目

特記事項

11

舗装工事

5 カラー舗装
(22.6.2)
～(22.6.4)

種類	部 位	配合その他
※ 加熱系アスファルト混合物 添加材 ○ 着色骨材 ○ 自然石 結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂（添加量 _____） アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない 舗装の厚さ _____ mm ○ 常温系ニート工法 ○ 常温系塗布工法	○ 車路 ○ 歩行者 用通路	

着色部の下部
舗装の平たん性 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装
※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

6 透水性アスファルト舗装
(22.7.2)
～(22.7.6)
舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ _____
表層の厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない
開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない

7 ブロック系舗装
(22.8.2)
(22.8.3)

種類	部 位	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目 地
※ 普通平板(N) ○ カラー平板(C)	○ 300角	※ 60	※ 砂	
○ 洗出平板(W) ○ 縦石(S) ○	○	○	○ モルタル	

品質・規格 _____
クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

○ インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	色彩及び表面加工等
※ 普通ブロック ○ 京セラ ○ 透水性ブロック	車路 歩行者 用通路		※ 80 ○ ○	※ 5.0 ○ ※ 3.0 ○	※ 標準品 ○ ○
○ 植生ブロック	—		○ 60 ※ 80 ○ 100		

品質・規格 _____
クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

○ 鋪石舗装

種類	形状寸法(mm)	厚さ(mm)	工 法	基 層	基層の厚さ(mm)
○ 花崗岩		○ 80～100	○ うろこ張り	○ コンクリート版	※ 70 ○
○		○	○	○ アスファルト混合物	※ 50 ○

品質・規格 _____
クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

8 砂利敷き
(22.9.2)
通 路 ※ A種 ○ B種
建物周囲その他 ○ A種 ※ B種
※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする

9 白線引き
種 類 ○ 溶融式 ○ ペイント式 幅 (cm) ○ 15 ○ _____

章

項目

特記事項

12

環境配慮改修工事

1 一般事項
(9.1.1)
○ 石綿含有吹付け材除去工事
○ 除去工法（ _____ ）
○ 封じ込め工法（ _____ ）
○ 囲い込み工法（ _____ ）
○ 石綿含有保温材除去工事
○ 石綿含有成形板等除去工事
○ 石綿含有仕上塗材除去工事

2 仕上工事
(9.1.1)
石綿含有建材除去後の仕上工事
※ 図示による ○ _____

Project
木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事
Drawing
建築改修工事特記仕様書 8
Scale
Date
2025/09
№
09
A-09/61

執 啓 建 築 事 務 所 株 式 会 社
Kei One Architectural design office

京都府知事登録 04A第 02848号
一般建築士登録第320505号 敬 啓

建築工事特記仕様書			章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																												
【1】工 事 概 要 1. 工 事 場 所 2. 敷 地 面 積 3. 建築物概要 <table><tr><td>棟</td><td>名</td><td>構</td><td>造</td><td>階</td><td>数</td><td>建築面積 (㎡)</td><td>延べ面積 (㎡)</td><td>備</td><td>考</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 4. そ の 他			棟	名	構	造	階	数	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	備	考																												1	一般 共 通 事 項	③ 特別な材料の工法	設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。	1	一般 共 通 事 項	14 発生材の処理等 (ｱｽﾍﾞｽﾄ成形板)	処理を行う範囲 ○ 図示 (仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認) ○ 全ての室 施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 (1) アスベスト成形板使用部位の確認 記載上の成形板及びその使用範囲以外についても監督職員と協議の上確認を行うこと。 (2) アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 (3) アスベスト成形板使用数量の確認 (4) 施工範囲等の確認 確認方法 ○ 成形板の製造年等の確認 ○ X線解析法 処理方法 「非飛散性ｱｽﾍﾞｽﾄ廃棄物の取扱いに関する技術指針」に従い、あらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。	2	仮 設 工 事	2 監督職員事務所 (2.3.1)	規模 ○ 10㎡程度 ○ 20㎡程度 ○ 35㎡程度 ○ 65㎡程度 ○ 100㎡程度 仕上 床 ○ 合板張り素地 ○ びん床シート敷き ○ バンカーベイト敷き 内壁、天井 ○ 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂珪藻土ペイント塗り 屋根 ○ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り ○ 鉄板張り調合ペイント塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける (畳敷き) ○ 備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類ロッカー (上記6品、____人分程度) ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 掃除具 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ ○ 標仕 (令和4年版) ○ 建築工事監理指針 (令和4年版) ○ 建築工事施工チェックシート ○ 建築工事標準詳細図 (令和4年改定) ○ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編(最新版)
			棟	名	構	造	階	数	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	備	考																																							
3 工事用水	構内既存の施設 ○ 利用できない ○ 利用できる (○ 有償 ○ 無償)																																																		
4 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できない ○ 利用できる (○ 有償 ○ 無償)																																																		
5 仮囲い等	○ 図示による ○																																																		
【2】適 用 範 囲 現場説明書 (質疑回答書を含む)、本特記仕様書、図面、標準仕様書に示す範囲とする。 すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。 上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) (令和 年版) をいう。(以下、これを「標仕」という。) 本書に特に記載のない事項であっても、すべて、「標仕」の適用を受けるものとする。			6 設計G L	○ 図示による ○ 設計G L = 現状G L																																															
			3	①埋め戻し及び盛土 (3.2.3)	○ A 種 砂質土 (山砂の類) を水締め又は機器による締固め (表3.2.1) ● B 種 根切り土の中の良質土を機器による締固め ○ C 種 他現場の建設発生土の中の良質土を機器による締固め ○ D 種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め ○ その他(材料 _____ 工法 _____) ○ 建設発生土 (盛土材) の外部からの受入土量 (_____ m3) 発生場所 (_____)																																														
【3】工 事 区 分 設計図書による。 別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。			3	②建設発生土の処理 (3.2.5)	下記に定めるほかは、現場説明書による ● 構外指示の受入場所に処分 受入場所 ● (一財)城陽山砂利採取地整備公社 ○ 土壌調査 ● 行う (受入場所指定の検査) ○ ● 京都府土砂等による土地の埋立て等の規制に関する条例 施行規則第7条第3項13号及び第4項に規定する方法 仮置場所 ○ 構内 ○ 構内指示の場所に敷き均し ○ 構内指示の場所にたい積																																														
			3 山留めの撤去 (3.3.3)	鋼矢板等の抜き跡の処理 ○ 図示による ○ 撤去する ○ 存置する																																															
章	項	目	特	記	事	項							4	①基礎種別 (4.2.2) ~ (4.5.8)	○ 杭基礎 杭の種別、本数等 構造図による 工法 構造図による 試験杭 ○ 行う (構造図による) 支持層の位置及び土質 構造図による 杭の支持地盤への掘削深さ 構造図による 杭継手 ○ _____ ○ ｱｰｸ溶接 ○ 無溶接継手 (工法 _____) 杭の水平方向位置ずれ精度 構造図による 杭の載荷試験 ○ 行う (構造図による) 継杭溶接部試験 ○ 行う (浸透探傷試験 _____ 本) 載荷試験 ● 行う (下記以外は構造図による)																																				
1 一般 共 通 事 項			② 建築材料等	本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は監督職員の承諾を受ける。 下記材料品目は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿 (最新版)」にある材料とする。 また、同評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督職員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとすることができる。 (評価名簿によるもの) 床型枠用鋼製デッキプレート (ﾌﾗｯﾄﾃﾞｯｸ)、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材 (ﾌﾟﾚﾐｯｸｽ形、現場調合形)、押出成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材(防水立上部)、陶磁器質タイル、既製調合モルタル (ﾀｲﾙ工用)、既製調合目地材、ルーフトレン、吸水調整材 (ﾔｸﾞﾙ用)、アルミニウム製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前錠 (ｼﾘﾝﾀﾞ錠、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、ｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠)、クローザー類(ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ、ﾌﾛｯﾋﾟﾝｸﾞ)、自動扉機構 (制御装置・駆動装置、検出装置、制御装置・駆動装置・検出装置)、自開式上吊り引戸機構(手動開き式)、重量シャッター、軽量シャッター、ｵｰﾊﾞｰﾊｯﾄﾞﾌﾞ、ガラス(ﾌﾛｯﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ、型板ｸﾞﾗｽ、網入板ｸﾞﾗｽ・線入板ｸﾞﾗｽ、熱線吸収板ｸﾞﾗｽ、倍強度ｸﾞﾗｽ、熱線反射ｸﾞﾗｽ)、ガラスブロック(中空)、防水剤、現場発泡断熱材、ﾌﾞﾛｰｸｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝ (3000N、5000N)、可動間仕切、移動間仕切(ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ)、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム (屋上緑化システム、屋上緑化軽量システム)、トップライト、エポキシ樹脂、タイル部分張替え用接着剤、ポリマーセメントモルタル、鋳鉄製ふた (マンホールふた・弁枘ふた)	11 電気保安技術者 (1.3.3)	適用する	16 化学物質の濃度測定 (1.5.9)	適用する (適用事項は、現場説明書による)	4	②地盤の載荷試験 (4.2.4)	一軸圧縮試験 試験箇所数 1 箇所 (試験位置図示) 設計地耐力 3.5 t/㎡																																								
			② 建築材料等	12 施工条件 (1.3.5)	現場説明書による	⑦ 完成図 (1.7.2)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ ____部) 詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。	5 場所打ちコンクリート杭地業 (4.3.1) (4.3.4) (4.3.5)	○セメントミルク工法 (4.3.1) (4.3.4) (4.3.5) ※標仕 4.3.4 (6) (コ) (a) から (g) による ○ _____ ○特定埋込杭工法																																										
1 一般 共 通 事 項			② 建築材料等	13 発生材の処理等 (1.3.11)	○ 引渡しを要するもの (_____) ○ 工事現場において再利用を図るもの、再生資源化を図るもの (_____) ○ 指定副産物の搬出 (詳細は現場説明書による) ○ アスファルトコンクリート塊 ○ セメントコンクリート塊 ○ 建設発生木材 ○ 指定副産物の処分地 (詳細は現場説明書による) ○ 指定地処分 (_____) ○ 自由処分 (_____ 最寄りの再資源化施設へ搬出すること)) ○ 指定副産物以外の搬出 ※ 構外搬出適切処理 ○ 特別管理産業廃棄物の処理 (_____) 再生資源利用 [促進] 計画書、実施書の提出 詳細は現場説明書による。 ○ 産業廃棄物管理票 (マニフェスト) 制度により、適正な処理を行うこと。 ○ 産業廃棄物の処理を委託する場合は、運搬と処分についてそれぞれの許可業者と処理委託料を記載した「処理委託契約書」により委託契約すること。	18 保全に関する資料 (1.7.3)	作成する (提出部数 ○ 2部 ○ ____部) ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物の主要な構造部及び外構についての説明 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ○ 建物等の清掃の要点 ○ 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官庁官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」建築保全「業務共通仕様書」を参考として作成すること。	5 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1) (4.5.5) (4.5.6)	工法 ○アースドリル工法 ○リバース工法 ○オールケーシング工法 超音波測定器による孔壁の確認 ○行う ○行わない ○場所打ち鋼管コンクリート杭工法 ○ 拡張杭																																										
			② 建築材料等	2 仮設工事	1 足場等 (2.2.4)	足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン (厚生労働省 基発第0424001号)」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中棧及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式を採用すること。 屋根工事及び小屋根の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971 (屋根工事用足場及び施工方法)の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。																																													

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	
鉄骨工事	7	⑬ 錆止め塗料 (7.8.4 (18.3.2)	塗料の種類 ● 鉄鋼面の錆止め塗料 ● 表18.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ ● 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料 ● 表18.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る） ○ 表18.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う（範囲 ○ 図示による ○ 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 ○ 行わない ○ 行う（範囲 ○ 図示による ○			9	1 アスファルト防水 (9.2.2) ～(9.2.5)	防水工事	(表9.2.3)～(表9.2.9)			9	防水工事	可塑剤移行防止用 シート ※ 発泡ポリエチレンシート ○ 脱気装置（接着工法） ○ 設ける 材質（ ） 設置数量（1箇所／ 固定金具の材質及び寸法形状 ※ 防錆処理した鋼板、ステン鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板で、厚さ0.4mm以上のもの ○ 接着工法の場合で P Cコンクリート部材下地の場合の処理 目地処理 ※ 図示による ○ 入隅部の増張り（S-F 1、SI-F 1の場合） ※ 図示による ○ ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。			10	石工事	内壁石張り 工法 ○ 内壁空積工法（※ あと施工アンカー横筋流し工法と施工アンカー工法 ○ 乾式工法（○ スライド方式 ○ ロッキング方式 ○ 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤 ※ 専門工事業者の指定 裏面及び裏打ち処理 ※ 行わない ○ 行う 目地 ○ 一般目地幅 mm ○ 伸縮調整目地位置 ○ シーリング材の目地寸法 mm あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ○ 材質 ○ 寸法 ○		
			種 別 防水層 施 工 箇 所 種 類 仕上塗料 使用量 ○ A-1 ○ A-2 ○ A-3 表9.2.3 ○ AI-1 ○ AI-2 ○ AI-3 表9.2.4 ○ B-1 ○ B-2 表9.2.5 ○ BI-1 ※ BI-2 表9.2.6 ○ D-1 ○ D-2 表9.2.7 施 工 箇 所 種 類 仕上塗料 使用量 ○ DI-1 ○ DI-2 表9.2.8 ○ E-1 ○ E-2 表9.2.9 ○ 断熱材（屋根保護防水断熱工法） 厚さ mm ○ 断熱材（屋根露出防水断熱工法） 厚さ mm 種類 ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材 及び絶縁用シート の張りじまい位置 ※ 図示による ○ 絶縁用シート ※ ポリエチレンフィルム厚0.15（保護防水工法） ※ フラットヤーニングクロス（70g/㎡程度）（保護防水断熱工法） ○ 押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上り部の保護 ※ 乾式保護材（ ） ○ 普通れんが ○ 化粧れんが ○ モルタル押え（屋内） ○ コンクリート（工法 ） 保護層 平場のコンクリート厚さ mm ○ こて仕上げ mm ○ 床タイル張り等仕上げ mm 屋上排水溝 ※ 図示による 脱気装置（露出防水絶縁（断熱）工法） ※ 設ける 材質（ ） 設置数量（1箇所／㎡） 種別 (表9.3.1)～(表9.3.3) 種 別 防水層 施 工 箇 所 種 類 仕上塗料 使用量 ○ AS-T1 ○ AS-T2 表9.3.1 ○ AS-T3 ○ AS-T4 ○ AS-J1 表9.3.2 ○ AS1-T1 ○ AS1-J1 表9.3.3 断熱材（露出防水断熱工法） 厚さ mm 種類 ○ 脱気装置（絶縁工法） ※ 設ける 材質（ ） 設置数量（1箇所／㎡） 防湿層（露出防水絶縁断熱工法） ○ 設ける ○ 設けない 押え金物 ※ アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 種別 (表9.4.1) (表9.4.2) 種 別 防水層 施 工 箇 所 種 類 仕上塗料 使用量 ○ S-F1 表9.4.1 PC部材入隅増張（※有り○無し） ○ S-F2 ○ S-M1 ○ S-M2 ○ SI-F1 表9.4.2 PC部材入隅増張（※有り○無し） ○ SI-M1 ○ SI-M2 ○ S-C1 表9.4.3 S-F1,S-M1,S-F2,S-M2 ※ 非歩行仕様 ○ 軽歩行仕様 平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ mm ○ 断熱材（機械的固定工法） 厚さ mm 種類 ○ 断熱材（接着工法） 厚さ mm 種類 ○ 防湿用フィルムを設置する(断熱工法)						種別 (表9.5.1)(表9.5.2) 種 別 防水層 施 工 箇 所 種 類 仕上塗料 使用量 ○ X-1 表9.5.1 ○ X-2 ○ Y-1 表9.5.2 地下外壁防水 ○ Y-2 屋内防水 脱気装置 (X-1) ○ 設ける 材質（ ） 設置数量（1箇所 ㎡） 保護層 (Y-2) ○ 設ける 施工箇所 ○ 図示による ○ 標仕9.6.4（2）(イ),(ウ)以外の下地処理 ○ 図示による ○ ※ 水張り試験を行う（○ 屋内 ○ 屋外） ※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 （保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。） 工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ 設置数量 箇所 シーリング材の種類 ※ 表9.7.1 による 施工箇所 ※ 図示による 仕上げを行わない施工箇所（○ 図示による ○ 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びびびり割れ誘発目地 ※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ ガラス回りの目地 ※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ その他の目地 ※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験（部位 ） ○ 引張接着性試験（部位 ） 材質 形状 ○ 差込式 ○ 据置式 ○ 壁張り式 適用範囲					4 床及び階段の石張り (10.6.2) (10.6.3) 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤（床石張り） ○ 適用する ○ 適用しない 石裏面処理（床石張り） ○ 適用する ○ 適用しない （階段石張り） ○ 適用する ○ 適用しない 裏打ち処理（床石張り） ○ 適用する ○ 適用しない 目地 ○ 一般目地幅 mm ○ 伸縮調整目地位置 ○ シーリング材の目地寸法 mm 5 特殊部位の石張り (10.2.2) (10.7.1) ～(10.7.3) 笠木、甲板等 取付工法 ○ 湿式工法 ○ 乾式工法 取付金物 ○ 石の厚さ mm 石裏面処理 ※ 行わない ○ 行う 石材裏面の補強用モルタル（乾式工法） ※ 行わない ○ 行う 目地 ○ 一般目地幅 mm ○ 伸縮調整目地位置 ○ シーリング材の目地寸法 mm あと施工アンカーの材質、寸法等 種類 ○ 材質 ○ 寸法 ○ 隔て板 石の厚さ mm							
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	8	1 補強コンクリート ブロック造 (8.2.2) ～(8.2.3) 2 コンクリートブロック 壁及び塀 (8.3.2) ～(8.3.4) 3 ALCパネル (8.4.2) ～(8.4.5) 4 押出成形セメント板 (ECP) (8.5.2) ～(8.5.5)	ブロックの種類 ○ 16（C種）普通ブロック ○ 16-W（C種）防水ブロック モジュール呼び寸法及び正味厚さ ○ 図示による ○ コンクリートの設計基準強度 F _o (N/mm ²) 充填用及びまくさ ※ 21 以上 ○ 上記以外 ※ 21 以上 ○ 各部の配筋 ※ 図示による 目地仕上げ ○ 押し目地仕上げ ○ 化粧目地仕上げ モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 ○ 図示による ○ ブロックの種類 (表8.3.1) 適 用 箇 所 種 類 の 記 号 間仕切壁、地下二重壁、外壁、塀 ※ 空洞ブロック 16 ○ 外壁の化粧積み ○ 空洞ブロック 16-W ○ モジュール呼び寸法及び正味厚さ ○ 図示による ○ 塀の厚さ ○ 図示による ○ 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※ 図示による 各部の配筋 ※ 図示による 塀化粧ブロック ○ 有（ ） ブロック塀の基礎及び控壁のコンクリートの設計基準強度 F _o (N/mm ²) ○ 18 ※ 21 ○ パネルの種類 (表8.4.2) (表8.4.3) (表8.4.4) 区 分 単位荷重 (N/㎡) 厚さ (mm) 構 法 耐火性能 ○ 外壁パネ ※ 1180 ○ 1960 ※ 100 ○ A種 ※ 有り（時間） ○ B種 ○ 間仕切パネ ※ 640 ○ ※ 100 ○ C種 ○ E種 ※ 有り（時間） ○ D種 ○ 屋根パネ ※ 980 ○ ※ 100 ※ F種 ※ 有り（時間） ○ 無し ○ 床パネ ○ 2350 ○ 3530 ○ 100 ※ F種 ※ 有り（時間） ○ 150 ○ 無し パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 ○ 図示による ○ 外壁パネの工法 ※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 パネル幅の最小限度 ※ 300 mm ○ mm パネの出隅及び入隅のパネ接合部並びにパネと他部材との取り合い部の目地幅 mm 伸縮目地への耐火目地材の充填 ○ 適用する ○ 適用しない 外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 ○ 種類 ※ 無石棉タイプ（タイプⅡ） 施工箇所 表 面 形 状 厚さ (mm) 工 法 耐火性能 ○ 外壁 ※ フラットパネル ○ 35 ○ A種 ※ 有り（時間） ○ デザインパネル(図示) ○ 50 ○ B種 ○ 無し ○ タイルベースパネル ○ 60 ○ 間仕切り ※ フラットパネル ○ 35 ○ B種 ○ 有り（時間） ○ デザインパネル(図示) ○ 50 ○ C種 ○ 無し ○ タイルベースパネル ○ 60 外壁パネの工法 ※ 本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 パネル幅の最小限度 ※ 300 mm ○ mm パネ相互の目地幅 ○ 図示による ○ mm 出隅及び入隅のパネ接合部目地の目地幅 ※ 15 mm ○ mm 外壁パネル構法及び間仕切壁パネル構法における耐震性能 ○ やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出すること。 孔あけ及び欠き込みの大きさ 切断後のパネの残り部分の幅 パネに孔あけを設ける場合 短辺 長辺 パネに欠き込みを設ける場合 短辺 長辺			9	2 改質アスファルト シート防水 (9.3.2) ～(9.3.4)	防水工事	2 改質アスファルト シート防水 (9.3.2) ～(9.3.4)			10	石工事	1 天然石張り (10.2.1) 2 テラソ張り (10.2.1) 3 壁の石張り工法 (10.2.2) (10.2.3) (10.3.2) (10.3.3) (10.4.2) (10.4.3) (10.5.2) (10.5.3) 外壁石張り 工法 ○ 外壁湿式工法（○ 流し筋工法○ あと施工アンカー工法：あと施工アンカー横筋流し工法 受金物の材質、形状及び寸法 ○ ○ 外壁乾式工法 ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 金物の種類、形状、寸法等 ○ スライド方式 ○ ロッキング方式 ○ 石の厚さ mm 浸透性吸水防止剤 ※ 専門工事業者の指定 裏面及び裏打ち処理 ※ 行わない ○ 行う（表面処理の場合小口共） ドレンパイプ ※ ステンレス SUS304 ○ 目地 ○ 一般目地幅 mm ○ 伸縮調整目地位置 ○ シーリング材の目地寸法 mm			11	タイル工事	1 伸縮調整目地等 (11.1.3) 2 施工後の確認及び試験 (11.1.7) 3 タイル張り (11.2.2) (11.2.3) (11.3.2) (11.3.3) 4 下地及びタイル ごしらえ (11.2.3) 5 張付け用材料 (11.3.3) 外壁 表11.1.1による ○ 図示による 屋内壁面 ※ 図示による ○ 床面 ※ 表11.1.1による ○ 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 引張接着試験 ※ 油圧式 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○ 行わない タイルの種類 施工箇所・形状・ タイルの種類 寸法(mm) 生 地 釉 薬 耐凍害性 耐滑り性 役 物 色 工 法 その他 ○ 磁器 ○ 無釉 ○ 有り ○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ○ セツ器 ○ 磁器 ○ 無釉 ○ 有り ○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ○ セツ器 ○ 磁器 ○ 無釉 ○ 有り ○ 陶器 ○ 施釉 ○ 無し ○ セツ器 タイルの試験張り ※ 行わない ○ 行う タイルの見本焼き ※ 行わない ○ 行う 既調査モルタル 下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の 下地処理 ○ MCR工法 ○ 目荒し工法 ○ 図示による ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ 外壁タイルの目地詰め ○ 行う ○ 行わない		

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																																																																																																																	
12	木 工 事	①揮発性有機化合物 対策 (12.2.1) (12.2.2) (12.2.3)	材料(集成材、合板等)のホルムアルデヒド放散量 表示がある場合 ※F☆☆☆☆ ○ 表示がない場合 ※非ホルムアルデヒド系接着剤使用(塗装していないもの) ※非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用(塗装したもの) ※非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用(化粧加工したもの) ○ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○			12	木 工 事	⑤集成材 (12.2.1)	「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 ●造作用集成材 <table><tr><th>使用箇所</th><th>品名</th><th>樹種</th><th>見付材面数</th><th>寸法</th><th>見付材面の品質</th></tr><tr><td>WD1及び同取付枠</td><td>※集成材</td><td>※集成材</td><td>※1等</td><td>○2等</td><td></td></tr></table> ○化粧ばり造作用集成材 <table><tr><th>使用箇所</th><th>品名</th><th>樹種</th><th>寸法</th><th>化粧板厚</th><th>見付材面数</th><th>見付材面の品質</th></tr><tr><td></td><td>化粧材</td><td>芯材</td><td></td><td></td><td></td><td>※1等 ○2等</td></tr></table> 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ○造作用集成材 <table><tr><th>使用箇所</th><th>樹種</th><th>寸法</th><th>見付材面の品質</th><th>含水率</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>※15%以下 ○</td></tr></table> ○化粧ばり造作用集成材 <table><tr><th>使用箇所</th><th>化粧樹種名</th><th>芯材樹種名</th><th>寸法</th><th>化粧板厚</th><th>見付材面の品質</th><th>含水率</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>※15%以下 ○</td></tr></table> 「JAS0701(単板積層材)」による造作用単板積層材 ○造作用単板積層材 <table><tr><th>使用箇所</th><th>品名</th><th>寸法</th><th>表面の品質</th><th>防虫処理</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>○表面化粧加工なし ○1等 ○2等 ○3等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工</td><td>○適用する ○適用しない</td></tr></table> 「JAS0701(単板積層材)」以外の造作用単板積層材 ○造作用単板積層材 <table><tr><th>使用箇所</th><th>寸法</th><th>表面の品質</th><th>含水率</th><th>防虫処理</th></tr><tr><td></td><td></td><td>○表面化粧加工なし ○ ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工</td><td>※14%以下 ○</td><td>○適用する ○適用しない</td></tr></table> JAS3079(直集成板) <table><tr><th>使用箇所</th><th>品名</th><th>曲げ強度</th><th>種別</th><th>接着性能</th><th>樹種</th><th>寸法</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 「合板の日本農林規格」による 普通合板 <table><tr><th>使用箇所</th><th>品名</th><th>厚さ</th><th>樹種名</th><th>接着程度</th><th>板面の品質</th><th>その他処理</th></tr><tr><td>※押入れ、物入れ ●室内機置場床</td><td>※5.5mm ●12mm</td><td>ラワン合板</td><td>※1類 ○2類</td><td>広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C・D以上 ○</td><td>○防虫処理</td><td></td></tr></table> 「合板の日本農林規格」による 構造用合板 <table><tr><th>使用箇所</th><th>品名</th><th>等級</th><th>厚さ</th><th>樹種名</th><th>接着程度</th><th>板面の品質</th><th>保存処理</th><th>その他処理</th></tr><tr><td>※豊床下地材、フローリング張り下地材 ●外壁下地</td><td>※2級以上 ○</td><td>※12mm ●9mm</td><td>針葉樹</td><td>※1類 ○特等</td><td>※C・D以上 ○</td><td></td><td></td><td>○防虫処理 ○強度等級</td></tr></table> ○工事完成までに、京都府内産木材の産地証明書を提出すること。 ※京都木材規格(KTS)材を使用する場合は、京都木材規格(KTS)材証明書(発行機関：(一社)京都府木材組合連合会)を提出すること。			使用箇所	品名	樹種	見付材面数	寸法	見付材面の品質	WD1及び同取付枠	※集成材	※集成材	※1等	○2等		使用箇所	品名	樹種	寸法	化粧板厚	見付材面数	見付材面の品質		化粧材	芯材				※1等 ○2等	使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質	含水率					※15%以下 ○	使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率							※15%以下 ○	使用箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理				○表面化粧加工なし ○1等 ○2等 ○3等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	○適用する ○適用しない	使用箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理			○表面化粧加工なし ○ ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	※14%以下 ○	○適用する ○適用しない	使用箇所	品名	曲げ強度	種別	接着性能	樹種	寸法								使用箇所	品名	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理	※押入れ、物入れ ●室内機置場床	※5.5mm ●12mm	ラワン合板	※1類 ○2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C・D以上 ○	○防虫処理		使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理	※豊床下地材、フローリング張り下地材 ●外壁下地	※2級以上 ○	※12mm ●9mm	針葉樹	※1類 ○特等	※C・D以上 ○			○防虫処理 ○強度等級	13	屋 根 及 び 土 工 事	①性能	※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 (表13.2.1)		
		使用箇所	品名	樹種	見付材面数			寸法	見付材面の品質																																																																																																																												
		WD1及び同取付枠	※集成材	※集成材	※1等			○2等																																																																																																																													
		使用箇所	品名	樹種	寸法			化粧板厚	見付材面数	見付材面の品質																																																																																																																											
	化粧材	芯材				※1等 ○2等																																																																																																																															
使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質	含水率																																																																																																																																	
				※15%以下 ○																																																																																																																																	
使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率																																																																																																																															
						※15%以下 ○																																																																																																																															
使用箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理																																																																																																																																	
			○表面化粧加工なし ○1等 ○2等 ○3等 ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	○適用する ○適用しない																																																																																																																																	
使用箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理																																																																																																																																	
		○表面化粧加工なし ○ ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工	※14%以下 ○	○適用する ○適用しない																																																																																																																																	
使用箇所	品名	曲げ強度	種別	接着性能	樹種	寸法																																																																																																																															
使用箇所	品名	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理																																																																																																																															
※押入れ、物入れ ●室内機置場床	※5.5mm ●12mm	ラワン合板	※1類 ○2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C・D以上 ○	○防虫処理																																																																																																																																
使用箇所	品名	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	保存処理	その他処理																																																																																																																													
※豊床下地材、フローリング張り下地材 ●外壁下地	※2級以上 ○	※12mm ●9mm	針葉樹	※1類 ○特等	※C・D以上 ○			○防虫処理 ○強度等級																																																																																																																													
2 長尺金属板葺 (13.2.2) (13.2.3)	<table><tr><th>屋根葺形式</th><th>材 料 の 種 類 等</th><th>厚さ(mm)</th><th>下 葺 材 料</th></tr><tr><td>○心木なし瓦棒葺 ○立平葺 ○蟻掛葺 ○横葺</td><td>※JIS G 3322の屋根用(着色○有) ○ ○ ○ ○</td><td>○ ○ ○ ○</td><td>○アスファルト・フィング 940 ○改質アスファルト・フィング 下葺材 ○一般タイプ ○複層基材タイプ ○粘着層付タイプ</td></tr></table> 専門工事業者 ※製造所の指定業者とする ○ ※建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した工法を品質計画により定める。 横葺きの場合のけらは納め ○つみ込み納め ○けらは納め 雪止め ○設置する ○設置しない	屋根葺形式	材 料 の 種 類 等	厚さ(mm)	下 葺 材 料	○心木なし瓦棒葺 ○立平葺 ○蟻掛葺 ○横葺	※JIS G 3322の屋根用(着色○有) ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○アスファルト・フィング 940 ○改質アスファルト・フィング 下葺材 ○一般タイプ ○複層基材タイプ ○粘着層付タイプ																																																																																																																												
屋根葺形式	材 料 の 種 類 等	厚さ(mm)	下 葺 材 料																																																																																																																																		
○心木なし瓦棒葺 ○立平葺 ○蟻掛葺 ○横葺	※JIS G 3322の屋根用(着色○有) ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○アスファルト・フィング 940 ○改質アスファルト・フィング 下葺材 ○一般タイプ ○複層基材タイプ ○粘着層付タイプ																																																																																																																																		
③折板葺 (13.3.2) (13.3.3)	<table><tr><th>形式による区分</th><th>※重ね形</th><th>○はぜ締め形</th><th>○嵌合形</th></tr><tr><td>山 高 (mm)</td><td>88</td><td>耐 力</td><td></td></tr><tr><td>山ピッチ (mm)</td><td>200</td><td>板厚 (mm)</td><td>※ 0.6 ○ 0.8</td></tr></table> 材料による区分 ※JIS G3322の屋根用(着色 ○有) (表13.2.1) ○ 軒先面戸板 ※有り(軒先面戸・換気面戸) ○無し けらは変形防止材 ●鉄鋼製(上塗り ※折板色 ○) ○スチール鋼製 断熱材張り ○行う 種別() 厚さ() 防火性能(3 0分) ※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。 耐雪性能に対応した工法の適用 ●適用する ○適用しない 雪どめ ○適用する ●適用しない	形式による区分	※重ね形	○はぜ締め形	○嵌合形	山 高 (mm)	88	耐 力		山ピッチ (mm)	200	板厚 (mm)	※ 0.6 ○ 0.8																																																																																																																								
形式による区分	※重ね形	○はぜ締め形	○嵌合形																																																																																																																																		
山 高 (mm)	88	耐 力																																																																																																																																			
山ピッチ (mm)	200	板厚 (mm)	※ 0.6 ○ 0.8																																																																																																																																		
4 粘土瓦葺 (13.4.2) (13.4.3)	種類、大きさ、産地等 ※J型 5 3 A ○ 役物瓦の種類 雪止め瓦の使用 ○有 ○無 凍害試験 ○行う ○行わない 棟補強用心材の材質、寸法 ※杉幅40mm×高さ30mm以上(防腐処理を施したもの) ○ 棟補強等に使用する金物等 <table><tr><th>材種</th><th>材質</th><th>形状</th><th>寸法</th><th>留 付 け 方 法</th></tr><tr><td>○ステンレス製 ○鋼製(溶融亜鉛めっき処理)</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 桟木の留付け工法 棟の工法 ○7寸丸伏せ棟 ○F形用冠伏せ棟 ○のし積み棟 ※建築基準法に基づき定まる風圧力・地震力に対応した工法を品質計画により定める。 面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合 ○モルタル ○瓦葺き用しっくい	材種	材質	形状	寸法	留 付 け 方 法	○ステンレス製 ○鋼製(溶融亜鉛めっき処理)																																																																																																																														
材種	材質	形状	寸法	留 付 け 方 法																																																																																																																																	
○ステンレス製 ○鋼製(溶融亜鉛めっき処理)																																																																																																																																					

⑤とい(雨水) (13.5.2) (13.5.3)	といの材種 ○配管用鋼管 ●硬質ポリ塩化ビニル管 ○ルーフトレイン (表13.5.1) ○表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類 ○) (屋内と違いにV P管は使用しない) ○ とい受け金物及び足金物 材種 ○ ※表13.5.2(溶融亜鉛めっきを行ったもの) 形状 ○ ※表13.5.2 取付け間隔 ○ ※表13.5.2 ○0.5m以下(多雪地域の場合) 鋼管製といの防露 ※行う (施工箇所 ※表13.5.3による ○) 防露材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○ 掃除口 ※設ける (開放性のある自転車置場のといを除く) ※受注者、屋根施工業者、屋根材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限：工事目的物引渡しより 10 年間以上とする。)																																	
⑥保証書																																		
14	金 属 土 事	①一般事項 (14.1.3)	あと施工アンカーの引張試験 ※行う (箇所以上、 N/箇所) ●行わない (表14.2.1)	種 別	施 工 箇 所 (手すり、成形板、笠木、建具以外)		-----	---------------------------				陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ○三次電解着色 ○ 色合等 (表14.2.2)	表面処理方法	種 別	試 験	施 工 箇 所		----------	-----------------	------------------	---------		○溶融亜鉛めっき	○A種 ○B種 ●C種 ●行う	ケーブルラック支持材、防球ネット			○電気亜鉛めっき	○D種 ○E種 ○F種 ○行う					
2 7%ニッケル及び7%ニッケル合金の表面処理 (14.2.2)																																		
③鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2)																																		
4 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2) ～(14.4.4)	野縁等の種類 屋内 ※19型 ○25型 (表14.4.1) 屋外 ○19型 ※25型 屋外の野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 _____ mm 屋外の周辺部の端からの寸法 _____ mm 屋外の野縁の間隔 _____ mm 屋外のはずれ留め補強 ※有り ○無し 開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示による ○ 天井のふとところの補強(1.5m以上3m以下) ※行う (3mを超える) ※行う(図示による) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○行う ○行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○行う ○行わない																																	
5 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3)	スタッド、ランナー等の種類 (表14.5.1) ※表14.5.1におけるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類 ○ スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示による ○																																	
6 金属成形板張り (14.6.2) (14.6.3)	(表14.2.1)	形 状	製 法	材 種	寸 法 (mm)	表面処理(種別)		----------	------	----------	----------------------	----------		○スバンドレル形	○押出し	※7%ニッケル製	板厚 _____ 板幅 _____	○		○パネル形	※プレス				伸縮調整継手 ○設けない ○設ける (施工箇所は図示)									
7 アルミニウム製 笠木 (14.7.2) (14.7.3)	(表14.7.1)	種 類	板厚(mm)	表面処理(種別)	備 考		--------	--------	----------	-----------------		○250 形	1.6	○	コナ部及び突当たり部等の役物は		○300 形	1.8		本体製造所の仕様による。		○350 形	2.0				○				建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ※図示による ○			
8 天井点検口	○アルミニウム製既製品(450×450) _____ 箇所 ○アルミニウム製既製品(600×600) _____ 箇所																																	
9 床点検口	○アルミニウム製既製品(600×600) _____ 箇所 ○ステンレス製既製品 (600×600) _____ 箇所 ○鋳鉄製マンホール蓋 _____ 型 _____ φ _____ 箇所																																	
10 屋上点検口	寸法 (mm) ○φ600 ○500角 断熱材 ○有り ○無し																																	
Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事 Drow ing 建築工事特記仕様書 4 Scale Date 2025/09 Nº 13 A- 61																																		

章

項目

特記事項

15

左管工事

1 ラス系下地
(15.2.4)

2 モルタル塗り
(15.32) ~ (15.35)

3 石こうボードその他のボード下地

4 こまい下地

5 木ずり下地

6 仕上塗材仕上げ
(15.62)

下地の種類
○二層下地通気構法
○単層下地通気構法
換気口部の措置 (※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3(2)(7))
○直張りラスモルタル下地
○直張りラスシートモルタル下地

ラスの材料
種類及び記号 ()
単位面積当たりの質量 ()

ラスシートの材料
ラス目による区分 (※M ○)
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分 (OLS4 (建築基準法に基づく耐力壁) ○)
ステープルの形状及び寸法 ()
直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシート施工 ()

材料 ○現場調合材料 ○既調合材料

既製目地材
○適用する (形状)
床塗り
目地の設置 ※有り (種類 ※押目地 ○)
(目地割 ※2m程度 最大目地間隔 3m ○)
○無し

屋外のタイル張り下地及び屋内の吹き抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
浮きの確認 ※全面打診による確認を行う
接着力試験 ○行う ○行わない

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ
種類 (○GB-R ○GB-L ○)厚さ (mm)

木質系セメント板の種類及び厚さ
種類 (○)厚さ (mm)

建築基準法に基づく耐力壁の指定 (○あり ○なし)

木ずり用小幅板の種類 (※すぎ (心去り材) ○)

内装塗材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○

薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類(呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○外装薄塗材Si	○砂壁状 ○ゆず肌状	吹付け	
	○ゆず肌状 ○さざ波状	ローラ	
○可とう形外装薄塗材Si	○砂壁状 ○ゆず肌状	吹付け	
	○ゆず肌状 ○さざ波状	ローラ	
○外装薄塗材E	○砂壁状 ○ゆず肌状	吹付け	
	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ゆず肌状 ○さざ波状	ローラ	
	○着色骨材砂壁状	○吹付け ○こて塗	
○可とう形外装薄塗材E	○砂壁状 ○ゆず肌状	吹付け	
	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ゆず肌状 ○さざ波状	ローラー	
○防水形外装薄塗材E (○増塗材)	○ゆず肌状 ○さざ波状	ローラー	
○外装薄塗材S	砂壁状	吹付け	
○内装薄塗材C	○凹凸状	吹付け	○調湿形
○内装薄塗材L	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ゆず肌状 ○さざ波状	ローラ	
○内装薄塗材Si	○砂壁状じゅらく ○ゆず肌状	吹付け	
○内装薄塗材E	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ゆず肌状 ○さざ波状	ローラ	
○内装薄塗材W	○京壁状じゅらく ○ゆず肌状	吹付け	○調湿形
	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	○耐アルカリ性
			○かび抵抗性

厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類(呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○外装厚塗材C	○吹放し ○凸部処理	吹付け	
	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
(○上塗材)	○ひき起し ○かき落とし		
○外装厚塗材Si	○吹放し ○凸部処理	吹付け	
○外装厚塗材E	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
(○上塗材)	○ひき起し	○ローラ	
○内装厚塗材C	○吹放し ○凸部処理	吹付け	○調湿形
	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ひき起し ○かき落とし		
○内装厚塗材L	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ひき起し ○かき落とし		
○内装厚塗材G	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ひき起し ○かき落とし		
○内装厚塗材Si	○吹放し ○凸部処理	吹付け	
○内装厚塗材E	○平たん状 ○凹凸状	こて塗	
	○ひき起し	○ローラ	

7 マスチック塗材塗り
(15.7.2)

8 しっくい塗り
(15.10.1) ~ (15.10.3)

9 こまい壁塗り
(15.11.2) ~ (15.11.8)

10 ロックウール吹付け
(15.12.2) (15.12.3)

15

左管工事

複層仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類(呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○複層塗材C E	○凸部処理	吹付け	
○複層塗材R E	○凹凸状		
○複層塗材S i			
○複層塗材E	○ゆず肌状	ローラー	
○可とう形複層塗材C E	○凸部処理 ○凹凸状	吹付け	
	○ゆず肌状	ローラー	
○防水形複層塗材C E	○凸部処理	吹付け (○増塗材)	
○防水形複層塗材E	○凹凸状		
○防水形複層塗材R E	○ゆず肌状	ローラー	

複層仕上塗材の耐候性 ○耐候形1種 ○耐候形2種 ○耐候形3種

複層仕上塗材の上塗材 溶媒 ○水系 ○弱溶剤系 ○溶剤系

樹脂 ○アクリル系 ○

外観 ○つや有 ○つやなし ○メタリック

軽量骨材仕上塗材 (JIS A 6909) (表15.6.1)

種類(呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考
○吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け	
○こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗	

種別 ○A種 ○B種 (表15.7.1)

下地 ○せっこうボード ○せっこうボード ○砂壁塗り ○木ずり ○こまい

○下塗りをせっこうボードとし上塗りに使用する場合 ○

材料 ○現場調合材料

○既調合材料 色しっくい ○適用する ○適用しない

既調合しっくいの調合
○せっこうボード下地 ※(表15,10,1) ○

○モルタル塗り下地 ※(表15,10,2) ○

○せっこうラスボード下地 ※(15,8,2) ○

現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
○木ずり下地 ※(表15,10,3) ○

○せっこうプラスター下地、こまい下地 ※(表15,10,4) ○

既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
○なで切り仕上げ ○パターン

土壁用のり ※つのまた ○ふのり ○ぎんなんそう ○粉末海藻 ○

砂壁用のり ※ふのり ○つのまた ○こんにゃくのり ○にかわ

○合成樹脂系混和剤 ○

色土の種類 ○土物仕上げ ○大津仕上げ

色砂の種類 ○天然砂と岩石の砕砂 ○人工的に着色・製造したもの

下塗りの調合 ※表15.11.2 ○

塗厚 ※表15.11.8 ○

○耐力壁の指定がある場合 (mm)

※A種 ○B種

工程 ○土物 仕上げ

種類 ○土もの仕上げ工法
○水ごね土物1工法 ○水ごね土物2工法
○のりさし土物工法 ○のりごね土物工法
○砂壁仕上げ工法
○切返し仕上げ工法

ちりじゃくり

○大津 仕上げ

種類 ○普通大津仕上げ工法 ○大津みがき仕上げ工法

ちりじゃくり

16

建具工事

①性能

2 防火戸 (16.1.3)

3 見本の製作等 (16.1.4)

4 防犯建物部品 (16.1.6)

⑤アルミニウム製建具 (16.2.2) ~ (16.2.5)

※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

※図示による ○

建具見本の製作 ○行う (建具番号)

特殊な建具の仮組 ○行う (建具番号)

開口部の進入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所
・ドア 適用箇所 ()
・サッシ 適用箇所 ()
・シャッター 適用箇所 ()

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (コック系下地、鉄骨下地) (表16.2.1)

性能等級	○A種	○B種	○C種
耐風圧性	※S-4 ○	※S-5 ○	※S-6 ○
気密性	※A-3 ○		※A-4 ○
水密性	※W-4 ○		※W-5 ○
枠見込み(mm)	※図示 ○70	○100	※図示 ○

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (木下地)(表16.2.2)

性能等級	●D種	○E種
耐風圧性	※S-2 ○	※S-3 ○
気密性	※A-3 ○	
水密性	※W-3 ○	
枠見込み(mm)	80 (木適用半外付け)	

表面処理 (表14.2.1)

種 別	色	施 工 箇 所
屋外	○B-1種 ○標準 ○特注 ●B-2種 ●標準 ●特注	※図示による ○ ※図示による ○
屋内	○B-C-1種 ○標準 ○特注 ○B-C-2種 ○標準 ○特注	※図示による ○ ※図示による ○
	○ ○標準 ○特注	

○防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級)

○断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級)

○耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級)

結露水の処理方法 ※図示による ○

水切り、ぜん板等 ※図示による ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○

木下地の場合の外部に面する内付建具の止水処理 ●行う

防虫網 材 質 ※合成樹脂製 ○ガラス繊維入り合成樹脂製

○ステンレス製 (SUS316)

形 式 ※外部可動式 ○固定式

線径、網目 ※0.25mm以上、16~18メッシュ ○

防鳥網 ○設置する

外部に面する樹脂製建具の性能等級 (コック系下地、鉄骨下地) (表16.3.1)

性能等級	○A種	○B種	○C種
耐風圧性	※S-4 ○	※S-5 ○	※S-6 ○
気密性	※A-4 ○		
水密性	※W-4 ○		※W-5 ○
枠見込み(mm)	※図示		

外部に面する樹脂製建具の性能等級 (木下地) (表16.3.2)

性能等級	○D種	○E種
耐風圧性	※S-2 ○	※S-3 ○
気密性	※A-4 ○	
水密性	※W-3 ○	
枠見込み(mm)	※図示	○

○防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○T-1 ○T-2 ○)

○断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○H-4 ○H-5 ○H-6 ○H-7 ○H-8 ○)

外部に面する建具の日射取得性の等級 ○

ガラス ※複層ガラス ○単板ガラス ○三重ガラス ○

表面色 ○標準色 ○特注色

ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○

水切り、ぜん板等 ※図示による ○

木下地の場合の外部に面する内付け建具の止水処理 ○行う

16

建具工事

⑧鋼製建具 (16.4.2) ~ (16.4.4)

9 鋼製軽量建具 (16.5.2) ~ (16.5.4)

10 ステンレス製建具 (16.6.2) ~ (16.6.4)

⑪木製建具 (16.7.2) (16.7.3)

外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ●S-5 ○S-6 (表16.2.1) (表16.4.1)

簡易気密扉の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない

○防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級)

○断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級)

○耐震ドアの適用 (面内変形追随性の等級)

○点検口の類のくつずりの材料 ○

○標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※図示による

ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○

JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による)
※製造所標準製作規定寸法許容差による

鋼板類の厚さ ※表16.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)
○ mm

鋼板類の厚さ ※表16.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く)
○ mm

召合せ、縦小口包み板等 ※鋼板 ○ステンレス鋼板 ○アルミニウム合金の押出型材

外部に面する建具の耐風圧性 ○S-4 ○S-5 ○S-6 (表16.2.1) (表16.4.1)

簡易気密扉の気密性、水密性 ※適用する ○適用しない

○防音ドア、防音サッシの適用 (遮音性の等級)

○断熱ドア、断熱サッシの適用 (断熱性の等級)

○耐震ドアの適用 (面内変形追随性の等級)

ステンレス鋼板 ※JIS G 4305

種類 ○SUS304 ○SUS430J1L ○SUS443J1 ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL ○

JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は標仕による)
※製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ ※HL ○鏡面

曲げ加工 ※普通曲げ ○角出し曲げ

建具材の含水率の種類 ※A種 ○B種 ○C種

フラッシュ戸

表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※標仕16.7.2(2)(イ)(a)による

表面材の合板の種類

合板の種類	規 格 等	備 考
○普通合板	表面の樹脂 ○板面の品質 (○広葉樹1種 ○) 接着の程度 (○1種 ○2種)	
○天然木化粧合板	樹種名 () 接着の程度 (○1種 ○2種)	
○特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ○ポリエステル化粧合板 ○メラミン化粧合板 ○接着の程度 (○1種 ○2種)	
○MDF		

表面材の合板の種類の利用及び品質等 ○

表面板の厚さ ※図示による ○

引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用 ○適用する ○適用しない

かまち戸

かまち及び鏡板の樹種 ※図示による ○

見込み寸法 ※36mm ●40mm

ふすま

材料の種類 ○I型 ○II型

上張りの種類 ※図示による ○

見込み寸法 ※19.5mm ○

戸ふすま

上張りの種類 ※図示による ○

見込み寸法 ※30mm ○

紙張り障子

見込み寸法 ※30mm ○

接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○

枠及びくつずりの材料 ※図示による

Project

木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

Drawing

建築工事特記仕様書 5

Scale

Date

2025/09

Nº

14

61

設計 建築事務所株式会社 京都府知事登録 04A第 02848号
Kei Une Architectural design office 一級建築士登録第320505号 敬啓

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

マスターキーの製作
※作成する（グループ、各グループ個）作成しない
●在来マスターキーに合わせる
鍵の製作本数※各室3本1組開き戸（表16.8.1）

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
●シリンダー錠	○握り玉：ステンレス ●レバーハンドル：7%ニッケル合金、（●ステンレス、○黄銅） シリンダーキー：ステンレス	○取付位置（） 実用性能項目 ※グレード3以上（鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具） ○ 耐じん性能のグレード○
○本締り錠	シリンダーキー：ステンレス	実用性能項目 ※グレード3以上（鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具） ○ 耐じん性能のグレード○
●空錠	○握り玉：ステンレス ●レバーハンドル：7%ニッケル合金、（●ステンレス、○黄銅）	○取付位置（）

○グレモン錠	レバーハンドル：亜鉛合金、（○ステンレス）	○取付位置（）
ケースハンドル錠	ステンレス	
点検口錠	亜鉛合金程度、（○ステンレス）	
丁番	ステンレス、（○黄銅）	
○ピボットヒンジ	カバー部：ステンレス、（○亜鉛合金）	亜鉛合金は木製建具用のみ
点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○自閉装置付き
○フロアヒンジ	カバー部：ステンレス、（本体は鋼）	ドアクローザー
○ヒンジクローザー（丁番型）	鋼（焼付け塗装）	○遅延閉り機能付き
○ヒンジクローザー（ピボット型）	カバー部：ステンレス、（本体は鋼）	
●ドアクローザー	本体：7%ニッケル合金 7mm部：鋼（焼付け塗装）	
閉鎖順位調整器	ステンレス、（○鋼）	
○押棒・押板	（○ステンレス、○黄銅、○合成樹脂）	○取付位置（）
上げ落し（フランス落し）	亜鉛合金程度、（○ステンレス）	
○7mmスリッパ	鋼（7mmめっき）、（○ステンレス）	
●戸当り	亜鉛合金程度、（●ステンレス、○黄銅）	○あおり止め付き

引き戸（表16.8.1）

金物の種類	見え掛り部の材質	その他
引戸用錠		木製建具の場合：シリンダーキー等はステンレス
○クレセント	建具製作所の仕様による。	○取付位置（）
引手類		木製建具の場合：ステンレス（○黄銅）
戸車（上吊りの場合除く）		
レール（上吊りの場合を除く）	ステンレス、（○7%ニッケル合金○黄銅）	黄銅は木製建具用のみ

金属製建具用丁番	※表16.8.2による	○
樹脂製建具用丁番	※表16.8.3による	○
木製建具用丁番	※表16.8.4による	○
戸車及びレール	※表16.8.5による	○

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

13 自動ドア開閉装置（16.9.2）～（16.9.3）

駆動装置及び検出装置の性能
○引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.1による（○SSLD-1○SSLD-2○DSL0-1○DSL0-2）
○種類・開閉方式耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.2による
○耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○引き戸用検出装置性能値
※標仕 表16.9.3による
○放射無線周波数電磁界耐性耐電圧防錆防滴電源

戸の開閉方式※建具表による○
引き戸検出装置の種類○表16.9.4（）による※建具表による
タッチスイッチの種類○無線式タッチスイッチ○光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便所スイッチの種類○大型押しボタンスイッチ○非接触スイッチ
凍結防止措置○行う

性能値等の区分（表16.10.1）

適用戸の総質量（kg）	○40以下	○40を越えるもの
手動開き力（N）	※15以下○	※20以下○
手動閉じ力（N）	※15以下○	※20以下○

性能等
品質・規格

種類○管理用シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○外壁用防火シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○屋内用防火シャッター（シャッターケース○設ける）
○屋内用防煙シャッター（シャッターケース○設ける）
開閉方式※電動式（手動併用）○手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
管理用シャッターのシャッターケース○設ける○設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板

材質	めっきの付着量
○JIS G 3302	○Z12又はF12を満足するもの○
○JIS G 3312	○Z12又はF12を満足するもの○

開閉方式○電動式（手動併用）※手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
耐風圧強度

スラット

材質	めっきの付着量	形状
○JIS G 3312	○Z05又はF06を満足するもの○	○インターロッキング形
○JIS G 3322	○AZ90を満足するもの○	○オーバーラッピング形

セクション材※ステンレス○7%ニッケル合金○7mm部：鋼
耐風圧性能
開閉方式※バランス式○チェーン式○電動式
電動式には保護装置を設ける
設置箇所※図示による○
収納形式○スタンダー型○ローヘッド型
○ハイリフト型○パーチャル型
ガイドレール等※溶融亜鉛めっき鋼板○ステンレス鋼板

材料

種別	種類等	種別	種類等
○7mm部：鋼		○強化ガラス	
○型板ガラス		○熱線吸収板ガラス	
○網入板ガラス		○複層ガラス	
○線入板ガラス		○熱線反射ガラス	
○合わせガラス		○倍強度ガラス	
○		○	

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製建具	○シーリング材 ※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による
	○グレイジングチャンネル ○図示による	
銅製及び銅製軽量建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
ステンレス製建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
樹脂製建具	○グレイジングガスケット ○図示による	※建具製造所の仕様による

※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

19 ガラスブロック（16.14.5）

寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	パターン	防火認定
×	○ ○図示	○クリア ○乳白 ○熱線反射		※なし ○あり

※品質規格はJIS A 5212による
※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。

○壁用金属枠及び補強材
○骨格材質※SUS304
寸法・形状※径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋○

○化粧目地モルタルの色
○シーリング※表9.7.1による
○金属製化粧カバー材質○SUS304
寸法・形状※図示による○

○目地幅の寸法
○平積み※8mm以上、15mm以下
○曲面積※外側15mm以下、内側6mm以上（曲率半径はガラスブロック寸法の10倍以上とする）

○伸縮調整目地の位置※6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮目地を設ける。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

1 性能（17.1.3）

※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

耐風圧性	○S4○S5○S6○
耐震性	水平方向（KH）※1.0鉛直方向（KV）※0.5○
水密性	○W1○W2○W3○W4○W5
気密性	○A1○A2○A3○A4○
耐火性	※図示○30分○1時間○
耐温度差性（℃）	○80○70○60○
遮音性	○T1○T2○T3○T4○
断熱性	○H1○H2○H3○H4○H5

材料○7%ニッケル材○鋼材○ステンレス鋼材
形状・寸法※図示による
断熱材※図示による
見え掛り仕上げ7%ニッケル材の場合○（標仕16.2.3）
鋼材及びステンレス鋼材の場合○
製品の寸法許公差○表17.2.1による○

コンクリート○種類○品質
鉄筋※SD295○
補強鉄線径網目寸法
耐火目地材断熱材
仕上げ
仕上げ材、建具枠、ゴンドラ用ガイドレール等※図示による

4 シーリング材及びガラス取付材料（17.2.2）（17.3.2）
※表9.7.1による○
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法※4辺支持

5 構造用ガスケット（17.2.2）（17.3.2）
材質※図示による○
形状※図示による○
寸法※図示による○

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

13 自動ドア開閉装置（16.9.2）～（16.9.3）

駆動装置及び検出装置の性能
○引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.1による（○SSLD-1○SSLD-2○DSL0-1○DSL0-2）
○種類・開閉方式耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.2による
○耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○引き戸用検出装置性能値
※標仕 表16.9.3による
○放射無線周波数電磁界耐性耐電圧防錆防滴電源

戸の開閉方式※建具表による○
引き戸検出装置の種類○表16.9.4（）による※建具表による
タッチスイッチの種類○無線式タッチスイッチ○光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便所スイッチの種類○大型押しボタンスイッチ○非接触スイッチ
凍結防止措置○行う

性能値等の区分（表16.10.1）

適用戸の総質量（kg）	○40以下	○40を越えるもの
手動開き力（N）	※15以下○	※20以下○
手動閉じ力（N）	※15以下○	※20以下○

性能等
品質・規格

種類○管理用シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○外壁用防火シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○屋内用防火シャッター（シャッターケース○設ける）
○屋内用防煙シャッター（シャッターケース○設ける）
開閉方式※電動式（手動併用）○手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
管理用シャッターのシャッターケース○設ける○設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板

材質	めっきの付着量
○JIS G 3302	○Z12又はF12を満足するもの○
○JIS G 3312	○Z12又はF12を満足するもの○

開閉方式○電動式（手動併用）※手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
耐風圧強度

スラット

材質	めっきの付着量	形状
○JIS G 3312	○Z05又はF06を満足するもの○	○インターロッキング形
○JIS G 3322	○AZ90を満足するもの○	○オーバーラッピング形

セクション材※ステンレス○7%ニッケル合金○7mm部：鋼
耐風圧性能
開閉方式※バランス式○チェーン式○電動式
電動式には保護装置を設ける
設置箇所※図示による○
収納形式○スタンダー型○ローヘッド型
○ハイリフト型○パーチャル型
ガイドレール等※溶融亜鉛めっき鋼板○ステンレス鋼板

材料

種別	種類等	種別	種類等
○7mm部：鋼		○強化ガラス	
○型板ガラス		○熱線吸収板ガラス	
○網入板ガラス		○複層ガラス	
○線入板ガラス		○熱線反射ガラス	
○合わせガラス		○倍強度ガラス	
○		○	

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製建具	○シーリング材 ※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による
	○グレイジングチャンネル ○図示による	
銅製及び銅製軽量建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
ステンレス製建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
樹脂製建具	○グレイジングガスケット ○図示による	※建具製造所の仕様による

※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

13 自動ドア開閉装置（16.9.2）～（16.9.3）

駆動装置及び検出装置の性能
○引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.1による（○SSLD-1○SSLD-2○DSL0-1○DSL0-2）
○種類・開閉方式耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.2による
○耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○引き戸用検出装置性能値
※標仕 表16.9.3による
○放射無線周波数電磁界耐性耐電圧防錆防滴電源

戸の開閉方式※建具表による○
引き戸検出装置の種類○表16.9.4（）による※建具表による
タッチスイッチの種類○無線式タッチスイッチ○光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便所スイッチの種類○大型押しボタンスイッチ○非接触スイッチ
凍結防止措置○行う

性能値等の区分（表16.10.1）

適用戸の総質量（kg）	○40以下	○40を越えるもの
手動開き力（N）	※15以下○	※20以下○
手動閉じ力（N）	※15以下○	※20以下○

性能等
品質・規格

種類○管理用シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○外壁用防火シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○屋内用防火シャッター（シャッターケース○設ける）
○屋内用防煙シャッター（シャッターケース○設ける）
開閉方式※電動式（手動併用）○手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
管理用シャッターのシャッターケース○設ける○設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板

材質	めっきの付着量
○JIS G 3302	○Z12又はF12を満足するもの○
○JIS G 3312	○Z12又はF12を満足するもの○

開閉方式○電動式（手動併用）※手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
耐風圧強度

スラット

材質	めっきの付着量	形状
○JIS G 3312	○Z05又はF06を満足するもの○	○インターロッキング形
○JIS G 3322	○AZ90を満足するもの○	○オーバーラッピング形

セクション材※ステンレス○7%ニッケル合金○7mm部：鋼
耐風圧性能
開閉方式※バランス式○チェーン式○電動式
電動式には保護装置を設ける
設置箇所※図示による○
収納形式○スタンダー型○ローヘッド型
○ハイリフト型○パーチャル型
ガイドレール等※溶融亜鉛めっき鋼板○ステンレス鋼板

材料

種別	種類等	種別	種類等
○7mm部：鋼		○強化ガラス	
○型板ガラス		○熱線吸収板ガラス	
○網入板ガラス		○複層ガラス	
○線入板ガラス		○熱線反射ガラス	
○合わせガラス		○倍強度ガラス	
○		○	

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製建具	○シーリング材 ※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による
	○グレイジングチャンネル ○図示による	
銅製及び銅製軽量建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
ステンレス製建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
樹脂製建具	○グレイジングガスケット ○図示による	※建具製造所の仕様による

※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

19 ガラスブロック（16.14.5）

寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	パターン	防火認定
×	○ ○図示	○クリア ○乳白 ○熱線反射		※なし ○あり

※品質規格はJIS A 5212による
※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。

○壁用金属枠及び補強材
○骨格材質※SUS304
寸法・形状※径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋○

○化粧目地モルタルの色
○シーリング※表9.7.1による
○金属製化粧カバー材質○SUS304
寸法・形状※図示による○

○目地幅の寸法
○平積み※8mm以上、15mm以下
○曲面積※外側15mm以下、内側6mm以上（曲率半径はガラスブロック寸法の10倍以上とする）

○伸縮調整目地の位置※6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮目地を設ける。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

1 性能（17.1.3）

※本特記仕様書「1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。

耐風圧性	○S4○S5○S6○
耐震性	水平方向（KH）※1.0鉛直方向（KV）※0.5○
水密性	○W1○W2○W3○W4○W5
気密性	○A1○A2○A3○A4○
耐火性	※図示○30分○1時間○
耐温度差性（℃）	○80○70○60○
遮音性	○T1○T2○T3○T4○
断熱性	○H1○H2○H3○H4○H5

材料○7%ニッケル材○鋼材○ステンレス鋼材
形状・寸法※図示による
断熱材※図示による
見え掛り仕上げ7%ニッケル材の場合○（標仕16.2.3）
鋼材及びステンレス鋼材の場合○
製品の寸法許公差○表17.2.1による○

コンクリート○種類○品質
鉄筋※SD295○
補強鉄線径網目寸法
耐火目地材断熱材
仕上げ
仕上げ材、建具枠、ゴンドラ用ガイドレール等※図示による

4 シーリング材及びガラス取付材料（17.2.2）（17.3.2）
※表9.7.1による○
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法※4辺支持

5 構造用ガスケット（17.2.2）（17.3.2）
材質※図示による○
形状※図示による○
寸法※図示による○

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

13 自動ドア開閉装置（16.9.2）～（16.9.3）

駆動装置及び検出装置の性能
○引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.1による（○SSLD-1○SSLD-2○DSL0-1○DSL0-2）
○種類・開閉方式耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.2による
○耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○引き戸用検出装置性能値
※標仕 表16.9.3による
○放射無線周波数電磁界耐性耐電圧防錆防滴電源

戸の開閉方式※建具表による○
引き戸検出装置の種類○表16.9.4（）による※建具表による
タッチスイッチの種類○無線式タッチスイッチ○光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便所スイッチの種類○大型押しボタンスイッチ○非接触スイッチ
凍結防止措置○行う

性能値等の区分（表16.10.1）

適用戸の総質量（kg）	○40以下	○40を越えるもの
手動開き力（N）	※15以下○	※20以下○
手動閉じ力（N）	※15以下○	※20以下○

性能等
品質・規格

種類○管理用シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○外壁用防火シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○屋内用防火シャッター（シャッターケース○設ける）
○屋内用防煙シャッター（シャッターケース○設ける）
開閉方式※電動式（手動併用）○手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
管理用シャッターのシャッターケース○設ける○設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板

材質	めっきの付着量
○JIS G 3302	○Z12又はF12を満足するもの○
○JIS G 3312	○Z12又はF12を満足するもの○

開閉方式○電動式（手動併用）※手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
耐風圧強度

スラット

材質	めっきの付着量	形状
○JIS G 3312	○Z05又はF06を満足するもの○	○インターロッキング形
○JIS G 3322	○AZ90を満足するもの○	○オーバーラッピング形

セクション材※ステンレス○7%ニッケル合金○7mm部：鋼
耐風圧性能
開閉方式※バランス式○チェーン式○電動式
電動式には保護装置を設ける
設置箇所※図示による○
収納形式○スタンダー型○ローヘッド型
○ハイリフト型○パーチャル型
ガイドレール等※溶融亜鉛めっき鋼板○ステンレス鋼板

材料

種別	種類等	種別	種類等
○7mm部：鋼		○強化ガラス	
○型板ガラス		○熱線吸収板ガラス	
○網入板ガラス		○複層ガラス	
○線入板ガラス		○熱線反射ガラス	
○合わせガラス		○倍強度ガラス	
○		○	

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製建具	○シーリング材 ※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による
	○グレイジングチャンネル ○図示による	
銅製及び銅製軽量建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
ステンレス製建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
樹脂製建具	○グレイジングガスケット ○図示による	※建具製造所の仕様による

※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

19 ガラスブロック（16.14.5）

寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	パターン	防火認定
×	○ ○図示	○クリア ○乳白 ○熱線反射		※なし ○あり

※品質規格はJIS A 5212による
※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。

○壁用金属枠及び補強材
○骨格材質※SUS304
寸法・形状※径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋○

○化粧目地モルタルの色
○シーリング※表9.7.1による
○金属製化粧カバー材質○SUS304
寸法・形状※図示による○

○目地幅の寸法
○平積み※8mm以上、15mm以下
○曲面積※外側15mm以下、内側6mm以上（曲率半径はガラスブロック寸法の10倍以上とする）

○伸縮調整目地の位置※6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮目地を設ける。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

13 自動ドア開閉装置（16.9.2）～（16.9.3）

駆動装置及び検出装置の性能
○引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.1による（○SSLD-1○SSLD-2○DSL0-1○DSL0-2）
○種類・開閉方式耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置性能値
※標仕 表16.9.2による
○耐電圧温度上昇耐久性（サイクル）防錆電源

○引き戸用検出装置性能値
※標仕 表16.9.3による
○放射無線周波数電磁界耐性耐電圧防錆防滴電源

戸の開閉方式※建具表による○
引き戸検出装置の種類○表16.9.4（）による※建具表による
タッチスイッチの種類○無線式タッチスイッチ○光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便所スイッチの種類○大型押しボタンスイッチ○非接触スイッチ
凍結防止措置○行う

性能値等の区分（表16.10.1）

適用戸の総質量（kg）	○40以下	○40を越えるもの
手動開き力（N）	※15以下○	※20以下○
手動閉じ力（N）	※15以下○	※20以下○

性能等
品質・規格

種類○管理用シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○外壁用防火シャッター（シャッターケース○設ける）耐風圧強度
○屋内用防火シャッター（シャッターケース○設ける）
○屋内用防煙シャッター（シャッターケース○設ける）
開閉方式※電動式（手動併用）○手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
管理用シャッターのシャッターケース○設ける○設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板

材質	めっきの付着量
○JIS G 3302	○Z12又はF12を満足するもの○
○JIS G 3312	○Z12又はF12を満足するもの○

開閉方式○電動式（手動併用）※手動式
電動式シャッターには安全装置を設ける
設置箇所※図示による○
耐風圧強度

スラット

材質	めっきの付着量	形状
○JIS G 3312	○Z05又はF06を満足するもの○	○インターロッキング形
○JIS G 3322	○AZ90を満足するもの○	○オーバーラッピング形

セクション材※ステンレス○7%ニッケル合金○7mm部：鋼
耐風圧性能
開閉方式※バランス式○チェーン式○電動式
電動式には保護装置を設ける
設置箇所※図示による○
収納形式○スタンダー型○ローヘッド型
○ハイリフト型○パーチャル型
ガイドレール等※溶融亜鉛めっき鋼板○ステンレス鋼板

材料

種別	種類等	種別	種類等
○7mm部：鋼		○強化ガラス	
○型板ガラス		○熱線吸収板ガラス	
○網入板ガラス		○複層ガラス	
○線入板ガラス		○熱線反射ガラス	
○合わせガラス		○倍強度ガラス	
○		○	

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製建具	○シーリング材 ※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による
	○グレイジングチャンネル ○図示による	
銅製及び銅製軽量建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
ステンレス製建具	○シーリング材 ○図示による	※建具製造所の仕様による
	○図示による	
樹脂製建具	○グレイジングガスケット ○図示による	※建具製造所の仕様による

※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。
※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。

章

項目

16

16

建具工事

特

記

事

項

19 ガラスブロック（16.14.5）

寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	パターン	防火認定
×	○ ○図示	○クリア ○乳白 ○熱線反射		※なし ○あり

※品質規格はJIS A 5212による
※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定める。

○壁用金属枠及び補強材
○骨格材質※SUS304
寸法・形状※径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋○

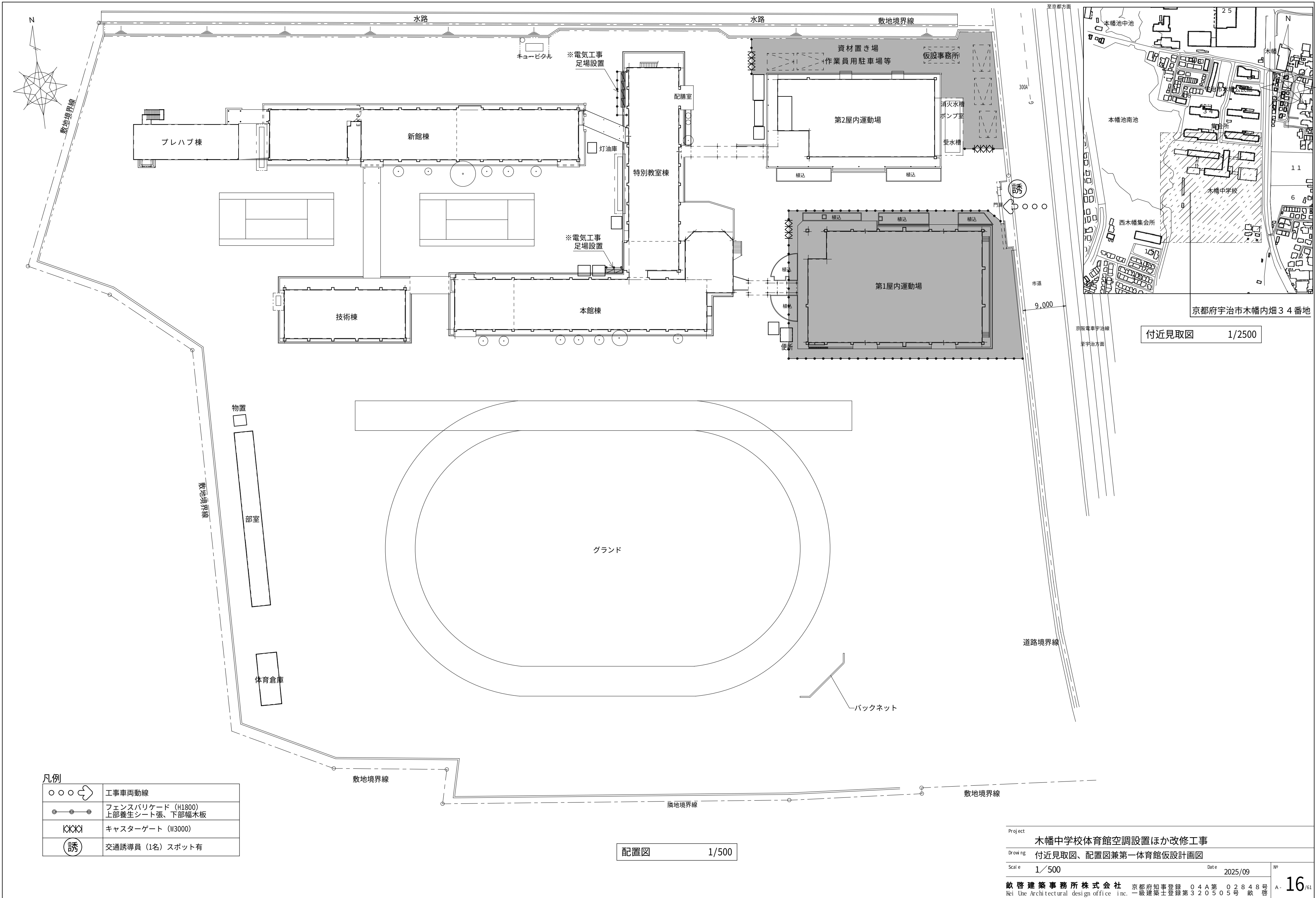
○化粧目地モルタルの色
○シーリング※表9.7.1による
○金属製化粧カバー材質○SUS304
寸法・形状※図示による○

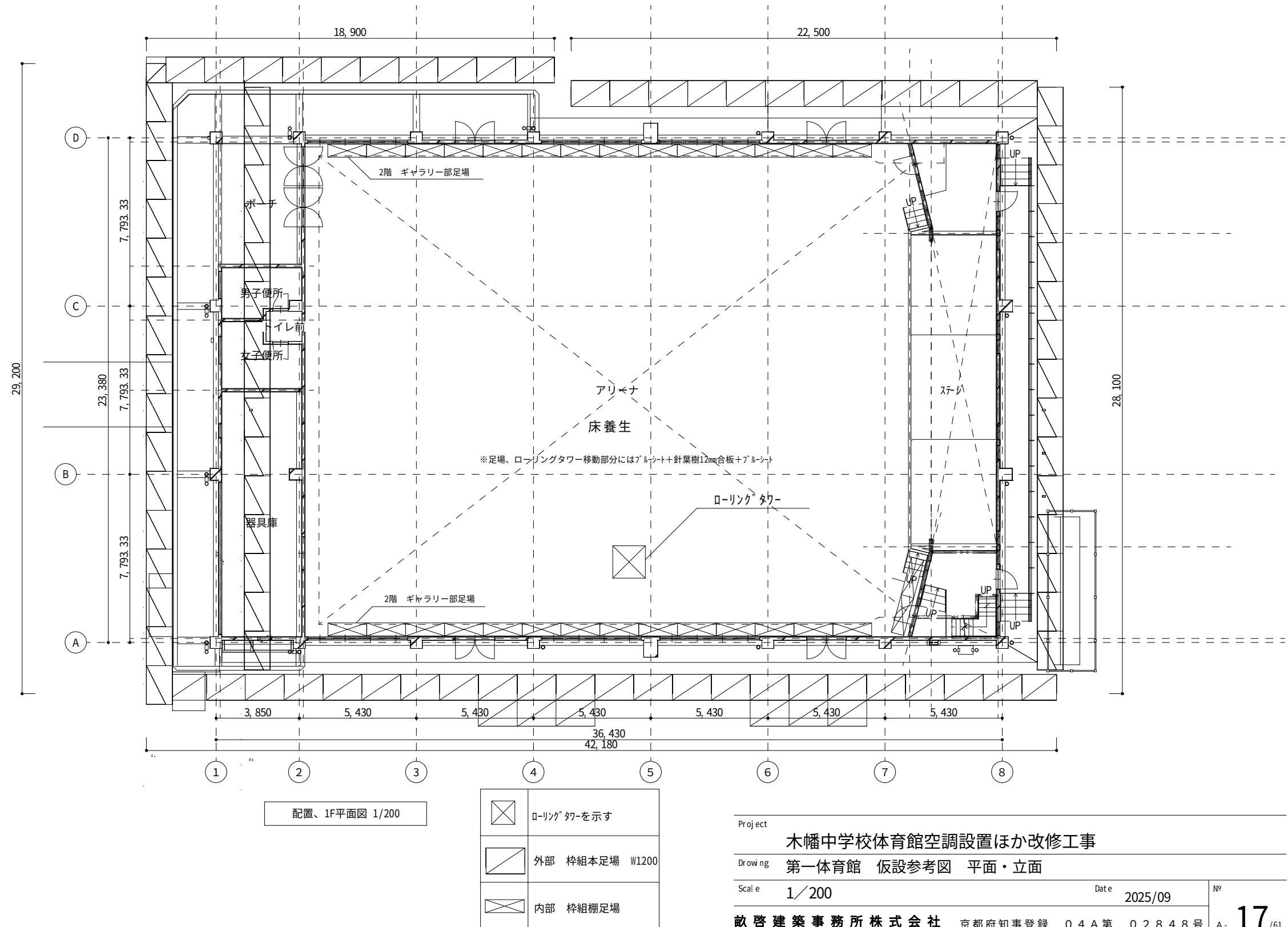
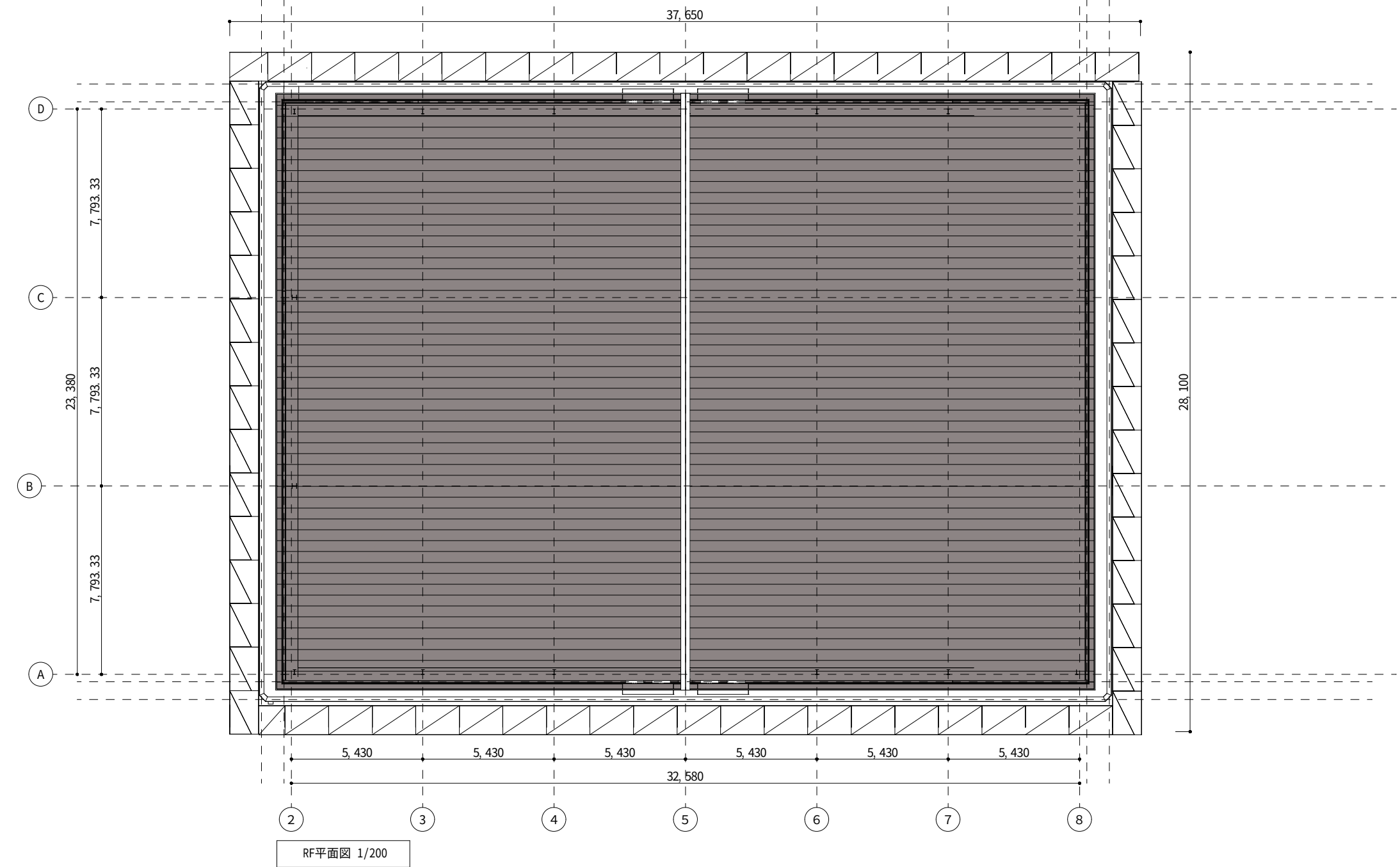
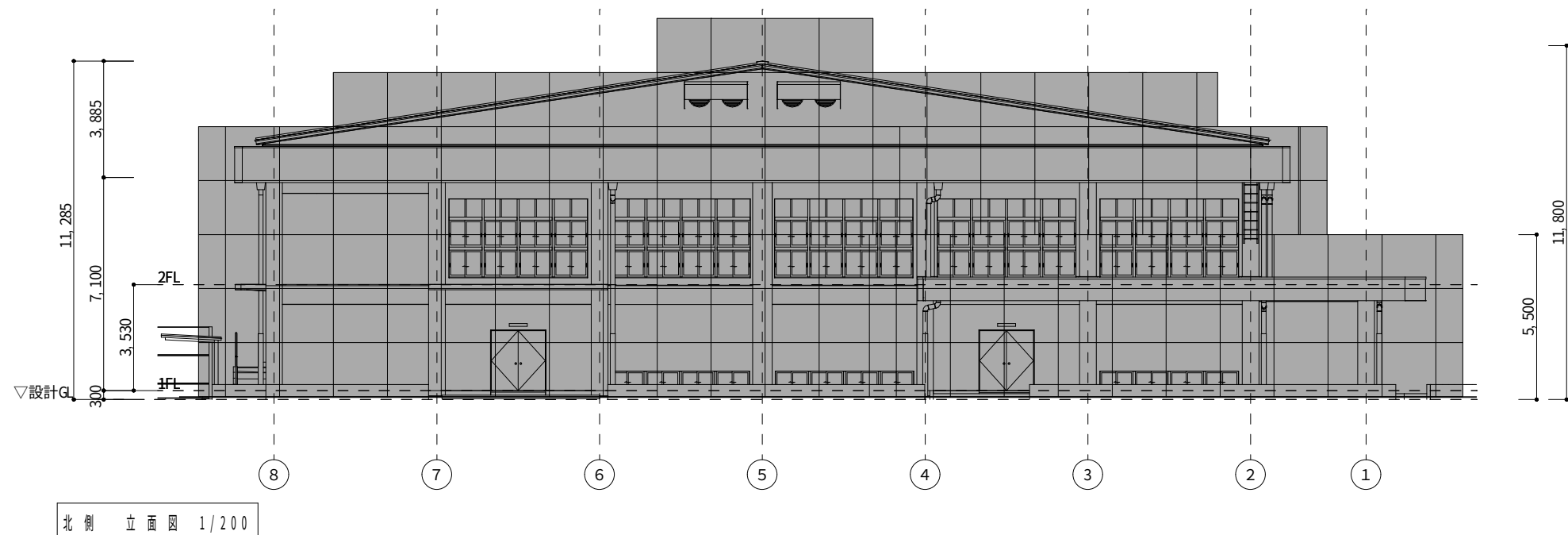
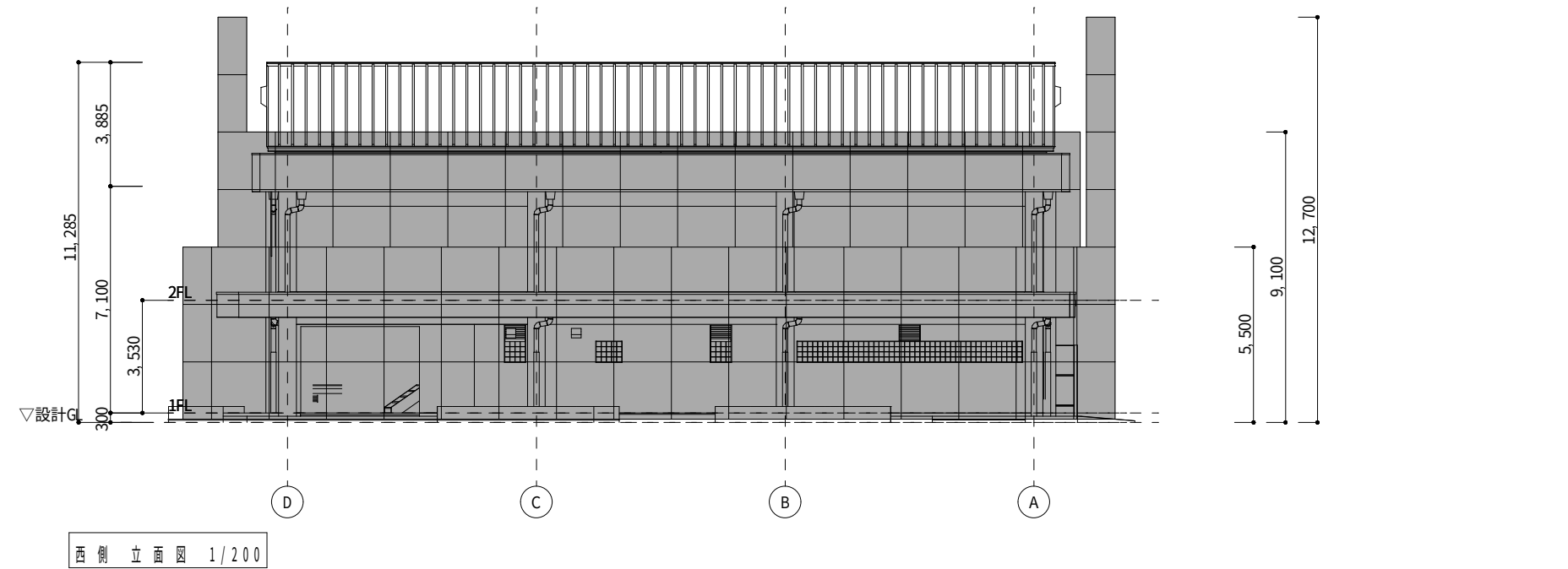
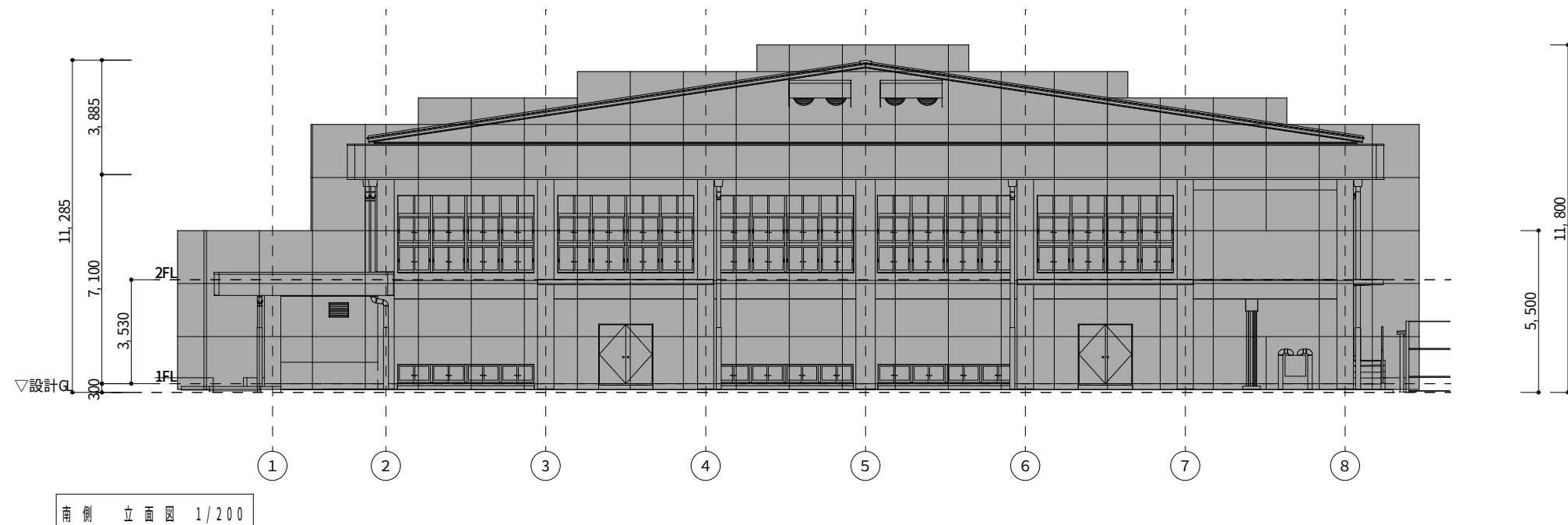
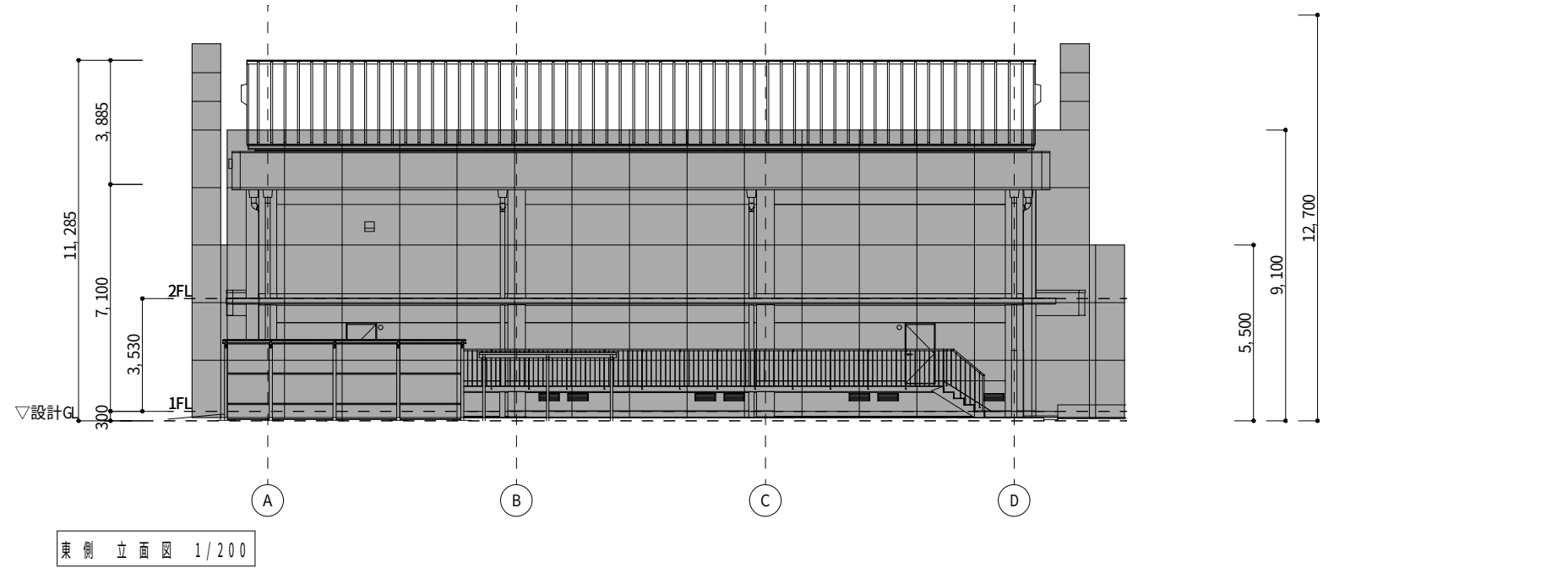
○目地幅の寸法
○平積み※8mm以上、15mm以下
○曲面積※外側15mm以下、内側6mm以上（曲率半径はガラスブロック寸法の10倍以上とする）

○伸縮調整目地の位置※6m以下ごとに幅10～25mmの伸縮目地を設ける。

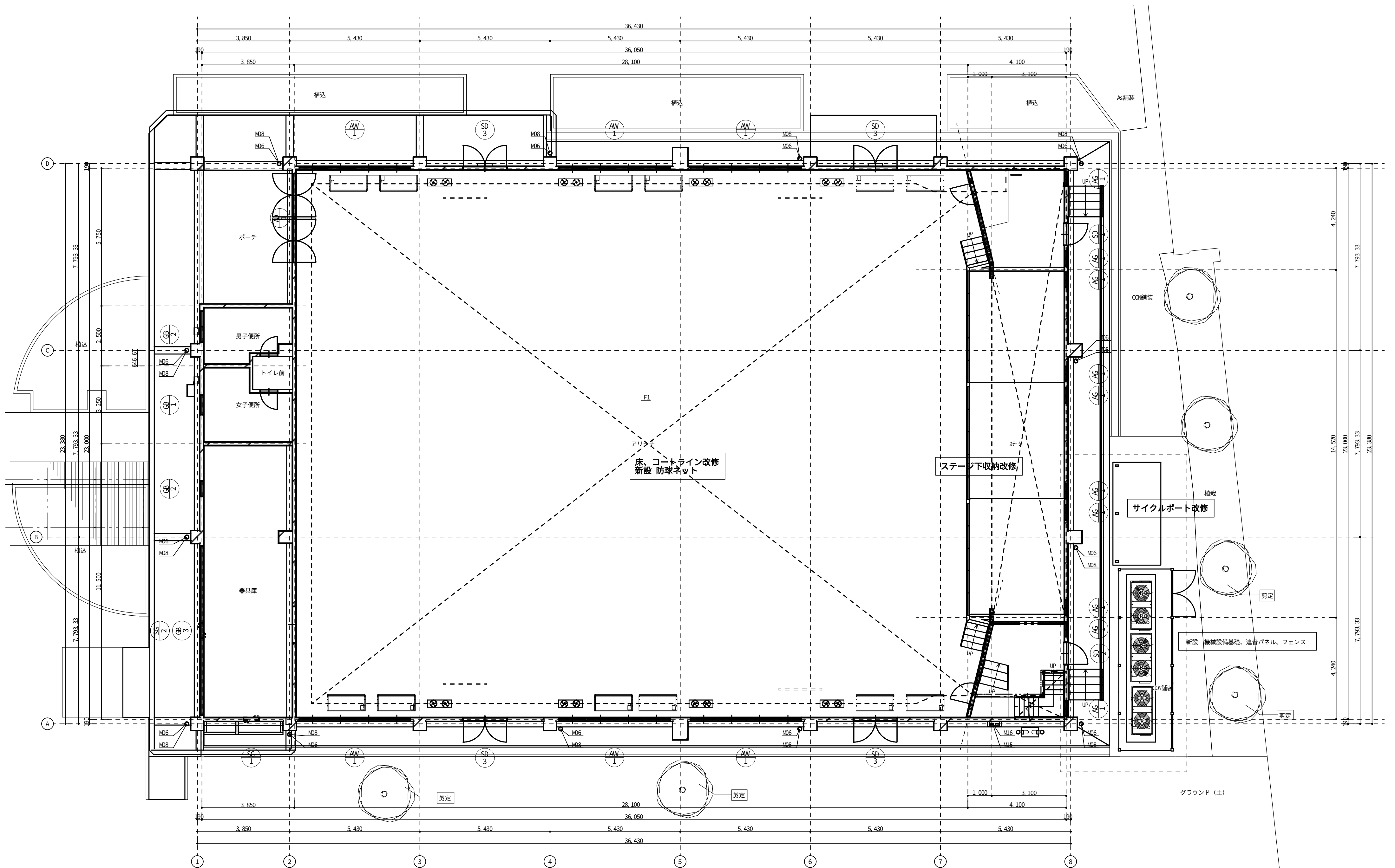
章

項目

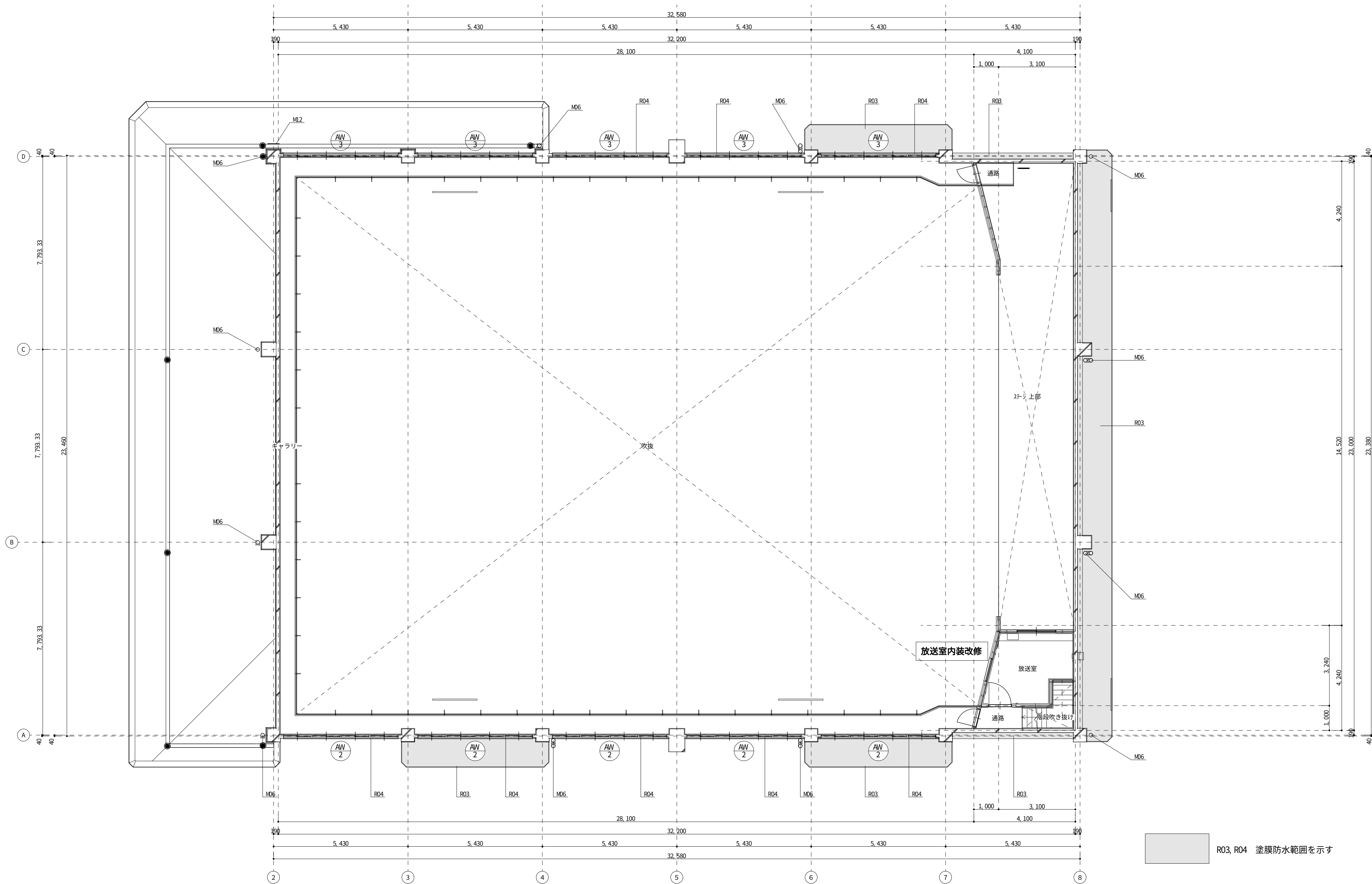




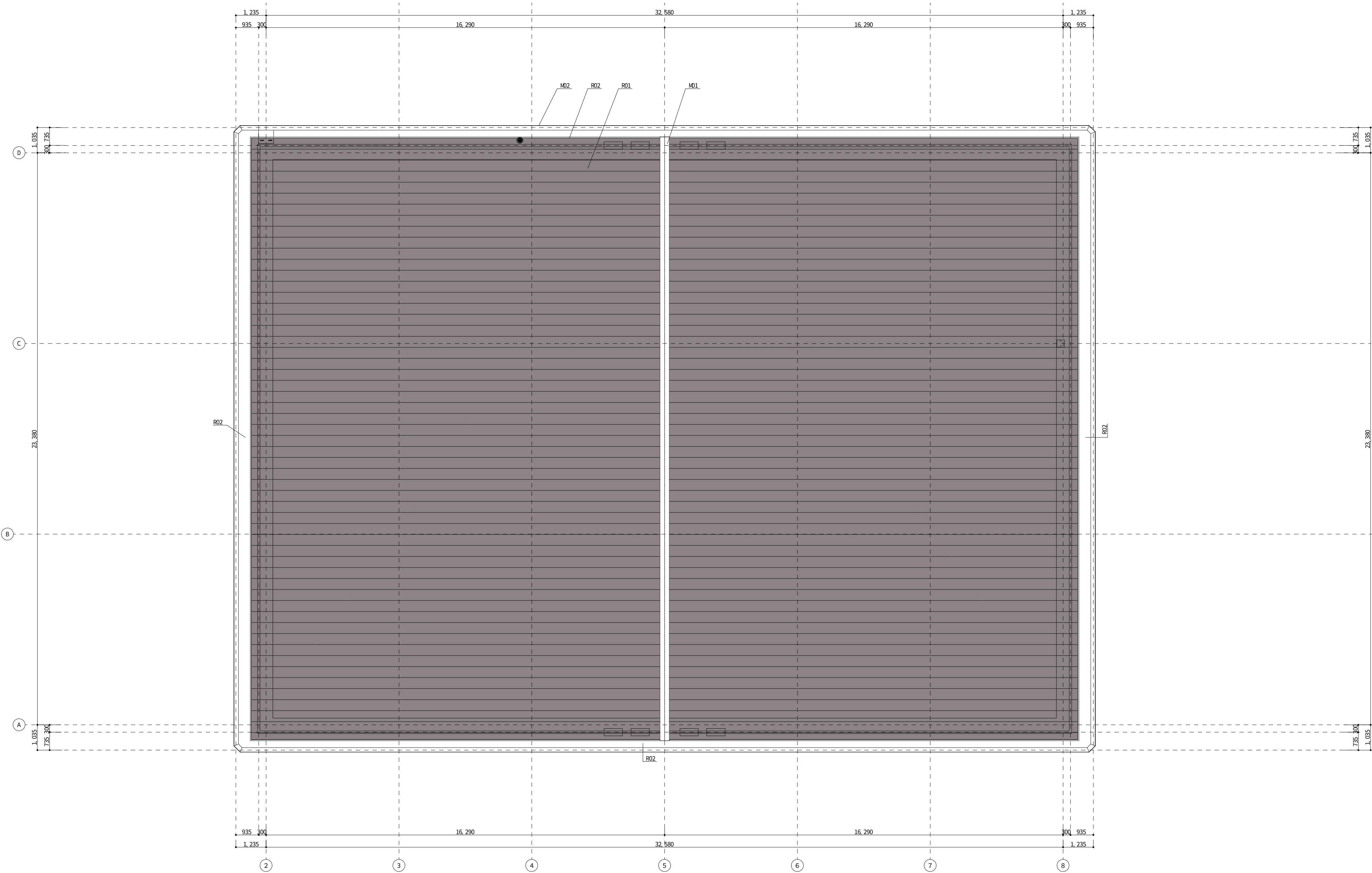
仕上げ表							
	部位	記号	現況 仕上げ	下地	改修 仕上げ	下地	備考
屋根	大屋根	R01	GL鋼板 t=0.5 瓦棒葺き カバー工法		金属屋根塗り替え用遮熱防食工法 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料	既存GL鋼板t=0.5 ケレン下地調整	
	// 谷樋	R02 R02*	塩ビ系シート防水（機械固定工法）		金属屋根塗り替え用遮熱防食工法 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料		*印は立上り部を示す
	陸屋根	R02 R02*	塩ビ系シート防水（機械固定工法）		金属屋根塗り替え用遮熱防食工法 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料		*印は立上り部を示す
	CON庇	R03	ウレタン塗膜防水（X-2）	防水モルタル	ウレタン塗膜防水（X-2）	既存塗膜除去 下地調整	
	AW-外部モルタル窓台	R04	金ゴテ直押え	防水モルタル	ウレタン塗膜防水（X-2）	防水モルタル	AW 3、 4
外壁		W01	可とう形外装薄塗材E吹付	CON打放	防水形複層塗材E	クラック、浮き補修 高圧洗浄 下地調整	
	妻壁部	W02	アロンウォールST工法	ラスモルタル	防水形複層塗材E	クラック、浮き補修 高圧洗浄 下地調整	
	外部巾木	W03	モルタル鋳押え	CON打放	樹脂モルタル補修	クラック、浮き補修 高圧洗浄 下地調整	
	階段、スラブ小口	W04			樹脂モルタル補修	クラック、浮き補修 高圧洗浄 下地調整	
外部天井	軒裏	C01	可とう形外装薄塗材E吹付	CON打放	防水形複層塗材E	クラック、浮き補修 高圧洗浄 下地調整	
	破風、鼻隠	C02	アロンウォールST工法	ラスモルタル	防水形複層塗材E	クラック、浮き補修 高圧洗浄 下地調整	
床	アリーナ	F1	フローリング		下塗りウレタנקリヤー3回塗及びポリッシャー掛け コートライン塗装後ウレタנקリヤー仕上げ（4回目）	全面フロアードラムサンンダー掛け 既存塗膜除去 不良箇所部分補修	
その他	大屋根棟包み	M01	GL鋼板 t=0.5 瓦棒葺き カバー工法		R01に準ずる		
	内樋パラペット笠木	M02	アルミ笠木				
	内樋壁見切り	M03	GL鋼板		R01に準ずる		
	陸屋根パラペット笠木	M04	アルミ笠木				
	陸屋根壁見切り	M05	GL鋼板		R01に準ずる		
	縦樋	M06	カラーVP管		撤去、新設		
	樋落口	M07	塩ビ大樋 既製品		DP塗	既存塗膜除去 下地調整	
	縦樋-保護管	M08	鋼管125A S O P 塗 L=1800		DP塗	既存塗膜除去 下地調整	
	妻壁ウェザーカバー	M09	SUS t=1.5 HL		コーキング打ち替え	既存コーキング撤去	
	換気ガラリ	M10	S0P塗		DP塗 コーキング打ち替え	既存コーキング撤去	
	ウェザーカバー	M11	S0P塗		DP塗 コーキング打ち替え	既存塗膜除去 下地調整 既存コーキング撤去	
	点検用タラップ	M12	S0P塗		DP塗	既存塗膜除去 下地調整	
	ブランクプレート	M13			コーキング打ち替え	既存コーキング撤去	
	E-B0X	M14			DP塗 コーキング打ち替え	既存塗膜除去 下地調整 既存コーキング撤去	
	E-B0X	M15			DP塗 コーキング打ち替え	既存塗膜除去 下地調整 既存コーキング撤去	
	E-配管	M16			DP塗	既存塗膜除去 下地調整	
	SUSプレート	M17			コーキング打ち替え	既存コーキング撤去	
	既設カメラ	M18					
	照明器具	M19			コーキング打ち替え	既存コーキング撤去	
	照明器具	M20			コーキング打ち替え	既存コーキング撤去	
	外部東側手摺	M21	S0P塗		DP塗	既存塗膜除去 下地調整	
鋼製建具	SD 1、 2、 3		S0P塗		金属屋根塗り替え用遮熱防食工法 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料	既存塗膜除去 下地調整	
//	共通				コーキング打ち替え	既存コーキング撤去	



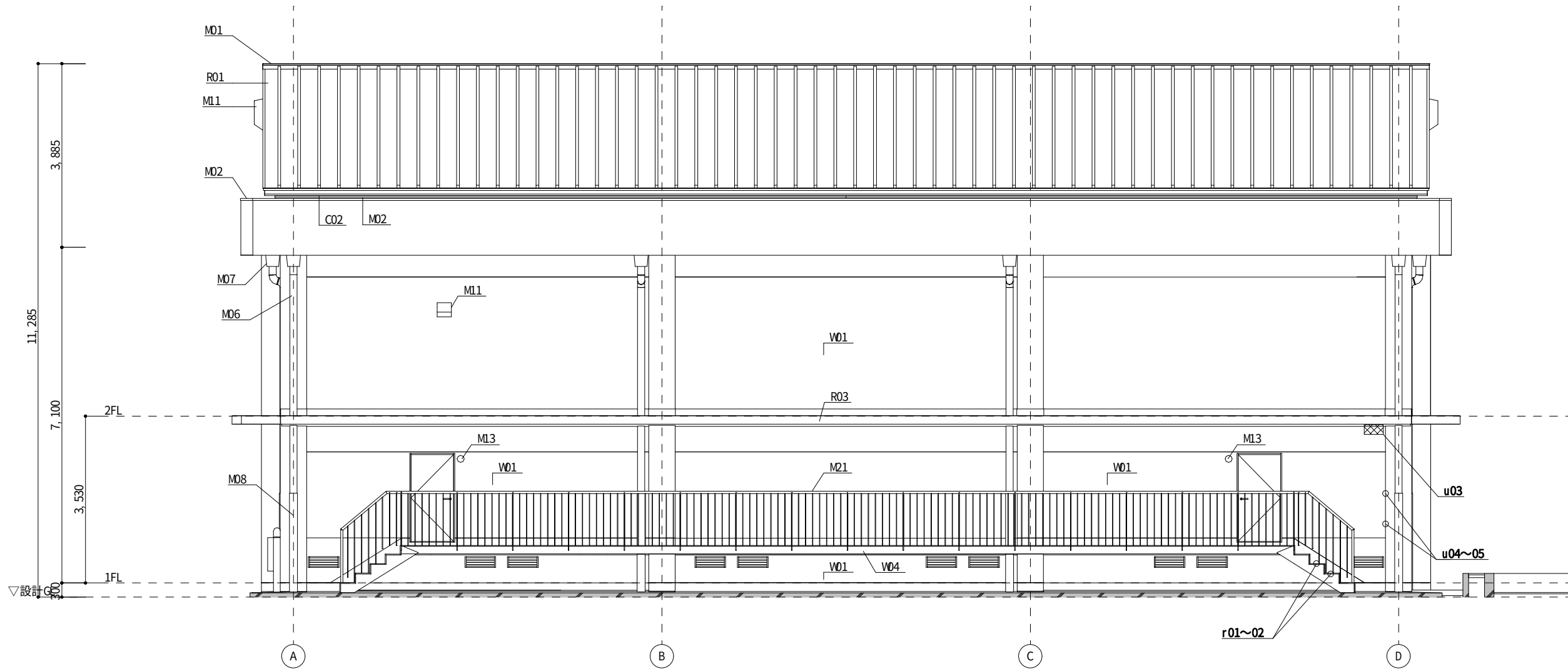
配置、1F平面図 1/100



2F平面図 1/100



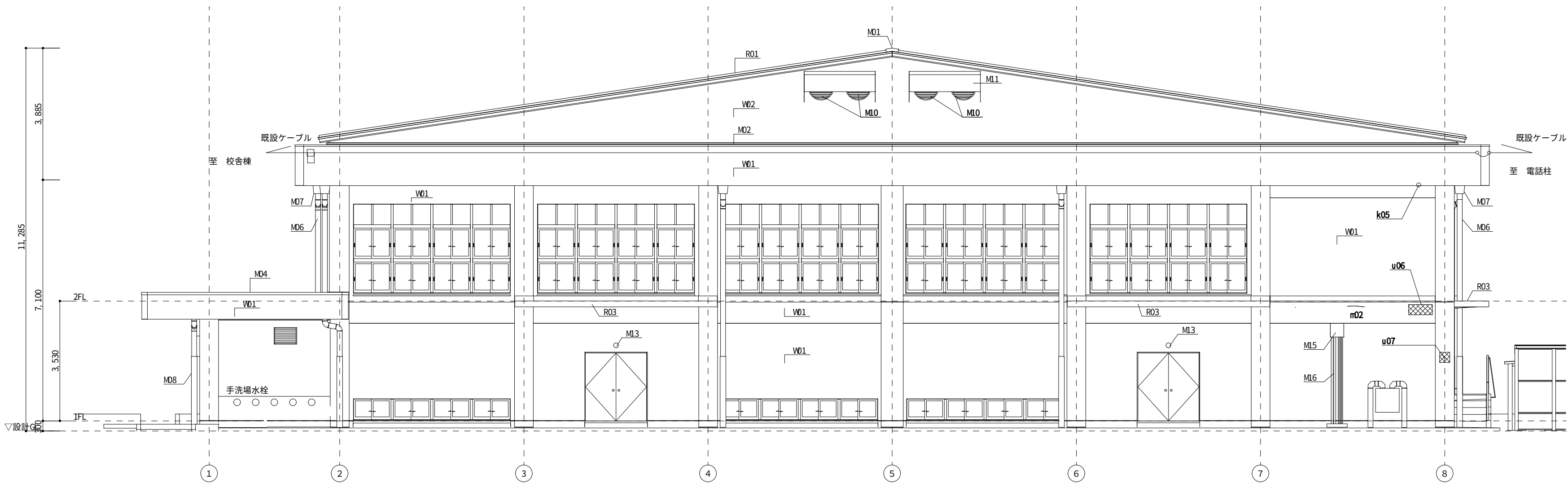
RF平面図 1/100



東側立面図

第一体育館

クラック (0.2以上～1.0mm以下)		欠損補修		浮き	
№	長さ (mm)	№	大きさ (mm)	№	大きさ (mm)
m01	200	k01	150×150	u01	10×10
m02	300	k02	150×150	u02	20×30
		k03	150×150	u03	20×40
		k04	150×150	u04	20×40
		k05	200×200	u05	20×40
		r01	150×150	u06	40×50
		r02	150×150	u07	30×30



南側立面図

Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

Drawing 第一体育館 立面図 2

Scale 1/100

Date 2025/09

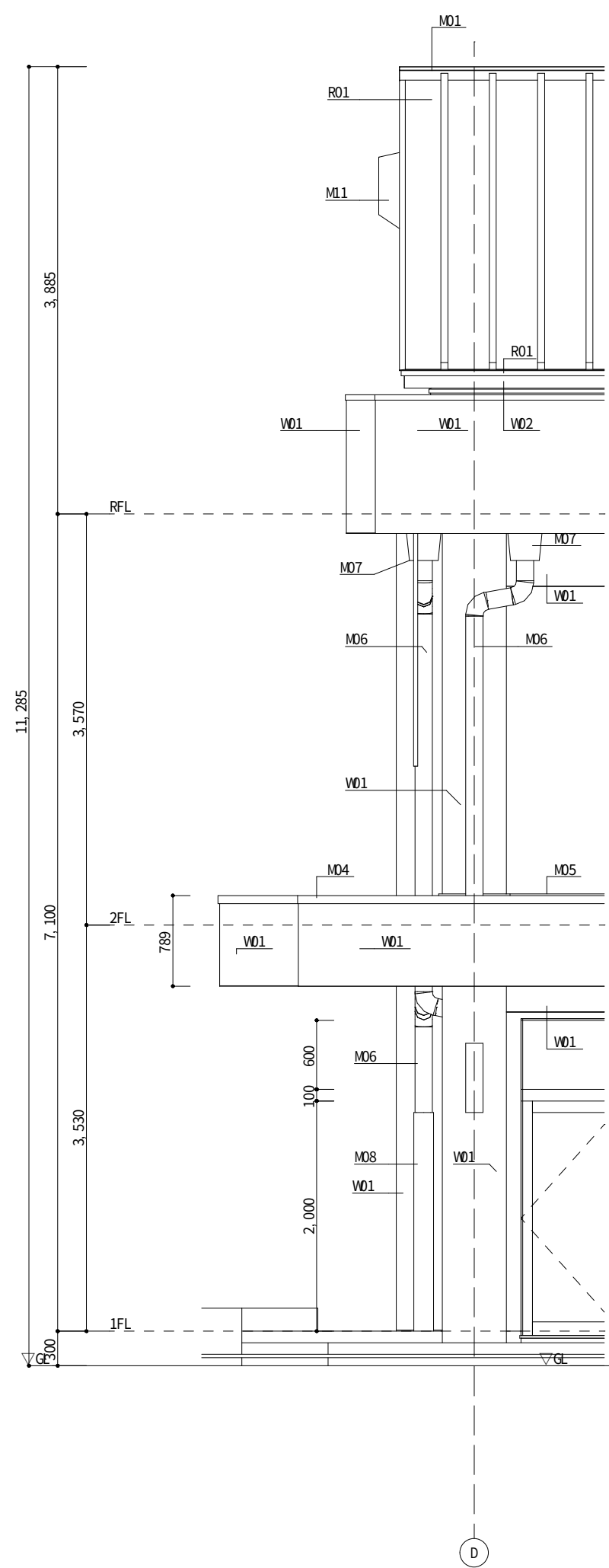
設計 株式会社 京都市知事登録 04A第 02848号 一級建築士登録第320505号 設計

第 1

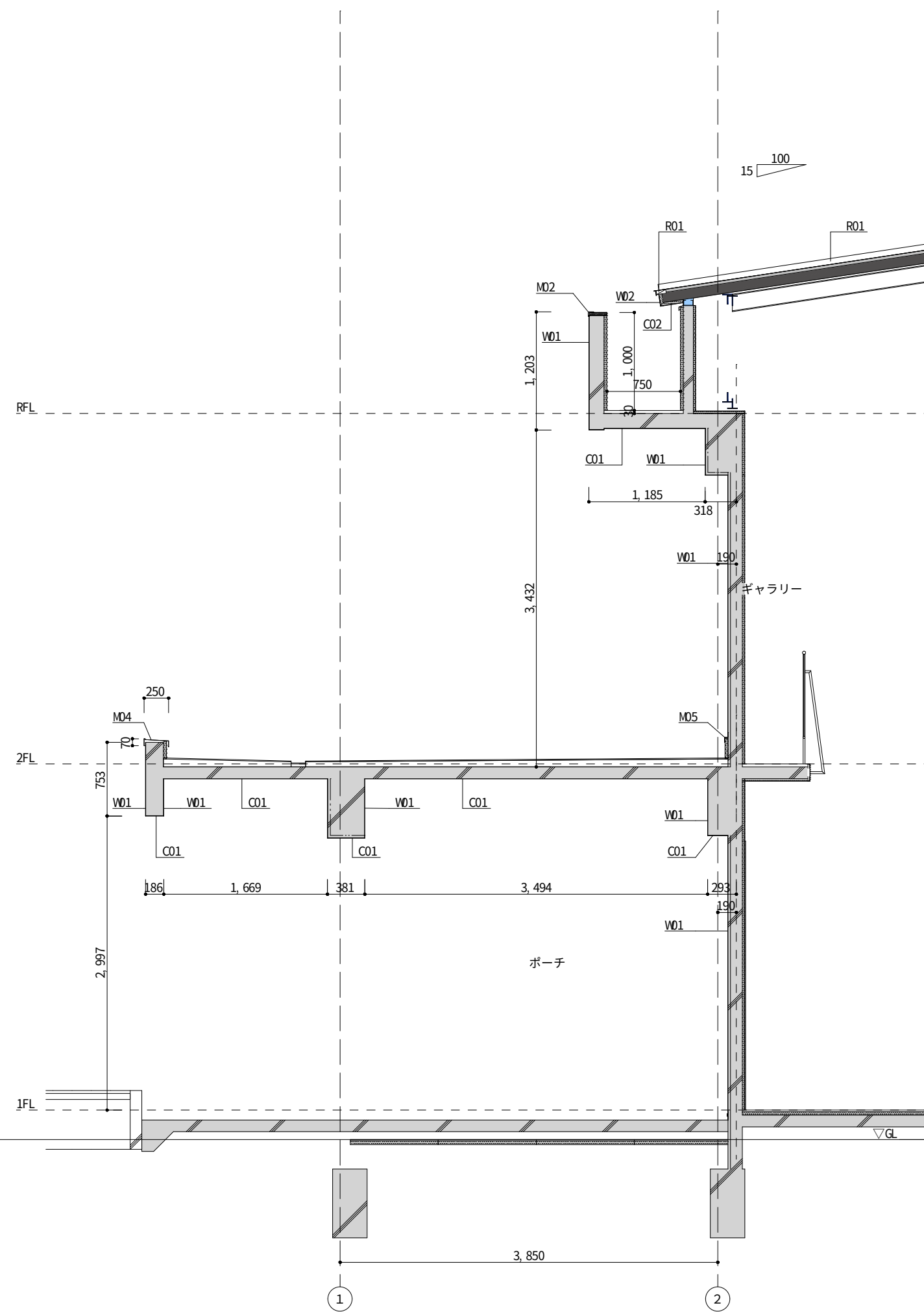
№

23

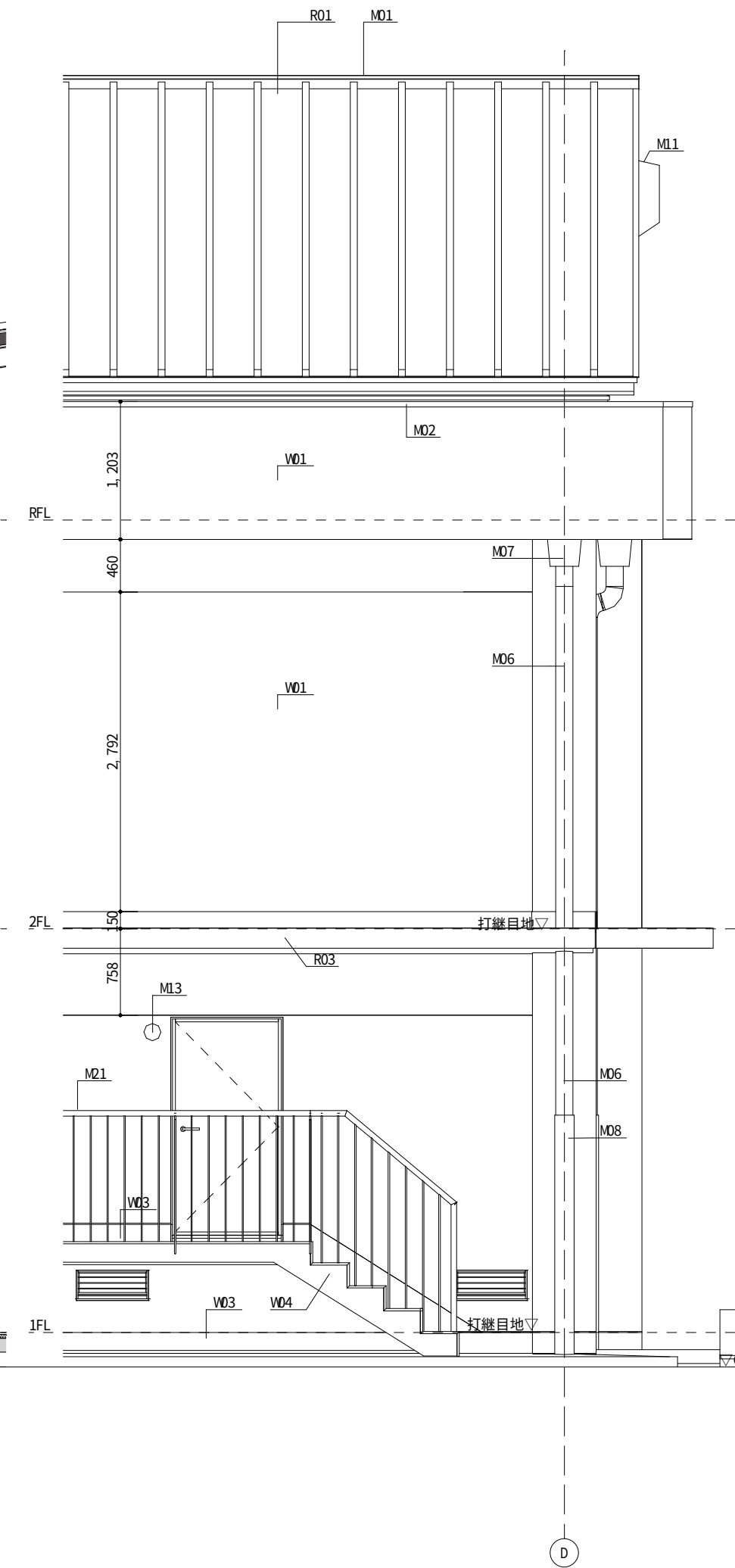
/61



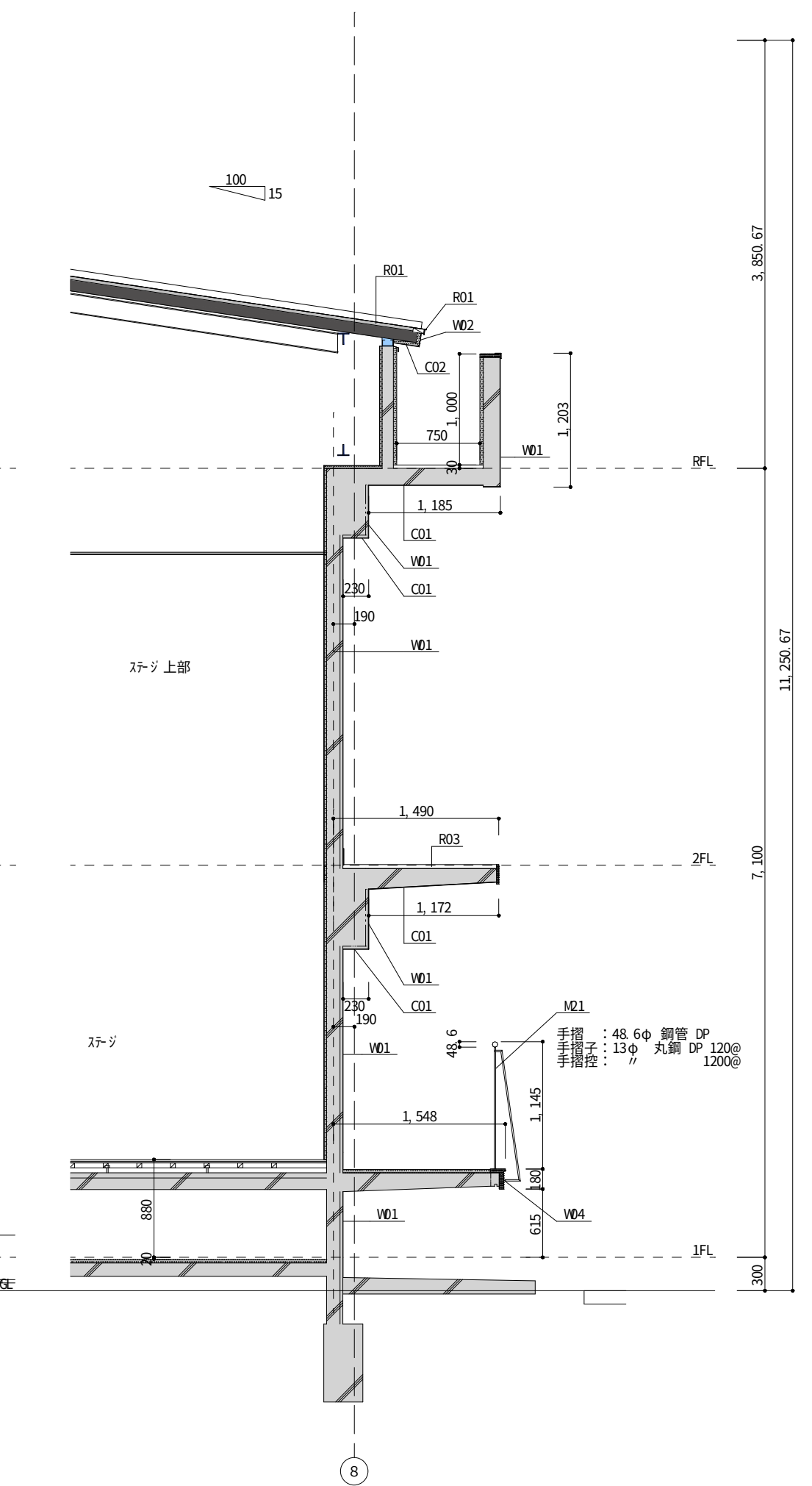
西側立面図 1/50



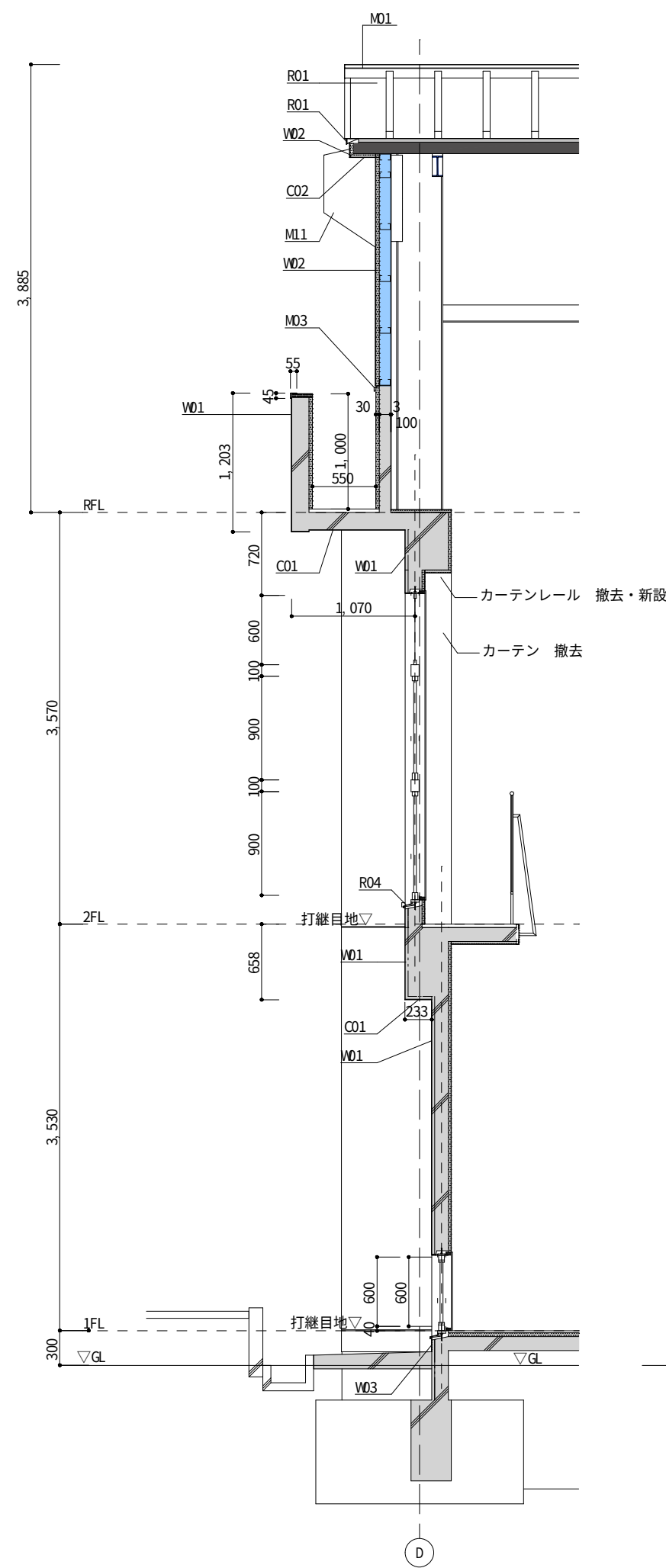
C・D間断面詳細図 1/50



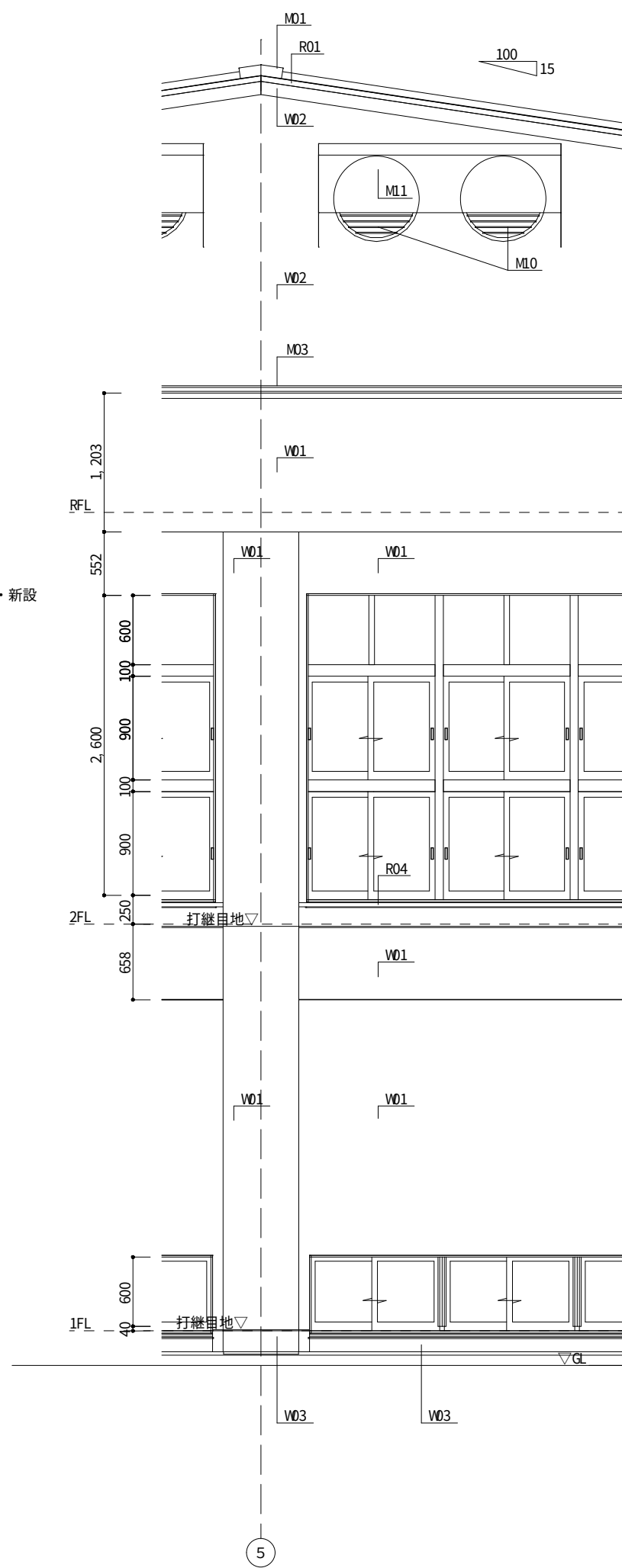
東側立面図 1/50



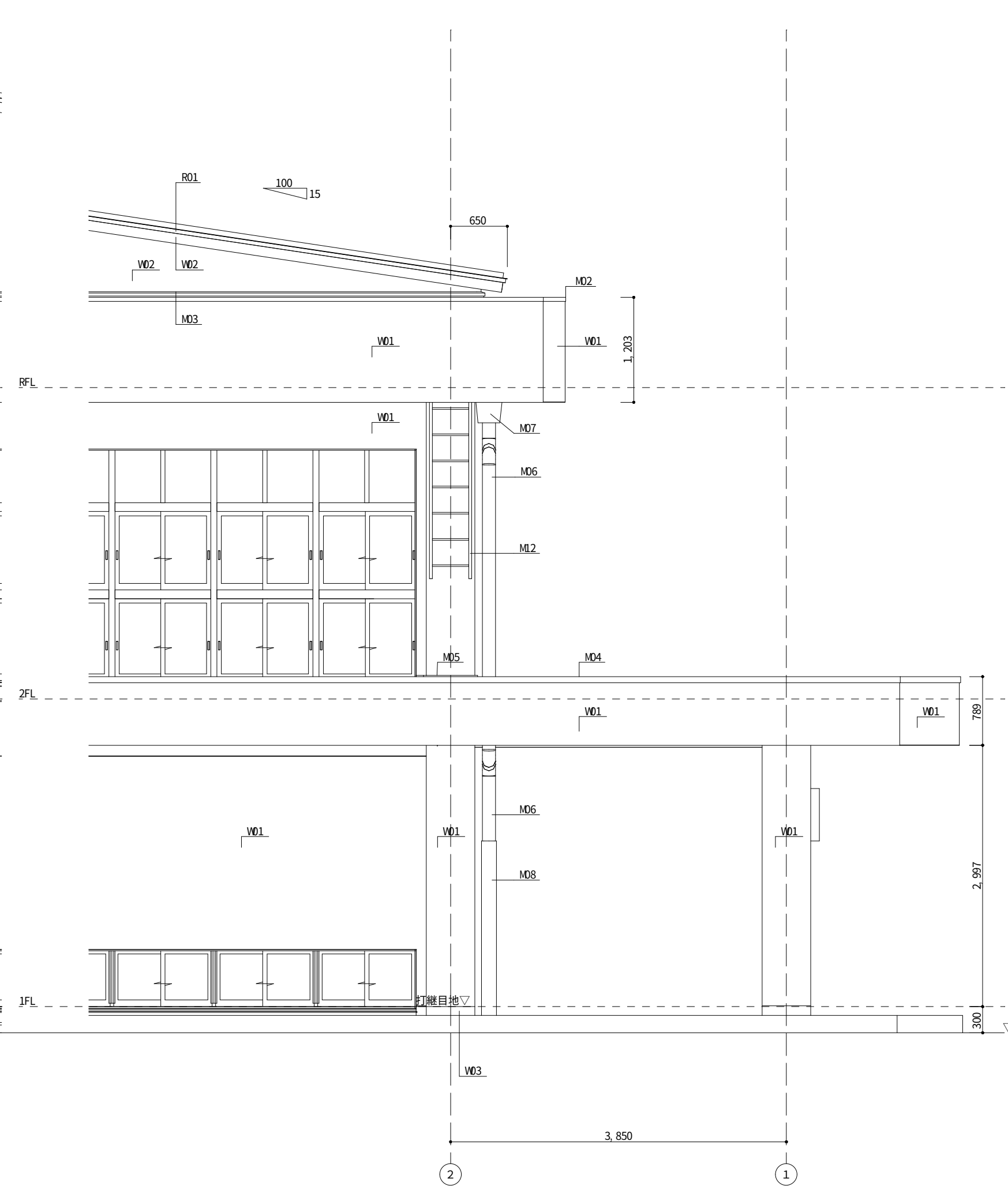
B・C間断面詳細図 1/50



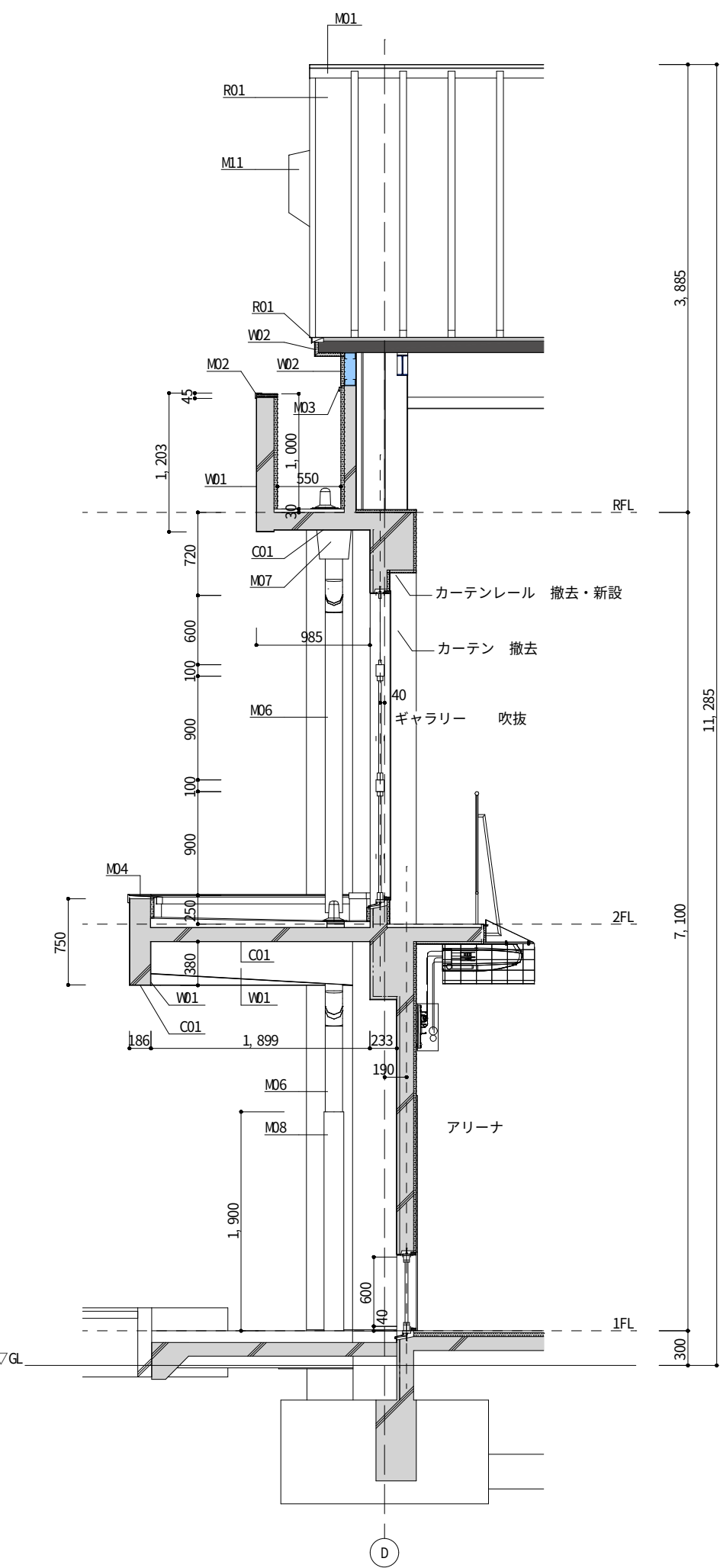
4・5間 断面詳細図 1/50



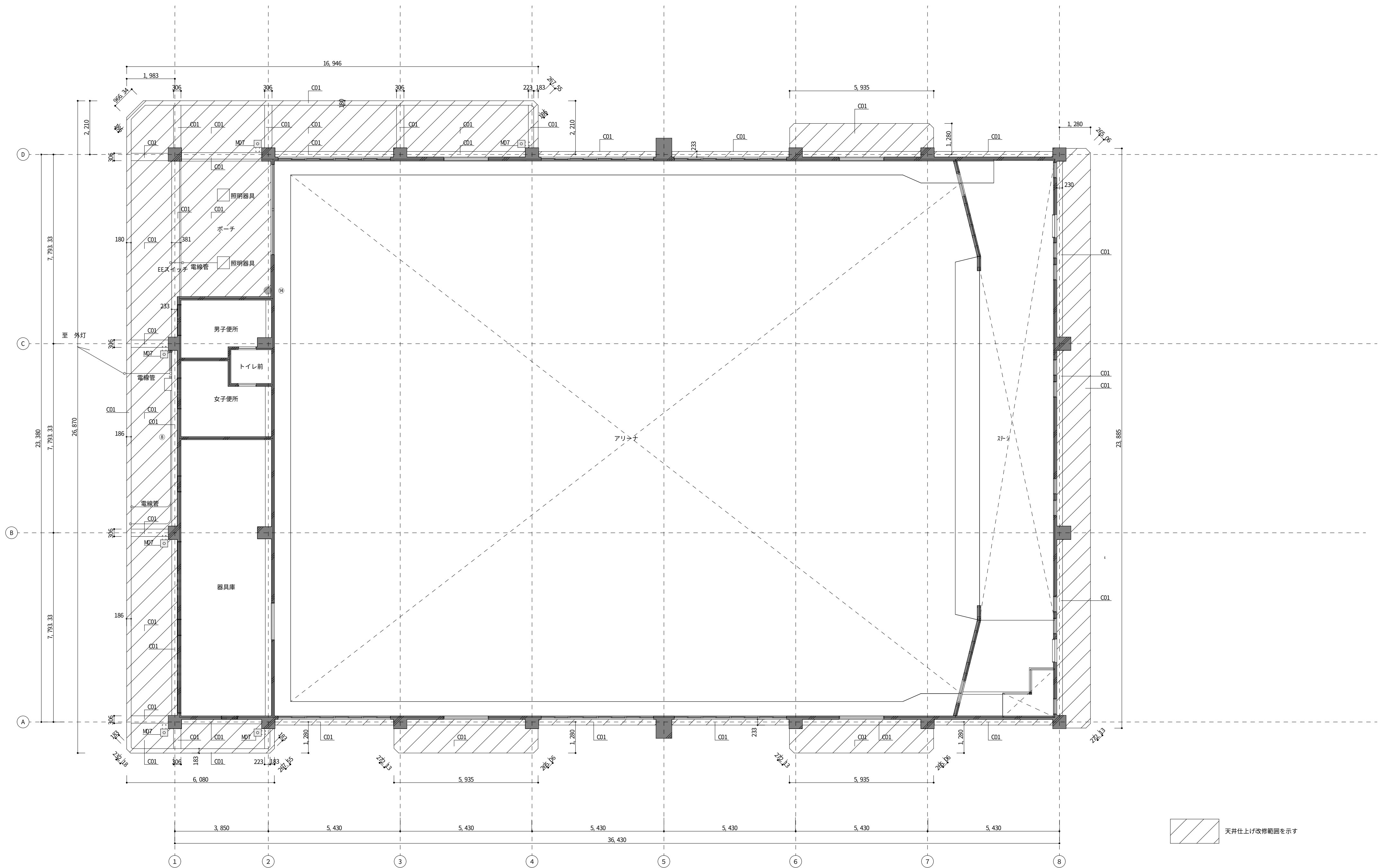
北側立面図 1/50



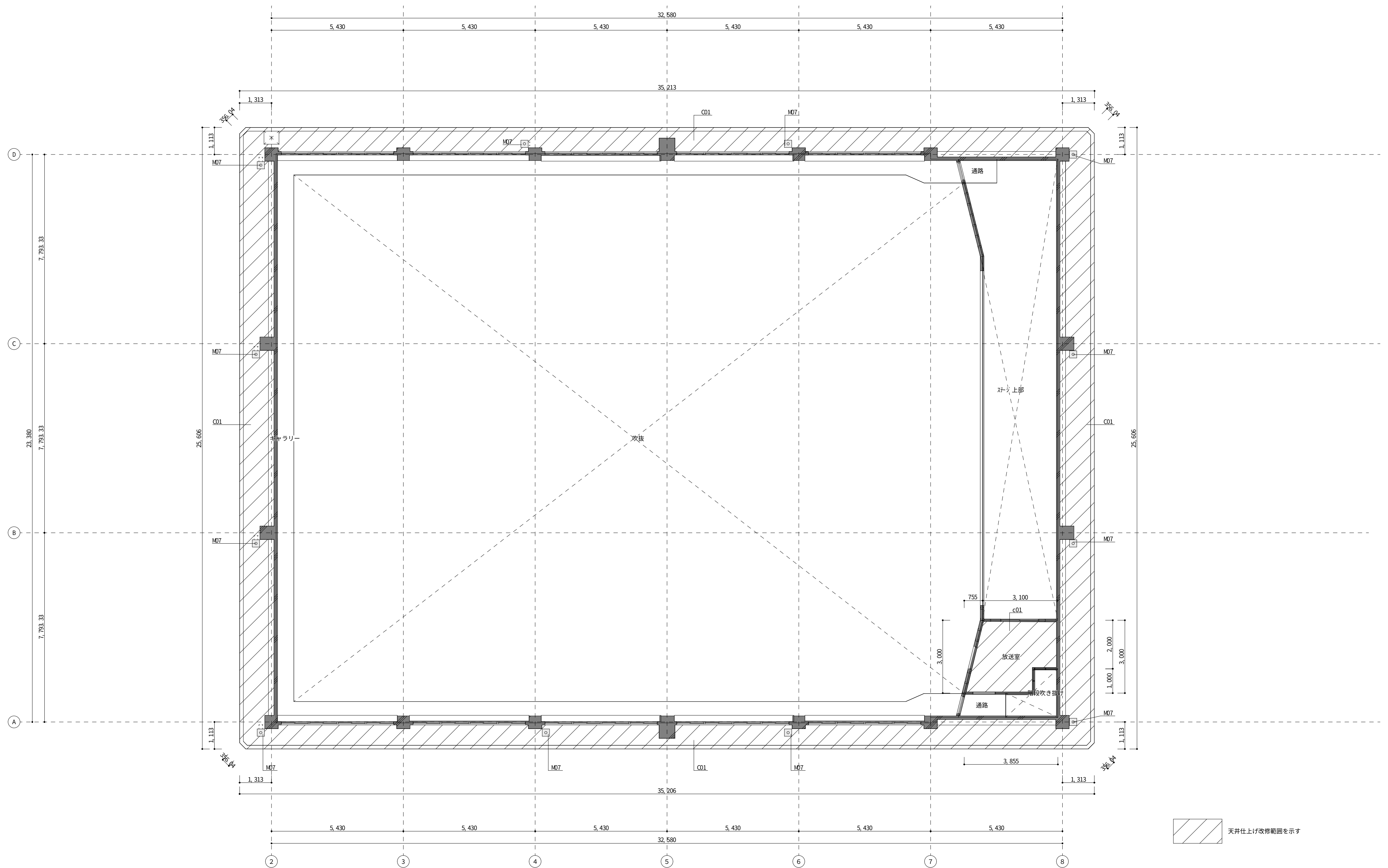
北側立面図 1/50



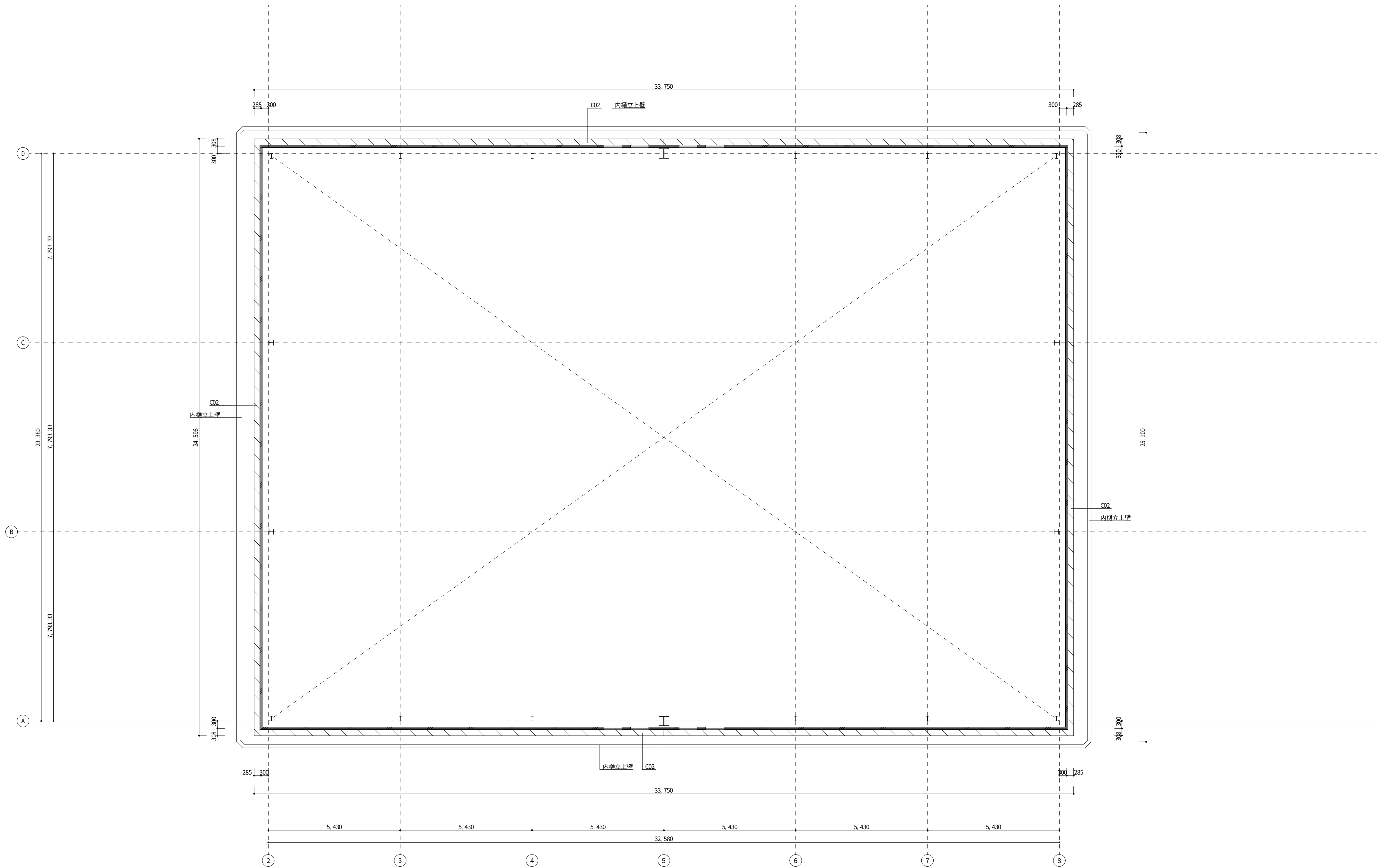
2・3間 断面詳細図 1/50



1F天井伏図 1/100



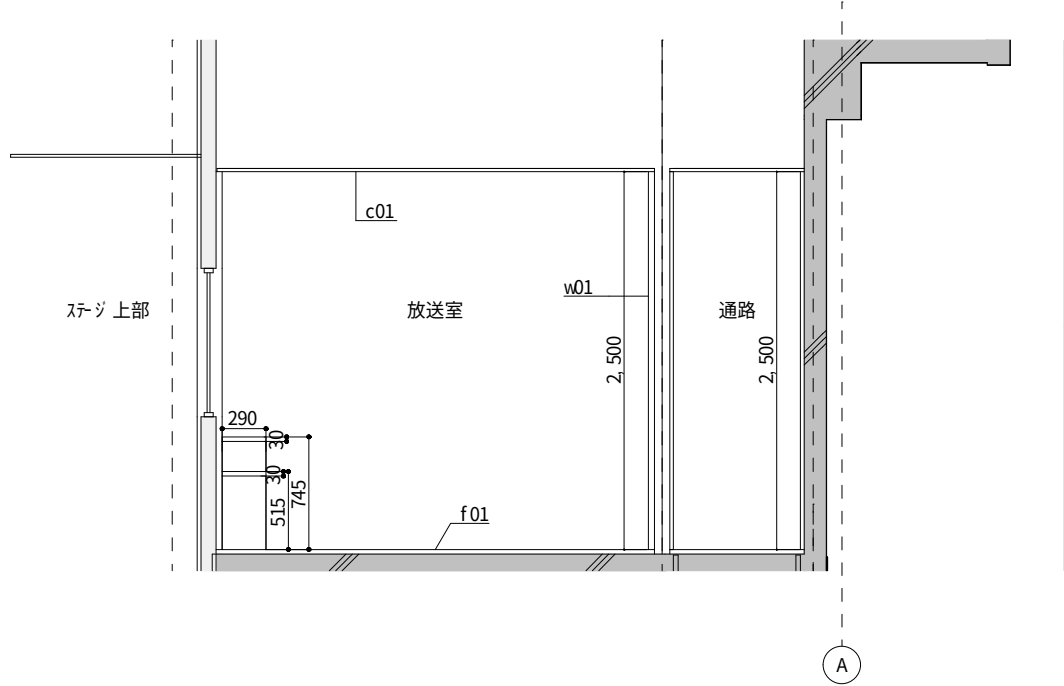
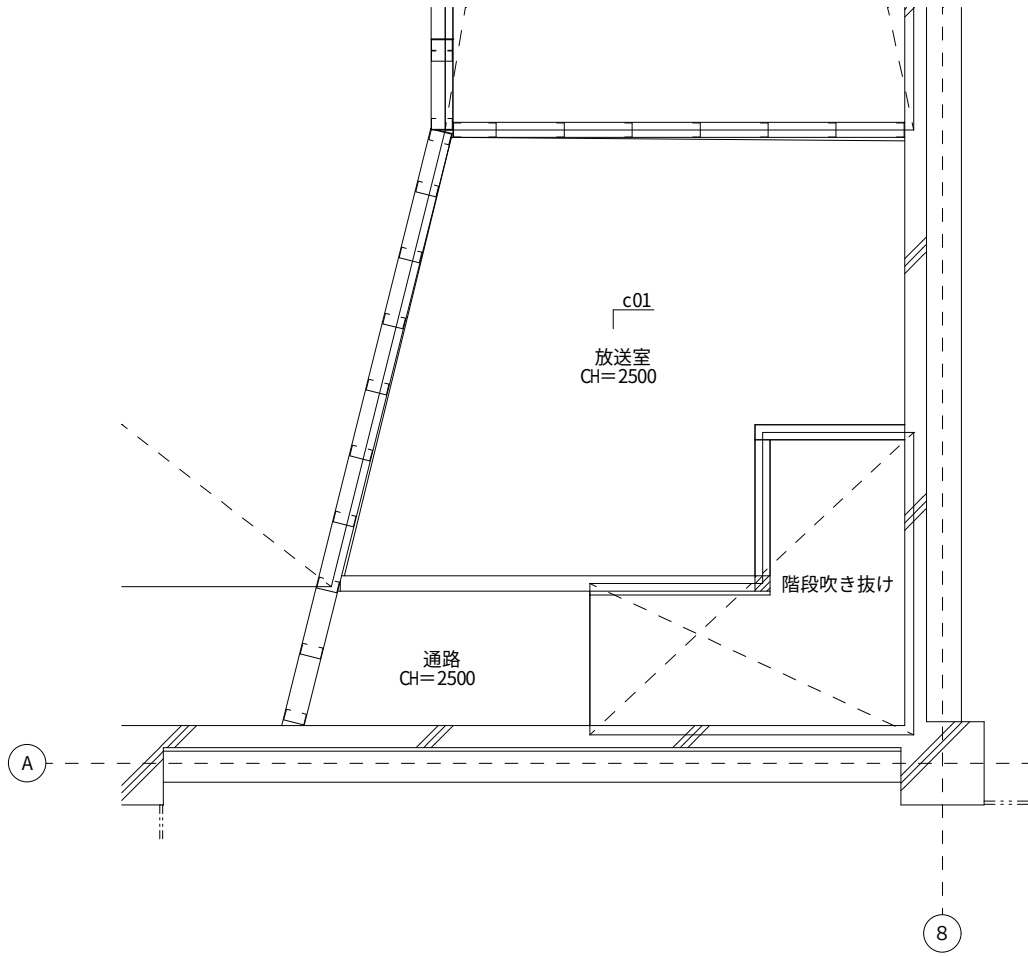
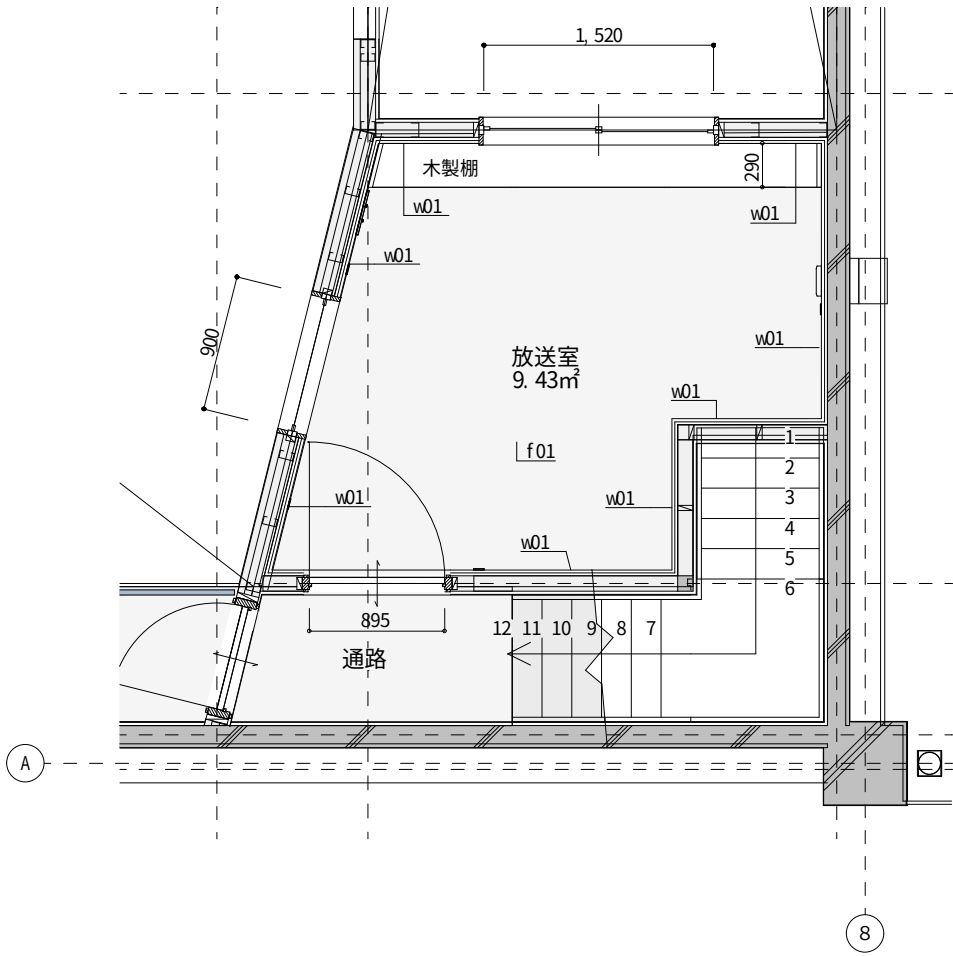
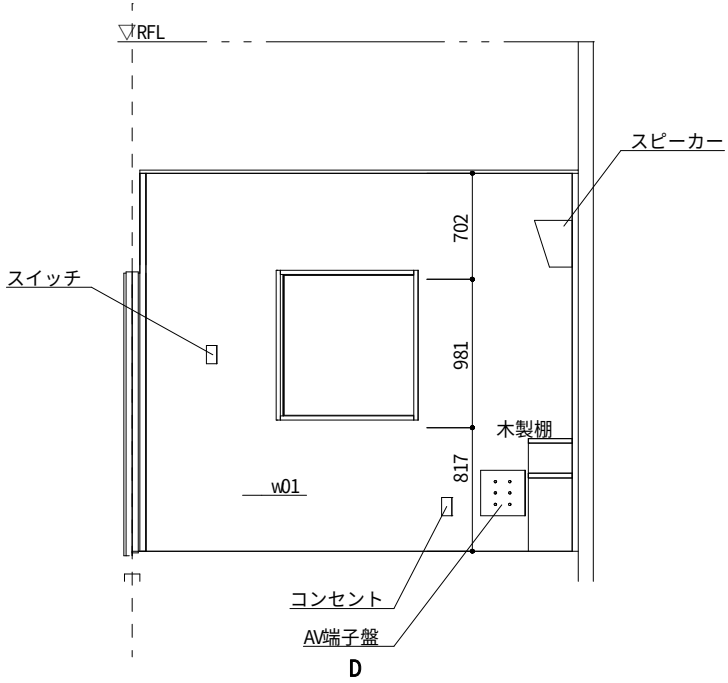
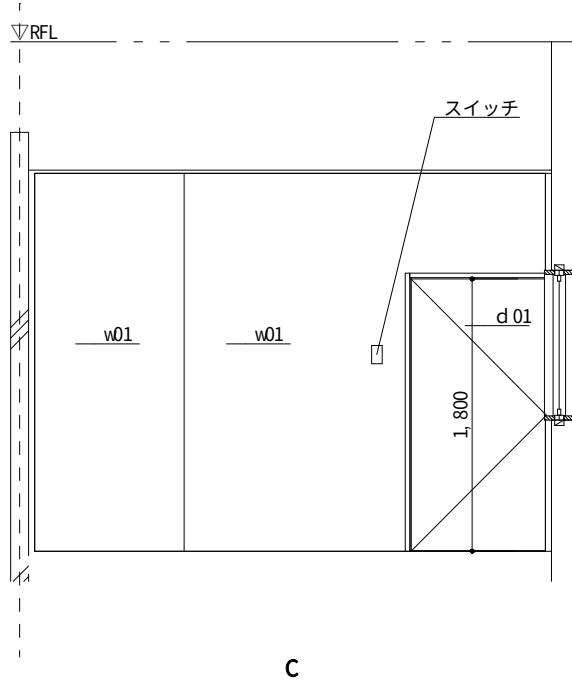
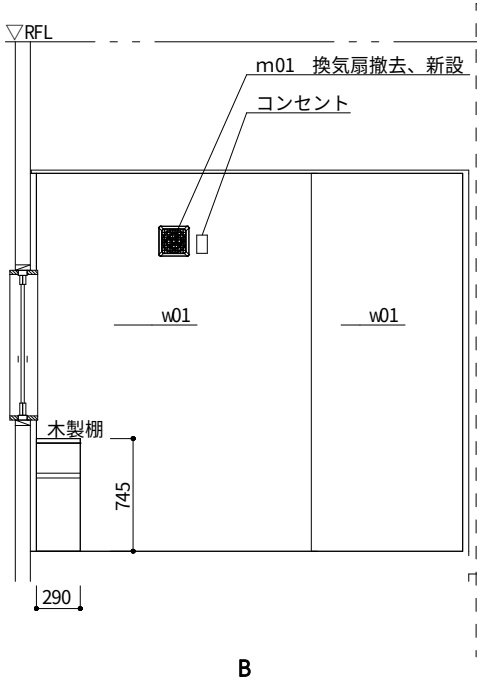
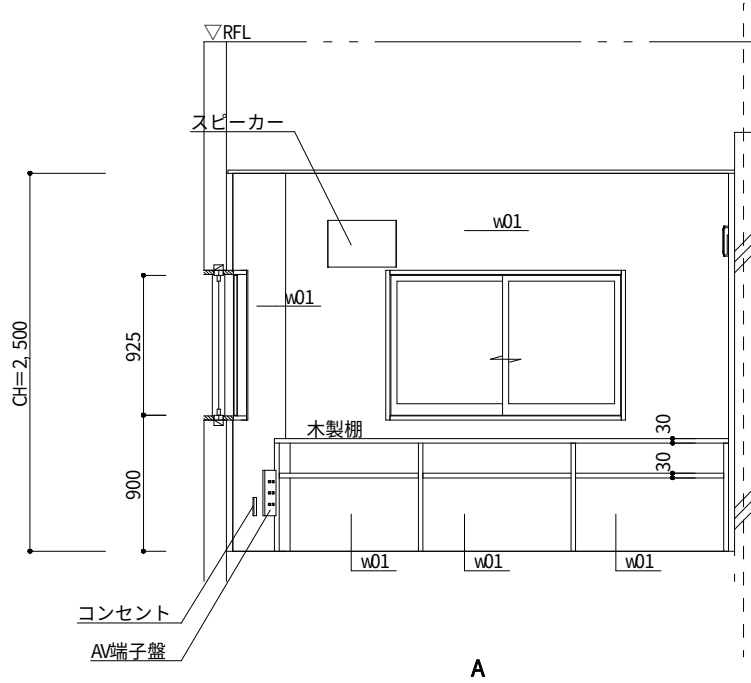
2F天井伏図 1/100



R天井図 1/100

符号・名称				AW1	四連引違い窓				AW2	四連引違い窓				AW3	三段四連引違い窓				AD1	2連両開き戸								
姿図				<AWの上 防球網枠> 585585585585585585585 404075040 4,710 1,100701,100701,100701,100 ▼FL40600 鋼製枠 L-40*40*3 鋼製縦横 □-30*20*1.6 防球網 クリンプ金網 2.0*25 コーキング打替 S=1/100				1,100701,100701,100701,100 ▼FL40600 コーキング打替 S=1/100				1,100701,100701,100701,100 ▼FL40600 コーキング打替 R04 外部モルタル窓台 ウレタン塗膜防水改修 S=1/100				1,8001001,800 ▼FL6001002,000 コーキング打替												
取付階・室名・箇所数				1F	アリーナ			3	1F	アリーナ			3	2F	ギャラリー			5	1F	アリーナ			1					
建具W	建具H	扉見込		4,610	600			25	4,610	600			25	4,610	2,600			25	3,700	2,700			25					
建具材質	建具仕上	枠材質	枠仕上		アルミニウム					アルミニウム					アルミニウム					アルミニウム								
附属金物																												
備考								※ 3 枚ガラス撤去、強化ガラス t=5 新設																				
符号・名称				SD1	片開き戸				SD2	片開き戸				SD3	両開き戸				AG1	換気口				SG1	ガラリ			
姿図				900 1,835 ▼FL880 遮熱塗装（建具、枠共） コーキング打替				900 1,835 ▼FL880 遮熱塗装（建具、枠共） コーキング打替				1,800 2,000 ▼FL 遮熱塗装（建具、枠共） コーキング打替				600 180 ▼FL350 コーキング打替				630 450 ▼FL2,280 コーキング打替								
取付階・室名・箇所数				1F	ステージ			1	1F	ステージ			1	1F	アリーナ			4	1F	ステージ			10	1F	器具庫			2
建具W	建具H	扉見込		900	1,835			40	900	1,835			40	1,800	2,000			35	600	180			35	630	450			70
建具材質	建具仕上	枠材質	枠仕上		スチール					スチール					スチール					アルミニウム					スチール			
附属金物																												
備考																												
符号・名称				GB1	ガラスブロック				GB2	ガラスブロック+ガラリ				GB3	ガラスブロック													
姿図				1,240 630 ▼FL1,600 コーキング打替				630 400 630 ▼FL1,600 コーキング打替				7,030 630 ▼FL1,600 コーキング打替 S=1/100																
取付階・室名・箇所数				1F	男子便所			2	1F	器具庫			1	1F	器具庫			1										
建具W	建具H	扉見込		1,240	630			70	630	1,130			70	7,030	630			70										
建具材質	建具仕上	枠材質	枠仕上		-----					-----					-----													
附属金物																												
備考																												

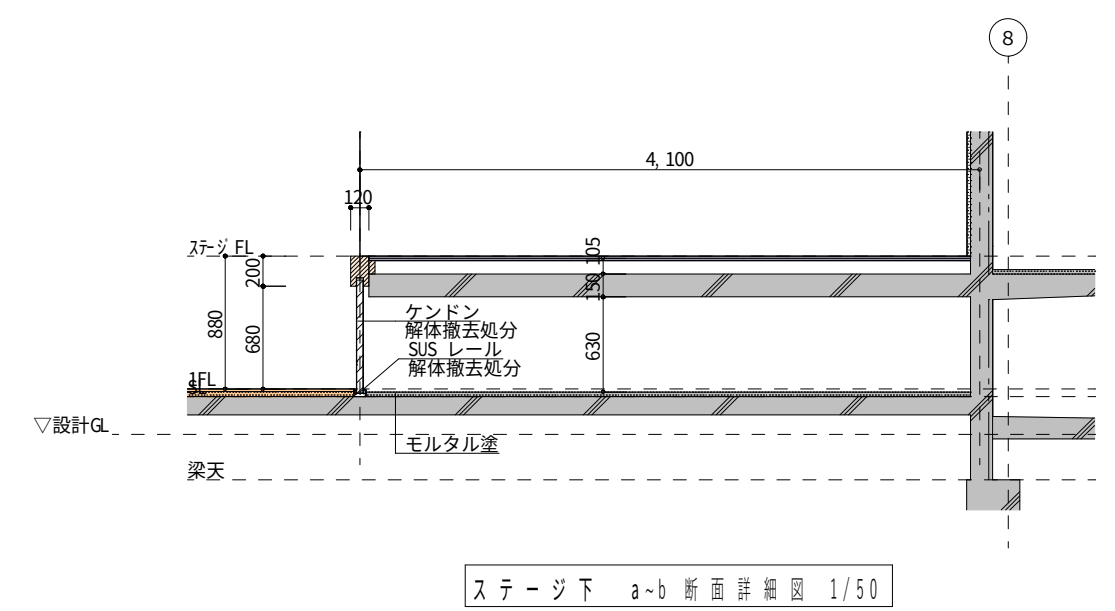
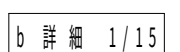
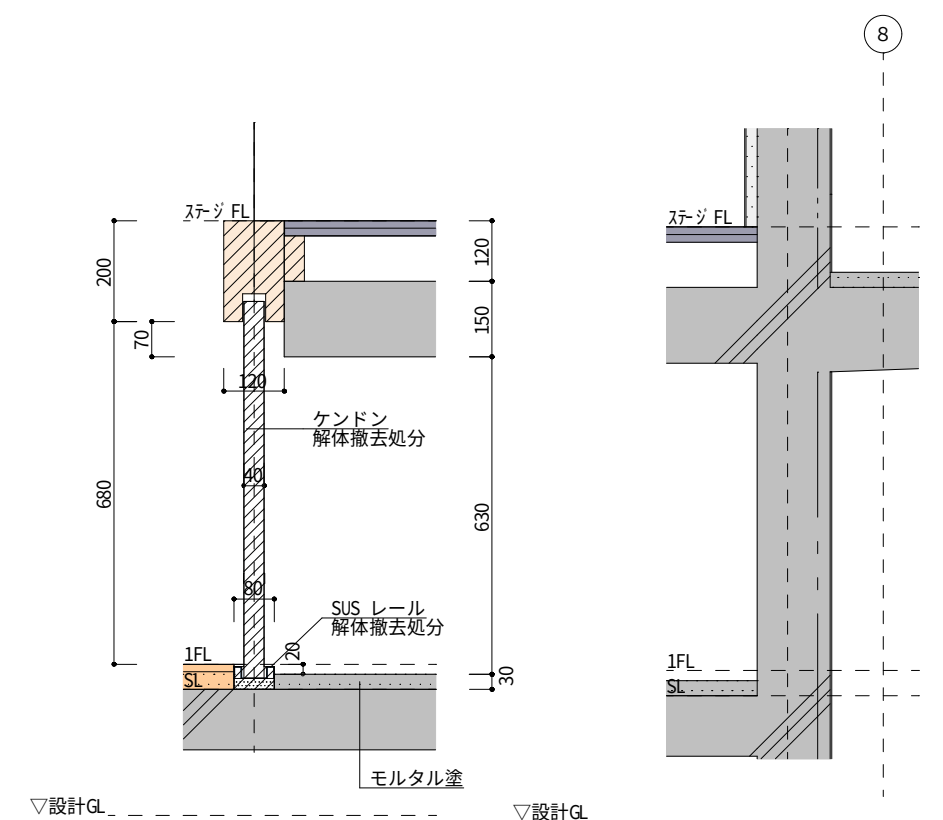
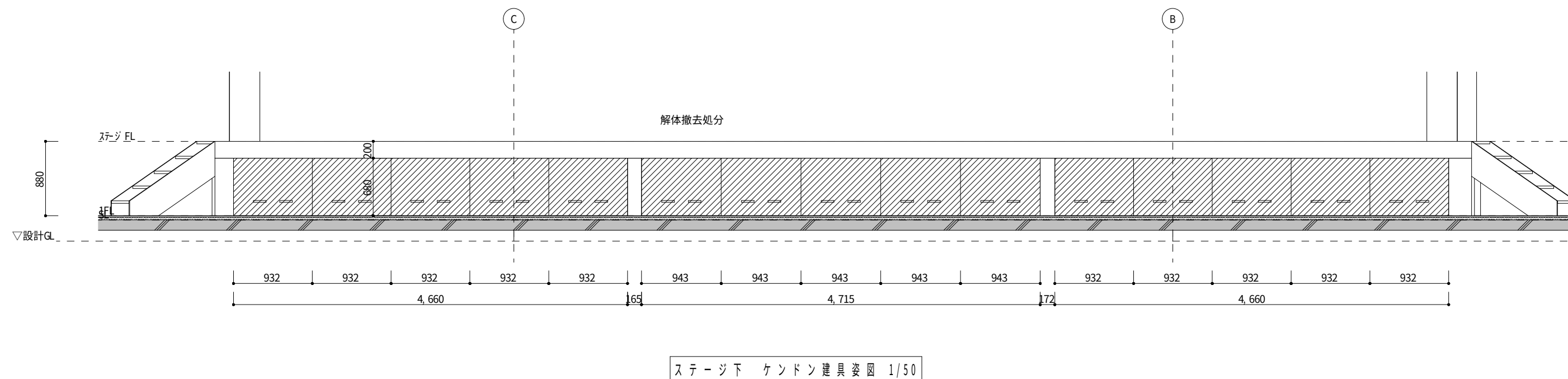
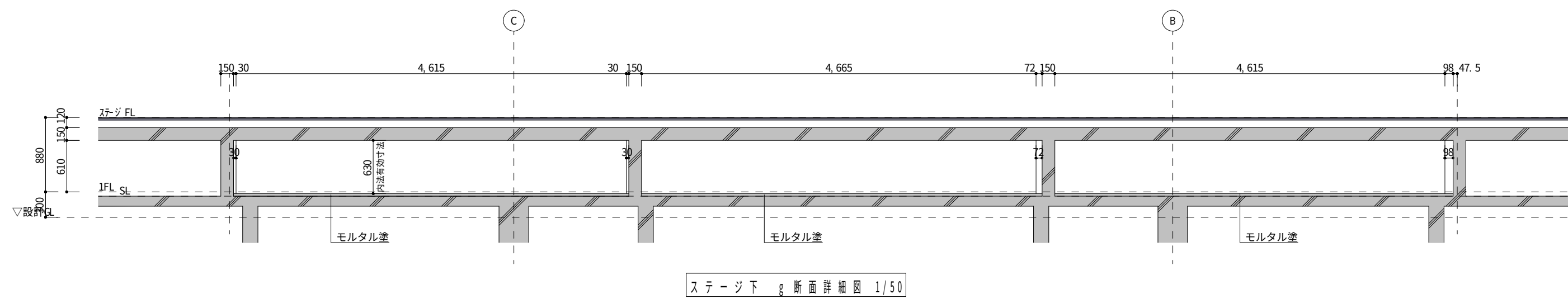
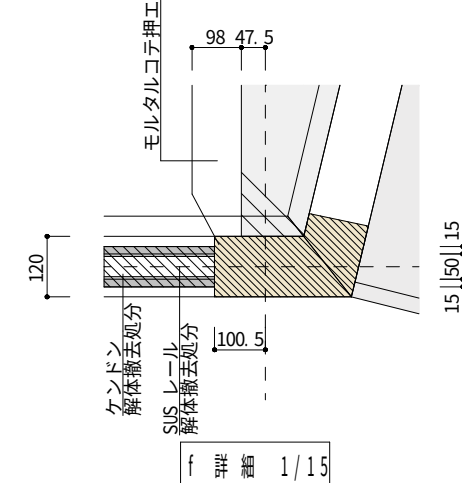
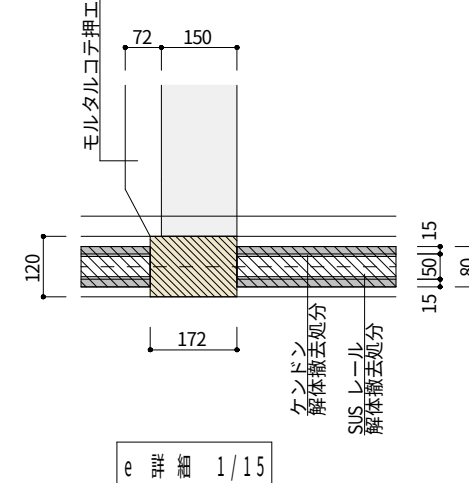
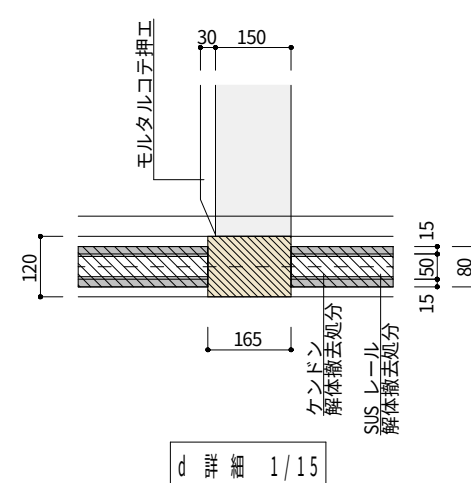
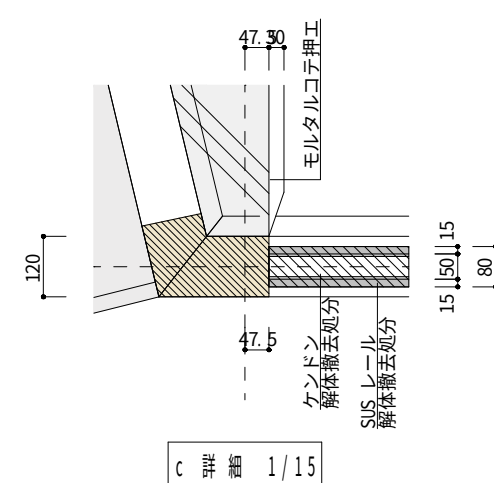
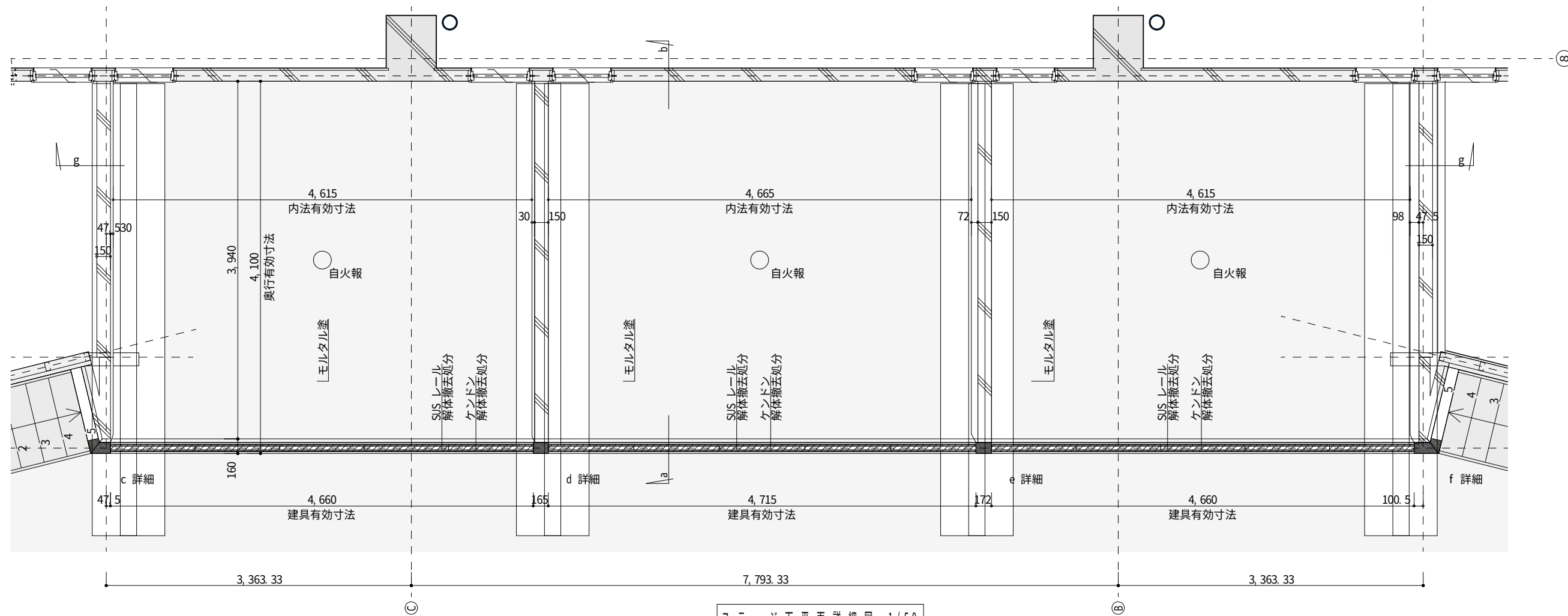
2F 放送室 仕上表				
	記号	現況	→	改修後
天井	c01	キルホン張	解体・撤去	木製胴縁 t=16 有孔石膏ボード t=5.5 E P 塗仕上
壁	w01	キルホン張	解体・撤去	キルホン張
巾木		木製巾木	養生	存置
床	f01	YPコート	養生	存置
扉	d 01	木製扉	解体・撤去	既存同形状 片開木製扉新設 W895×H1800
他		木製棚	解体・撤去	既存同形状 新設タモ集成材 t=30加工 OS仕上げ
設備	m01	換気扇	撤去	200φ、格子タイプ、電気式シャッター、 引きひも無し、スリルス製の「ガーガー」、不燃枠
備考		建具 コンセント等設備類	養生若しくは脱着	存置

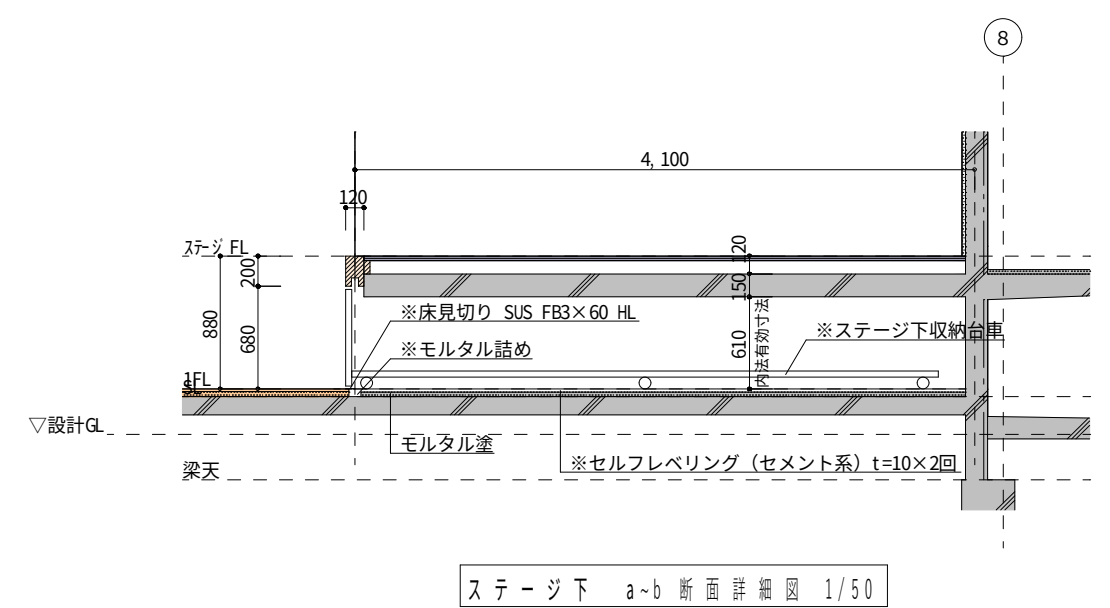
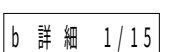
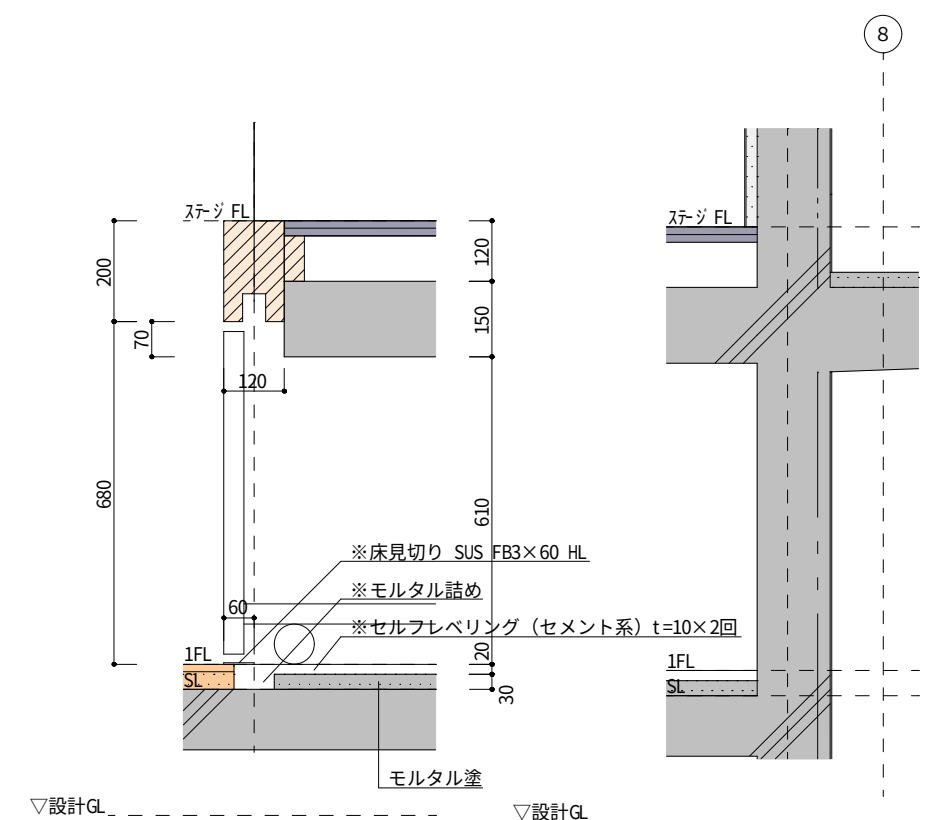
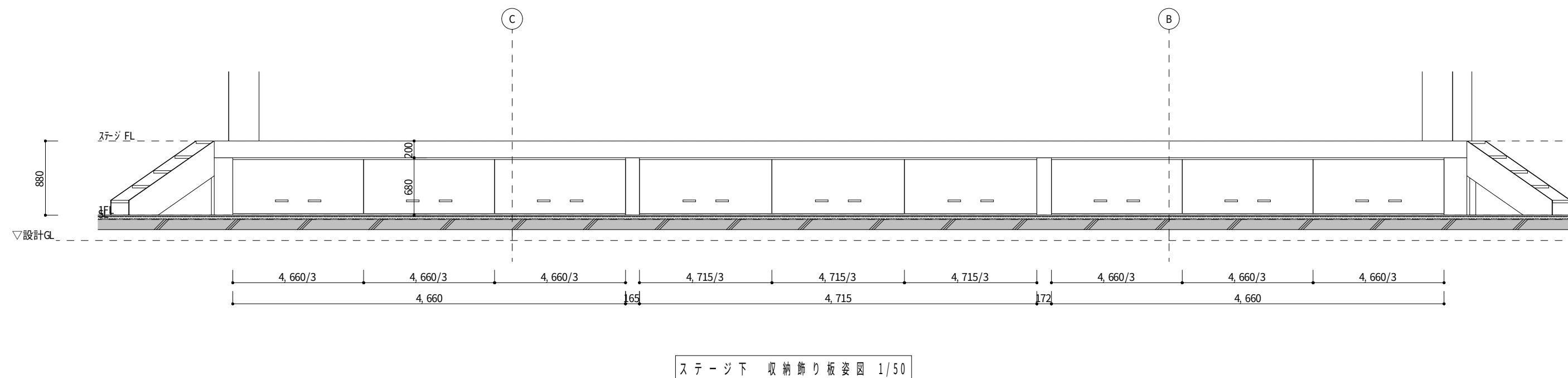
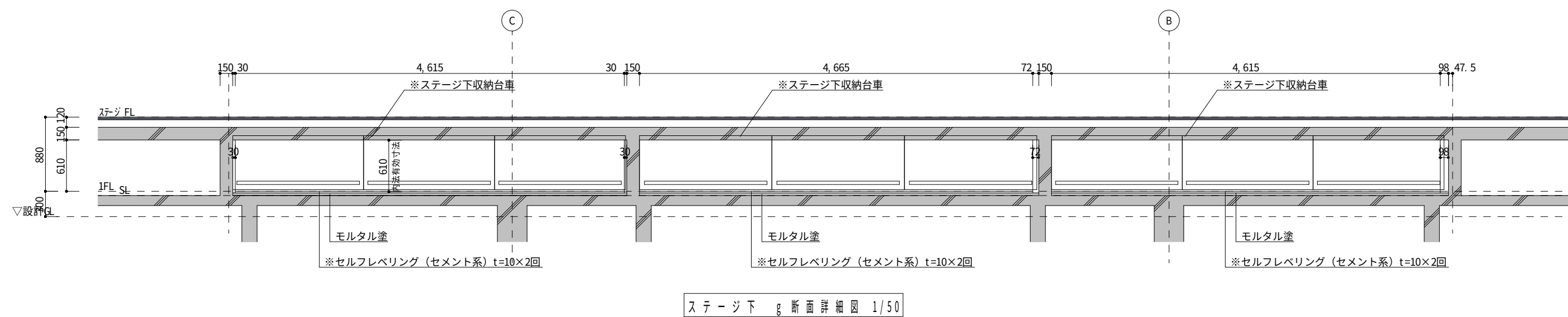
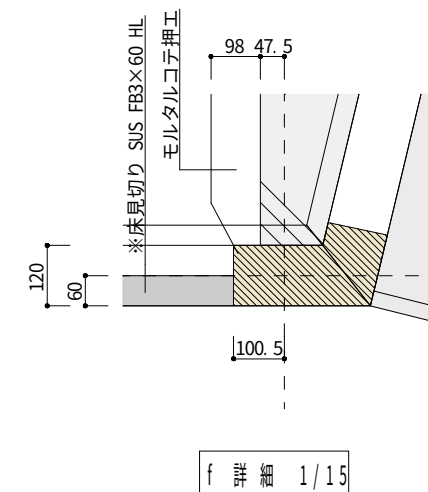
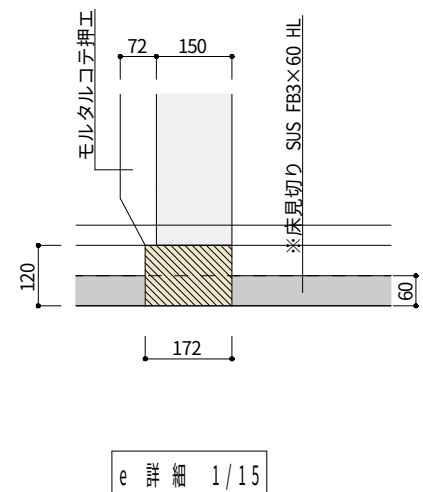
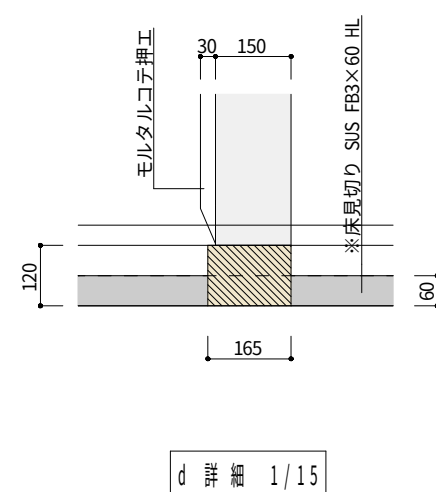
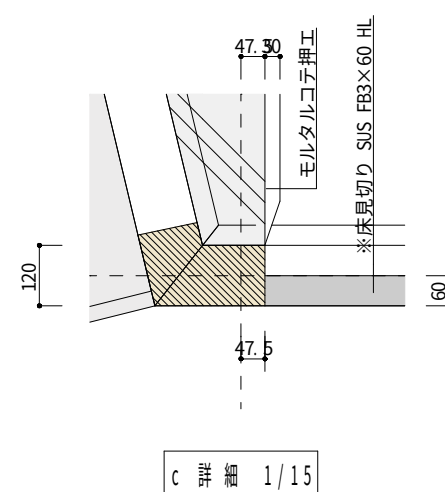
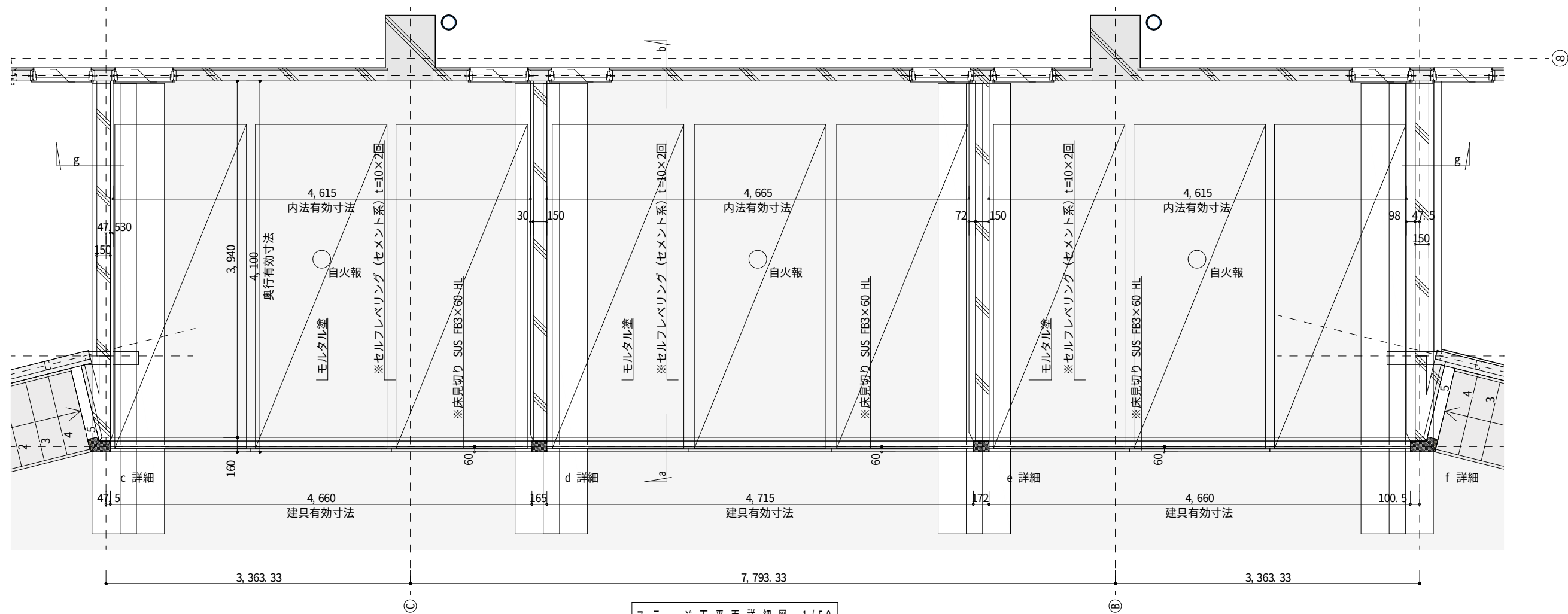


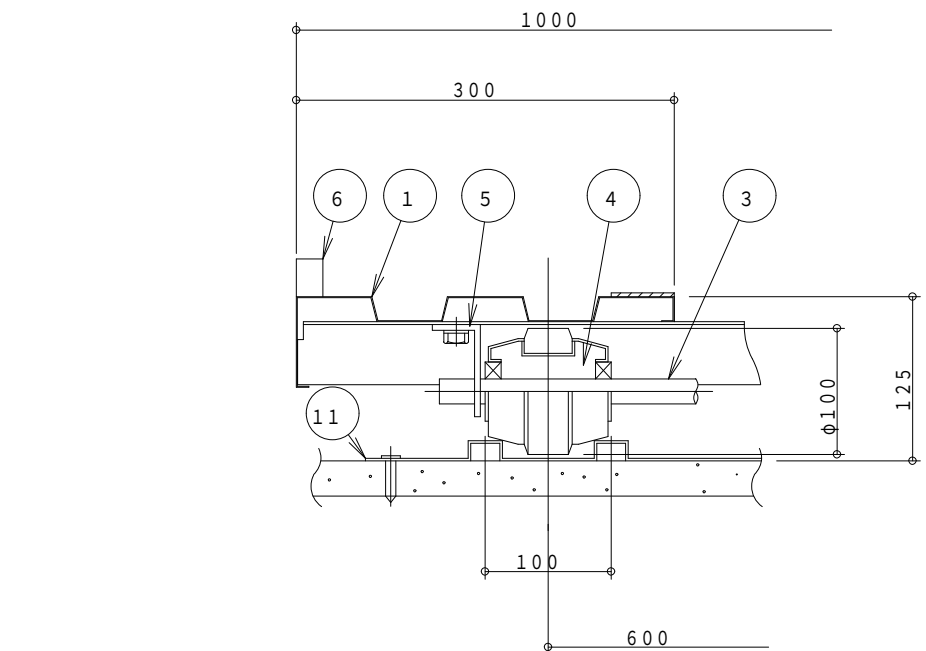
放送室 平面図

放送室 天井伏図

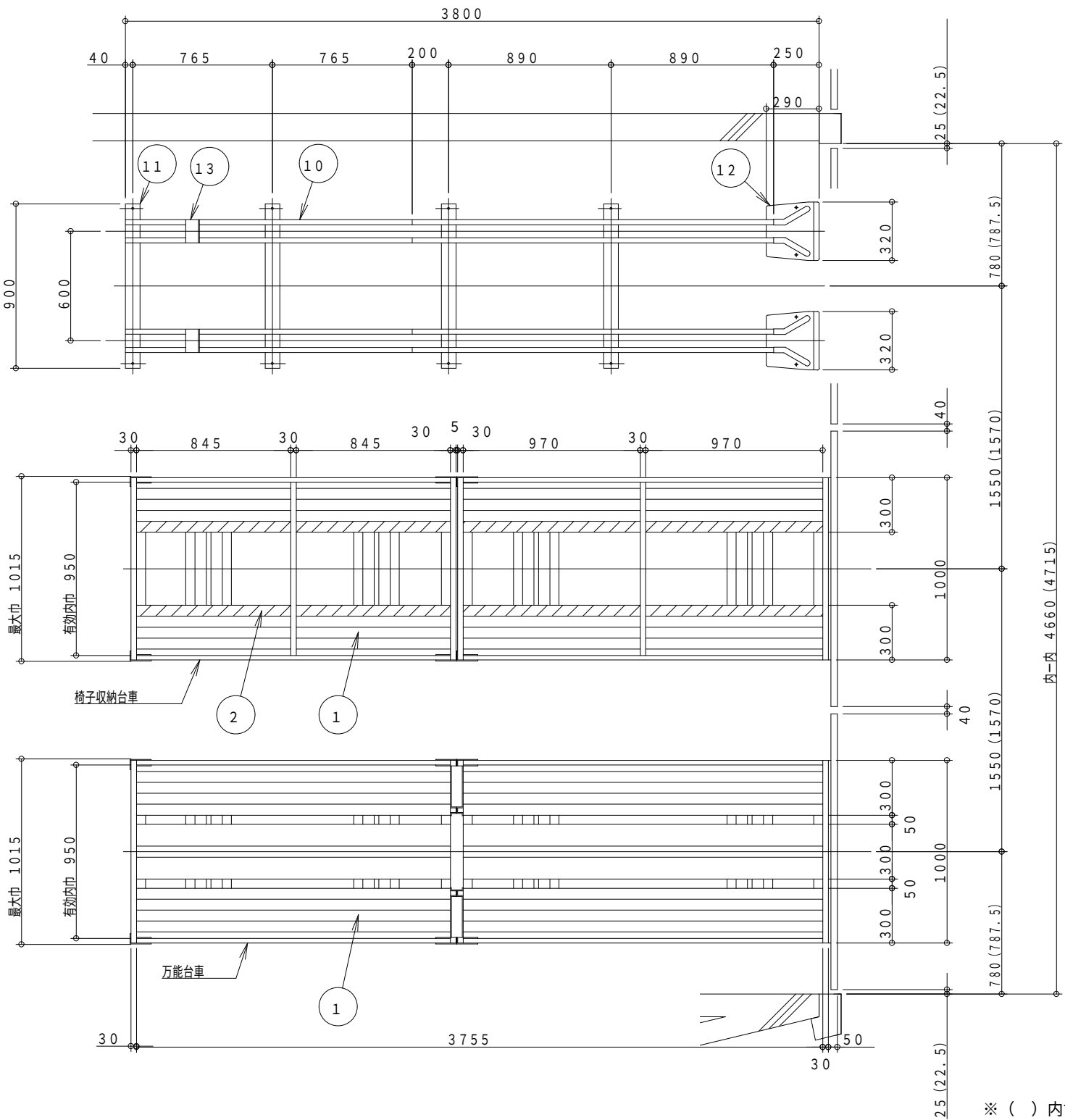
放送室 断面図



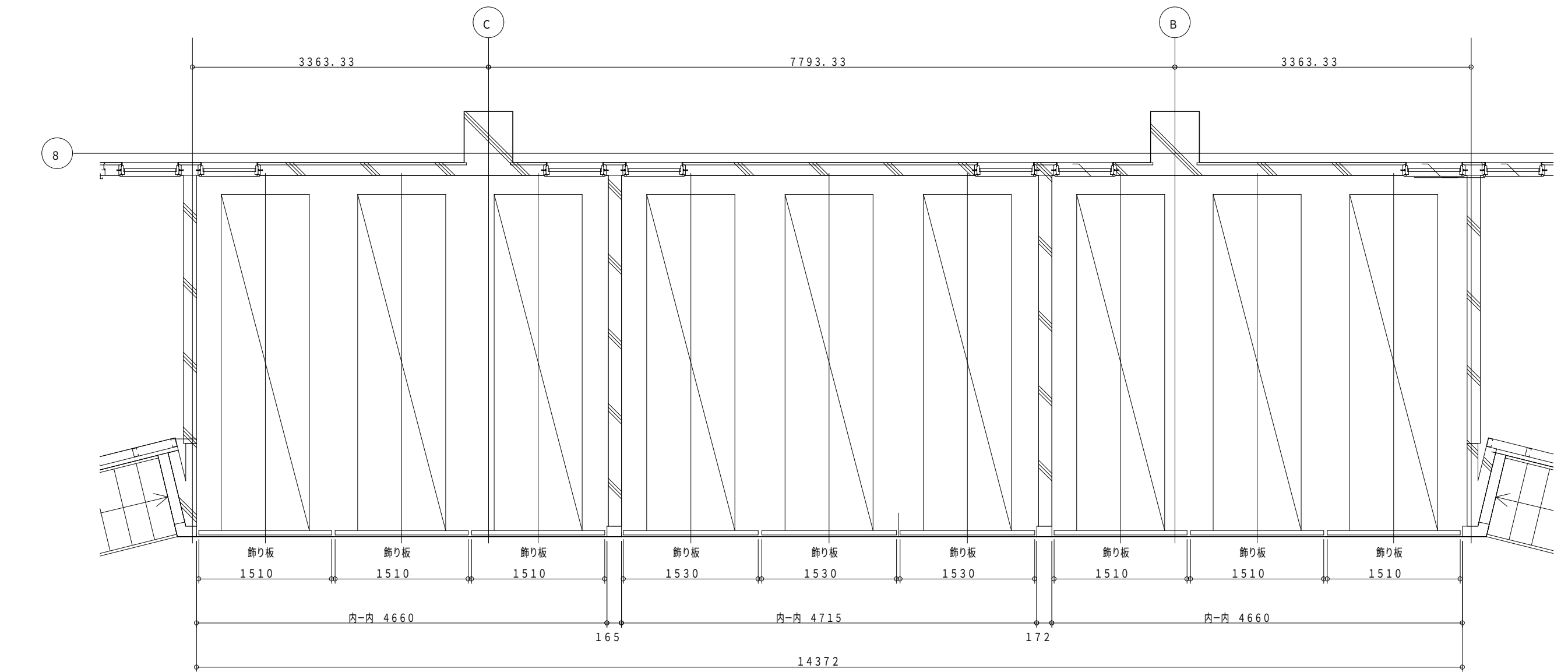
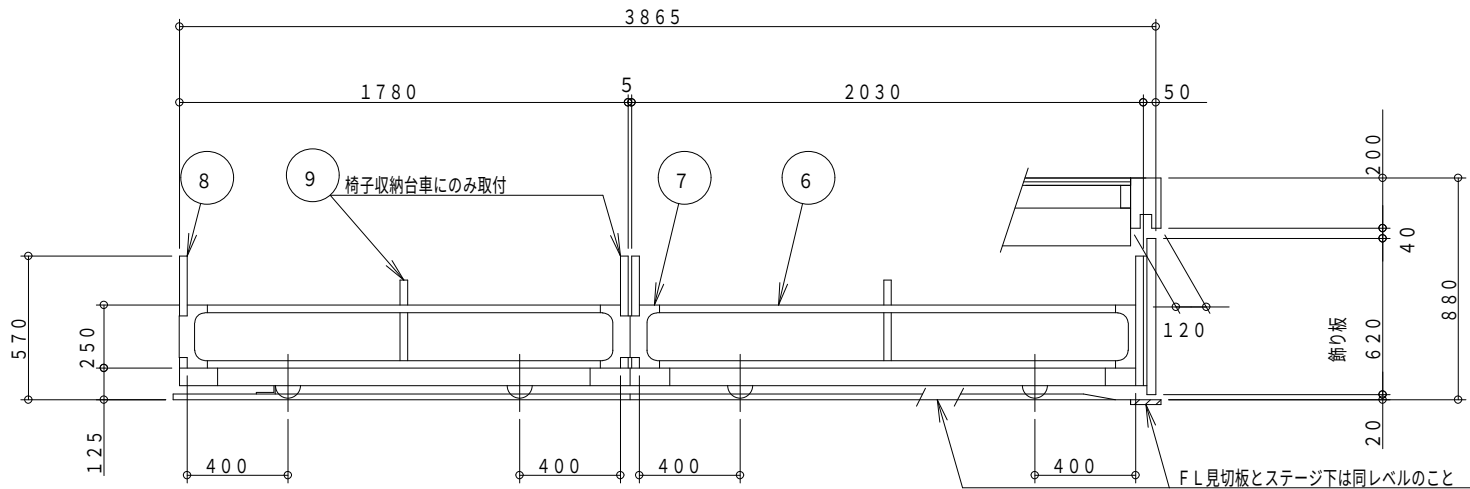




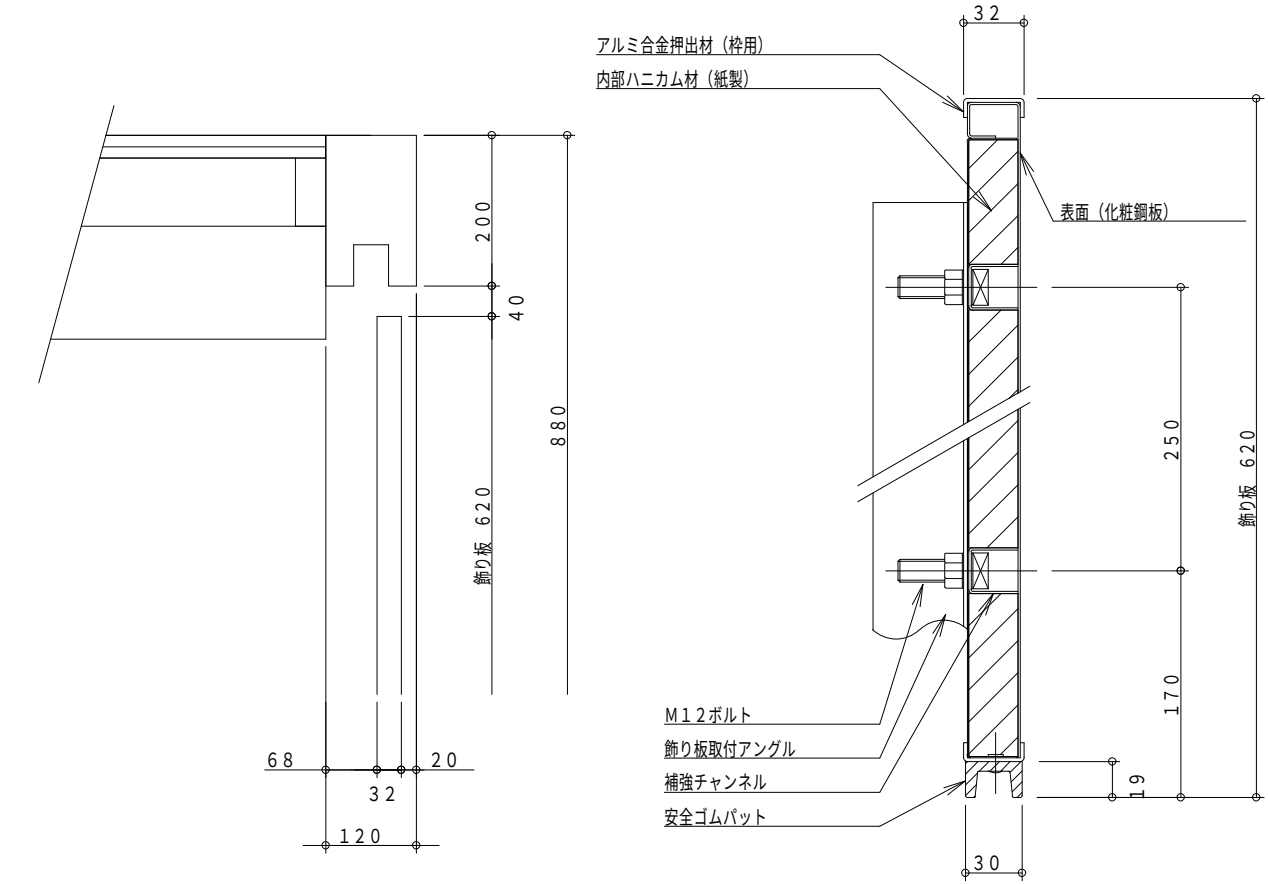
レール、レール床、車輪関係図
(S=1/6)



※ () 内寸法はセータースパンを示す



台車収納時平面配置図 (S=1/50)



飾り板断面図
(S=1/4)

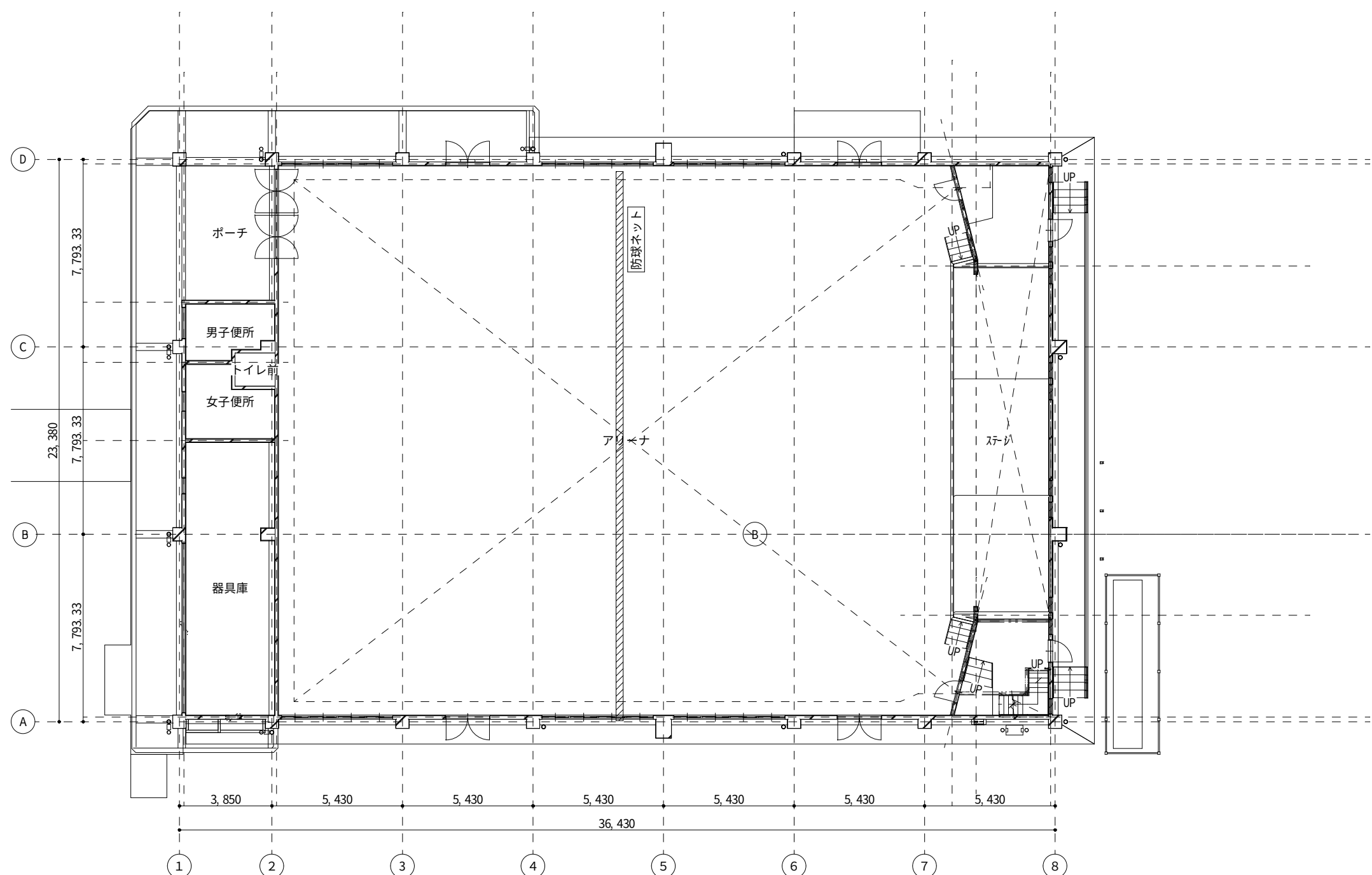
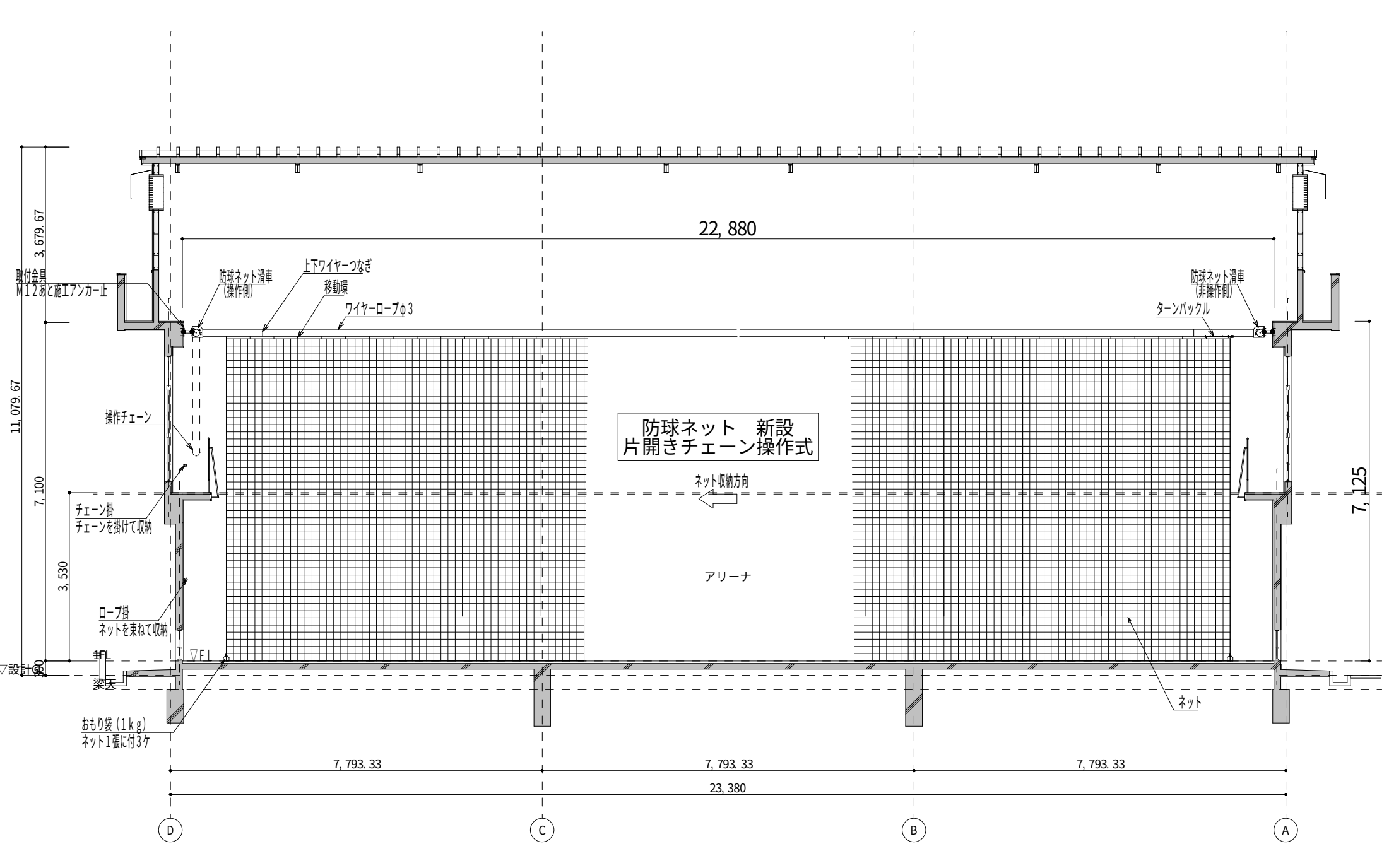
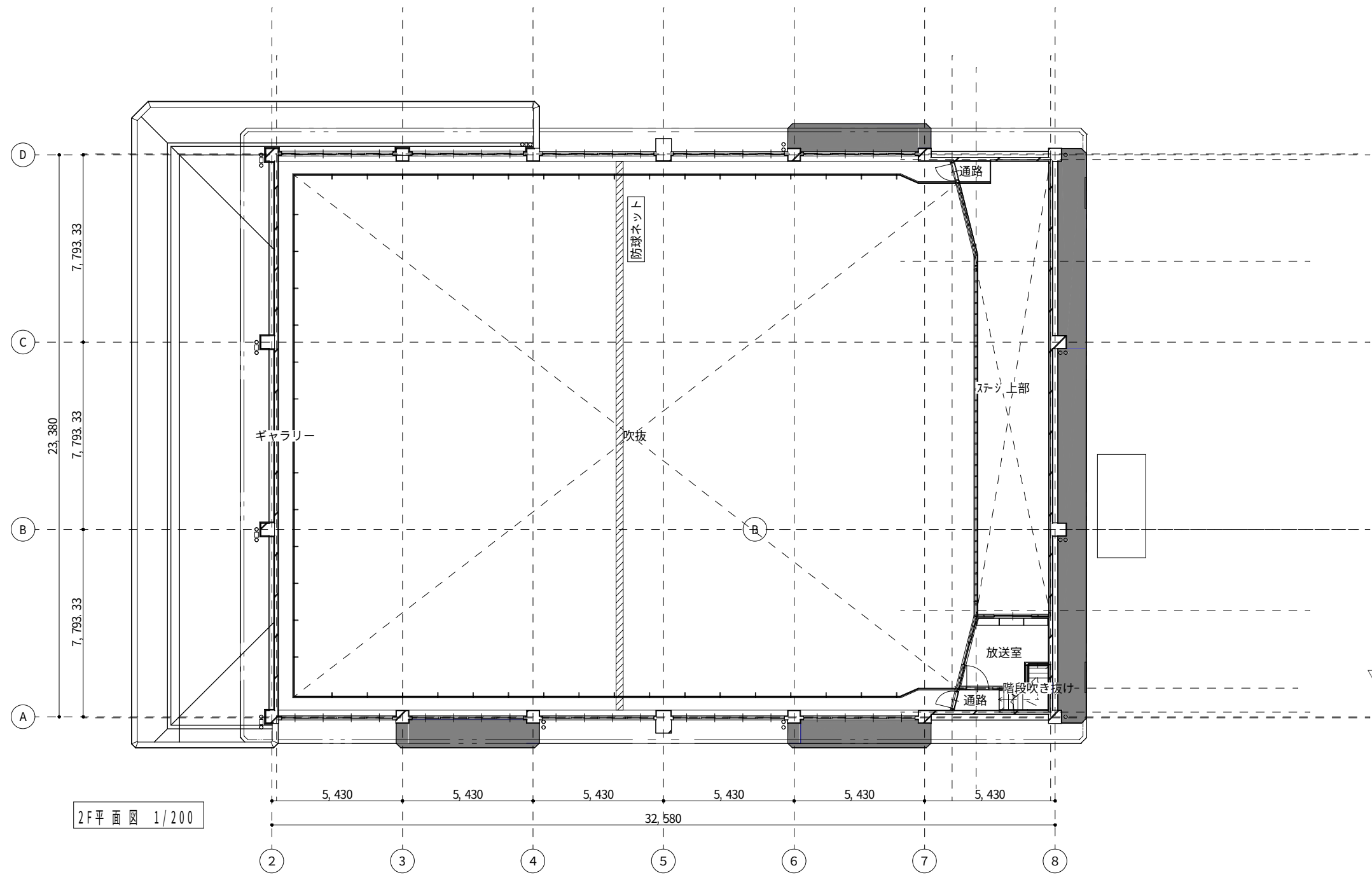
主 構 成 部 品			
NO	品 名	材 料 ・ 加 工	表面処理
1	床 板	垂鉛メッキ銅板 t 0. 9 を曲げ加工	垂鉛メッキ
2	椅子滑り止 め	ポリエチレン樹脂発泡材	
3	車 軸	機械構造用炭素鋼鋼管 φ 20×t 2. 5	垂鉛メッキ
4	車 輪	冷延銅板 t 2. 0 をプレス加工した後、その外周に合成ゴムを焼付けした一体型車輪 (輪受部はベアリング嵌合)	
5	軸 受	熱延銅板 t 4. 5 を曲げ加工	焼付塗装
6	サイド枠	垂鉛メッキ銅板をフォーミング加工	垂鉛メッキ
7	ジョイントコネクター	30×20×t 1. 2	垂鉛メッキ
8	ハンドル	垂鉛メッキ銅板をフォーミング加工	垂鉛メッキ
9	椅子倒れ止 め	垂鉛メッキ銅板をフォーミング加工	垂鉛メッキ
10	レール	垂鉛メッキ銅板 t 1. 6 をフォーミング加工	垂鉛メッキ
11	枕 板	垂鉛メッキ銅板 t 1. 6 をプレス加工	垂鉛メッキ
12	車輪ガイド	熱延銅板 t 1. 6 をプレス加工	焼付塗装
13	ストッパー	一般構造用圧延銅板 t 6. 0 を曲げ加工	焼付塗装
14	飾り板	化粧銅板 t 0. 8 を曲げ加工し、アルミ製枠にて保護したものの中にハニカム材 (紙製) をはめ込んだもの。(合成ゴム製安全パッド付)	樹脂コーティング

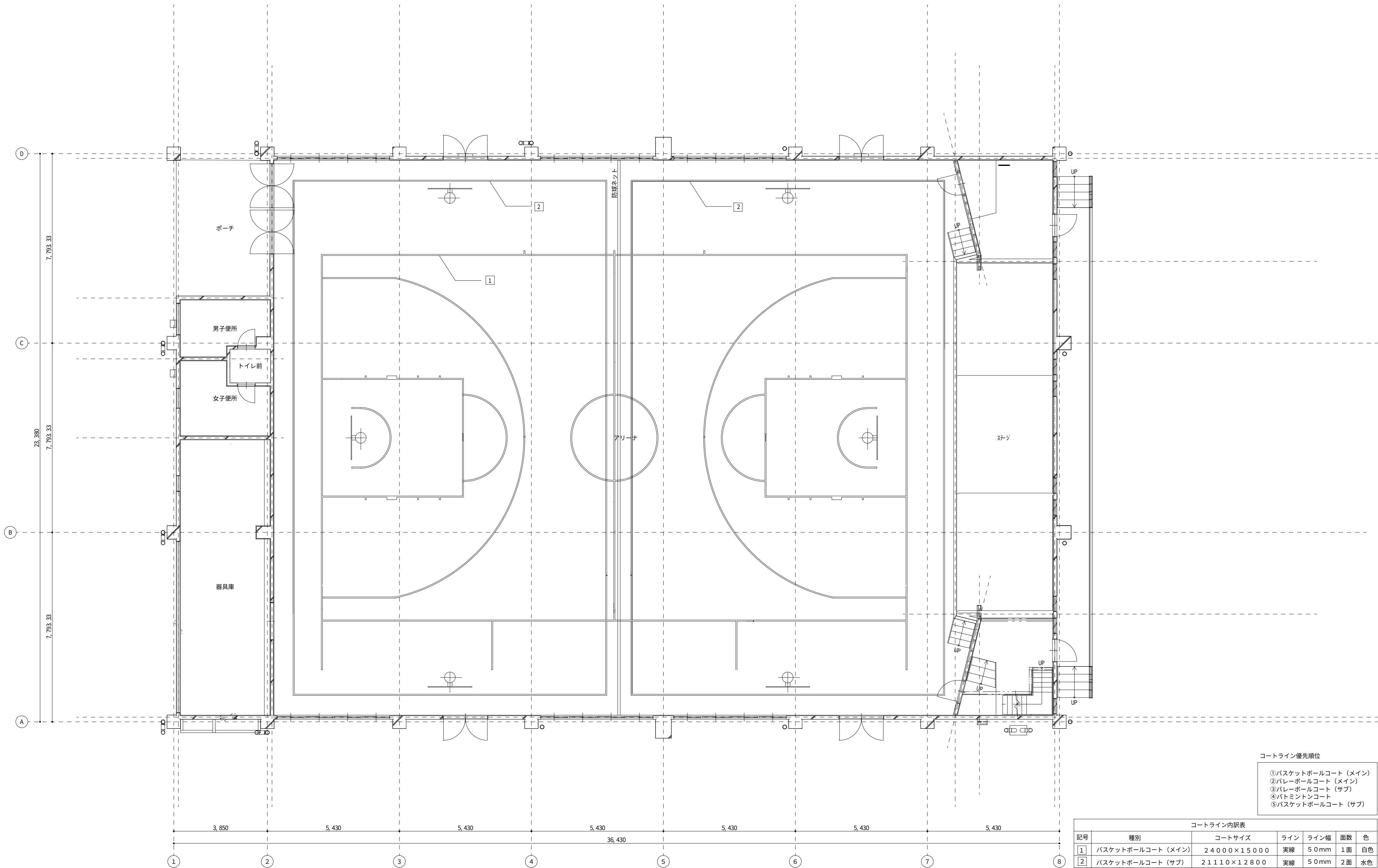
備 考

- 製作数 7列 7輦 (フジトラックFT-1T-3750L) 椅子収納台車
- 製作数 2列 2輦 (フジトラックFT-1TV-3750L) 万能台車
- レールの製作及び取付工事はこの設備に含ます
- 飾り板の製作及び取付調整はこの設備に含ます
- レール下地 (モルタル) はこの設備より除外とします
- 椅子収納脚数 75脚/列 (7列分= 525脚)
但し椅子の厚みは約50mmとして計算

別途工事

- ・レール設置部床仕上工事

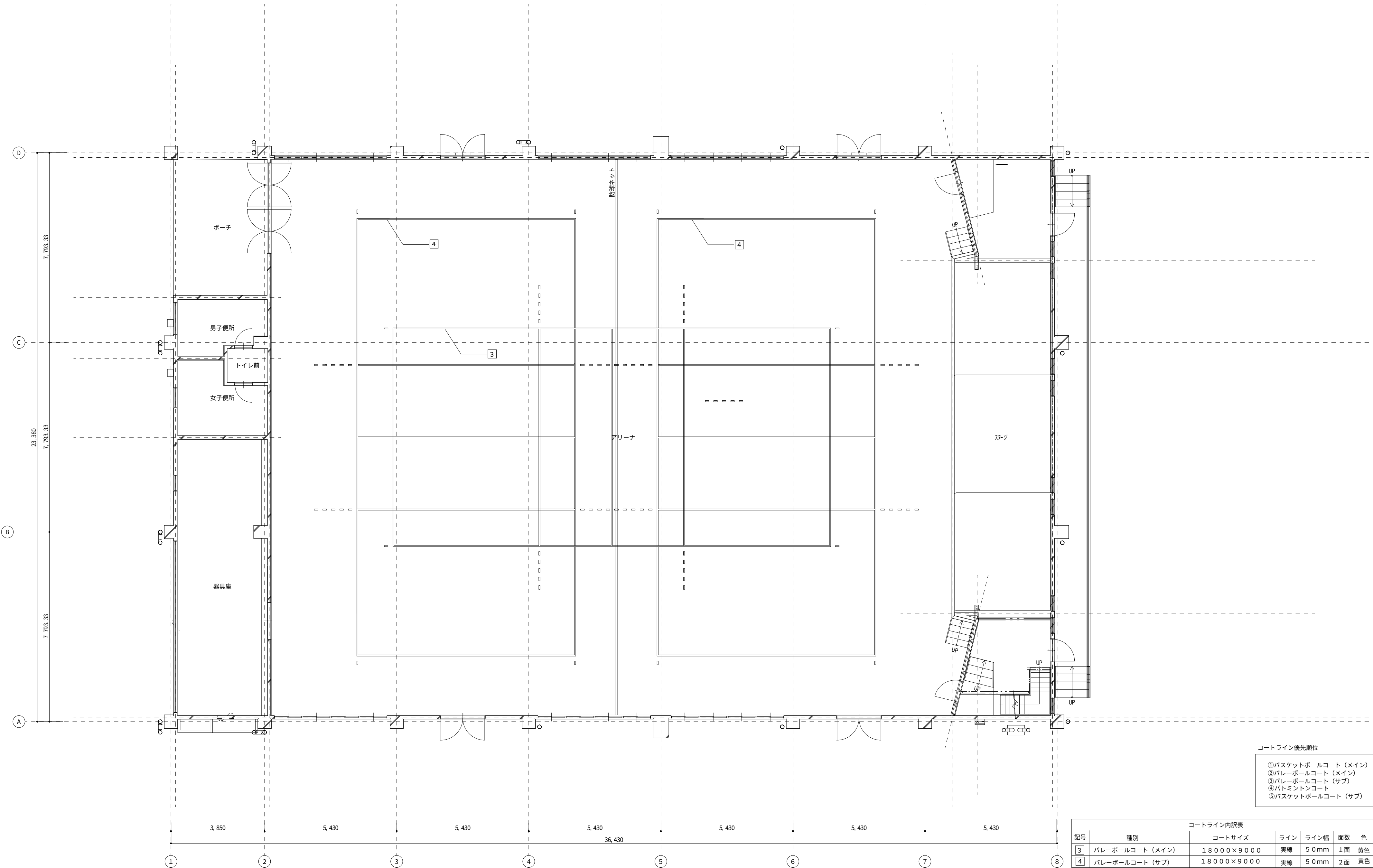




配置、1F平面図 1/100

コートライン優先順位						
①バスケットボールコート（メイン） ②バレーボールコート（メイン） ③バレーボールコート（サブ） ④バドミントンコート ⑤バスケットボールコート（サブ）						

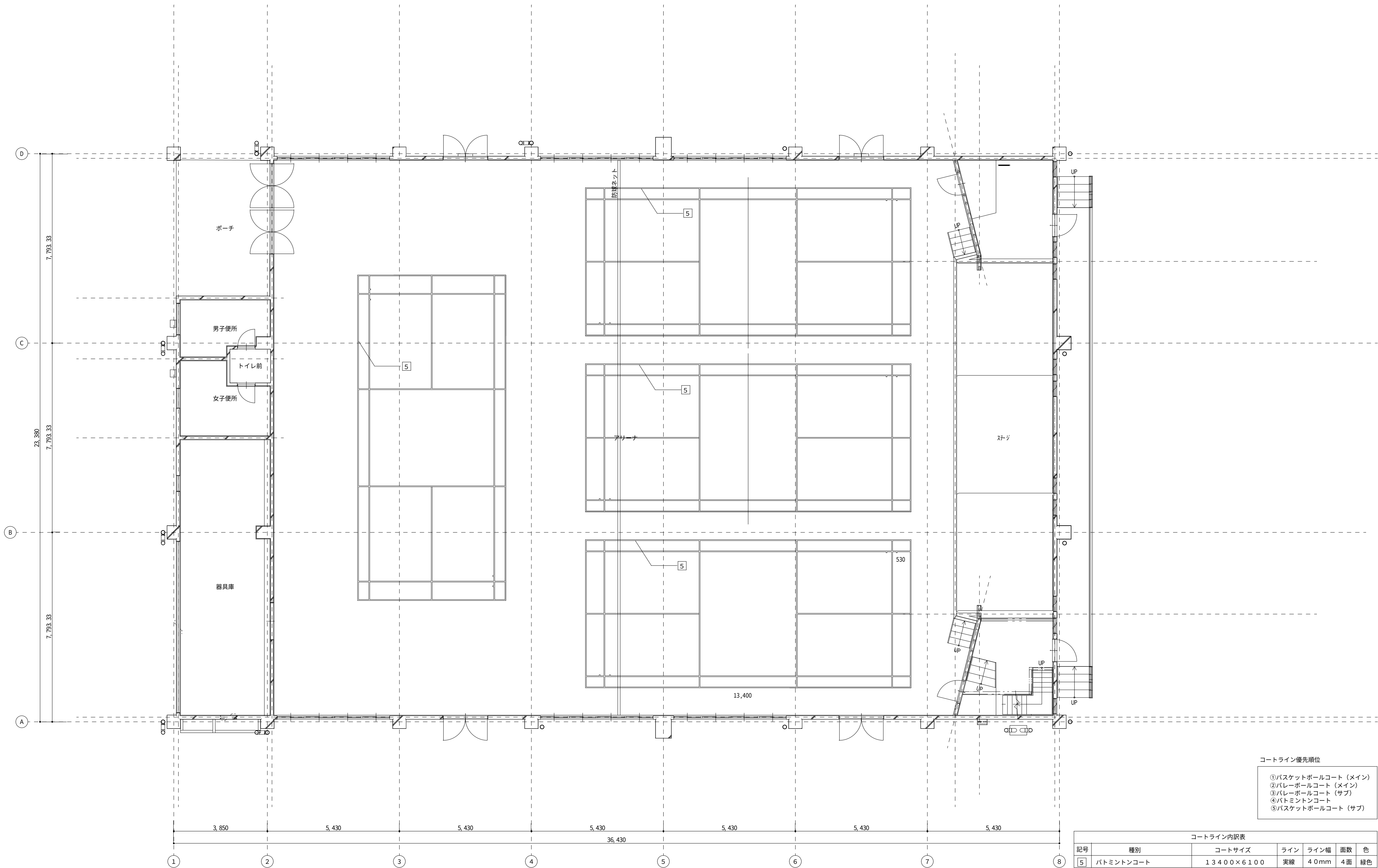
コートライン内訳表						
記号	種別	コートサイズ	ライン	ライン幅	面数	色
1	バスケットボールコート（メイン）	24000×15000	実線	50mm	1面	白色
2	バスケットボールコート（サブ）	21110×12800	実線	50mm	2面	水色



配置、1F平面図 1/100

- コートライン優先順位
- ①バスケットボールコート（メイン）
 - ②バレーボールコート（メイン）
 - ③バレーボールコート（サブ）
 - ④バドミントンコート
 - ⑤バスケットボールコート（サブ）

コートライン内訳表						
記号	種別	コートサイズ	ライン	ライン幅	面数	色
3	バレーボールコート（メイン）	18000×9000	実線	50mm	1面	黄色
4	バレーボールコート（サブ）	18000×9000	実線	50mm	2面	黄色



軒先詳細図

1 / 10

R01

棟詳細図

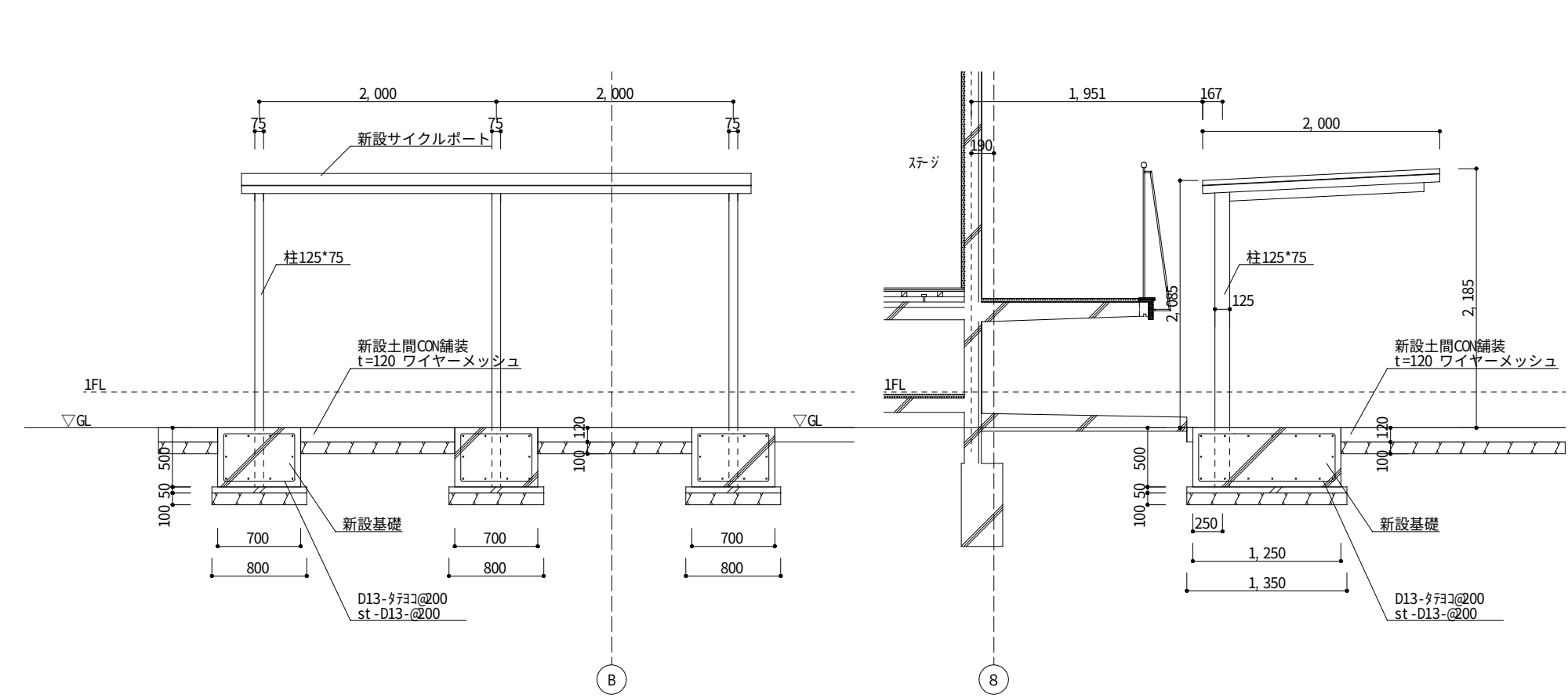
1 / 10

R01

ケラバ詳細図

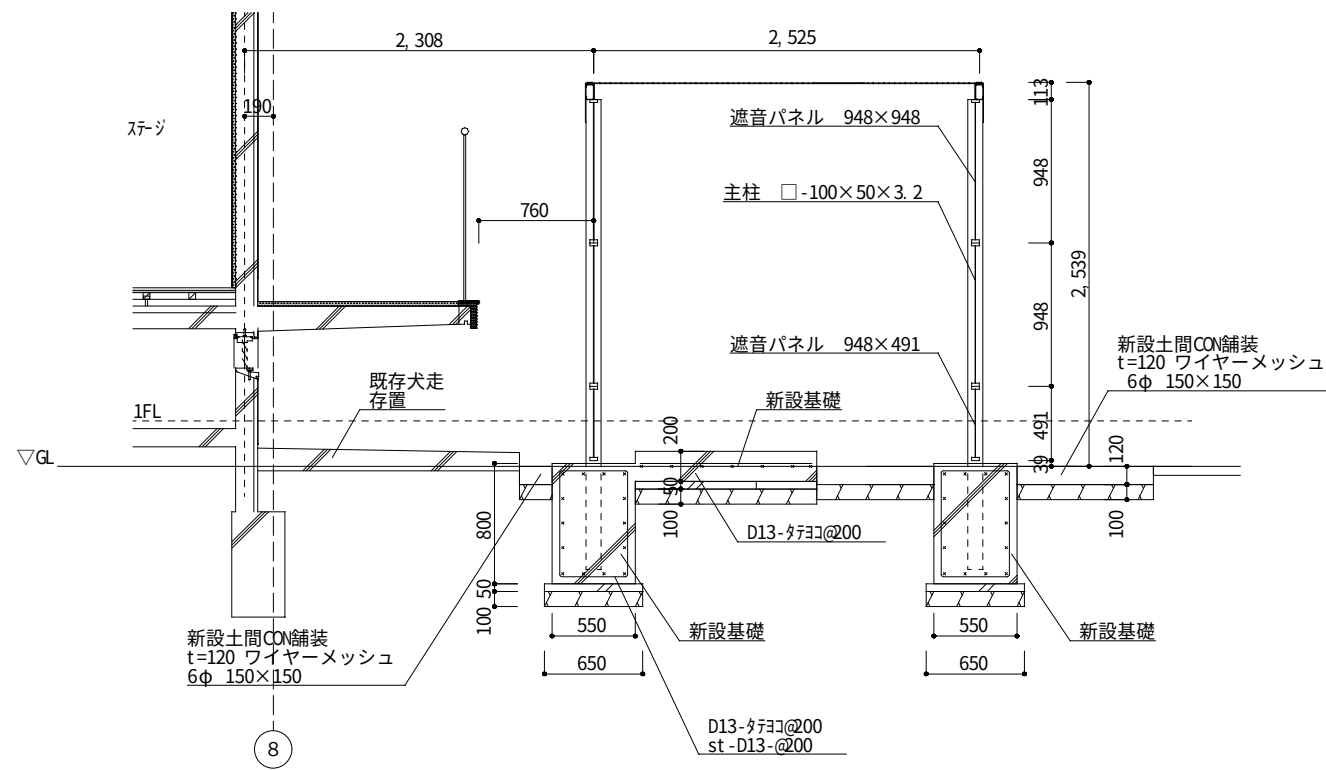
1 / 10

R01



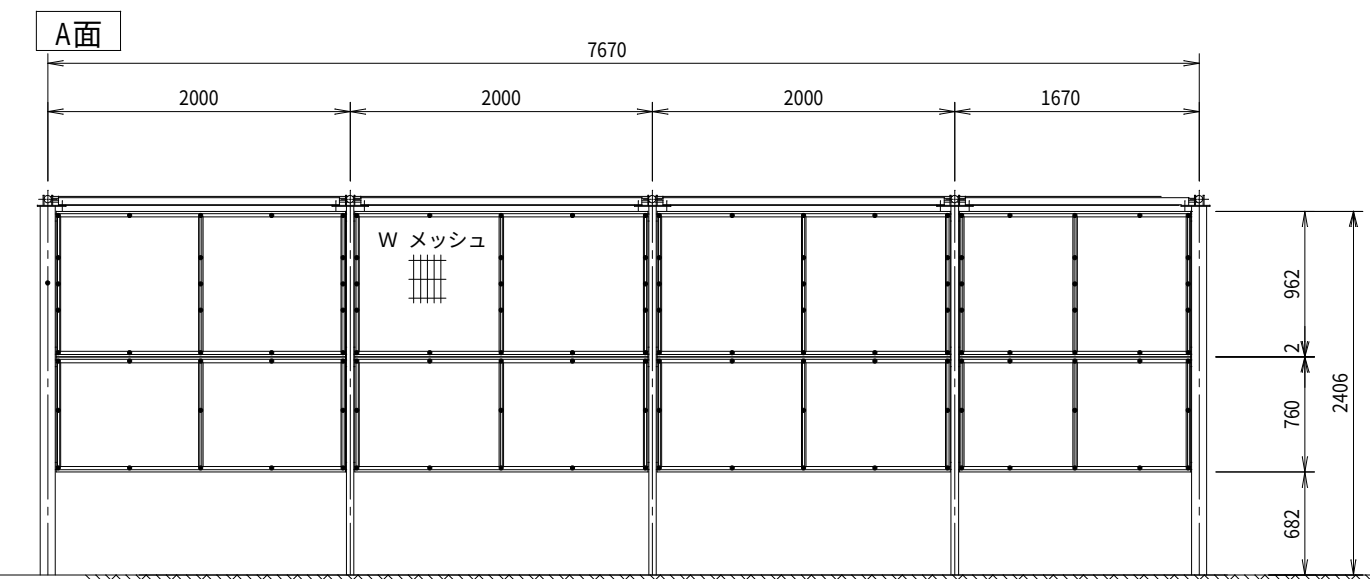
C断面 1/50

B断面 1/50

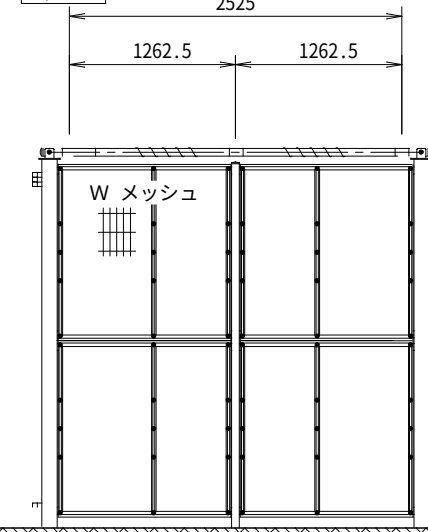


A断面 1/50

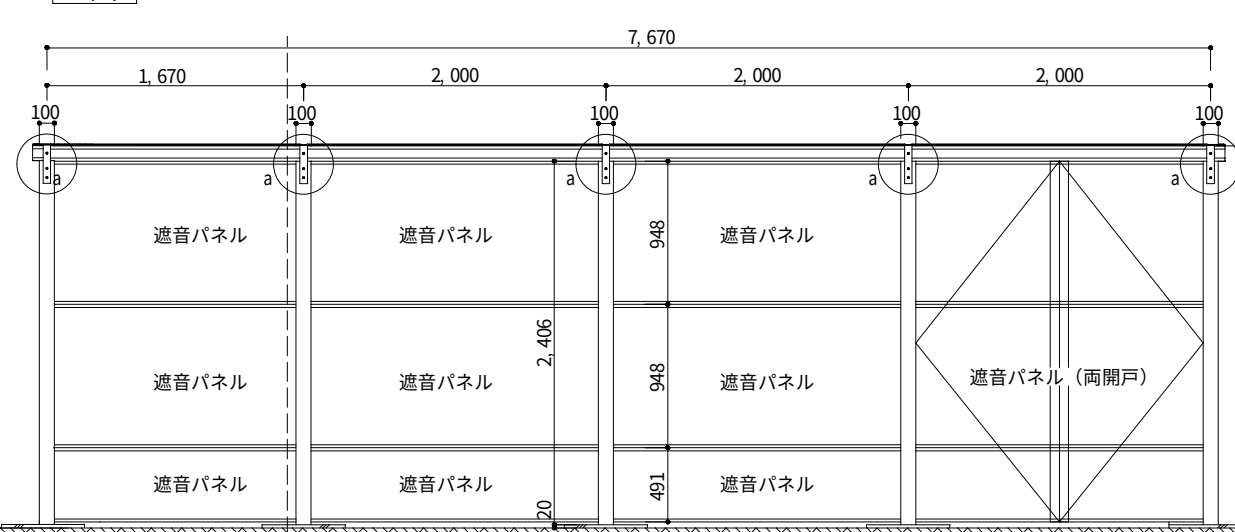
フェンス、遮音パネル参考図



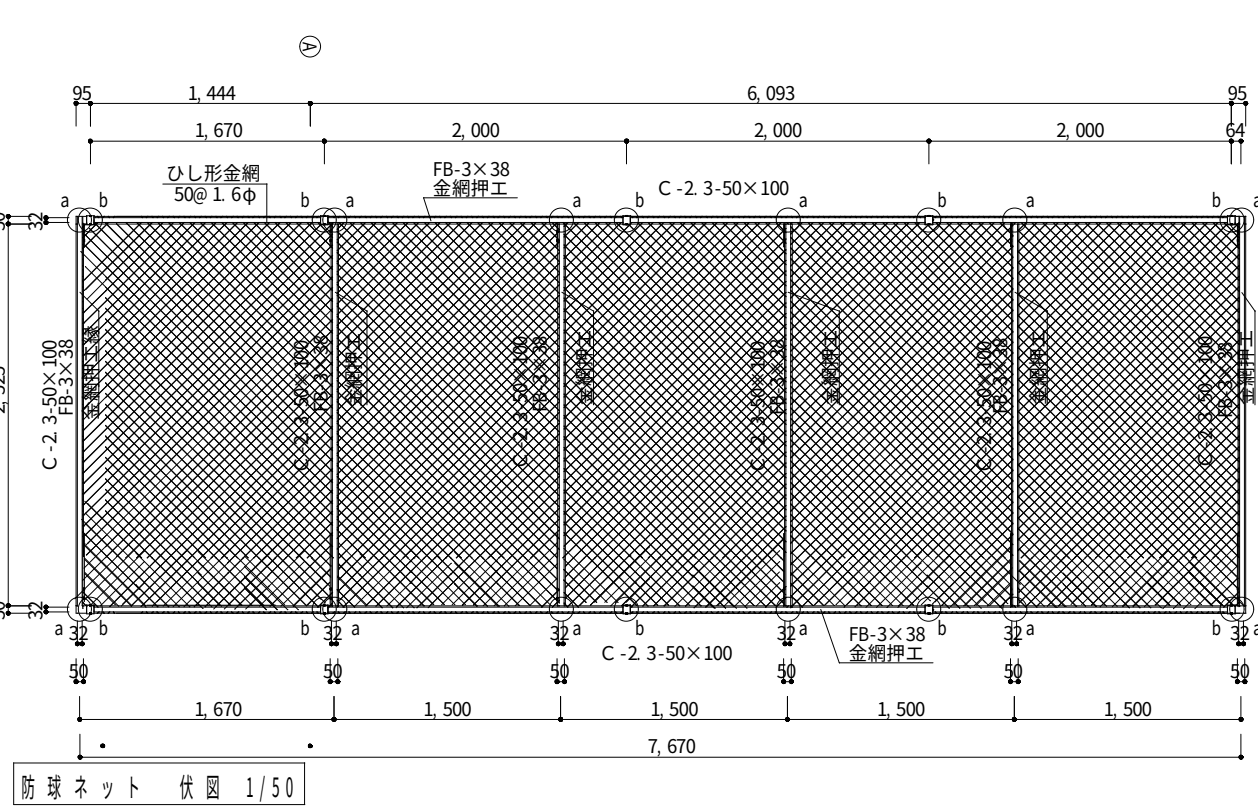
B, C面



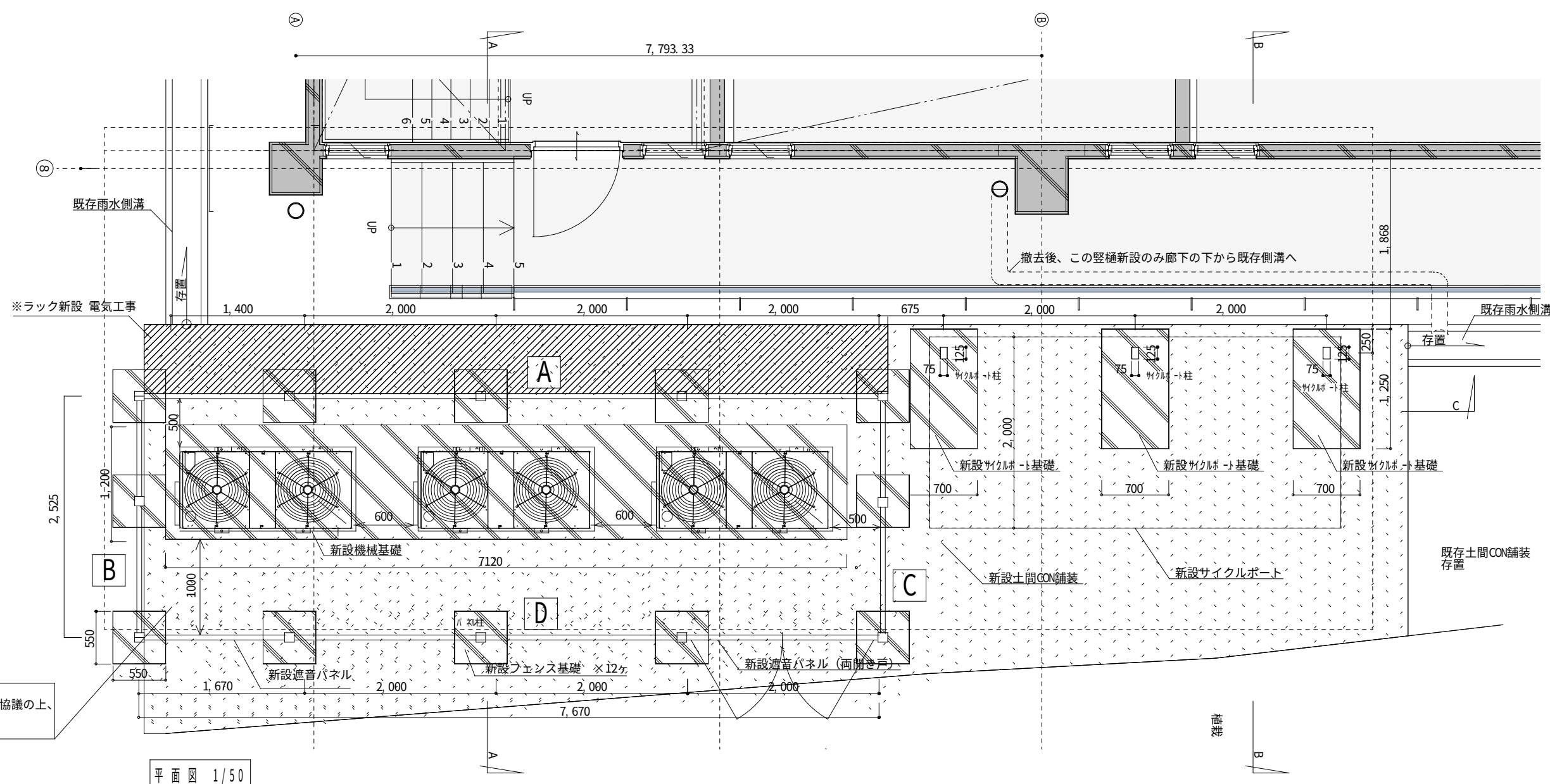
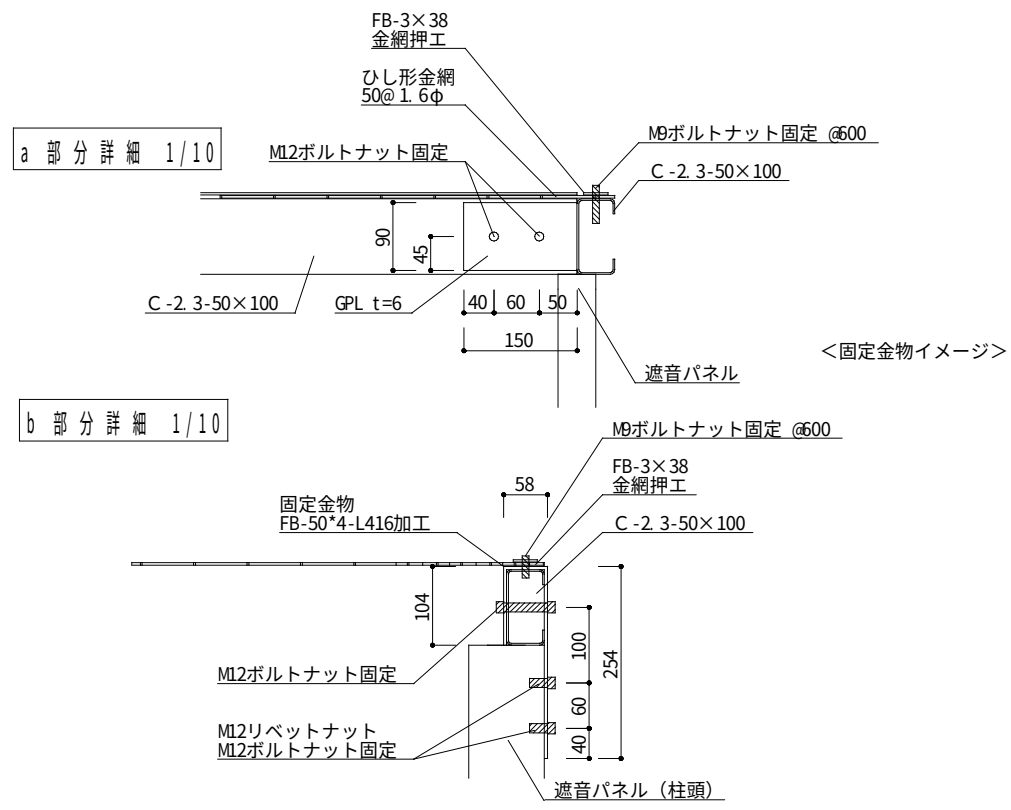
D面



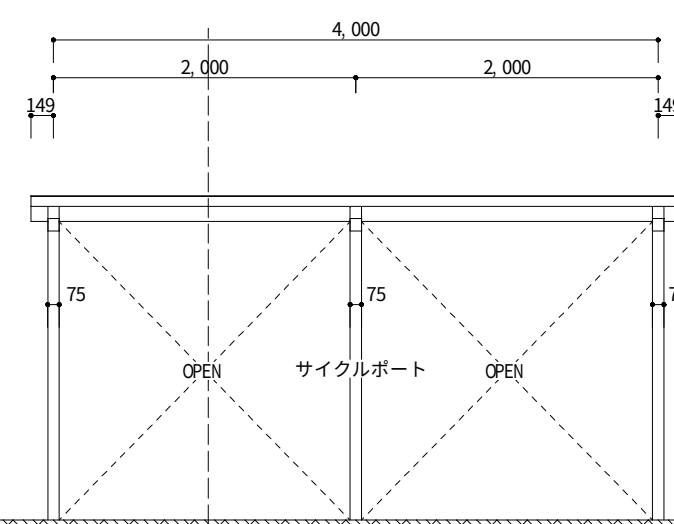
立面図 1/50



防球ネット 伏図 1/50

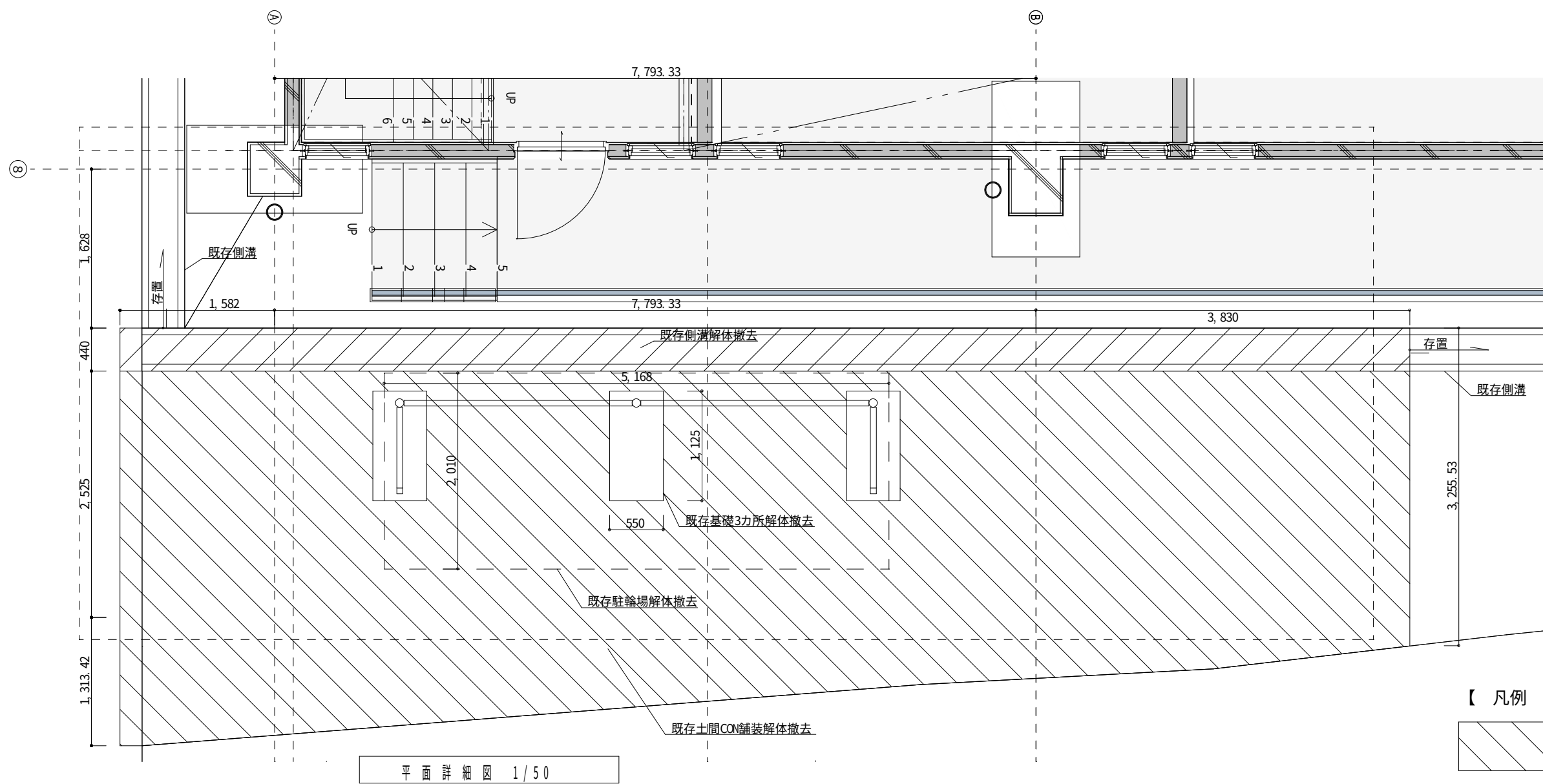


平面図 1/50

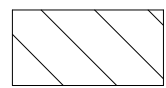


立面図 1/50

Project	木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事	第 1
Drawing	第一体育館 東側外部基礎、外構詳細図	
Scale	1/50, 1/10	
Date	2025/09	Nº



【 凡例 】

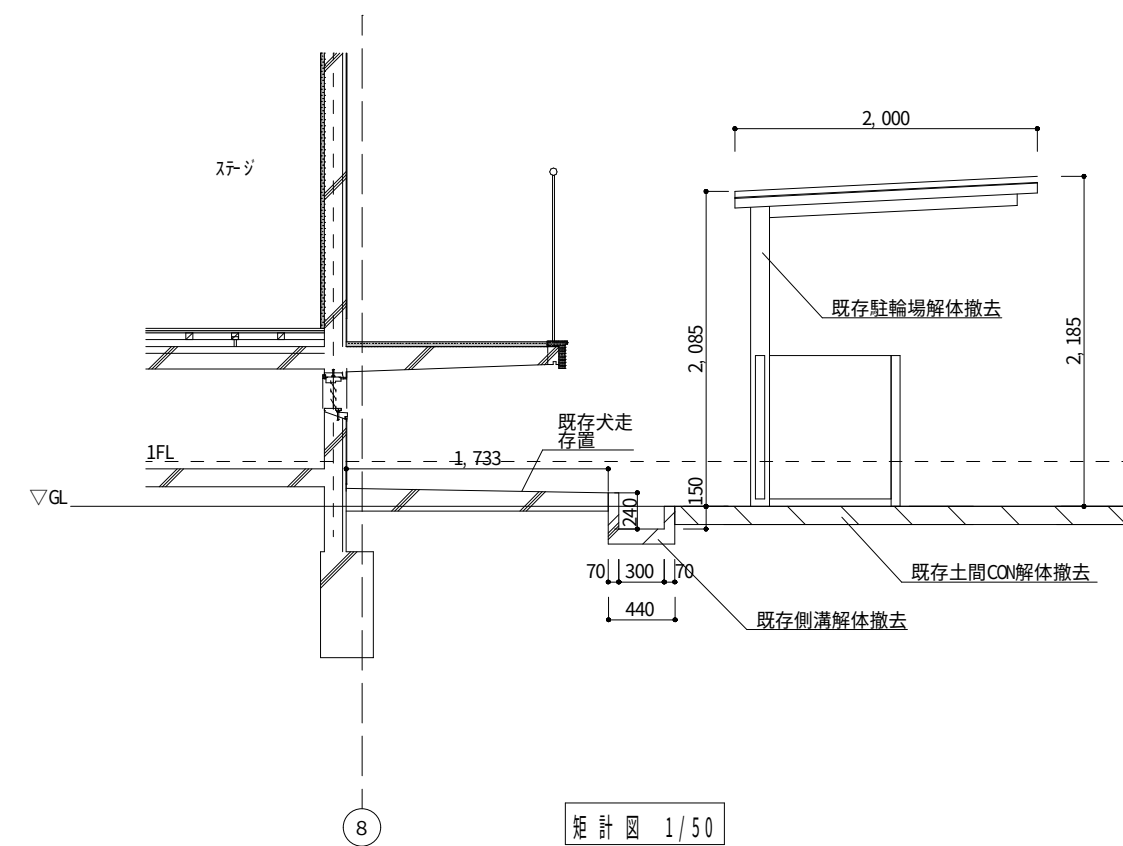


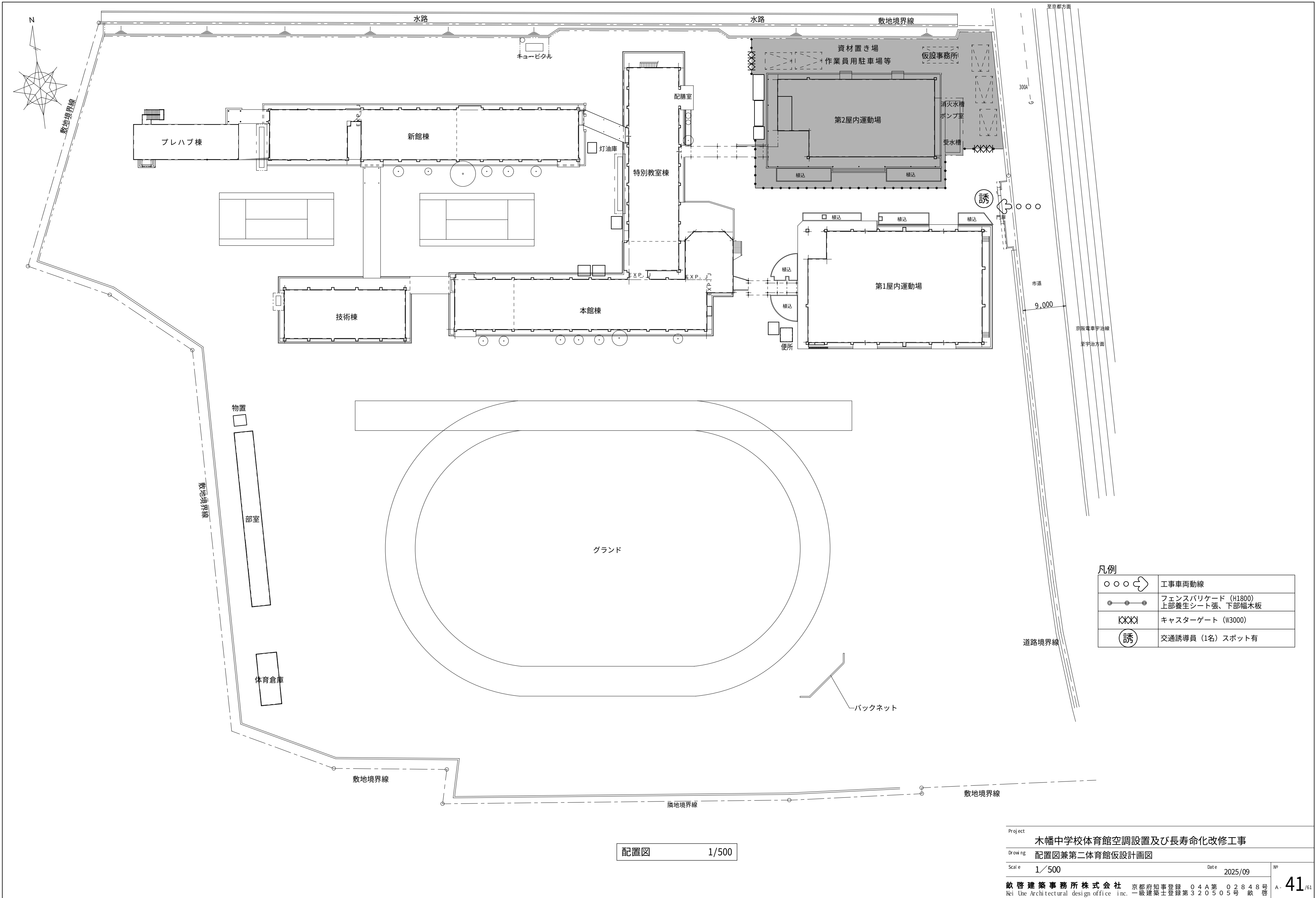
既存土間CON舗装解体撤去を示す



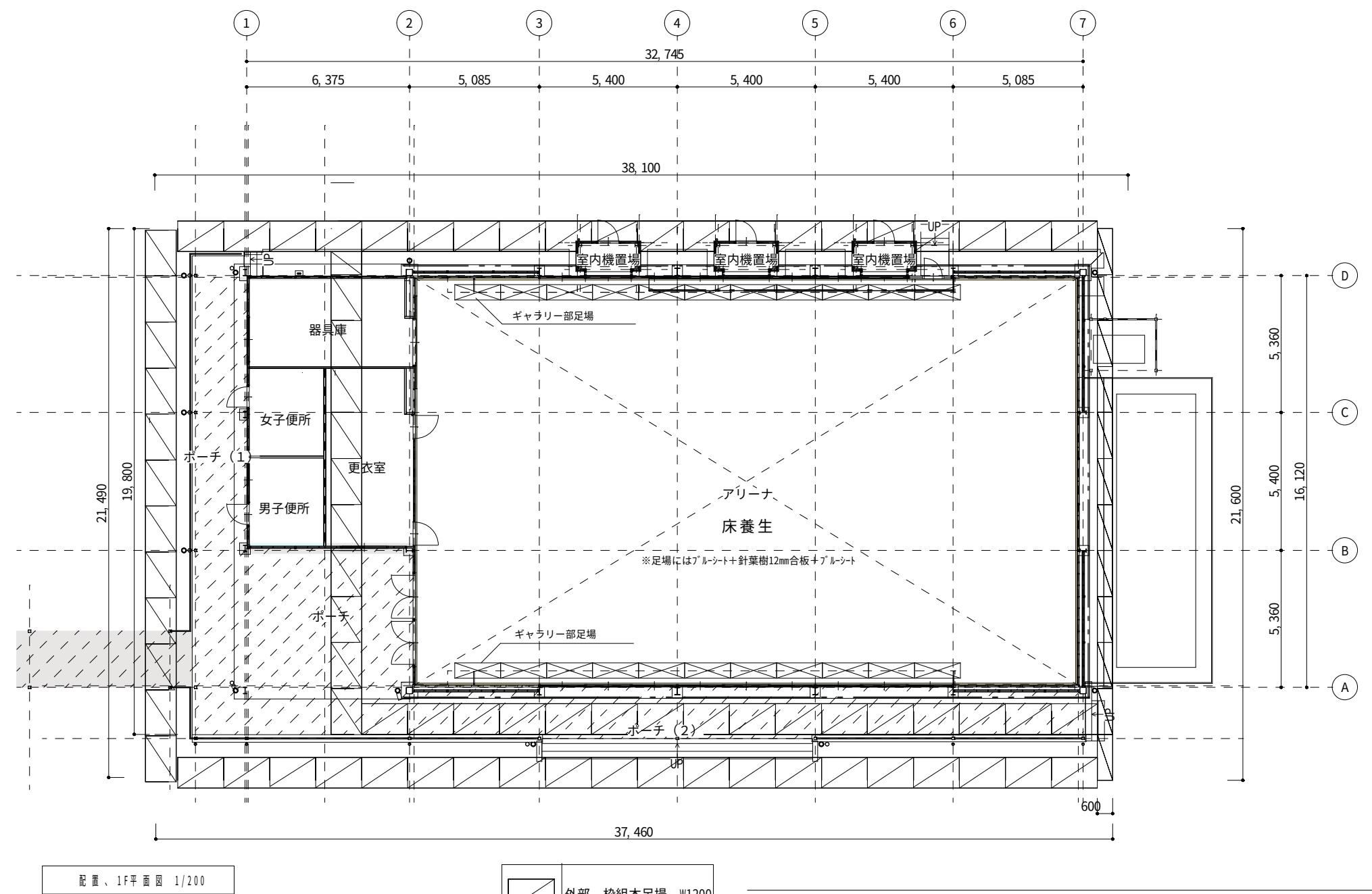
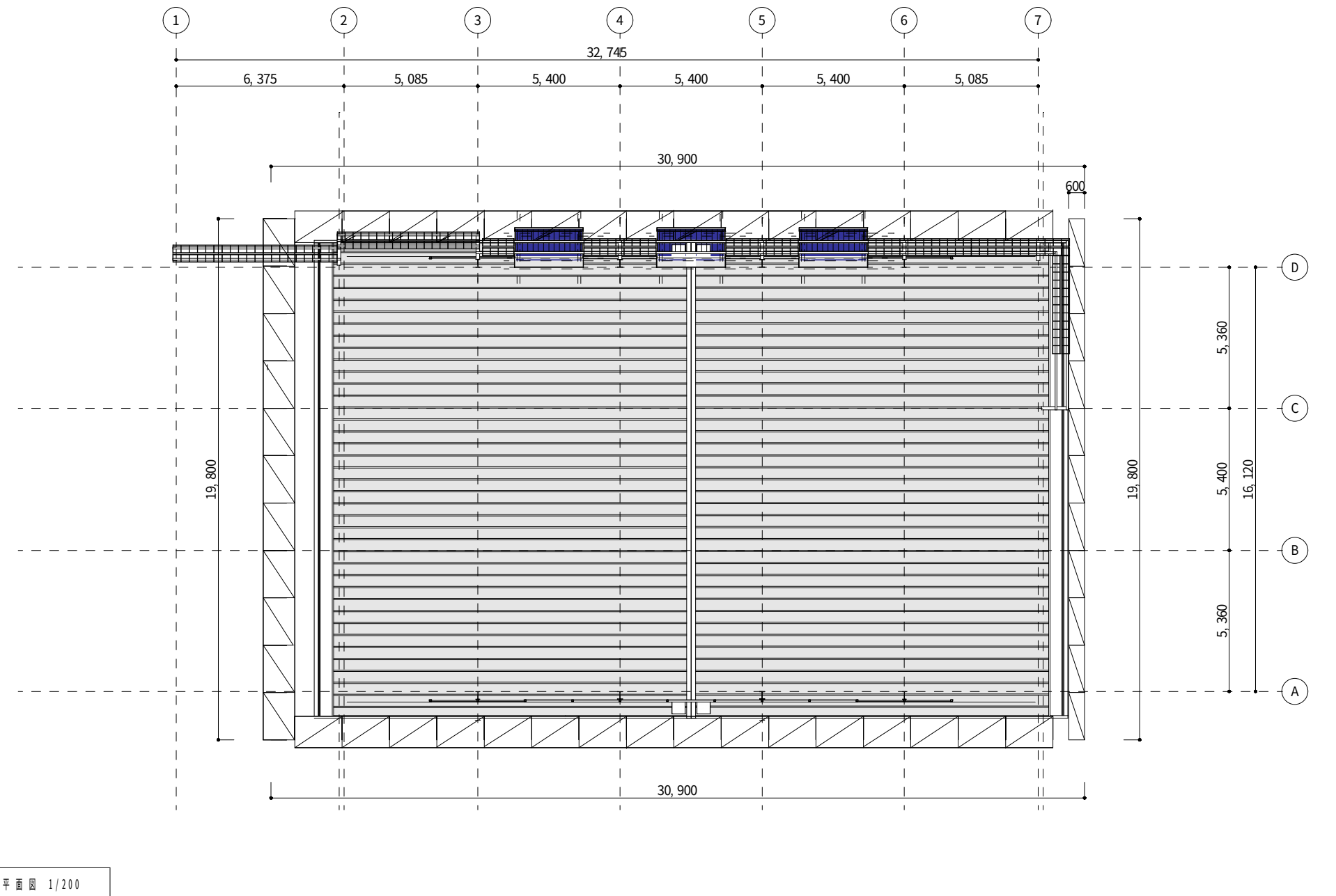
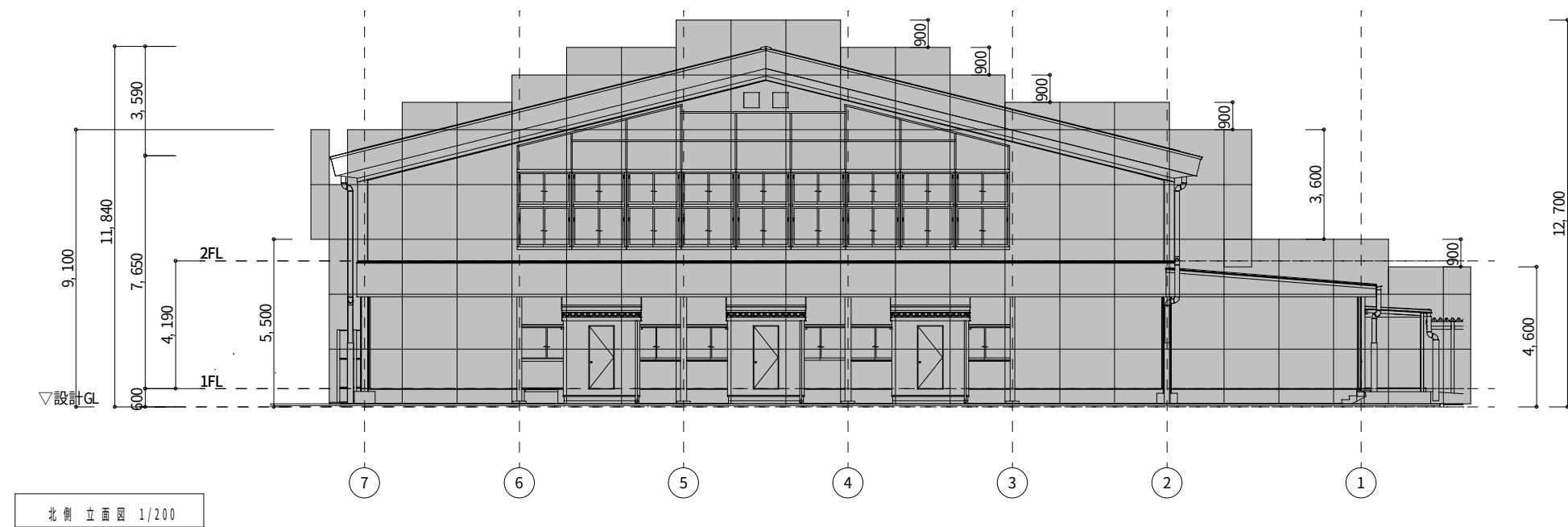
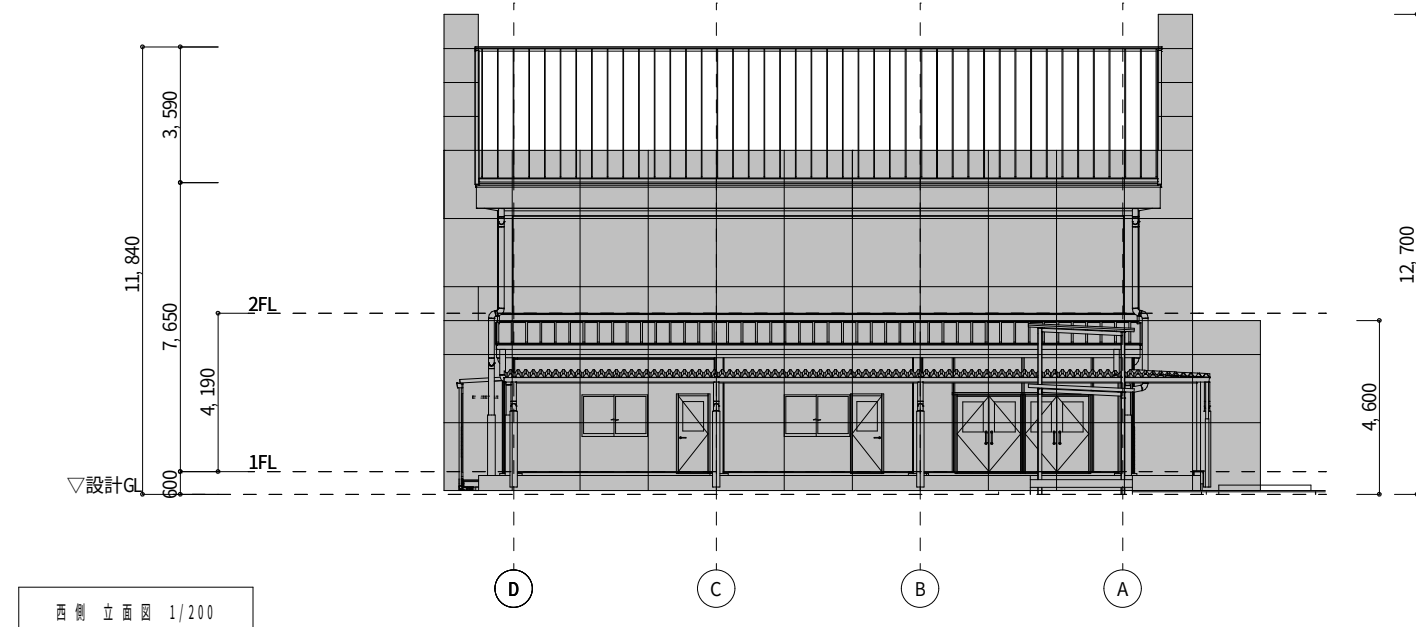
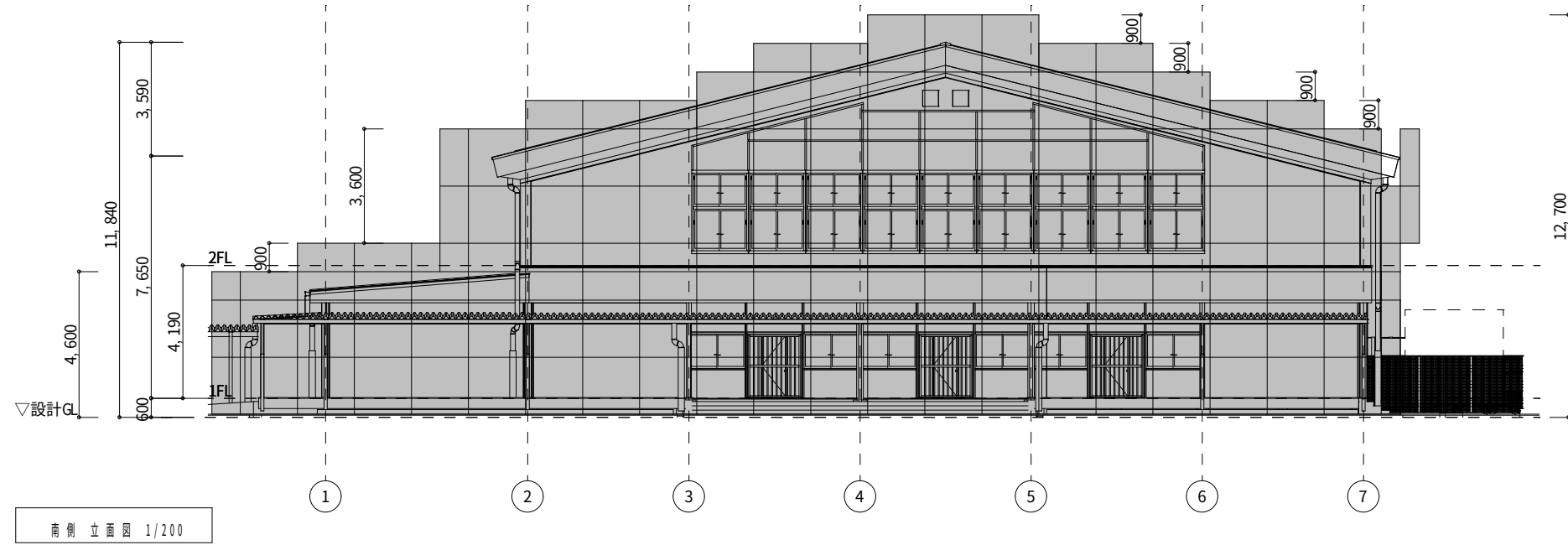
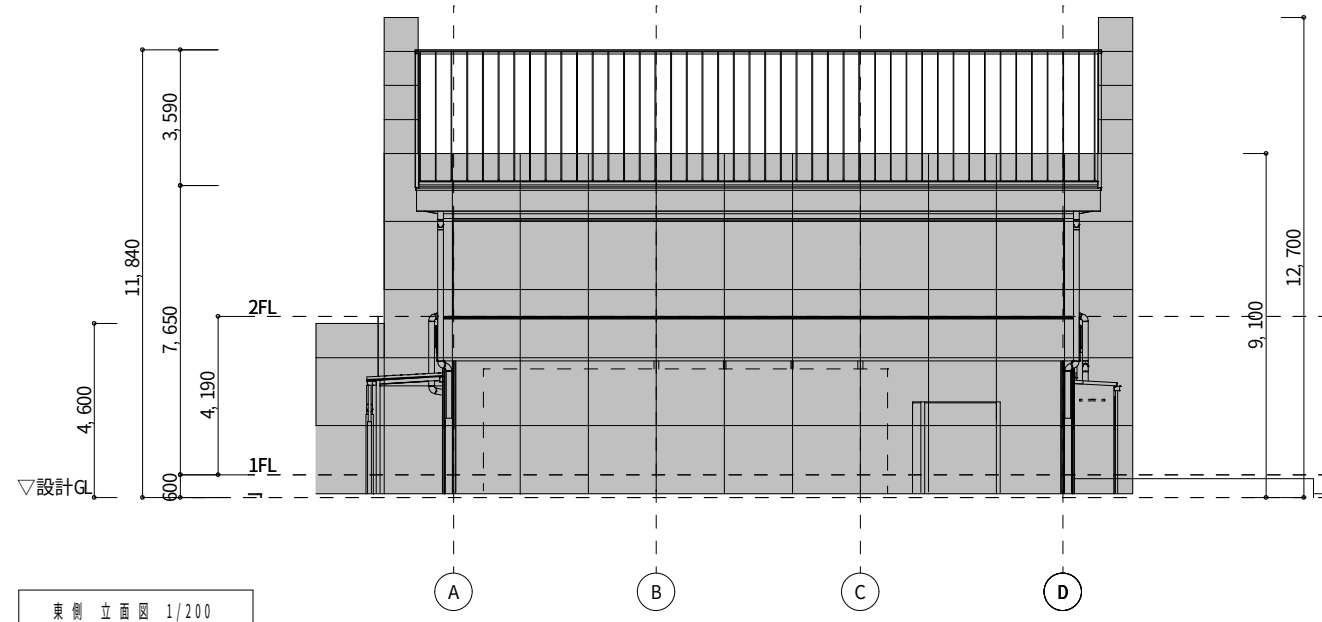
既存側溝解体撤去を示す

※ 土間CON、側溝、基礎解体後は整地



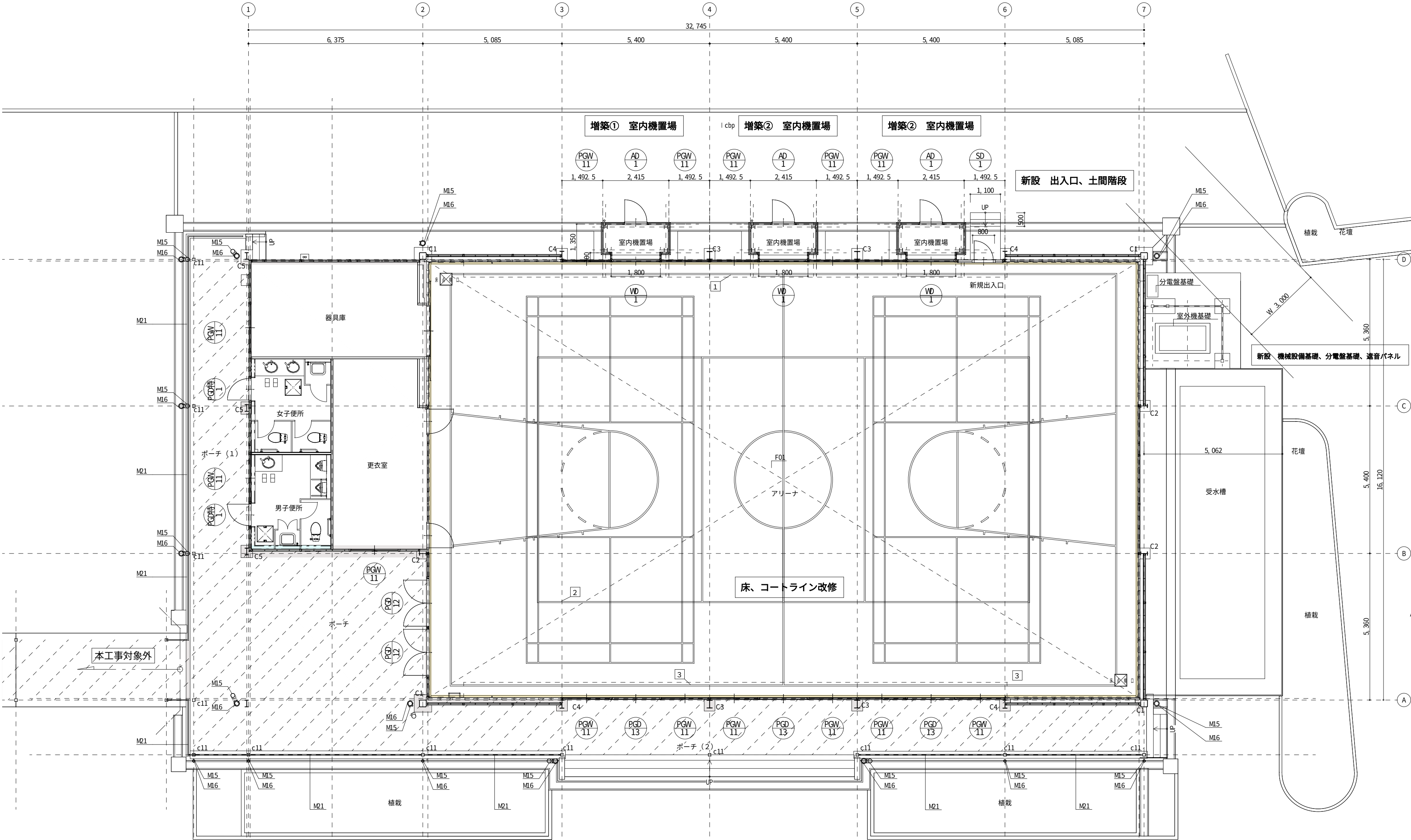


配置図 1/500



	外部 枠組本足場 W1200
	外部 枠組本足場 W600
	内部 枠組棚足場

仕上げ表							
	部位	記号	現況 仕上げ	下地	改修 仕上げ	下地	備考
屋根	大屋根	R01	GL鋼板 t=0.5 瓦棒葺き カバー工法		既存Asルーフィングの上に新規Asルーフィング張り 嵌合式立平葺（断熱工法）ｶﾞｰGL鋼板 t=0.4 金属屋根塗り替え用遮熱防食工法 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料	野地板、Asルーフィング存置 当初瓦棒葺き及びカバー工法部分全面撤去	
	下屋	R02	GL鋼板 t=0.5 瓦棒葺き		既存Asルーフィングの上に新規Asルーフィング張り 嵌合式立平葺（断熱工法）ｶﾞｰGL鋼板 t=0.4 金属屋根塗り替え用遮熱防食工法 低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系屋根用遮熱塗料	野地板、Asルーフィング存置 当初瓦棒葺き全面撤去	
	ポーチ	R03	折半H88		錆止+DP塗	ケレン下地調整	
	// 鉄骨 梁柱	R04	錆止+SOP塗		錆止+DP塗	ケレン下地調整	
外壁		W01	シルバーアロイ（キーストン）		低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	
		W02	シルバーアロイ（フラット）		低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	
	軒先化粧パネル	W03	SAPL-1.6		ｶﾞｰGL鋼板張り t=0.4	SAPL存置	
	幕板化粧パネル	W04	SAPL-1.6		低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	
	下屋、鼻隠し・ケラバ	W05	カラー鉄板 t=0.4		R03に準ずる		
	鉄骨柱化粧部分	W06	錆止+SOP塗		低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	
	鉄骨柱化粧パネル	W07			低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	
	外部巾木	W08	モルタル鏝押え		樹脂モルタル補修	クラック、浮き補修 高圧洗浄 下地調整	
外部天井	軒裏	C01	角波鉄板張		低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	
床	アリーナ	f1	フローリング		下塗りウレタンクリアー3回塗及びポリッシャー掛け コートライン塗装後ウレタンクリアー仕上げ（4回目）	全面フロアードラムサンンダー掛け 既存塗膜除去 不良箇所部分補修	
その他							
	大屋根棟包み	M01	GL鋼板 t=0.5 瓦棒葺き カバー工法		R01に準ずる		
	// 内樋笠木	M02	GL鋼板 t=0.5 加工 カバー工法		R01に準ずる		
	// ケラバ包	M03	GL鋼板 t=0.5 加工 カバー工法		R01に準ずる		
	// 軒先	M04	GL鋼板 t=0.5 加工 カバー工法		R01に準ずる		
	// 谷コイル	M05	谷コイル		谷コイル	下地力骨存置 谷コイル撤去	*印は立上り部を示す
	下屋 軒樋	M06	軒樋		撤去、新設		
	// 折半取合水切	M07			R02に準ずる		
	// 軒先	M08			R02に準ずる		
	水切	M09			低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	対象範囲は外部 見え係りのみ
	パネル下端見切	M10			低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	//
	方立	M11			低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	//
	方立受（土台水切）	M12			低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	//
	窓台	M13			低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	//
	マグサ	M14			低汚染・超耐久型ふっ素樹脂系遮熱塗料	ケレン下地調整	//
	縦樋	M15	カラーVP管		撤去、新設		
	縦樋-保護管	M16	銅管125A S O P 塗 L=1800		DP塗	ケレン下地調整	
	妻壁ウェザーカバー	M17	DP塗		DP塗 コーキング打ち替え	ケレン下地調整 既存コーキング撤去	
	ポーチ 手摺	M21	錆止+SOP塗		錆止+DP塗	ケレン下地調整	

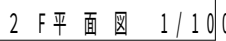


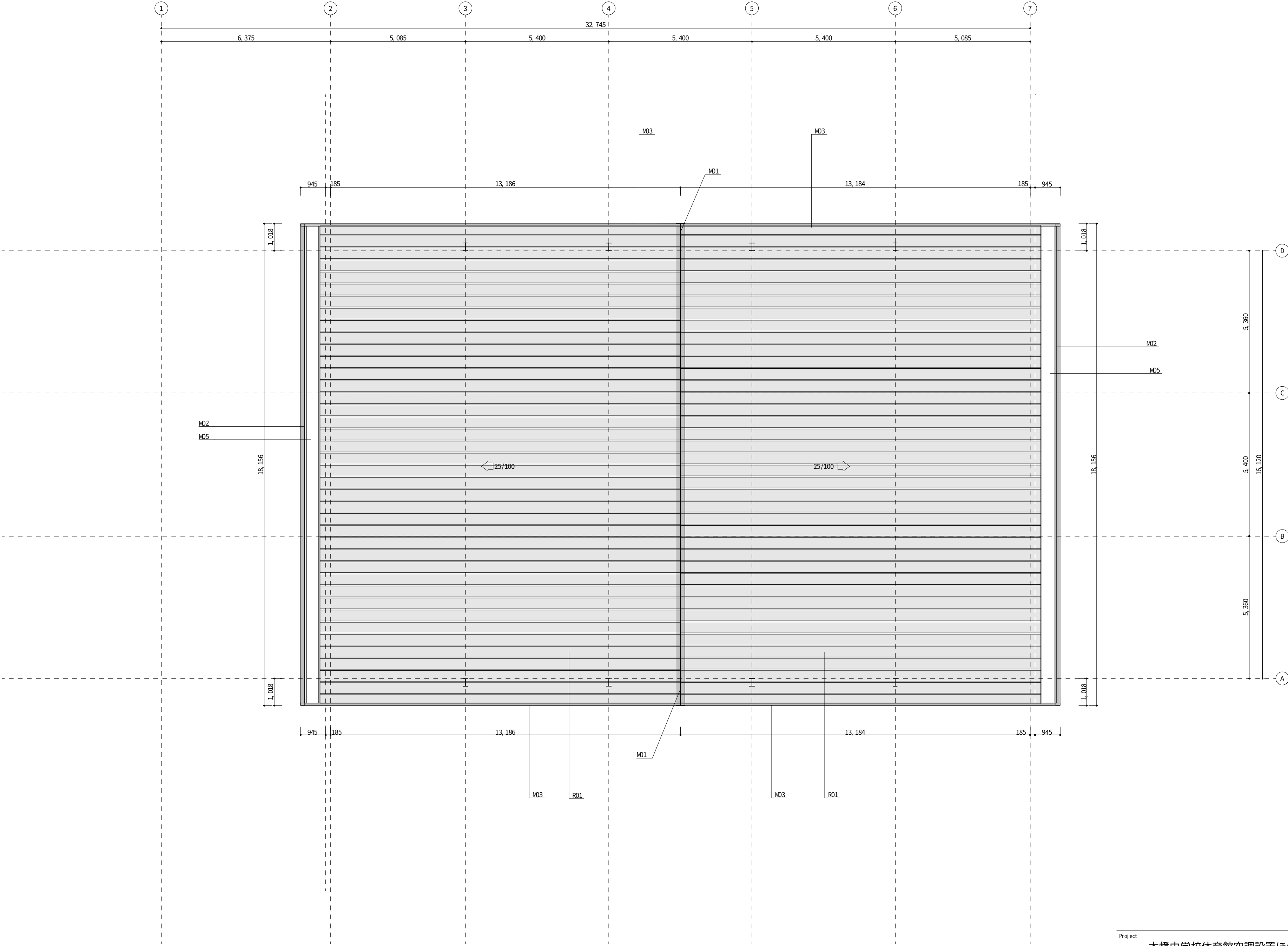
記号	説明	名称	仕上	記号	備考
性					
C 1	□ -250 X 250 X 9.0	W06	外部見えがかり部分のみ対象		
C 2	H-250 X 125 X 6 X 9	"	"		"
C 3	H-294 X 200 X 8 X 12	"	"		"
C 4	H-300 X 150 X 6.5 X 9	"	"		"
C 5	H-250 X 125 X 6 X 9	"	"		"
c11	□ -100 X 100 X 3.2	R04	ポーチ敷骨化部分		

コートライン内訳表						
記号	種別	コートサイズ	ライン	ライン幅	面数	色
1	バスケットボールコート (メイン)	24000×15000	実線	50mm	1面	白色
2	バレーボールコート (メイン)	18000×9000	実線	50mm	1面	黄色
3	バドミントンコート	13400×6100	実線	40mm	2面	緑色

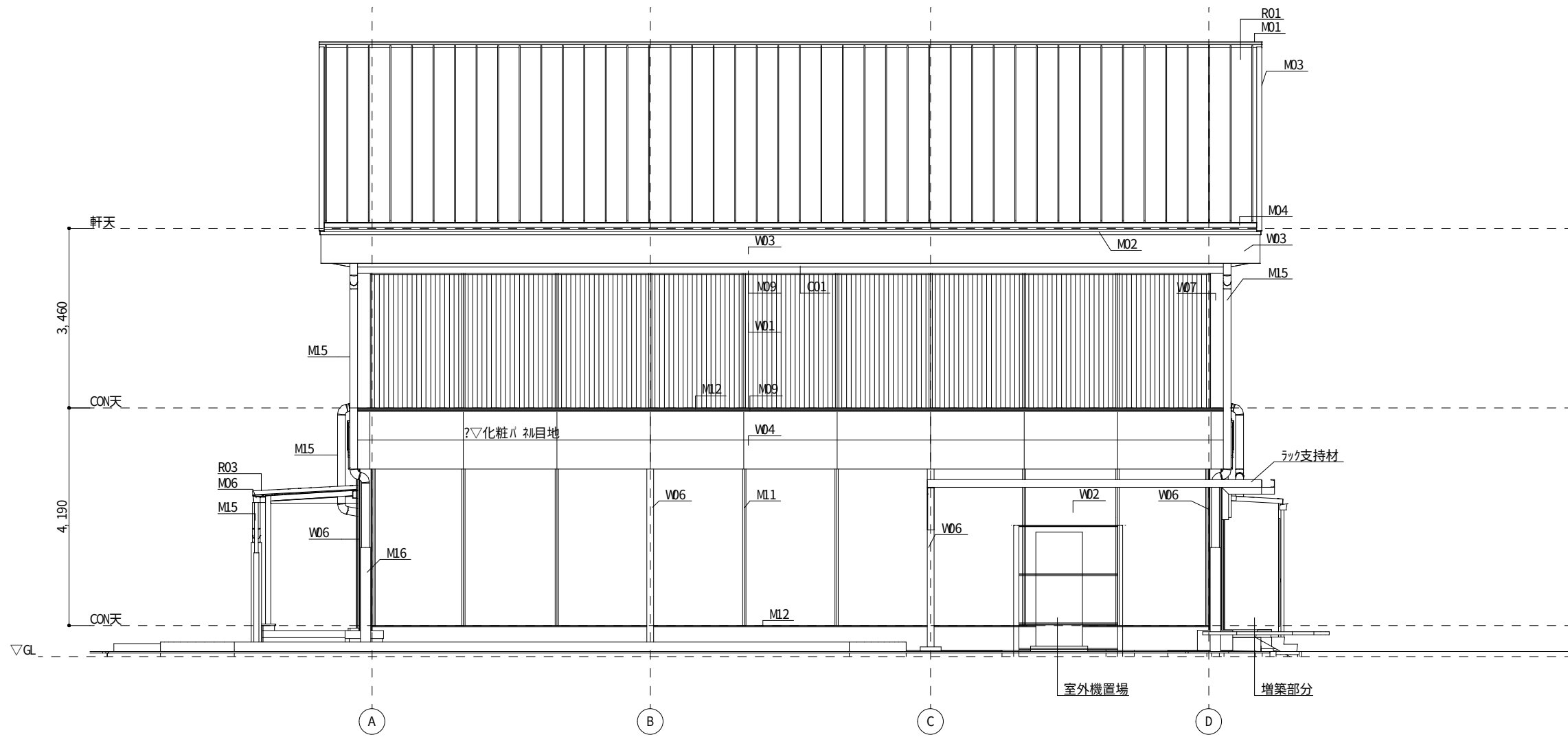
Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事
Drawing 第二体育館 1階平面図
Scale 1/100
Date 2025/09

第2

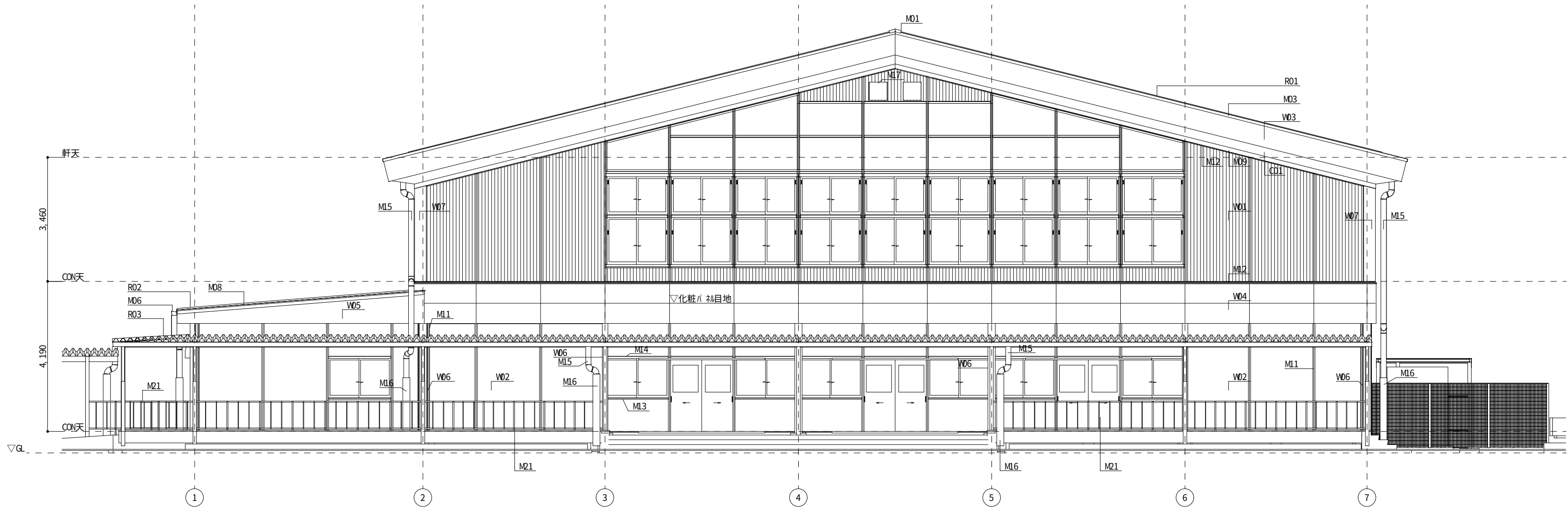




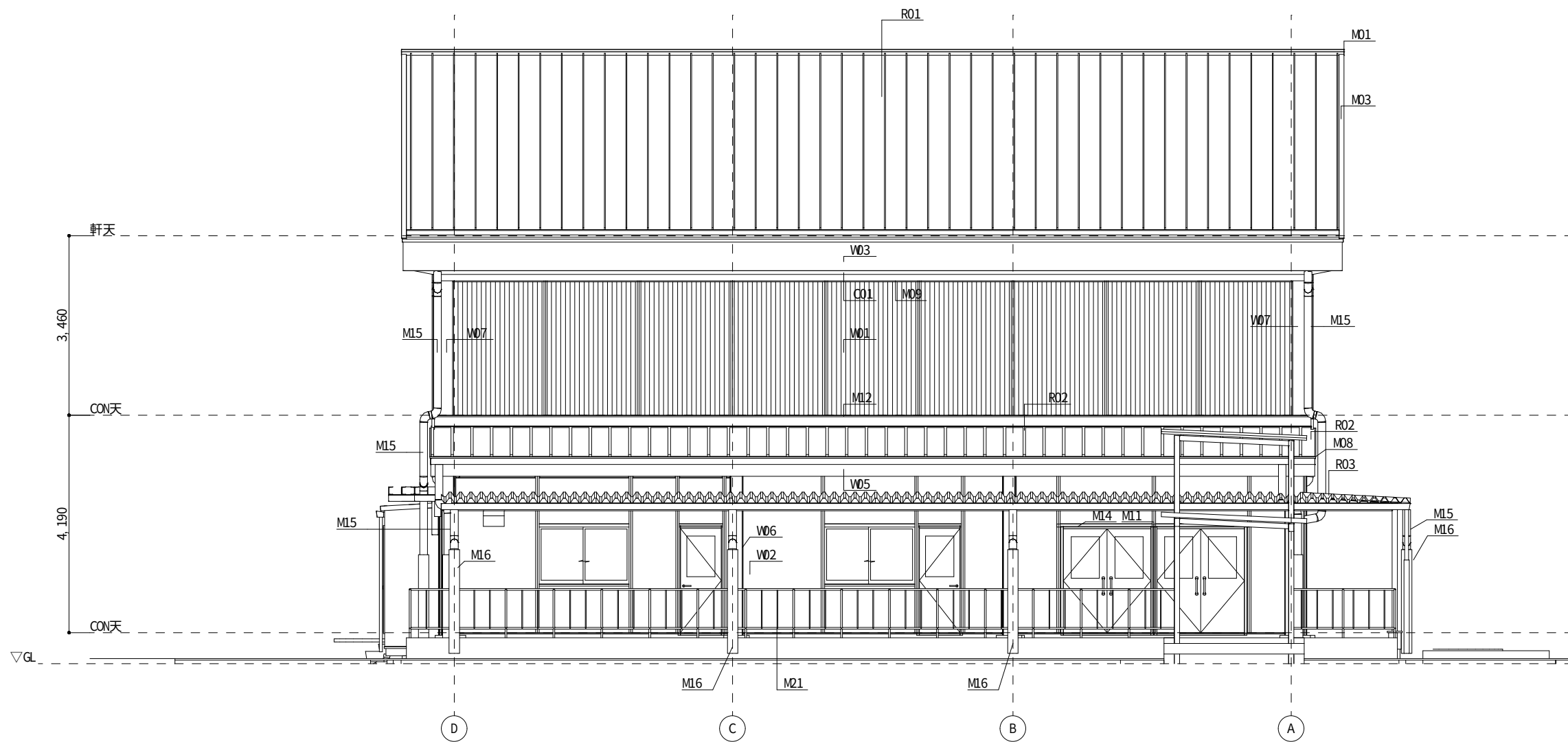
屋根伏図 1/100



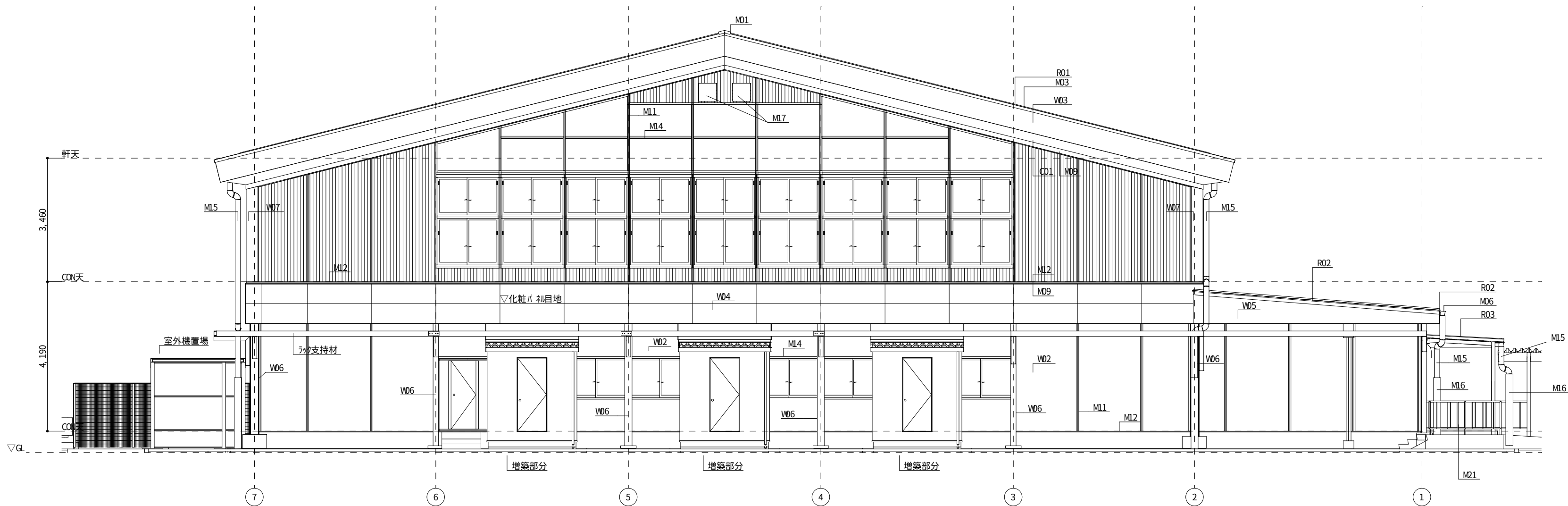
東側立面図



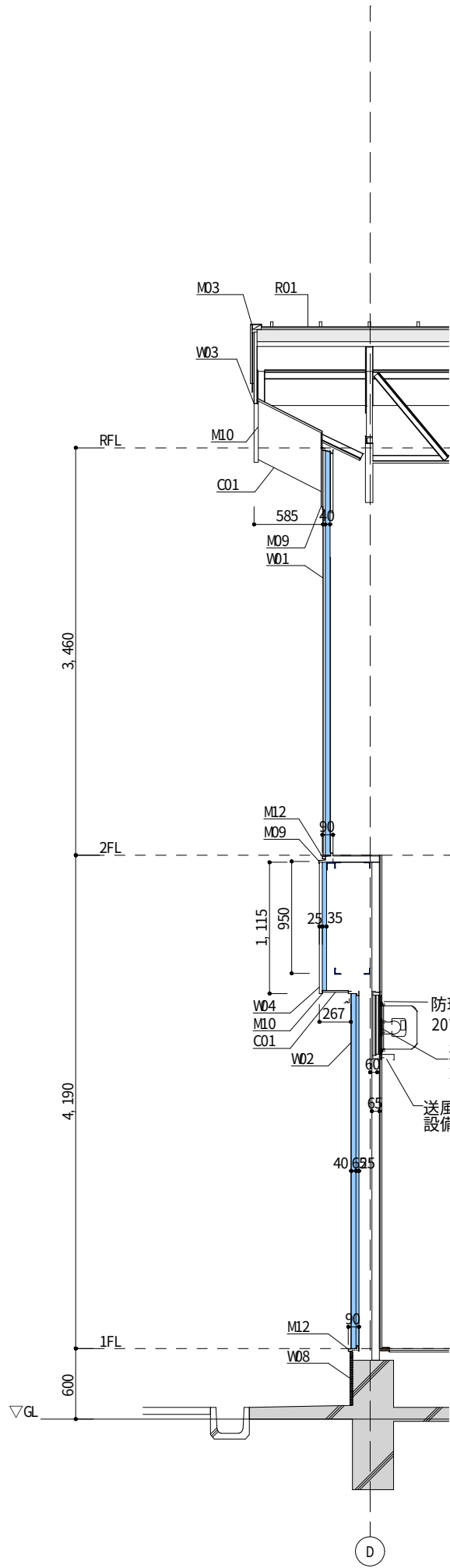
西側立面図



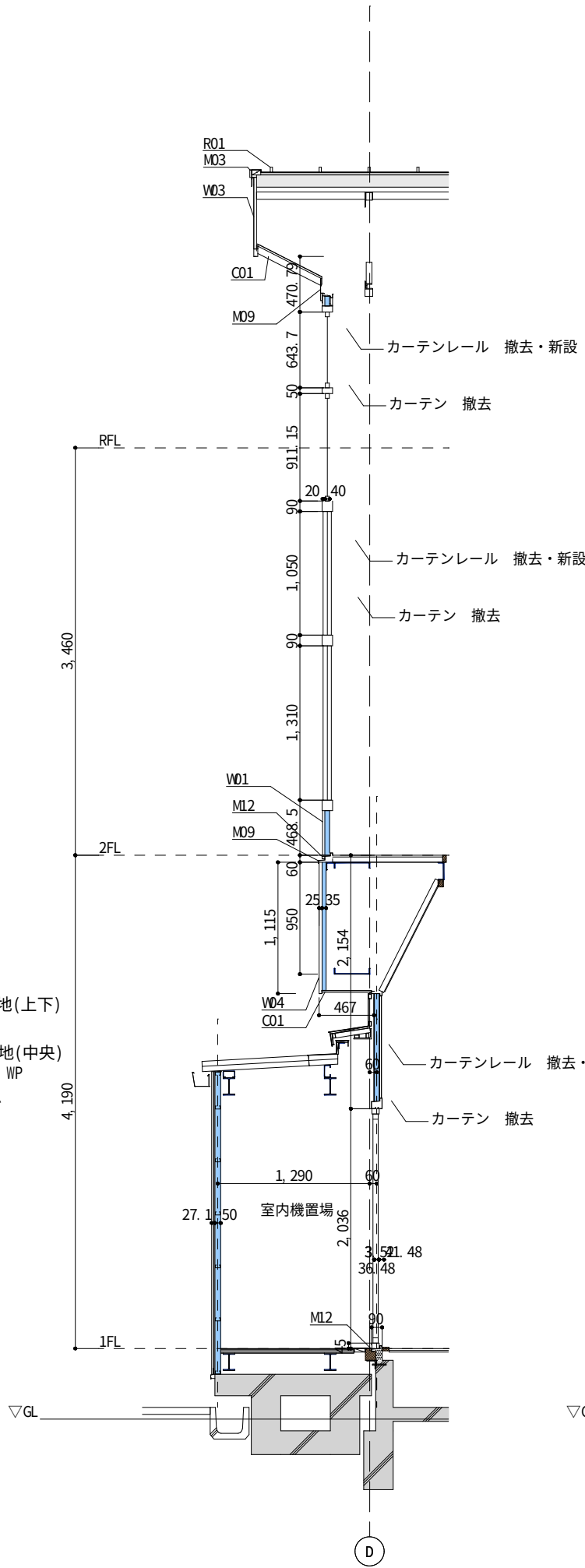
西側立面図



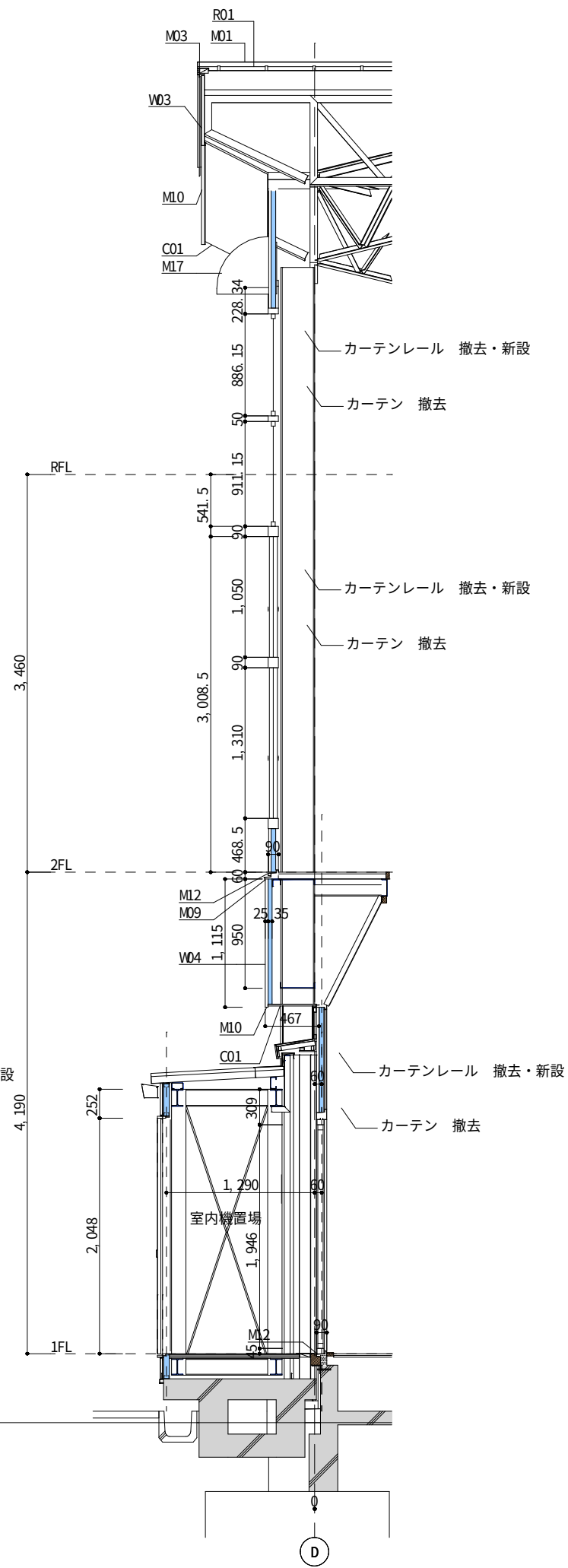
北側立面図



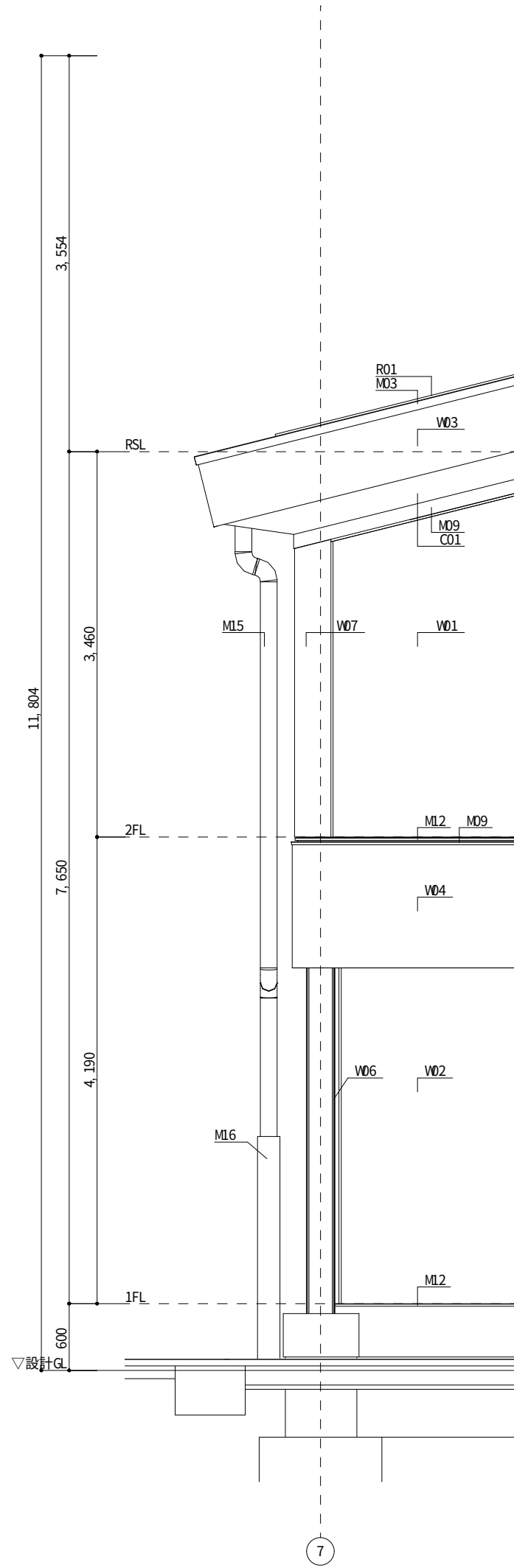
6-7間 断面図 1/50



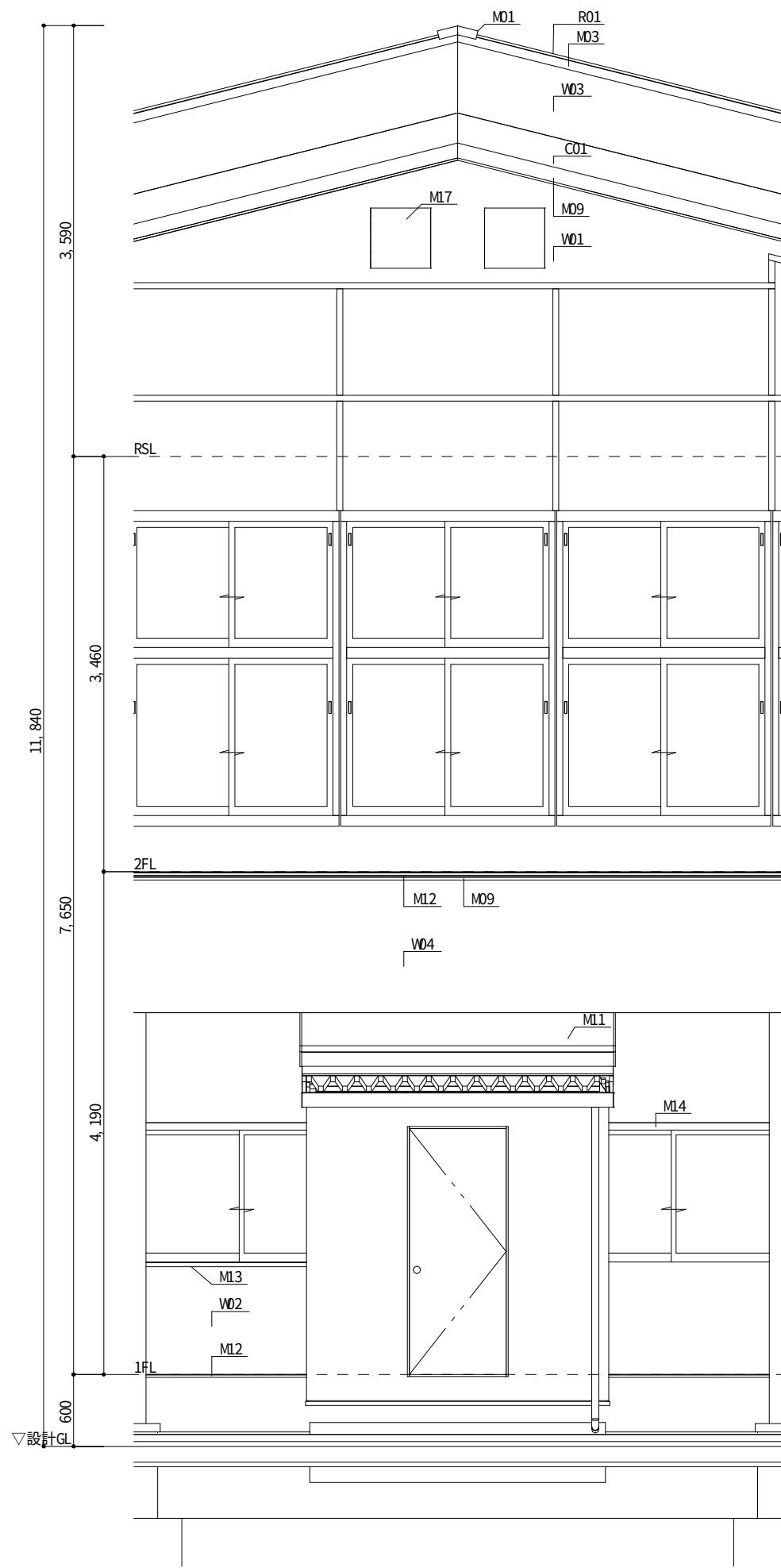
5-6間 断面図 1/50



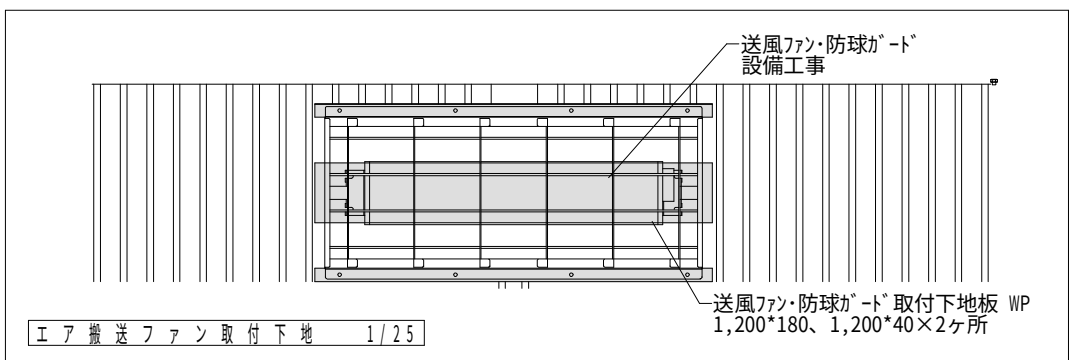
4-5間 断面図 1/50



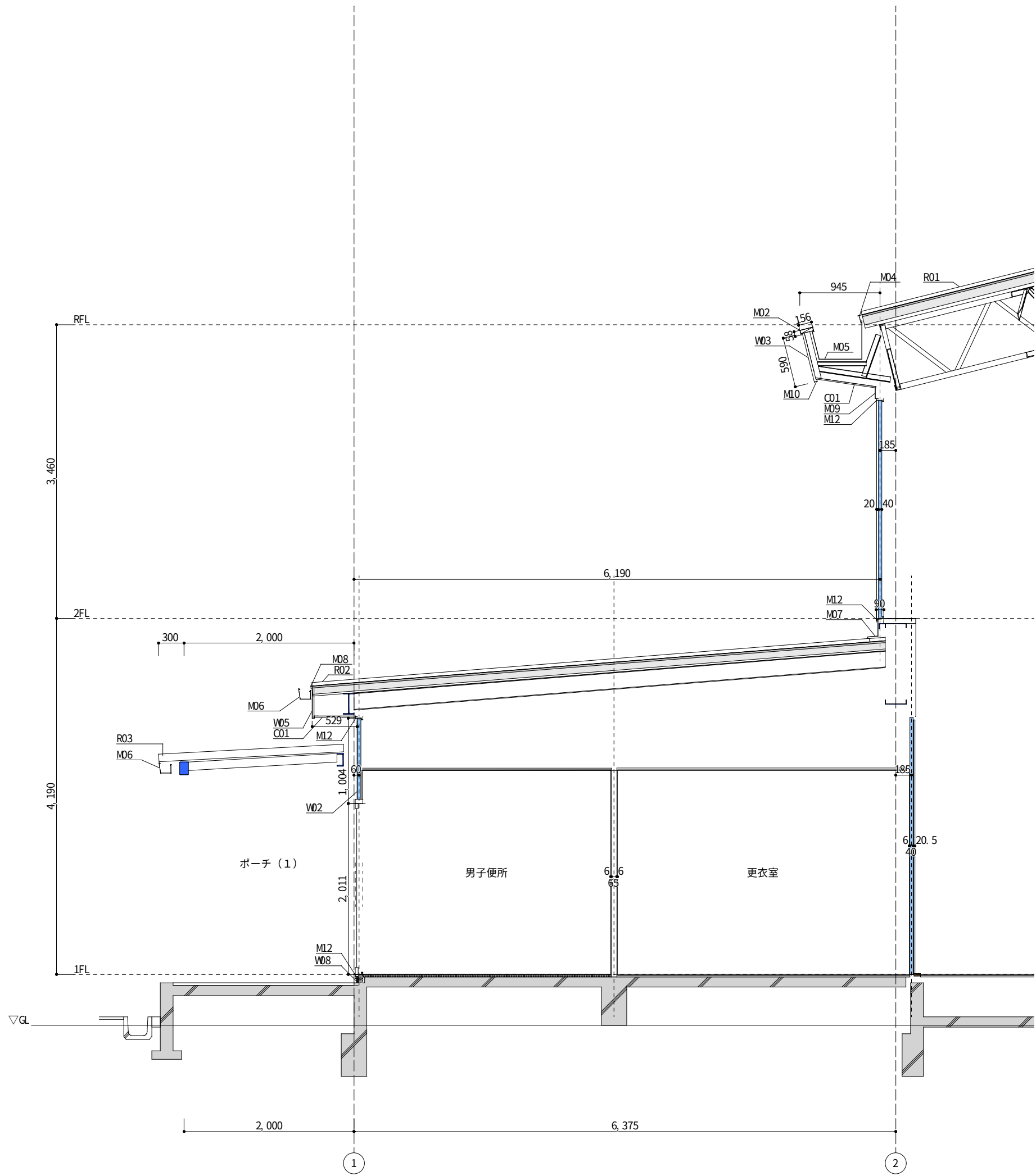
北側 立面図 1/50



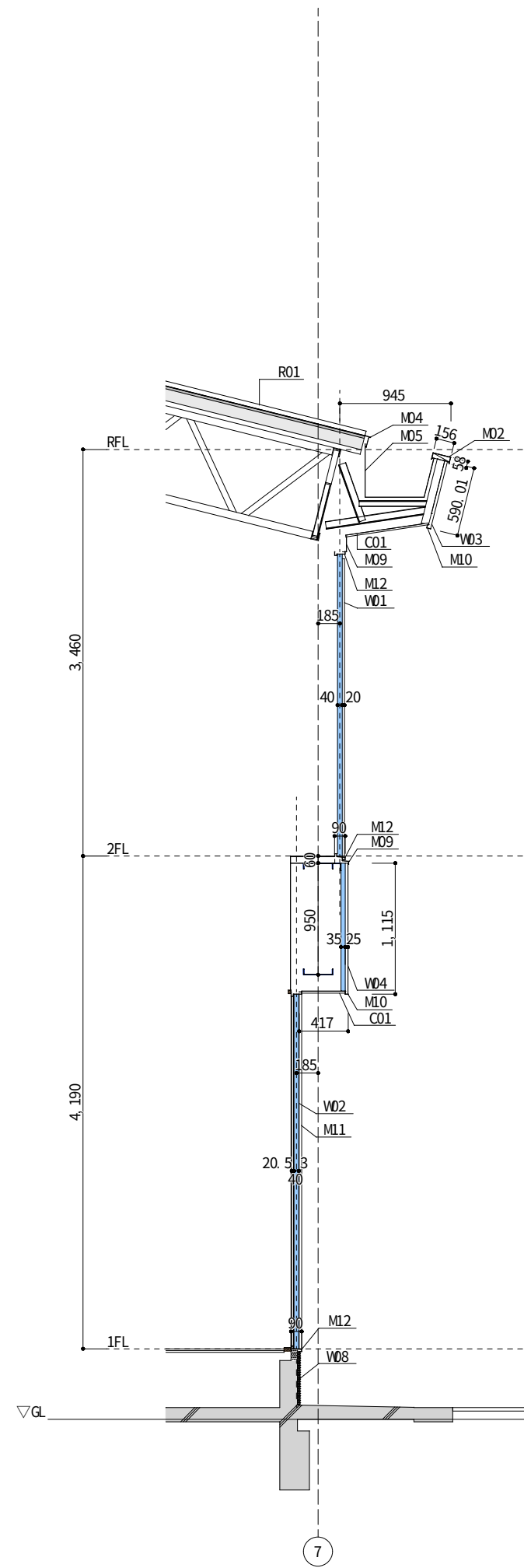
北側 立面図 1/50



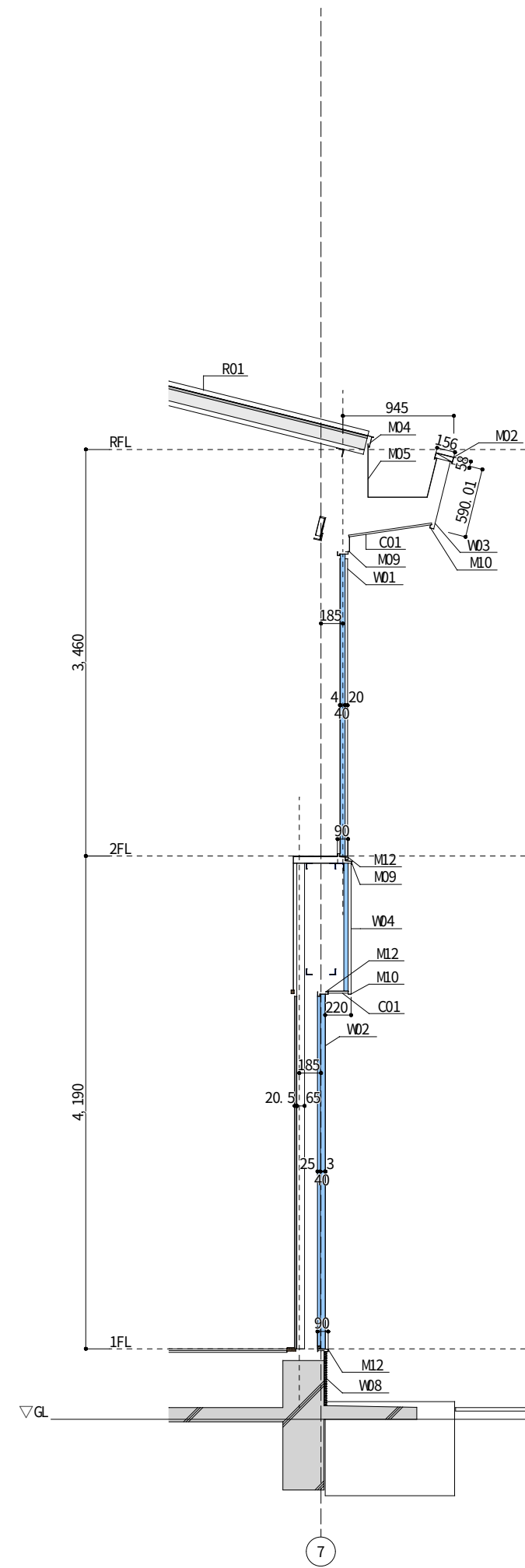
エア流通ファン取付下地 1/25



B-C 間 断面図 1/50



B-C 間 断面図 1/50



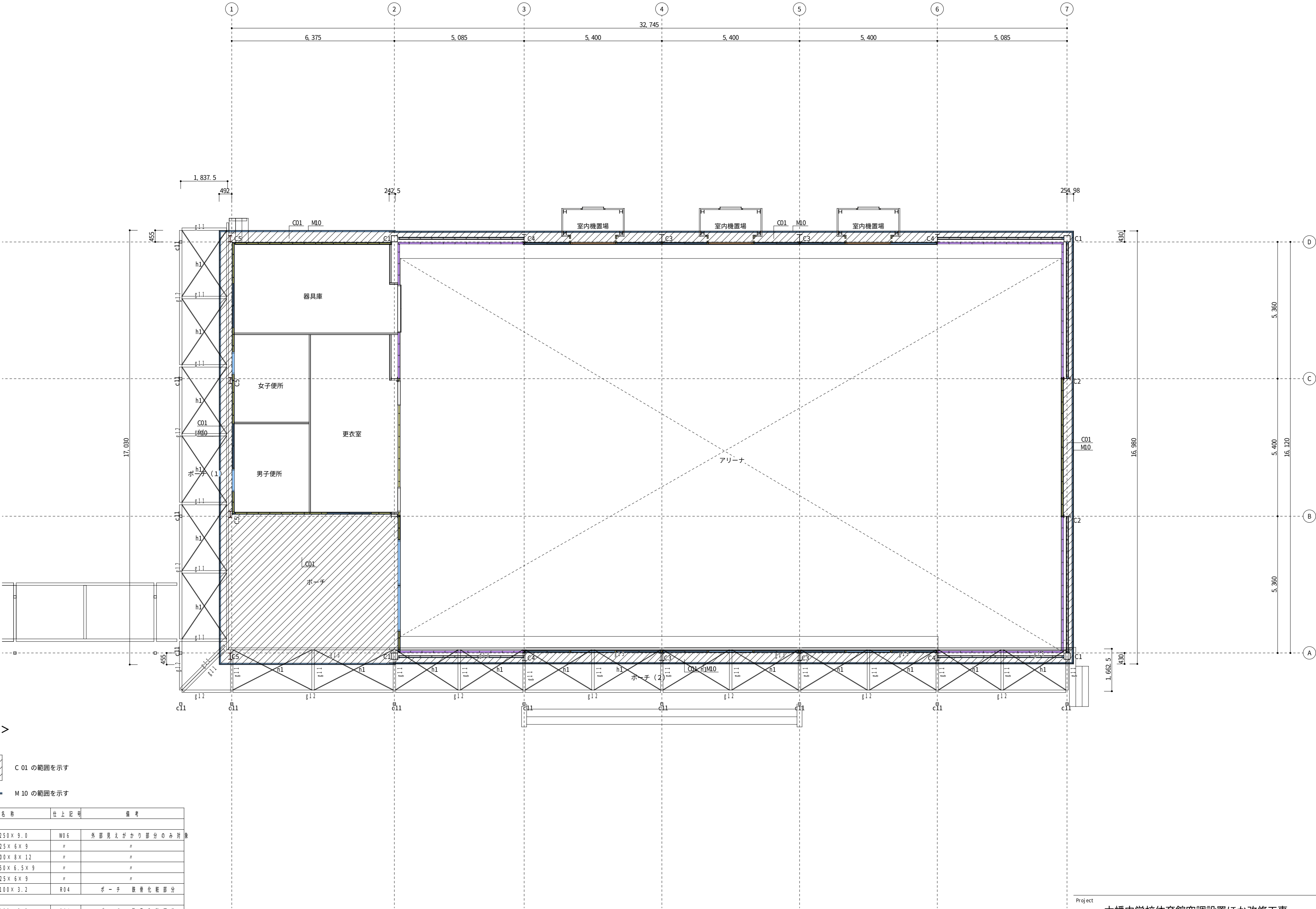
C-D 間 断面図 1/50

< 図中凡例 >

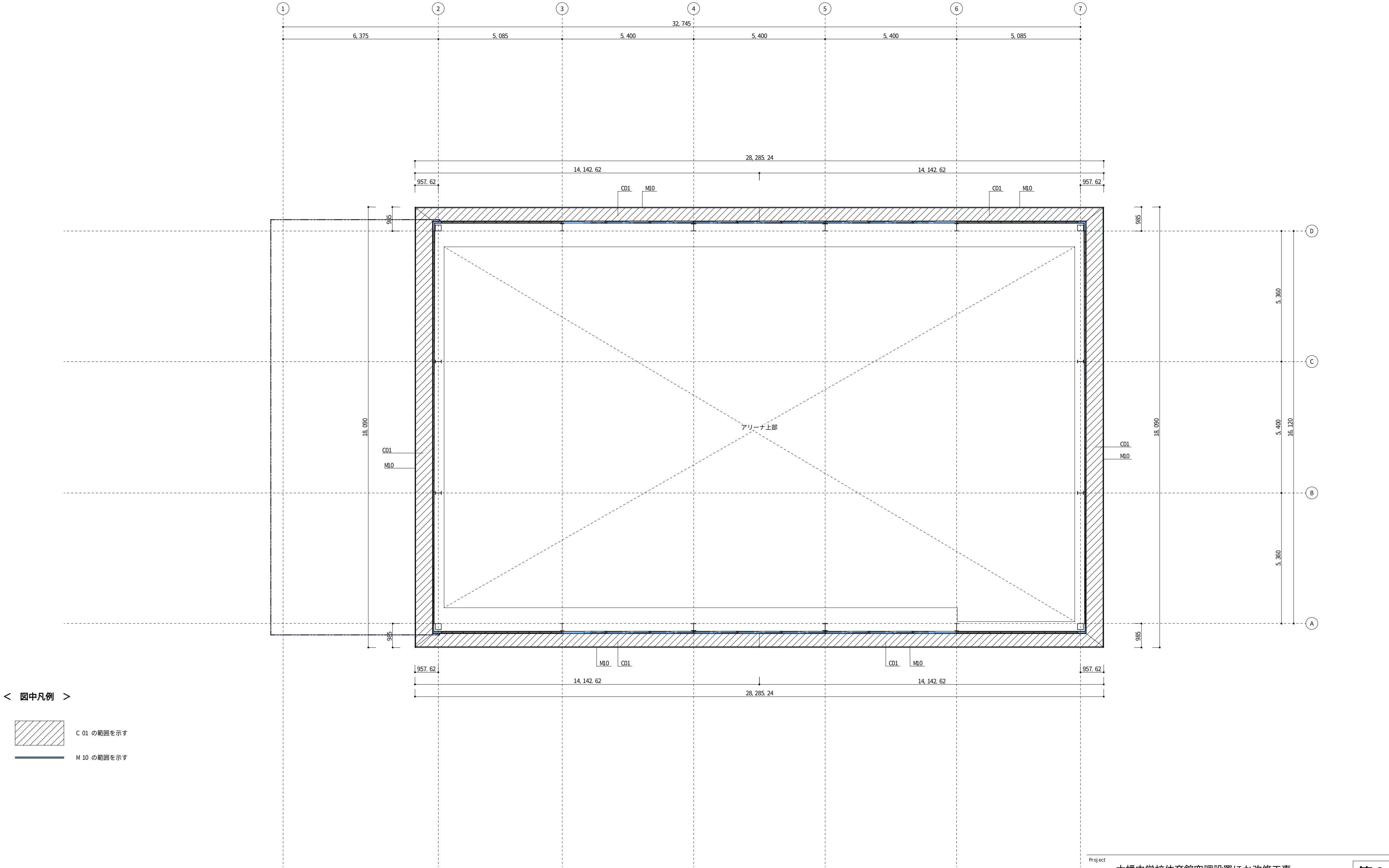
C 01 の範囲を示す

M 10 の範囲を示す

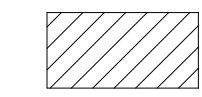
記号	名称	仕上	記号	備考
柱				
C 1	□ - 250×250×9.0	W06		外部見えがかり部分のみ対象
C 2	H-250×125×6×9	〃		〃
C 3	H-294×200×8×12	〃		〃
C 4	H-300×150×6.5×9	〃		〃
C 5	H-250×125×6×9	〃		〃
c 11	□ - 100×100×3.2	R04		ポーチ 鉄骨化範囲部分
梁				
g 11	□ - 100×100×3.2	R04		ポーチ 鉄骨化範囲部分
g 12	□ - 150×100×3.2	〃		〃
g 13	C - 150×75×6.5×10	〃		〃
水平ブレース				
h 1	ターンバックル M12	R04		ポーチ 鉄骨化範囲部分

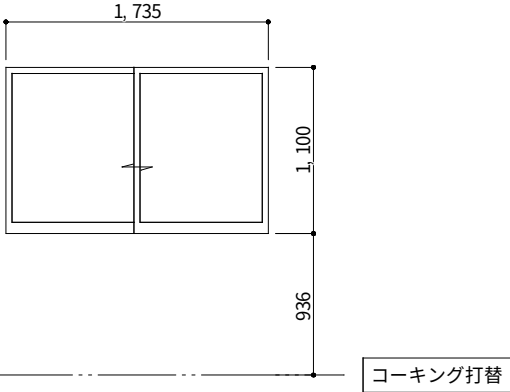
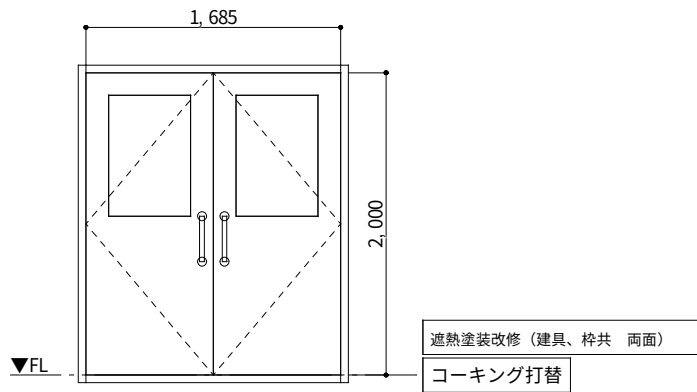
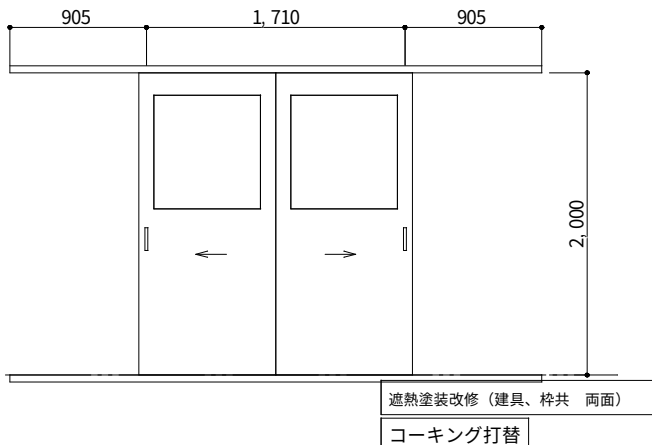
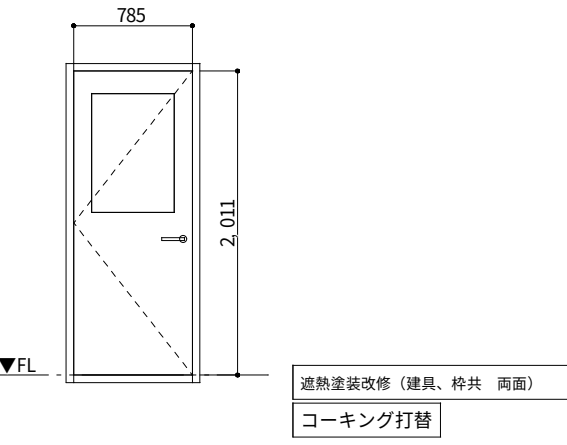
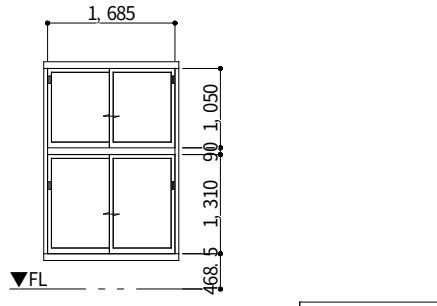
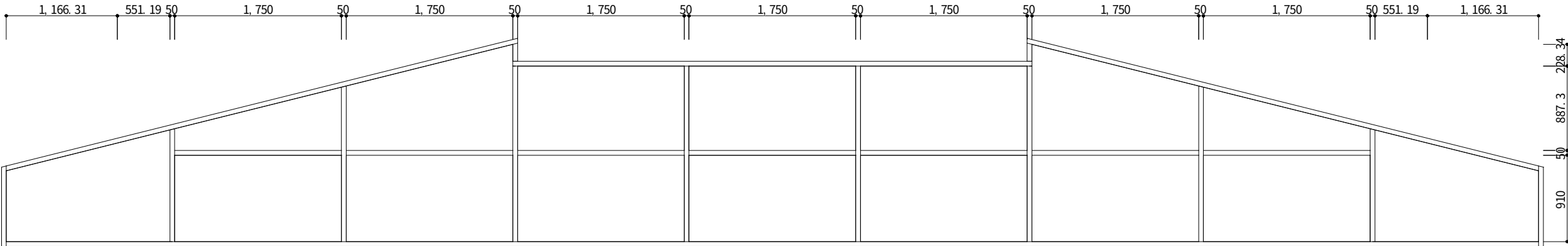


1F天井伏図 1/100



< 図中凡例 >

-  C 01 の範囲を示す
-  M 10 の範囲を示す

符号・名称・性能				PGW11	2枚引き違い				なし	----	PGD12	両開き_金属（上面ガラス）				なし	----	PGD13	ハンガー引き分け_金属（上面ガラス）				なし	----	PGD特1	片開き_金属（上面ガラス）				なし	----	PGKW11	連窓 2枚引き違い				なし	----
姿図																																						
取付階・室名・箇所数				1F	男子便所				14	1F	アリーナ				2	1F	アリーナ				3	1F	女子便所				2	2F	アリーナ上部				18					
建具W	建具H	扉見込		1, 735	1, 100		20		1, 685	2, 000		35		3, 520	2, 000		20		785	2, 011		35		1, 685	2, 450		35											
建具材質	建具仕上	枠材質	枠仕上				スチール					スチール					スチール					スチール					スチール											
ガラリ材質	ガラリ仕上	ガラス種類	ガラス厚				0					0					0					0					0											
把手類(内)	把手類(外)	額縁・沓摺等																																				
錠形式(内)	錠形式(外)	錠種別																																				
附属金物																																						
認定番号																																						
備考																																						
符号・名称・性能				PGW特1	連窓 F X				なし	----																												
姿図																						コーキング打替																
取付階・室名・箇所数				2F	アリーナ上部				2																													
建具W	建具H	扉見込		16, 085	2, 075. 64		35																															
建具材質	建具仕上	枠材質	枠仕上				スチール																															
ガラリ材質	ガラリ仕上	ガラス種類	ガラス厚				0																															
把手類(内)	把手類(外)	額縁・沓摺等																																				
錠形式(内)	錠形式(外)	錠種別																																				
附属金物																																						
認定番号																																						
備考																																						

有効採光面積
35.1+10.2+35.1+10.2=90.6(m2)

有効換気面積
16.2+4.8+16.2+4.8=42.0(m2)

上部有効採光
(1.3+1.0)*1.7 3.9
3.9*9=35.1 (m2)

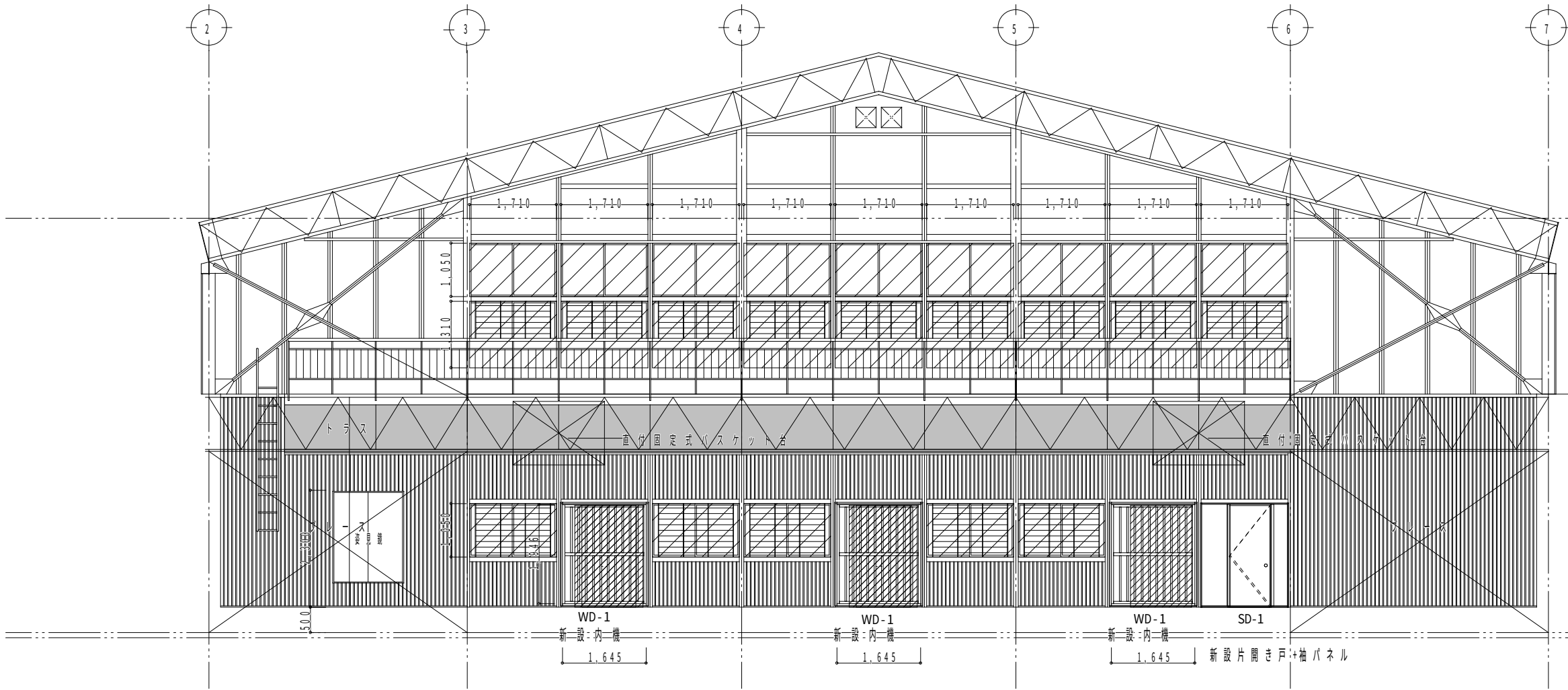
上部有効換気
(1.3+1.0)*(1.7-0.1)/2 1.8
1.8*9=16.2 (m2)

下部有効採光
1.0*1.7 1.7
1.7*6=10.2 (m2)

下部有効換気
1.0*(1.7-0.1)/2 0.8
0.8*6=4.8 (m2)

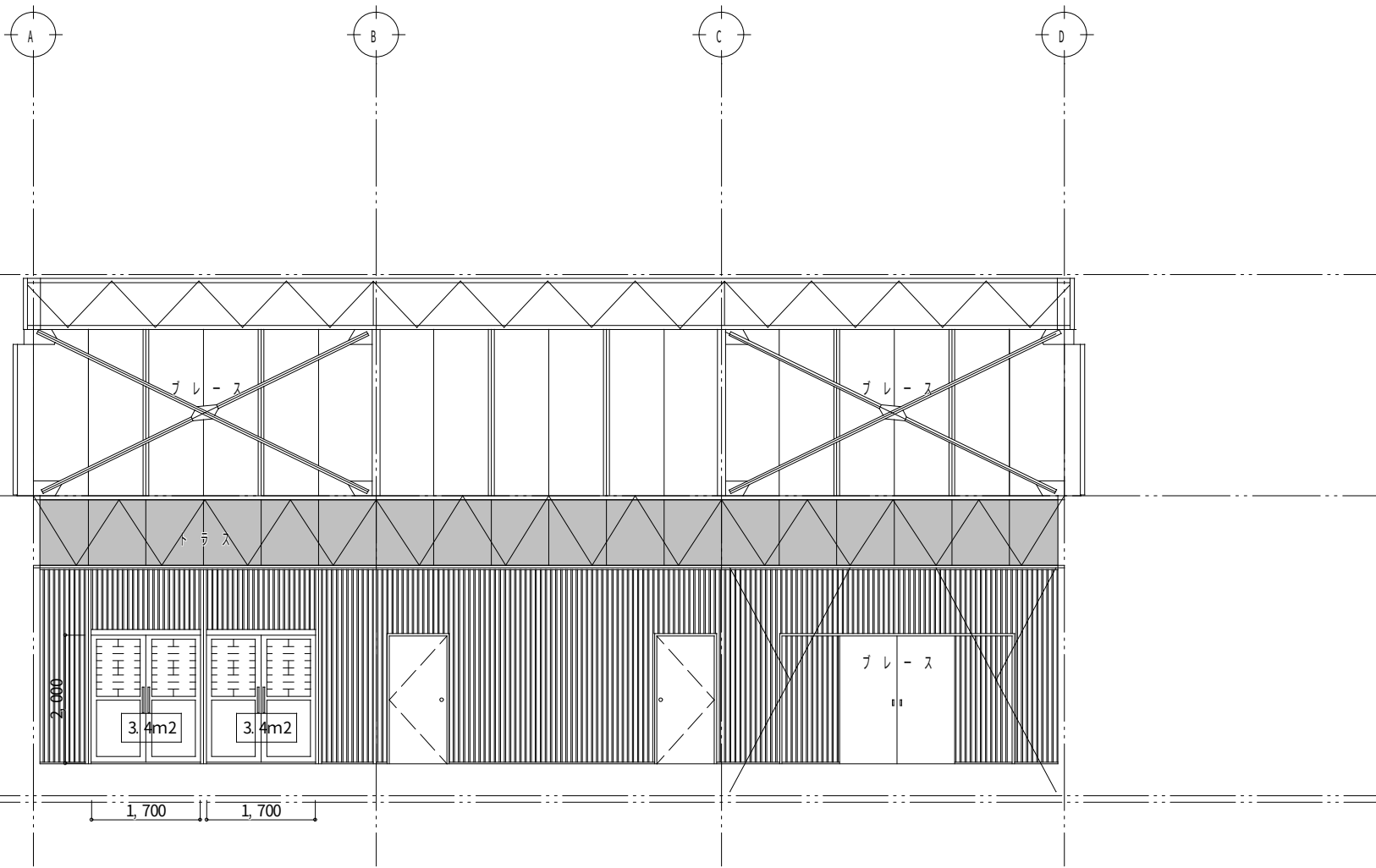
有窓無窓判定 (現況)
3.4m2×7ヶ=23.8m2
23.8m2×30=714m2まで許容

有窓無窓判定 (出入口ニカ所やめた場合)
3.4m2×5ヶ=17.0m2
17.0m2×30=510m2まで許容



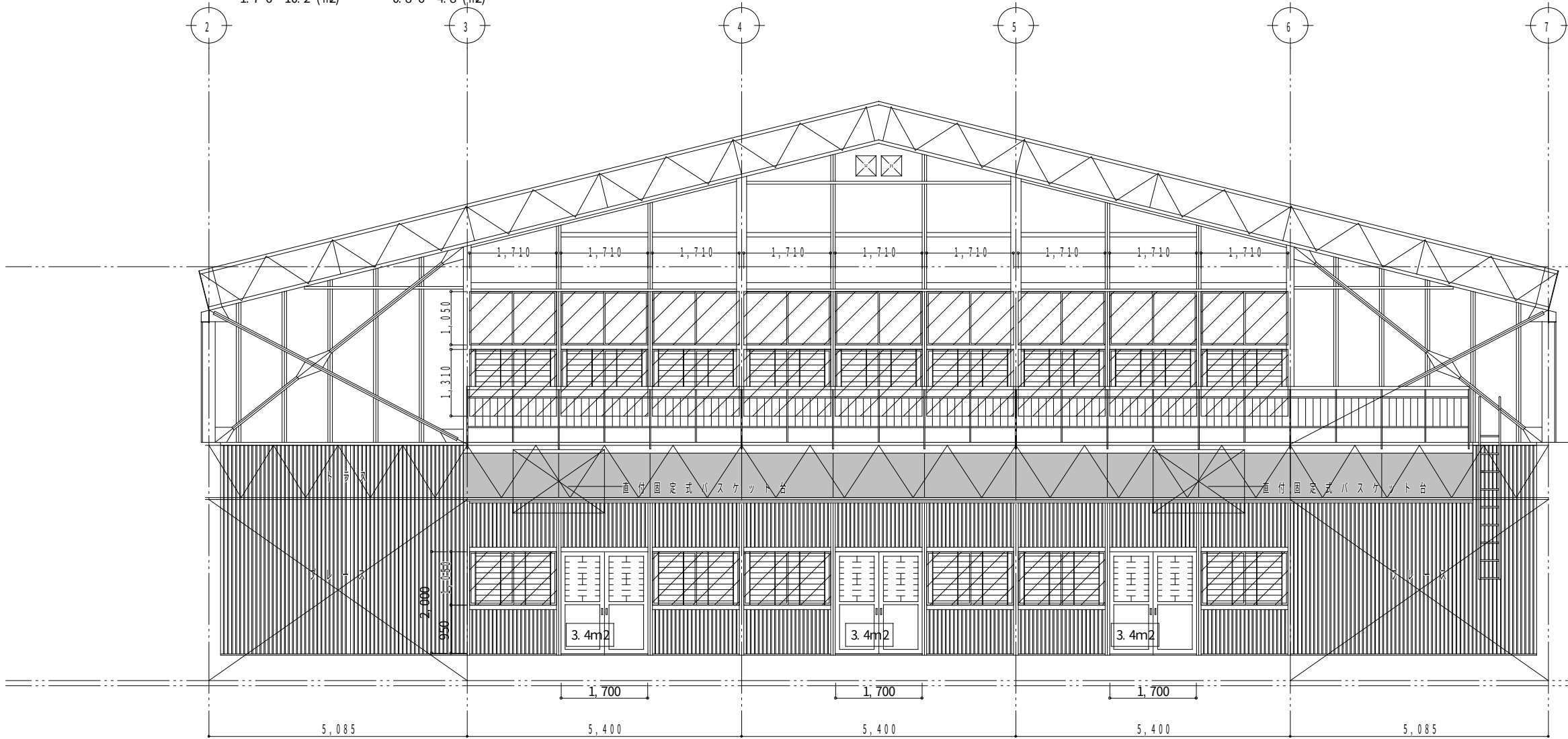
北面

2 通り展開図



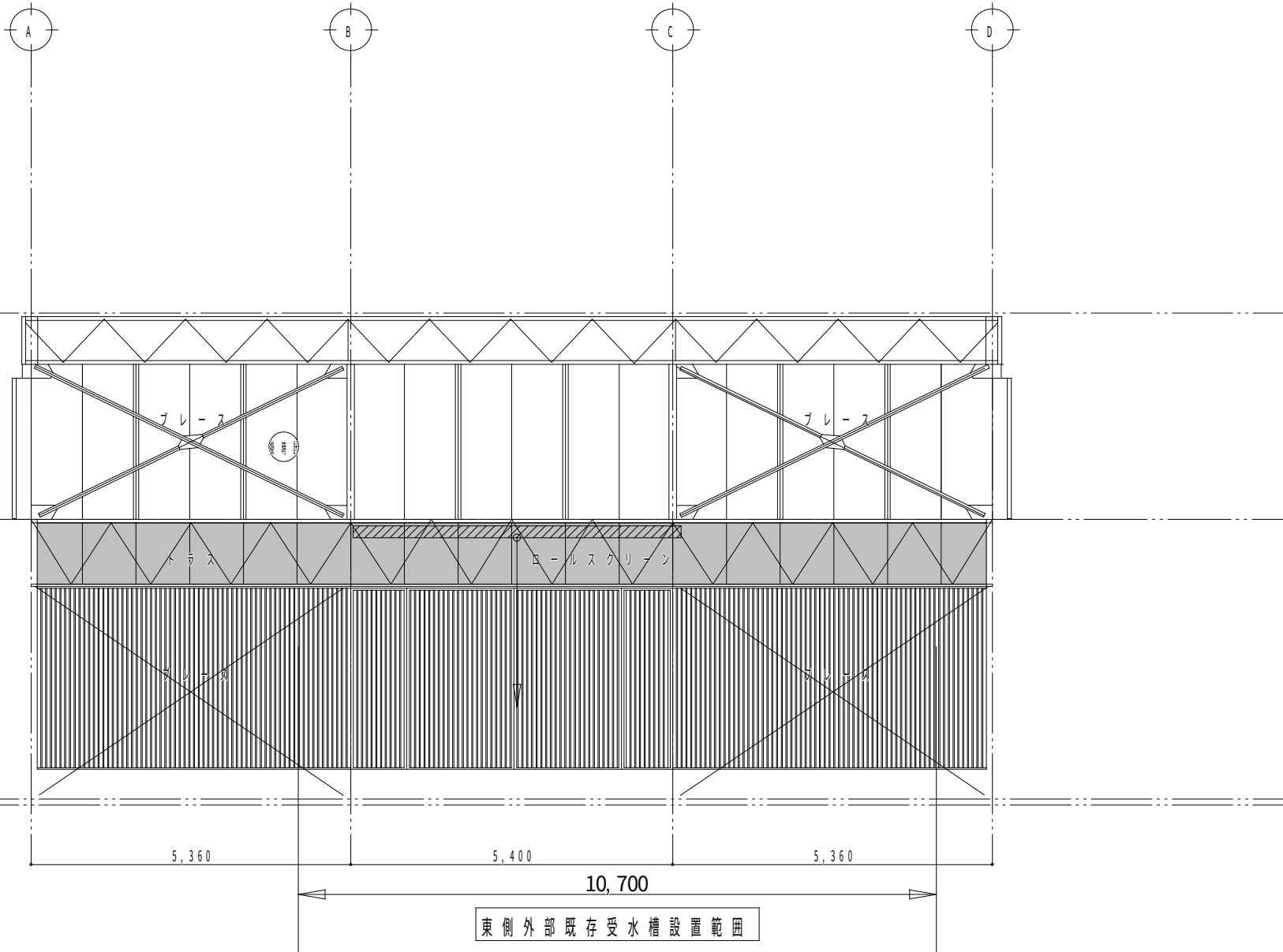
西面

2 通り展開図



南面

7 通り展開図



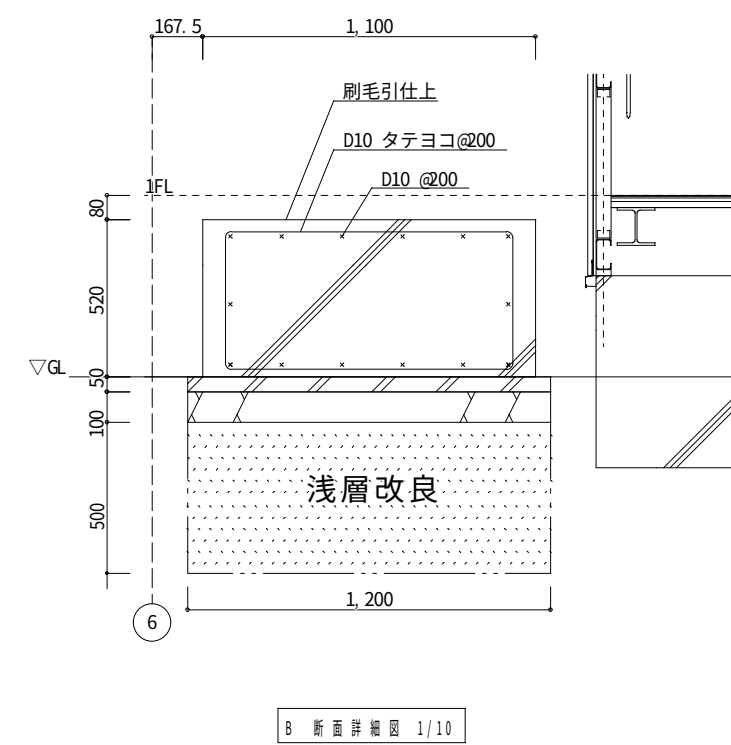
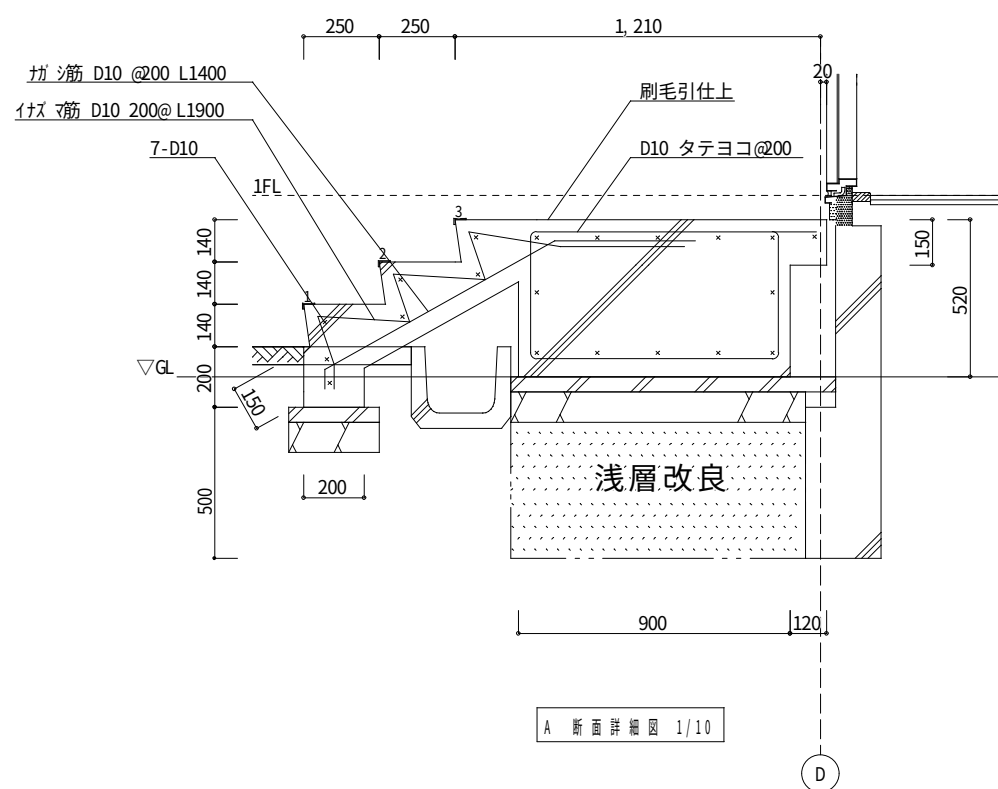
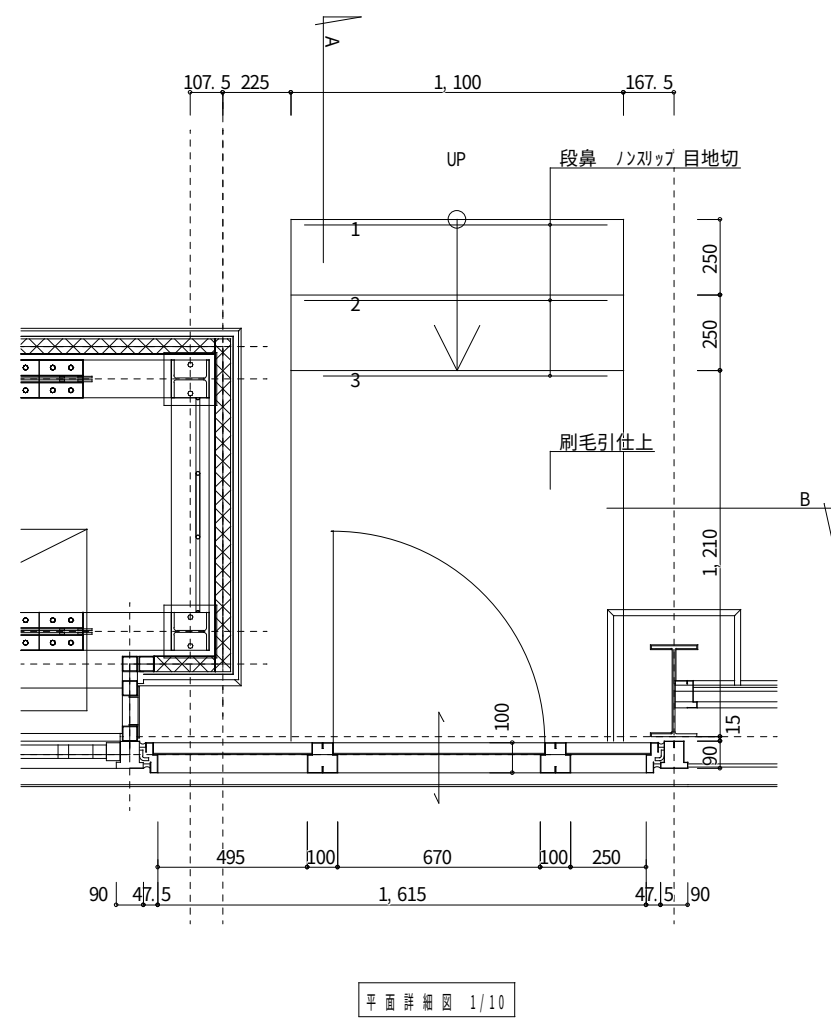
東面

7 通り展開図

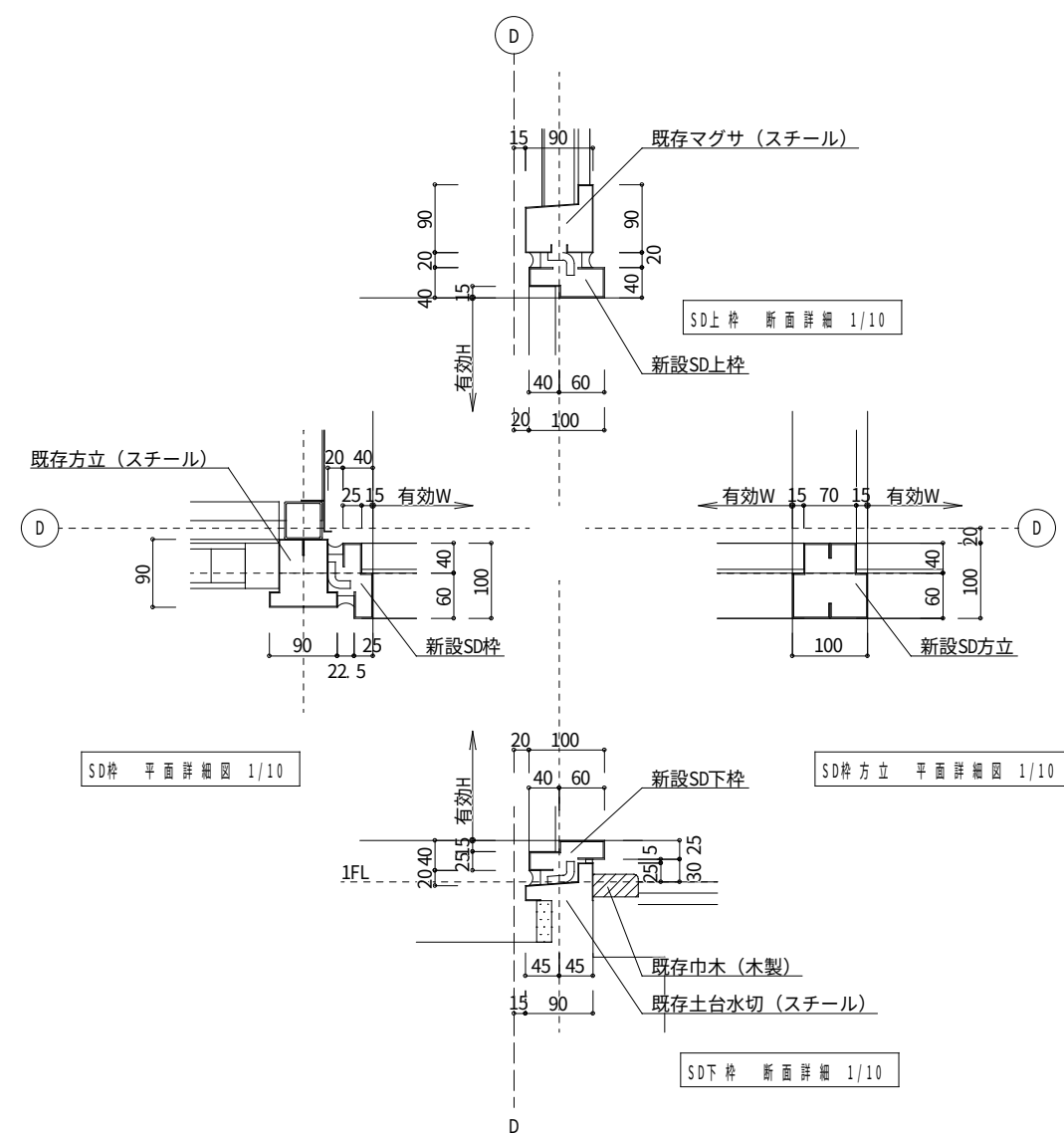
Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事
Drawing 第二体育館 展開図
Scale 1/100

Date 2025/09

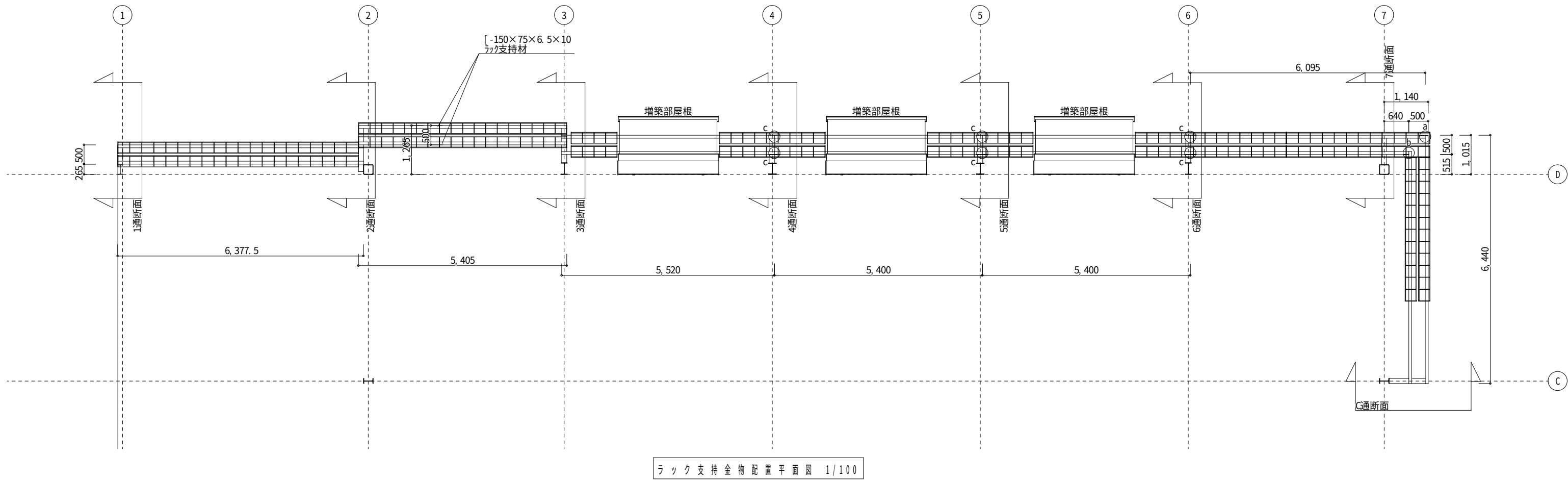
設計 株式会社 京都府知事登録 04A第 02848号
Kai Inc. Architectural design office inc. 一級建築士登録第320505号 設計



※増築部同様、新設階段にも浅層改良を実施。
(浅層改良) D=500 セメント系固化材添加量 70kg/m³

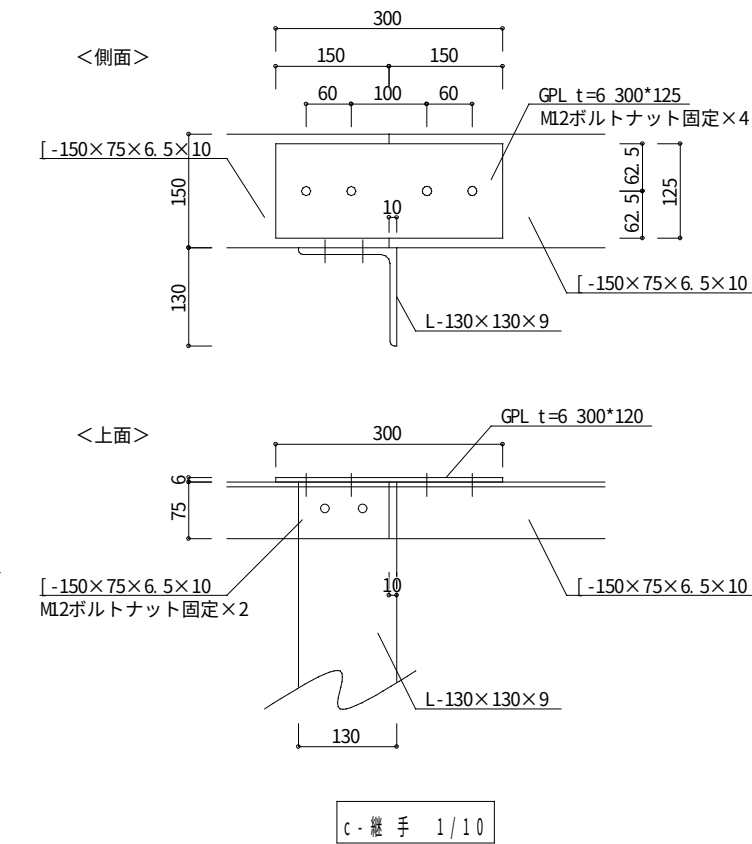
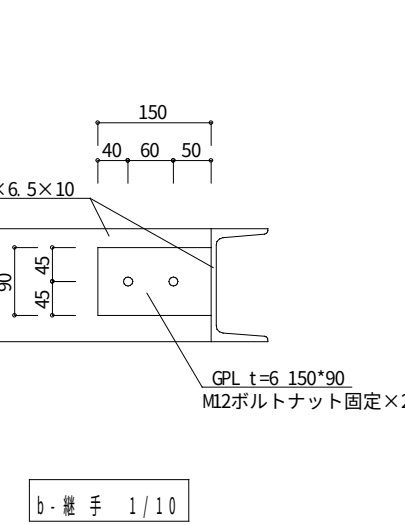
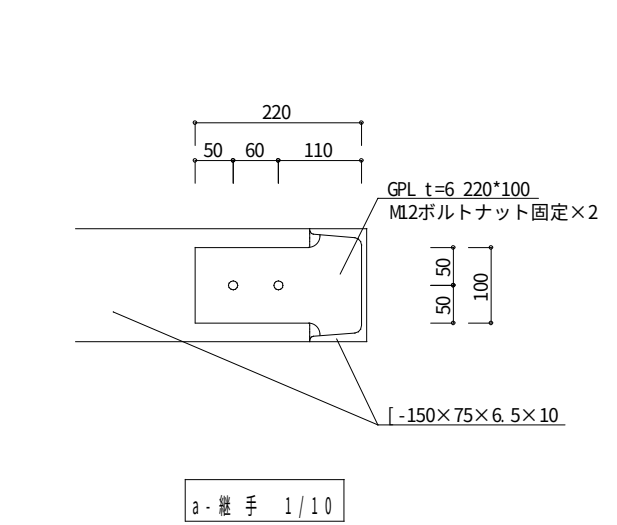
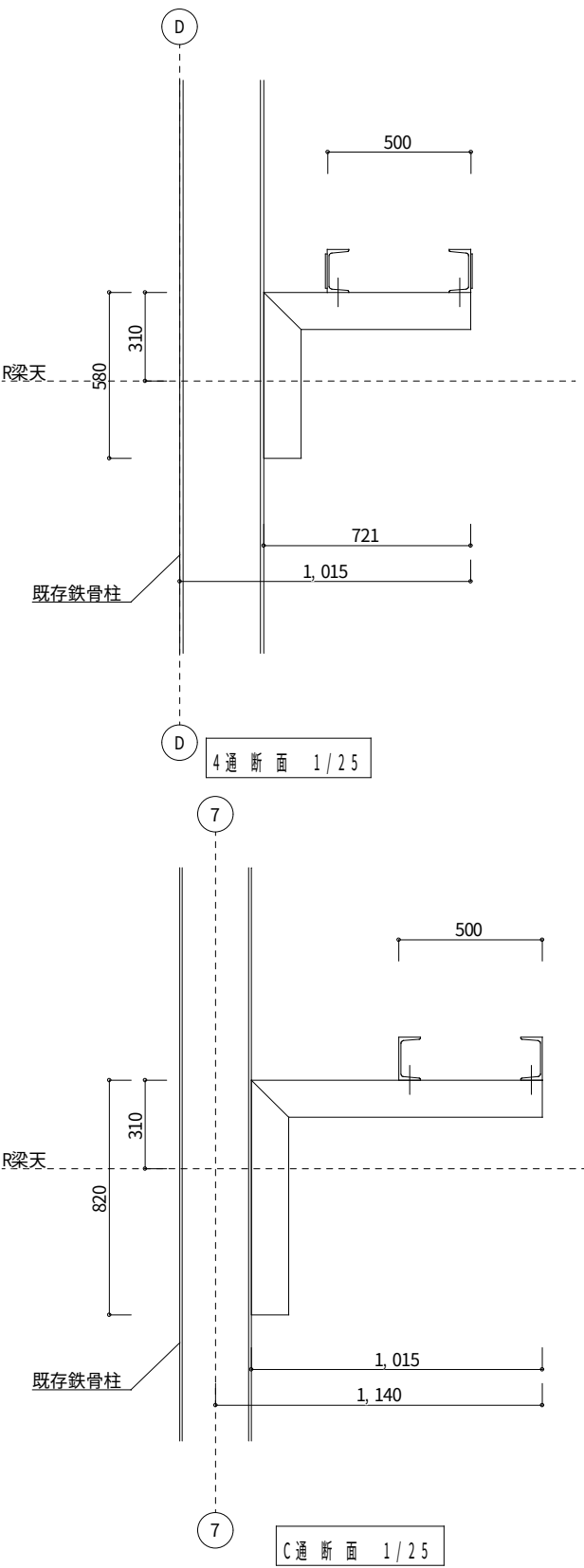
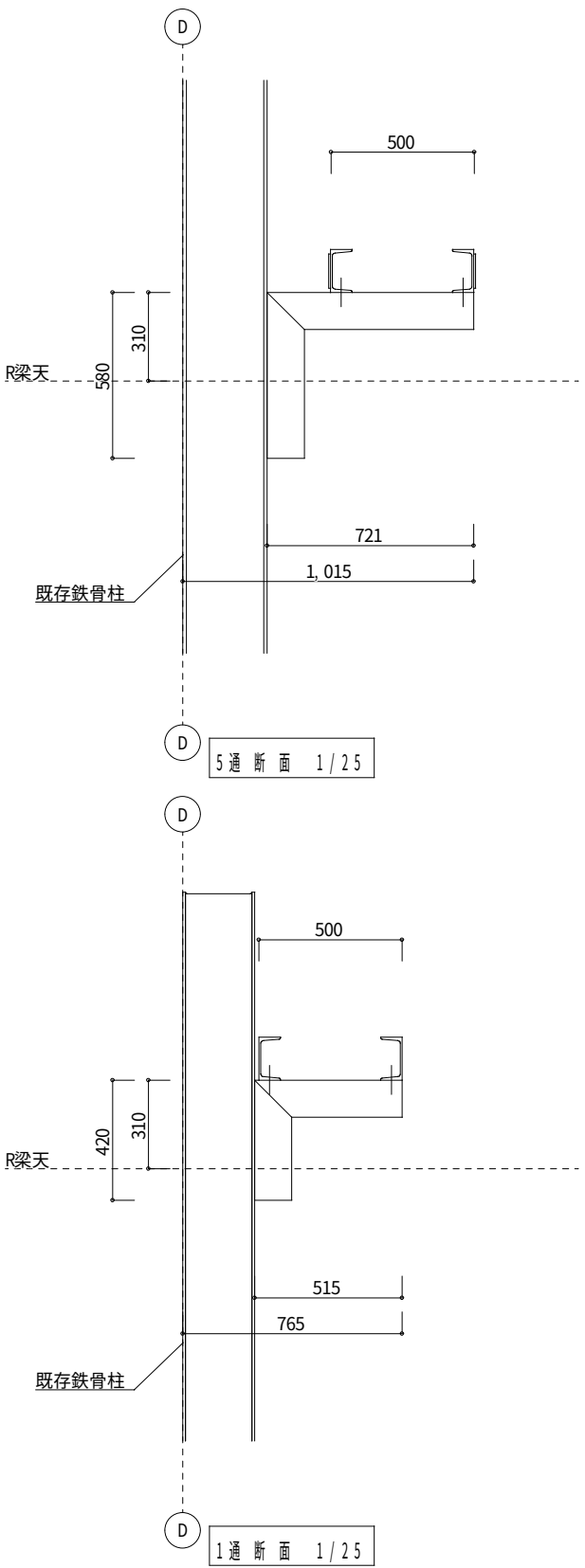
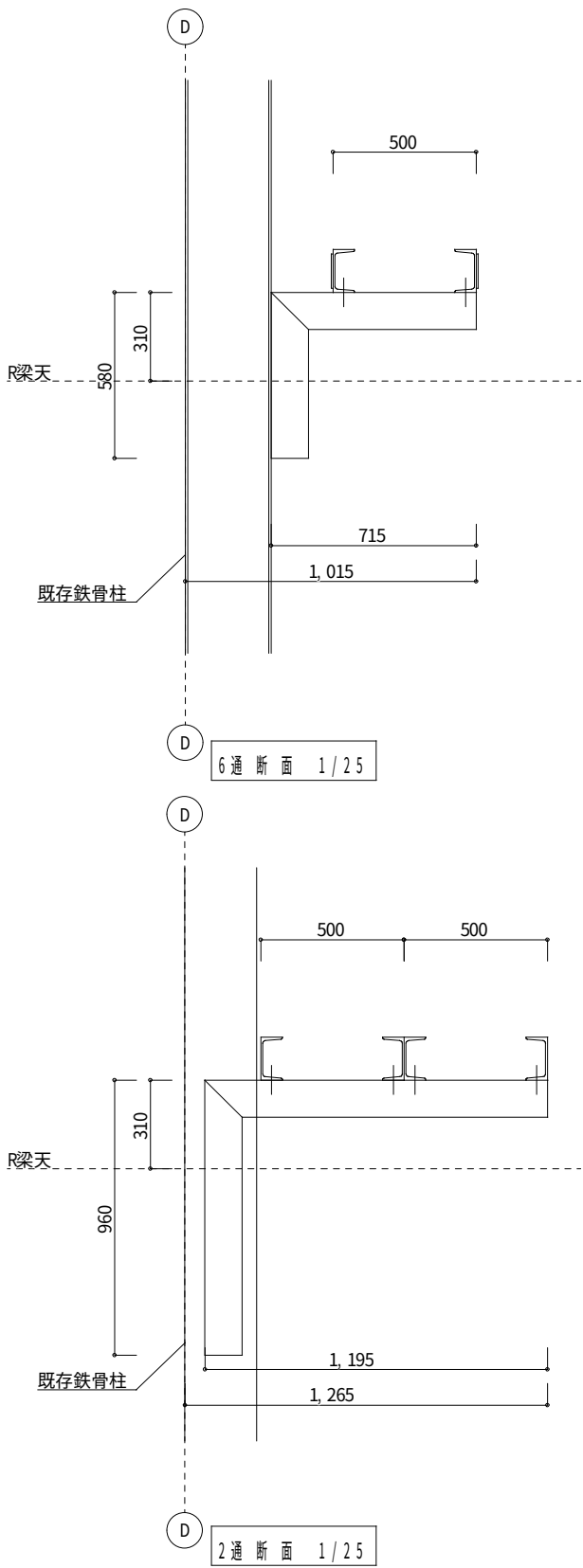
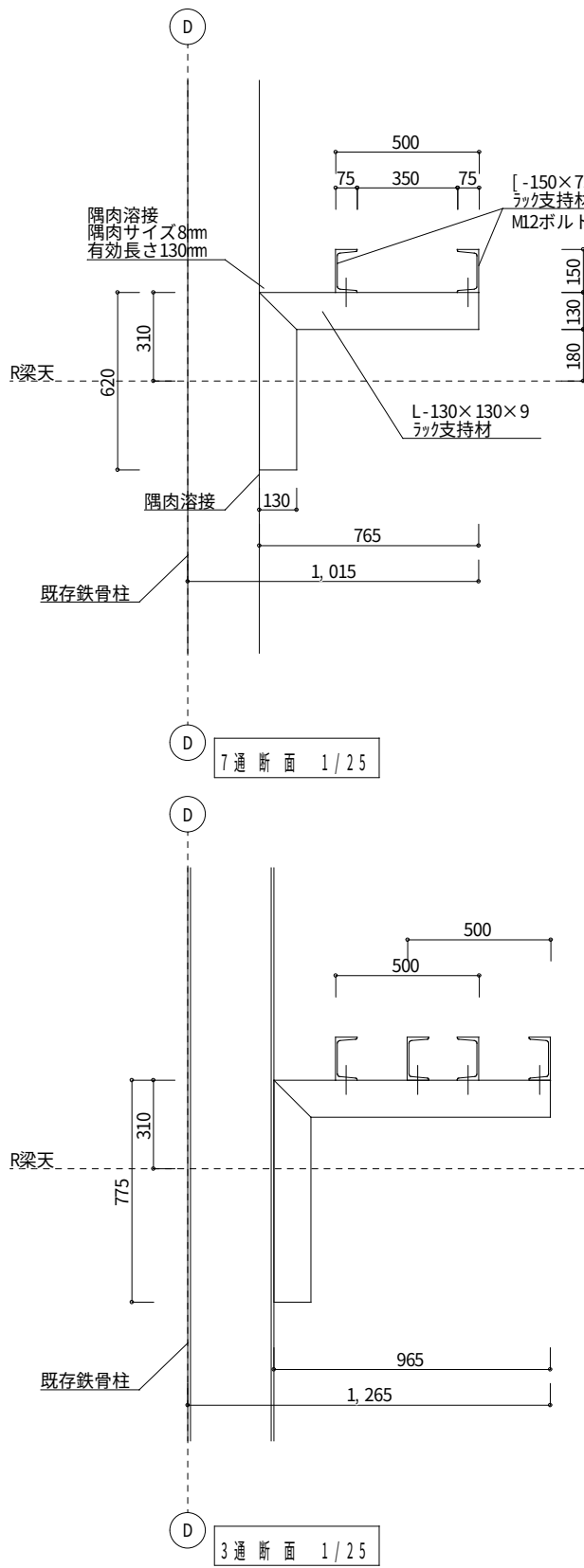


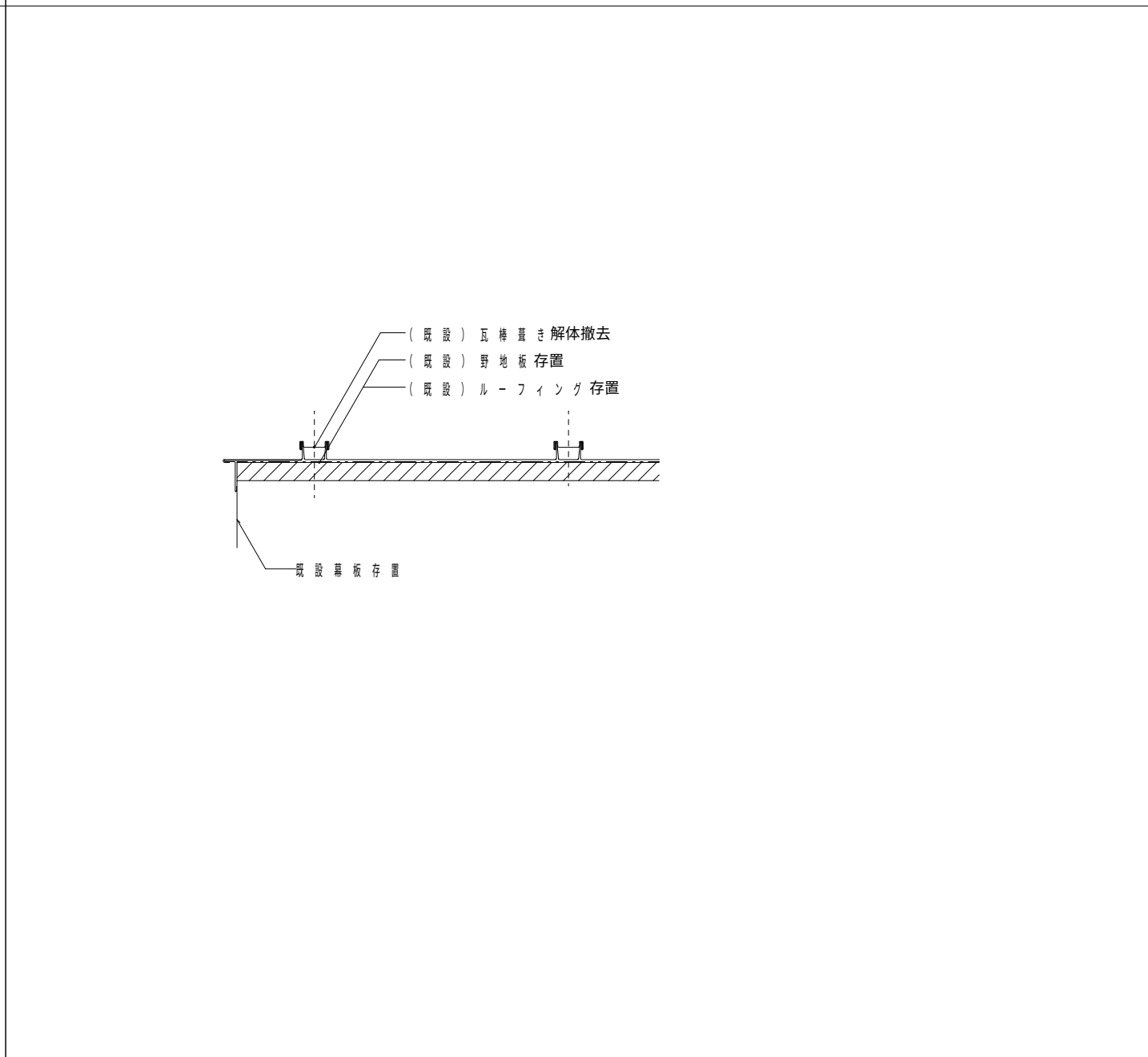
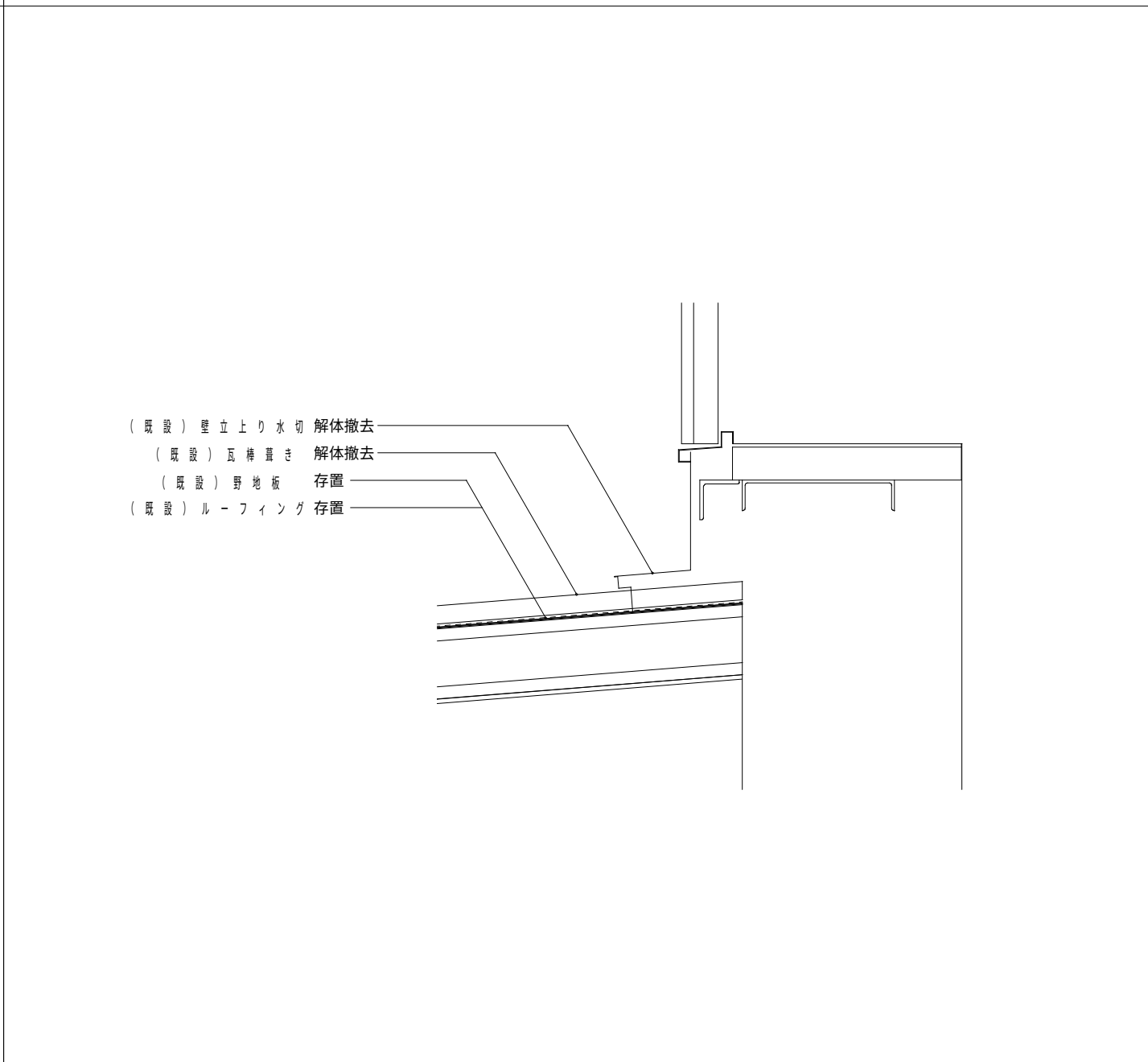
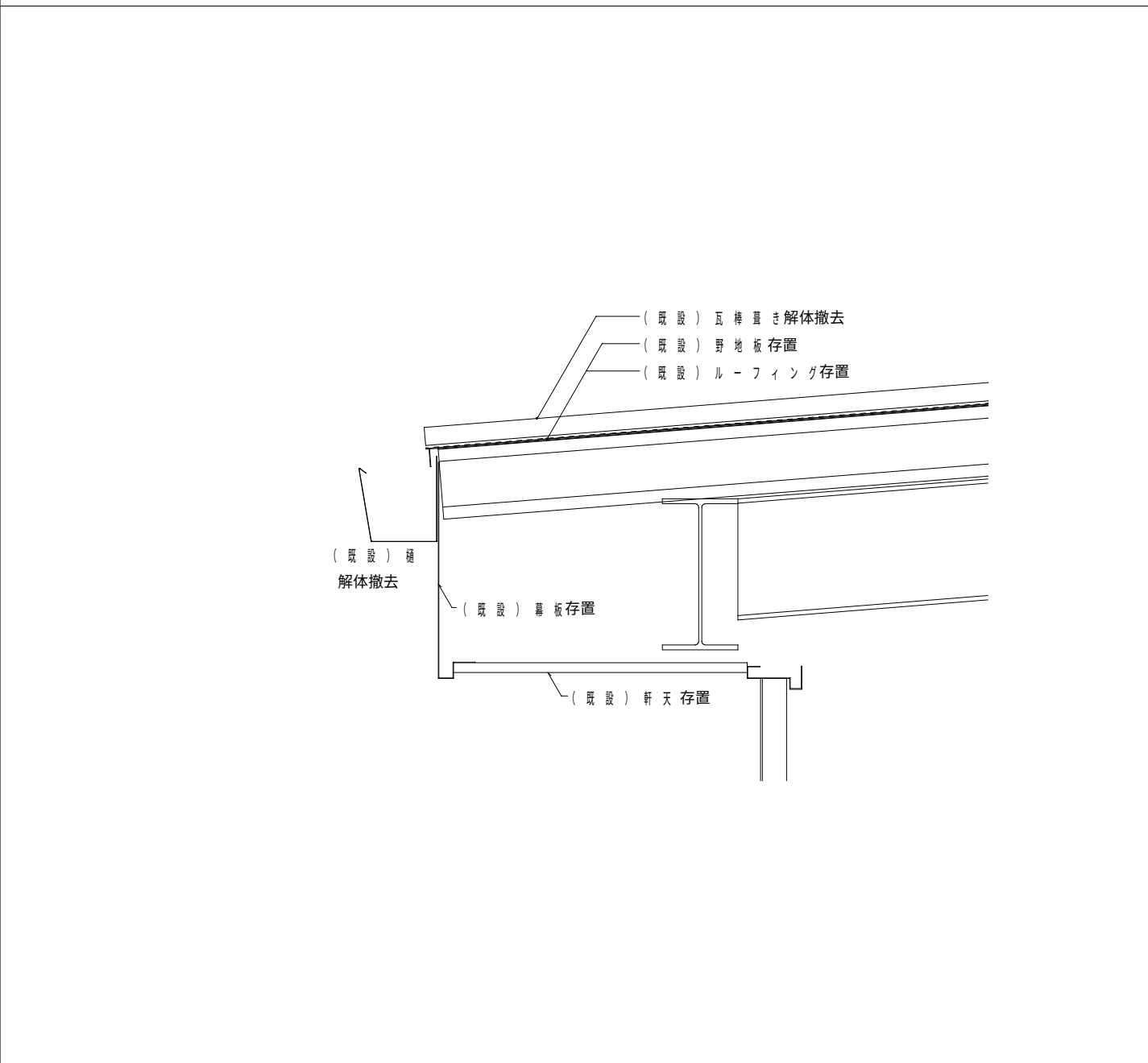
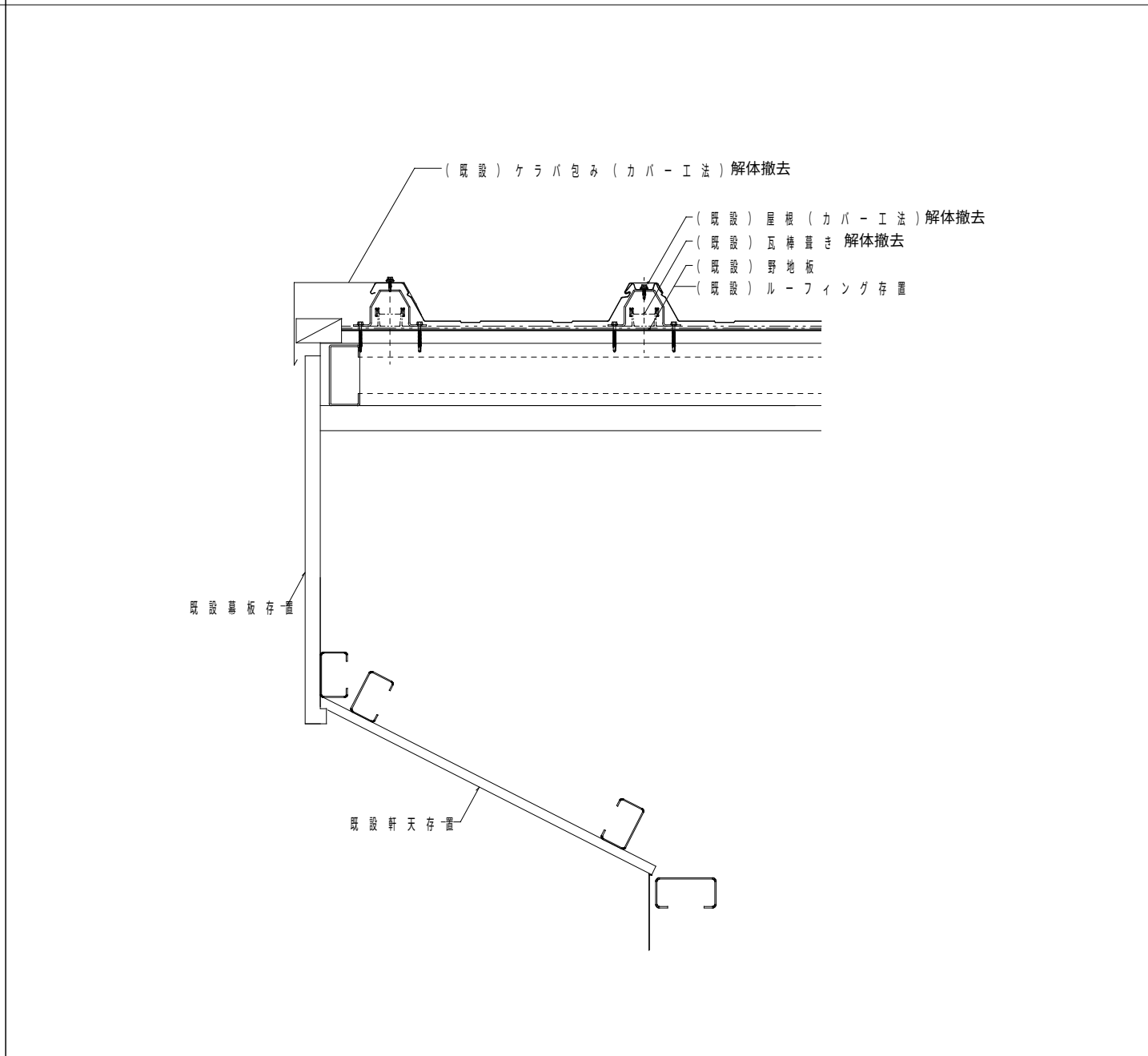
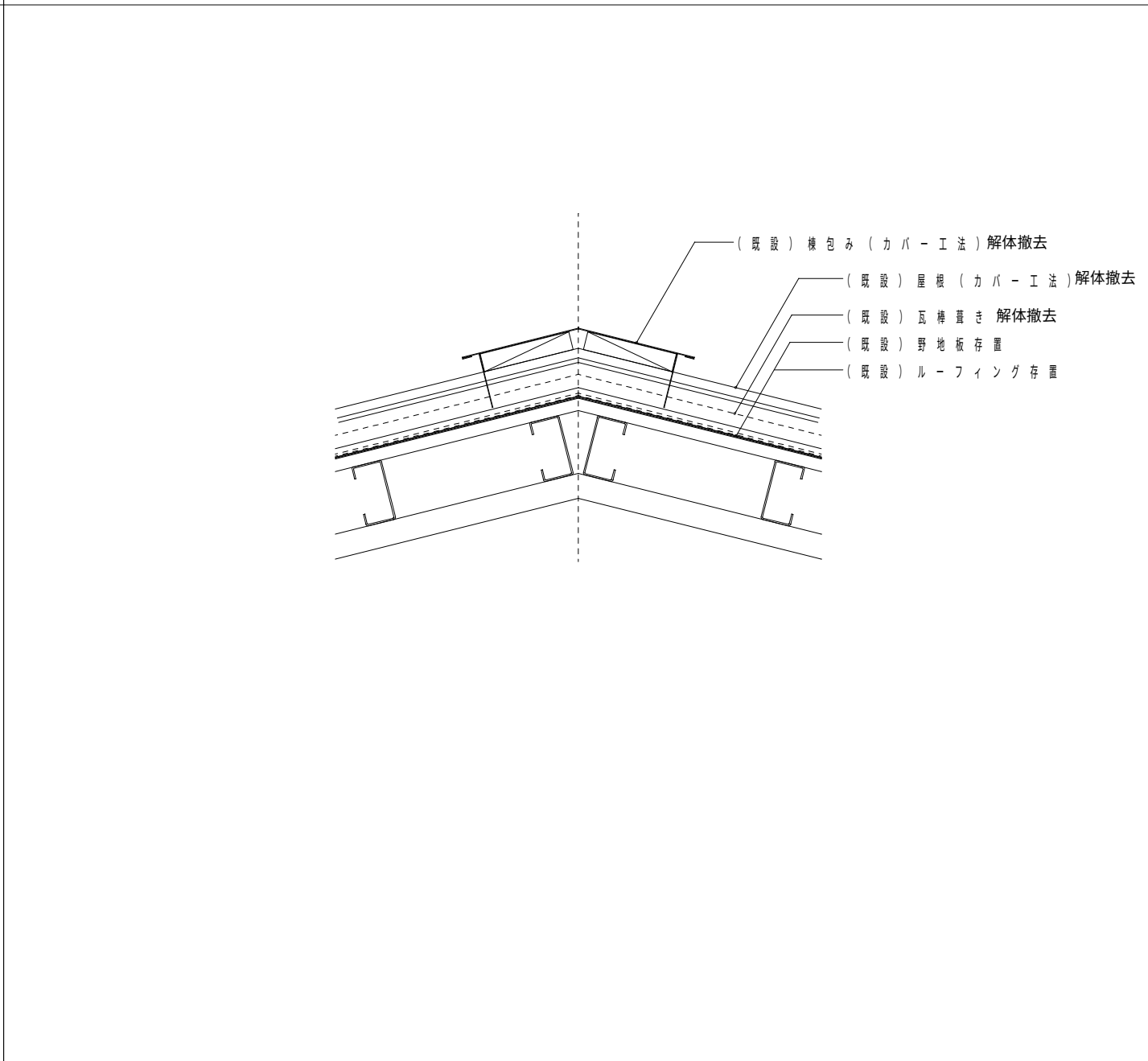
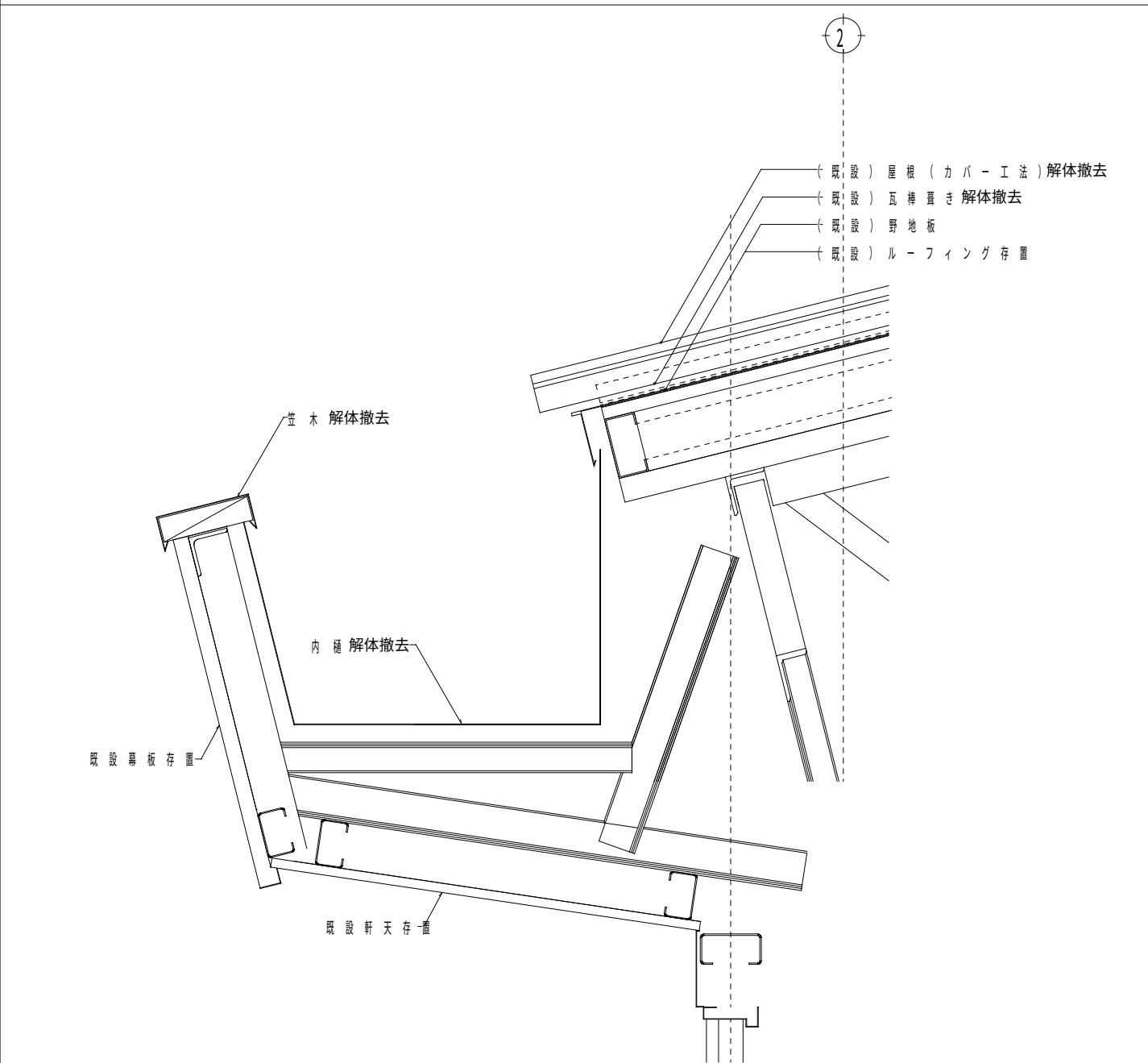
符号・名称・性能				SD 1		片開き戸		なし		----					
								なし							
姿図															
取付階・室名・箇所数				1F				1							
建具W	建具H	扉見込		1,615		1,921		35							
建具材質	建具仕上	枠材質	枠仕上	溶融亜鉛メッキ鋼板		7mm焼付塗装		スチール		7mm焼付塗装					
ガラリ材質	ガラリ仕上	ガラス種類	ガラス厚	-		-		-		-		0			
把手類(内)	把手類(外)	額縁・吝摺等		ケースノド`ル		ケースノド`ル		吝摺SUS							
錠形式(内)	錠形式(外)	錠種別		サロ`ン		シリンダ`錠									
附属金物				丁番、加`ザ`、戸当											
認定番号															
備考															



※鋼材は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとし溶接部分は常温亜鉛メッキ塗装にて補修すること

a b c [-150×75×6.5×10 ラック支持材の継ぎ手位置を示す





軒先詳細図

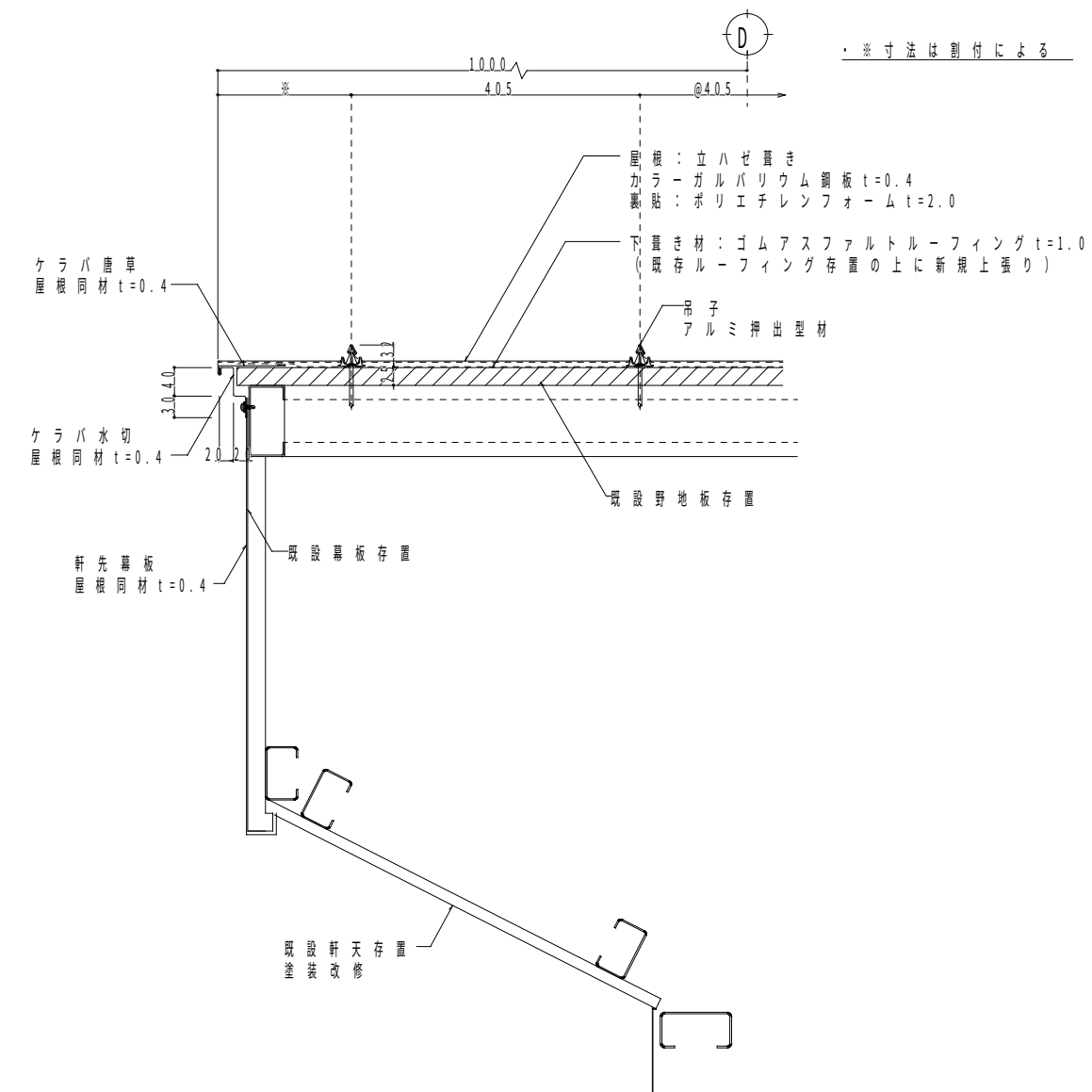
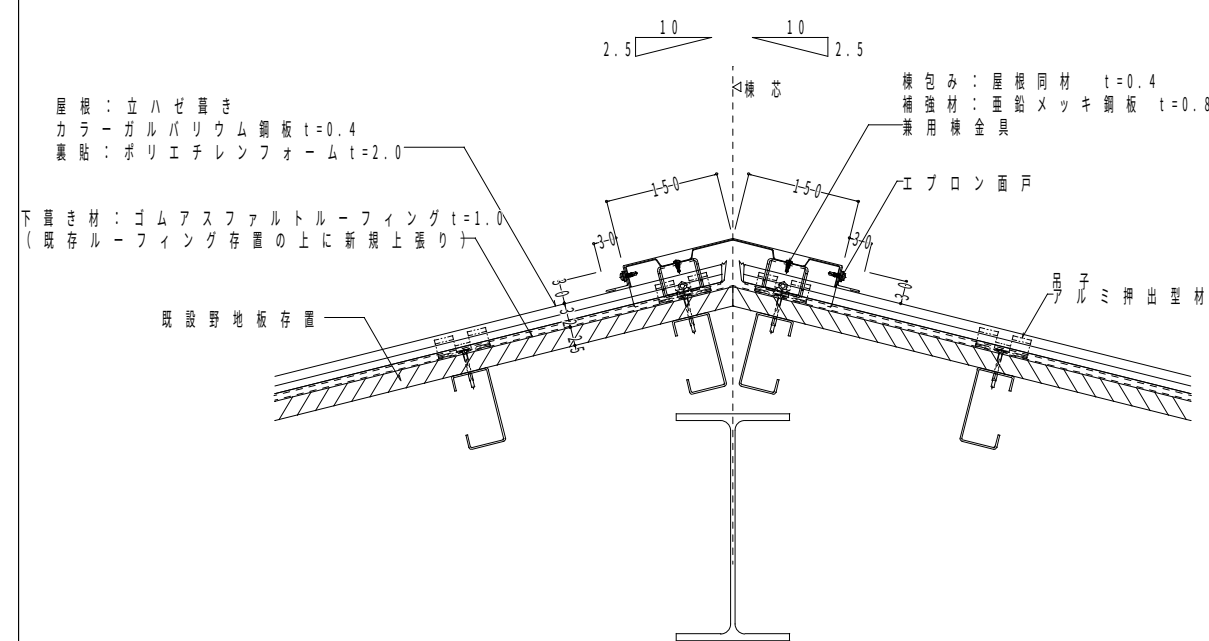
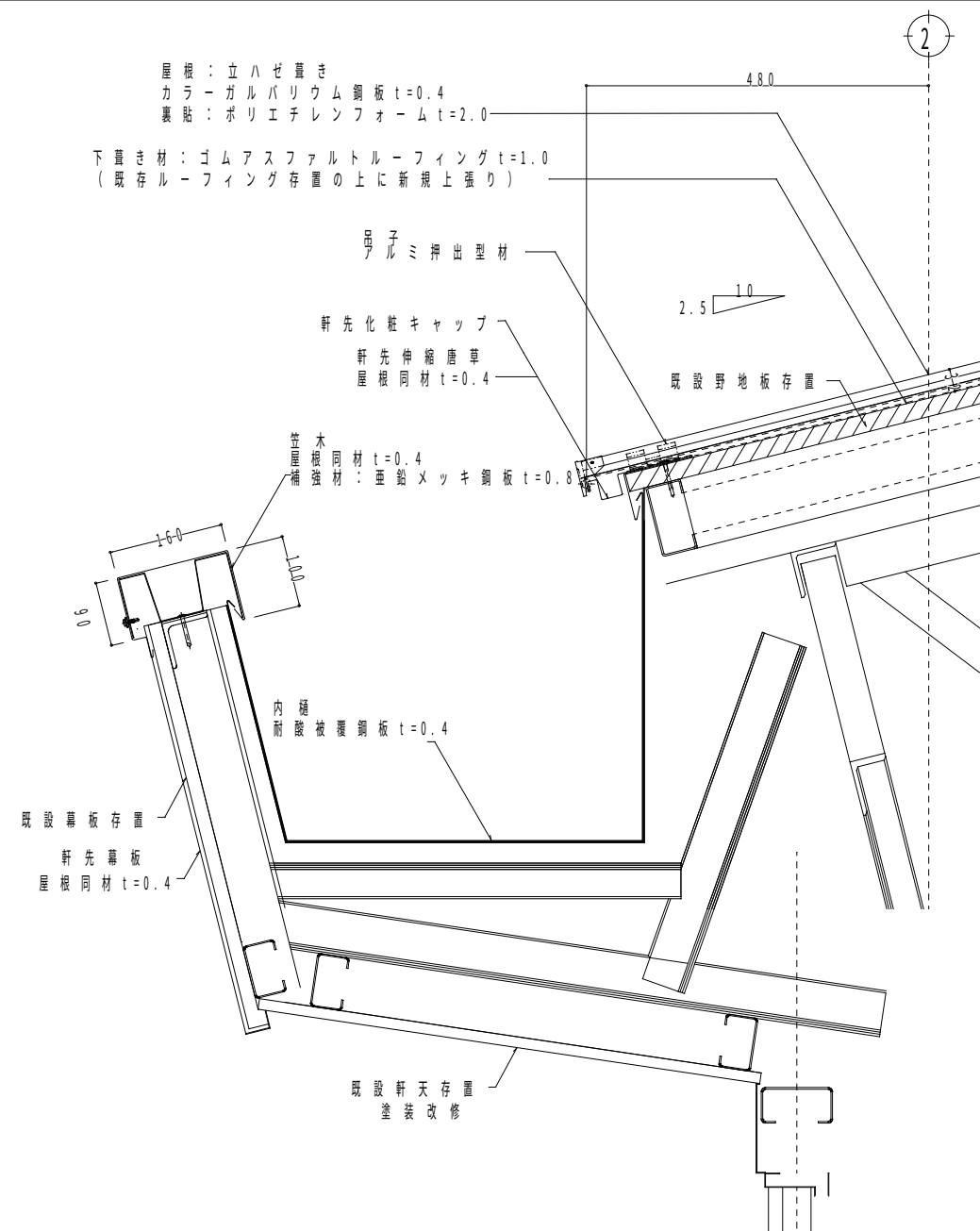
1 / 10

棟 詳 細 図

1 / 10

ケラバ詳細図

1 / 10



下屋軒先詳細図

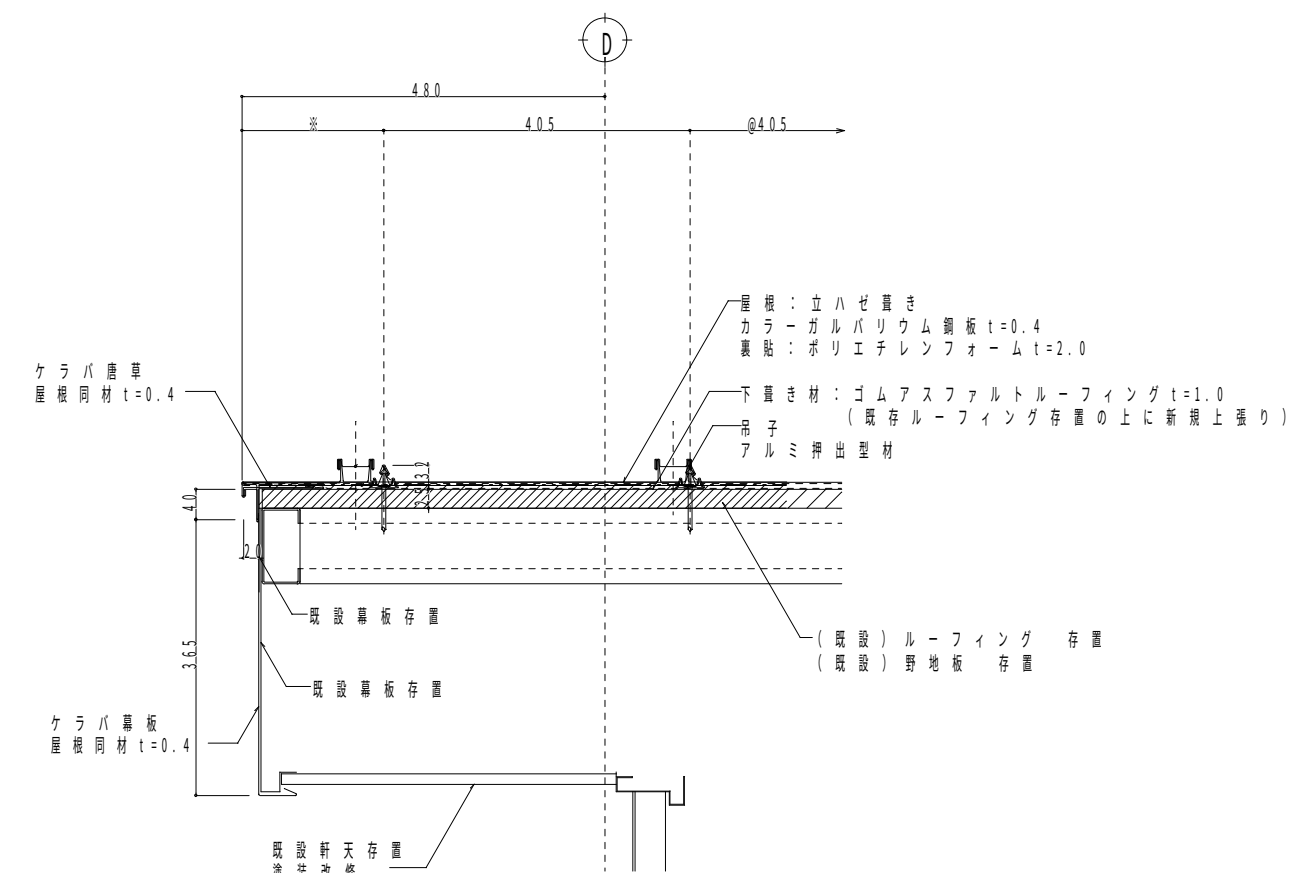
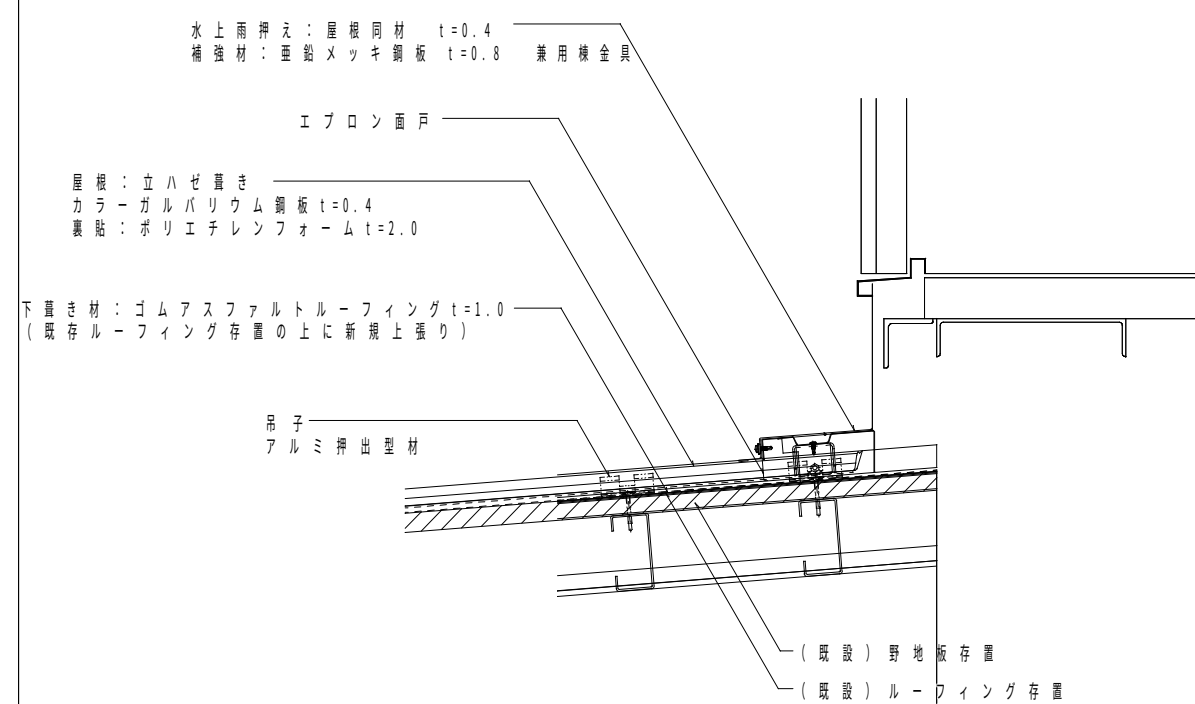
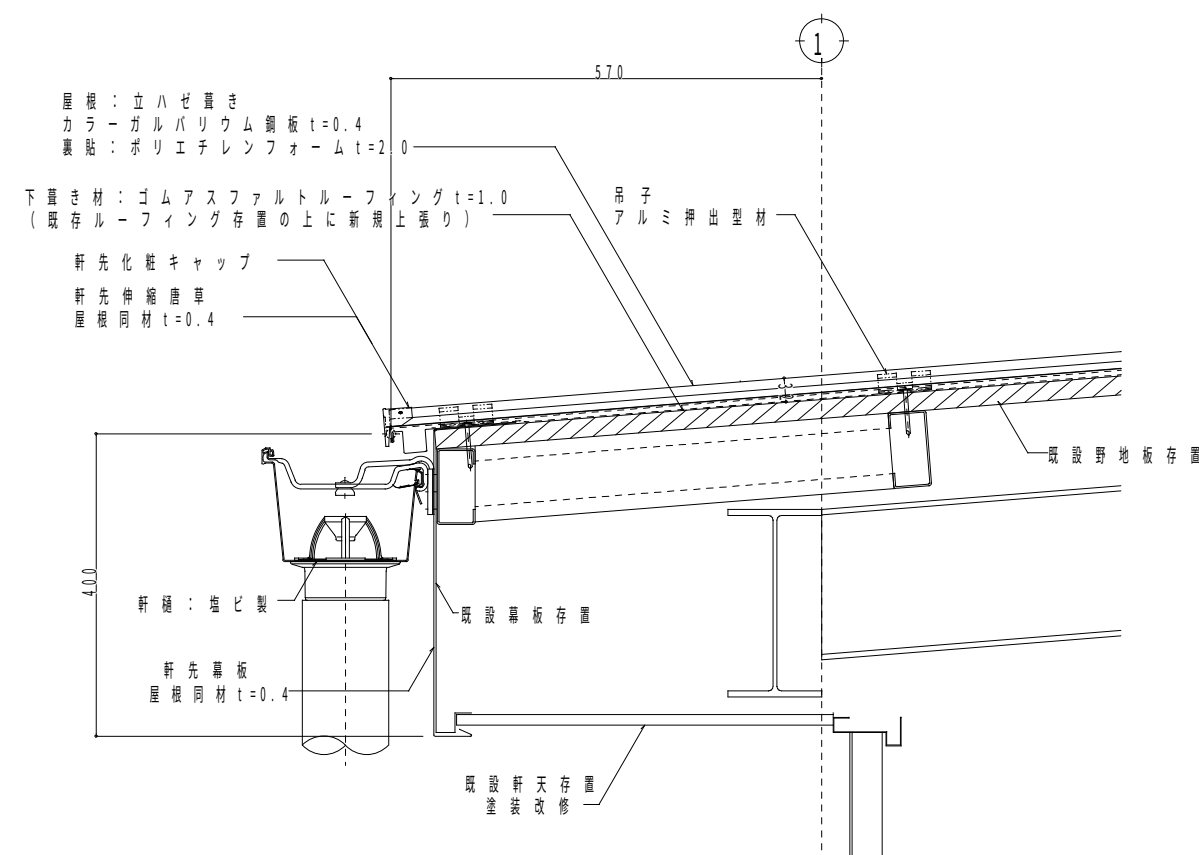
1 / 10

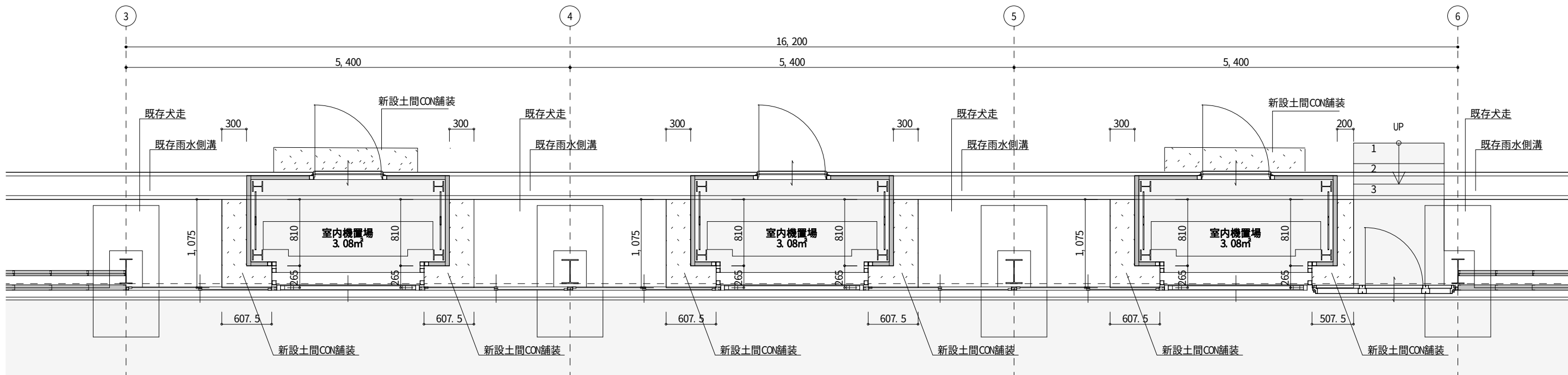
下 屋 壁 立 上 り 詳 細 図

1 / 10

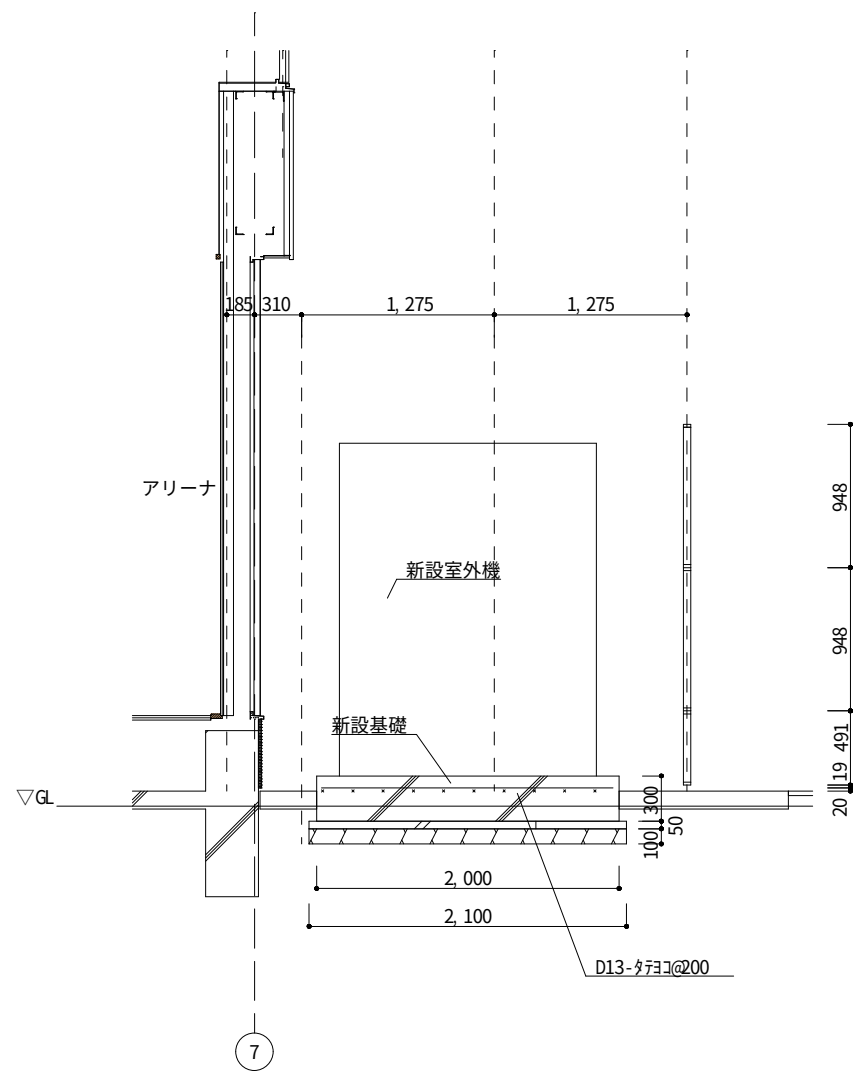
下屋ケラバ詳細図

1 / 10

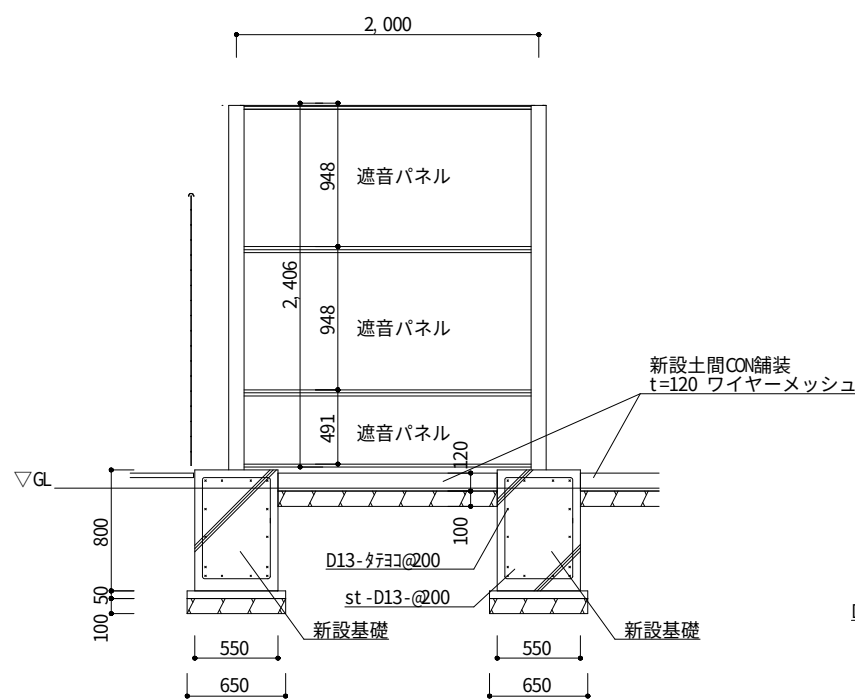




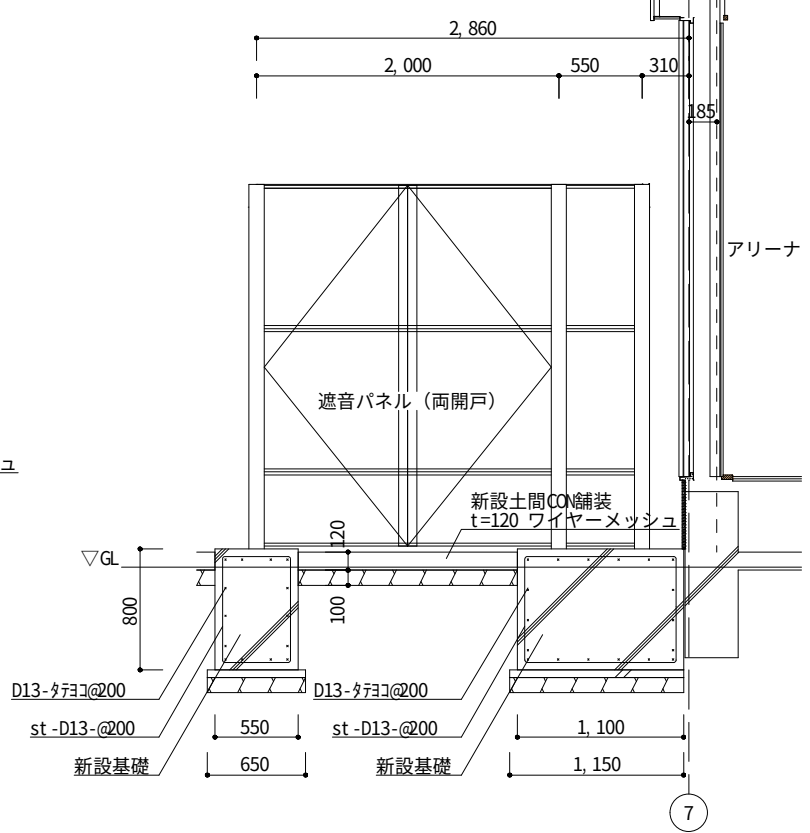
1F平面詳細図 1/50



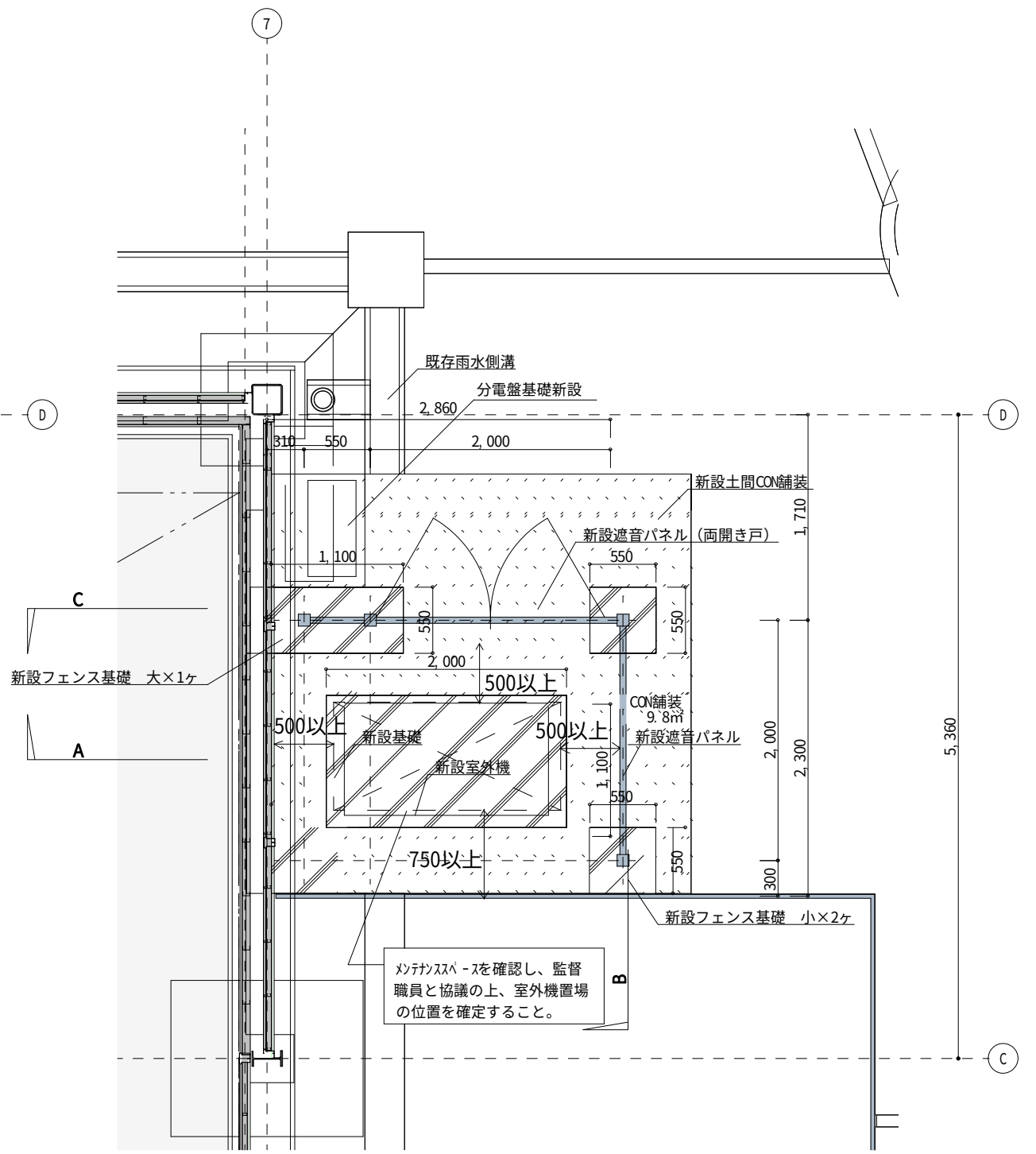
A断面 1/50



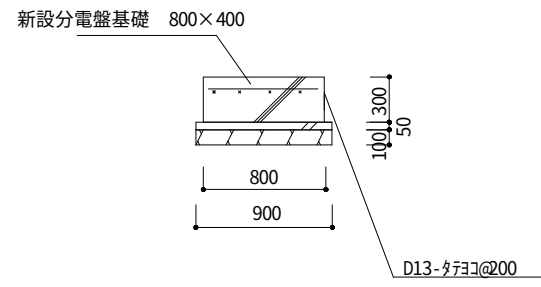
B断面 1/50



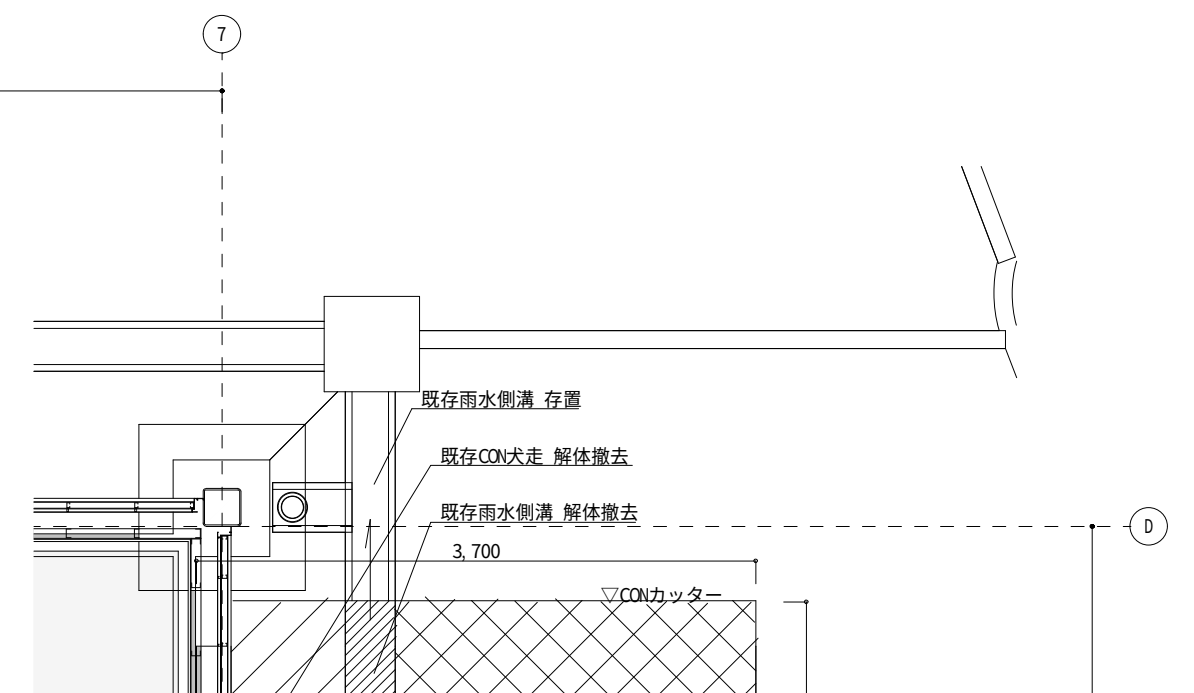
C断面 1/50



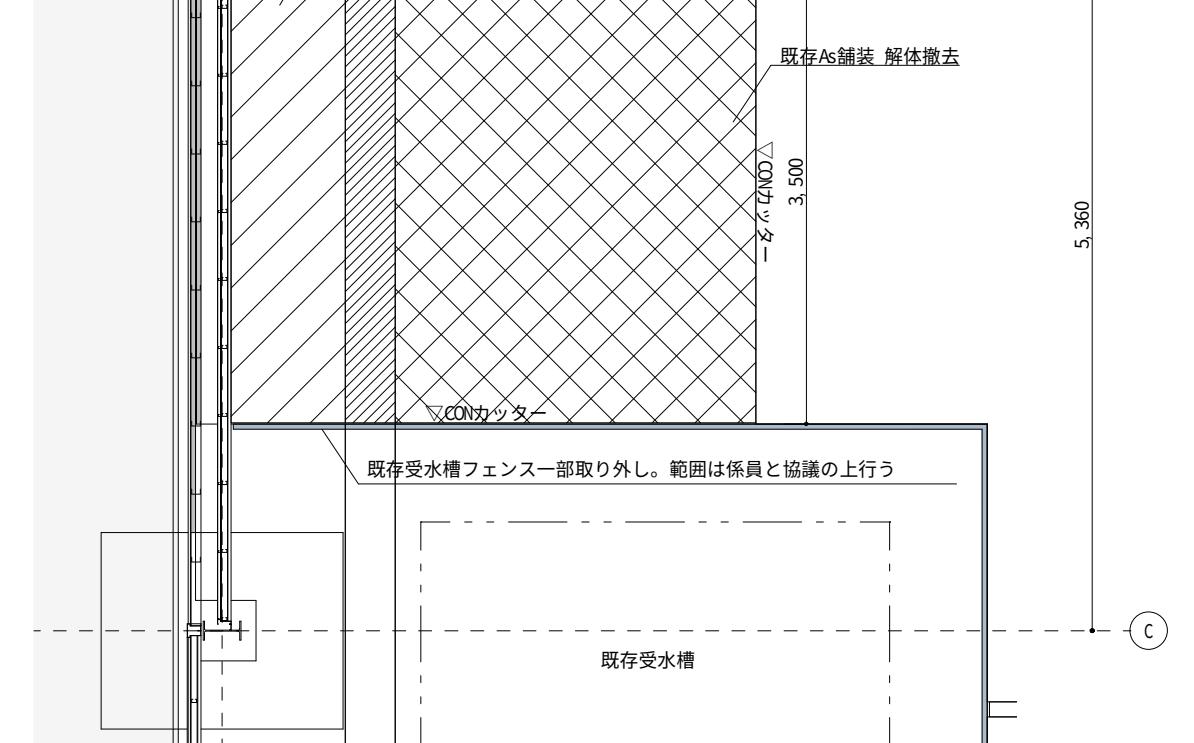
1F平面詳細図 1/50



分電盤基礎 1/50

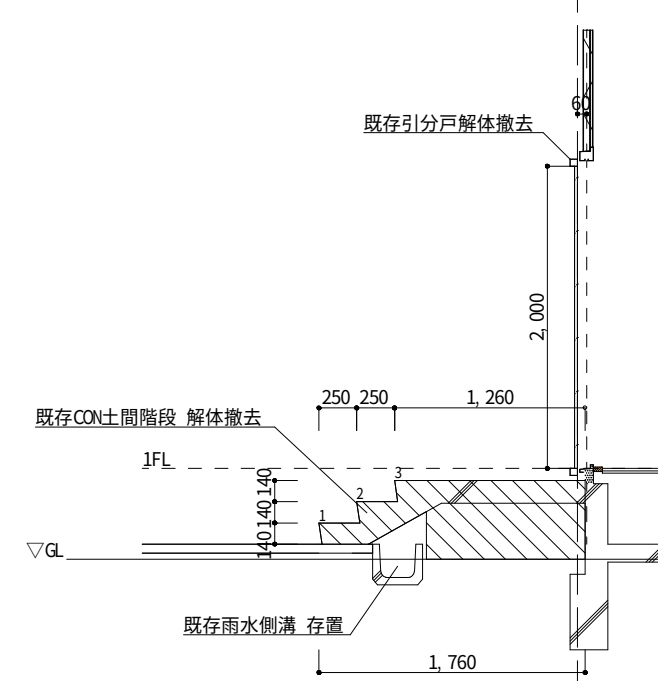


既存、解体撤去平面図 1/50

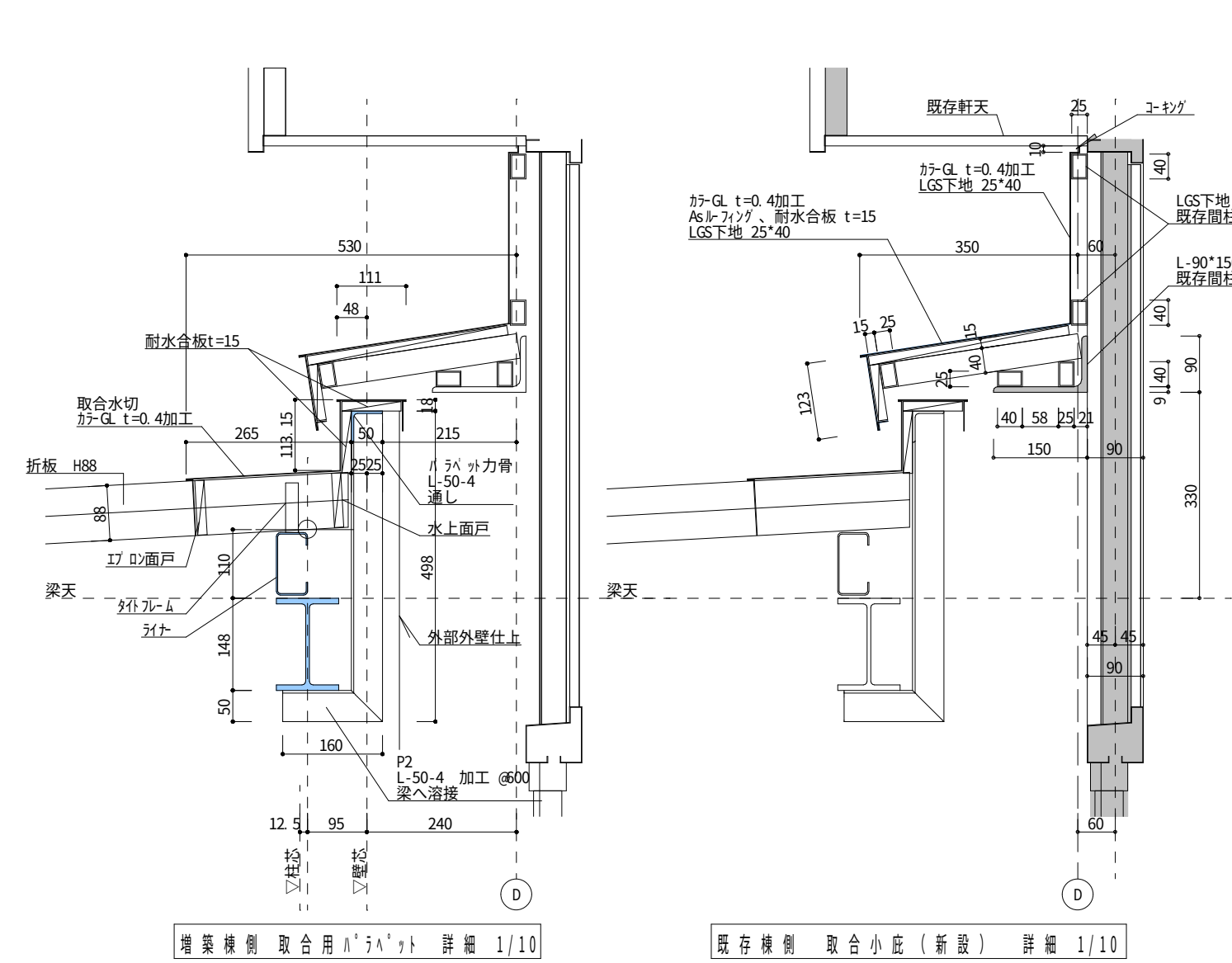


既存、解体撤去平面図 1/50

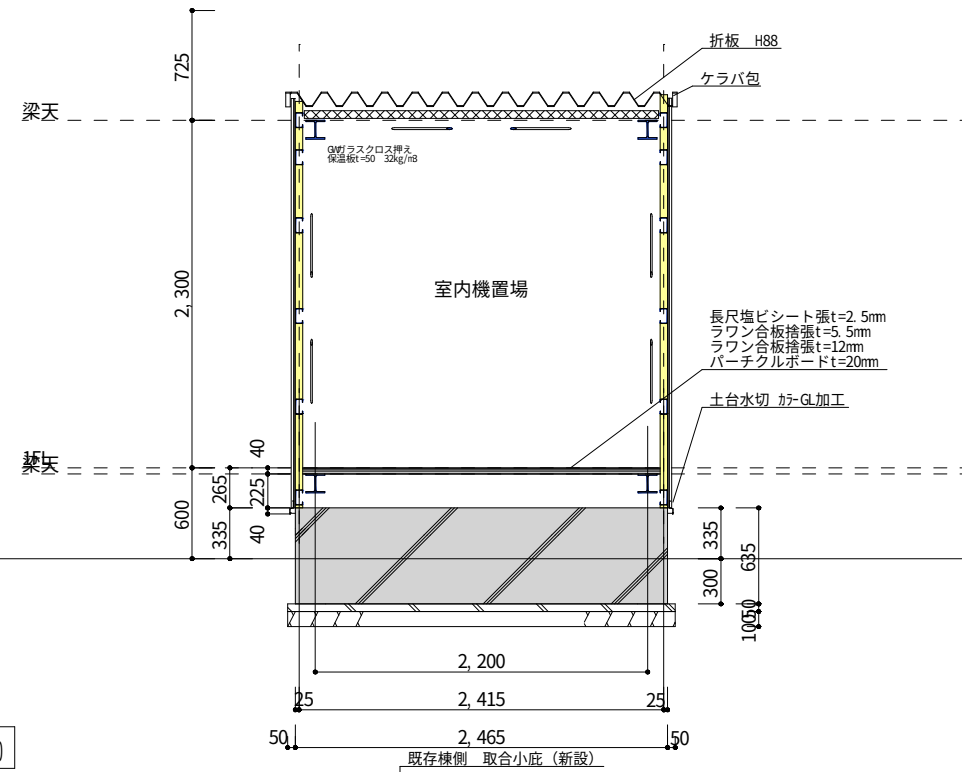
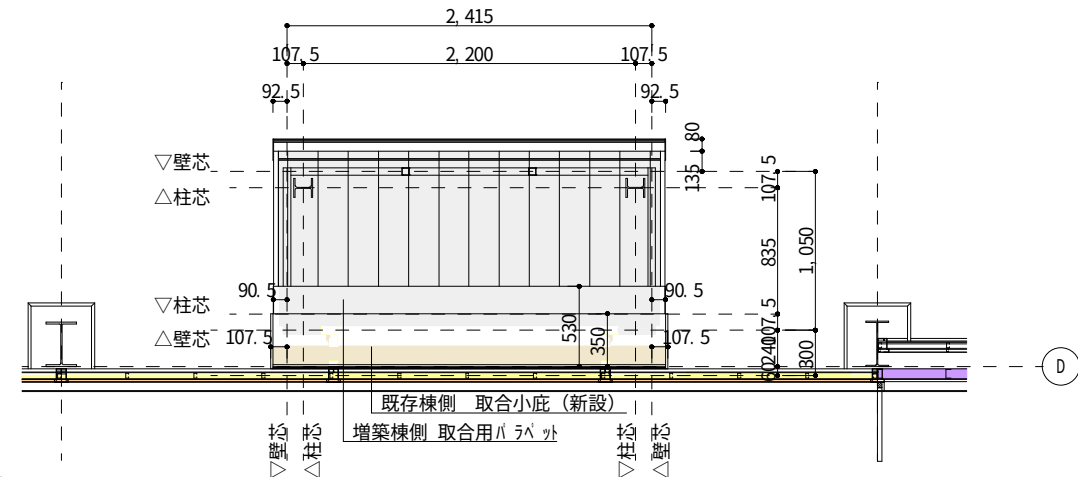
	既存CON土間階段 解体撤去の範囲を示す		既存引違窓 解体撤去の範囲を示す
	既存CON伏走 解体撤去の範囲を示す		既存引戸 解体撤去の範囲を示す
	既存モルタル巾木 解体撤去の範囲を示す		既存外壁 St パネル 解体撤去の範囲を示す
	既存As舗装 解体撤去の範囲を示す		



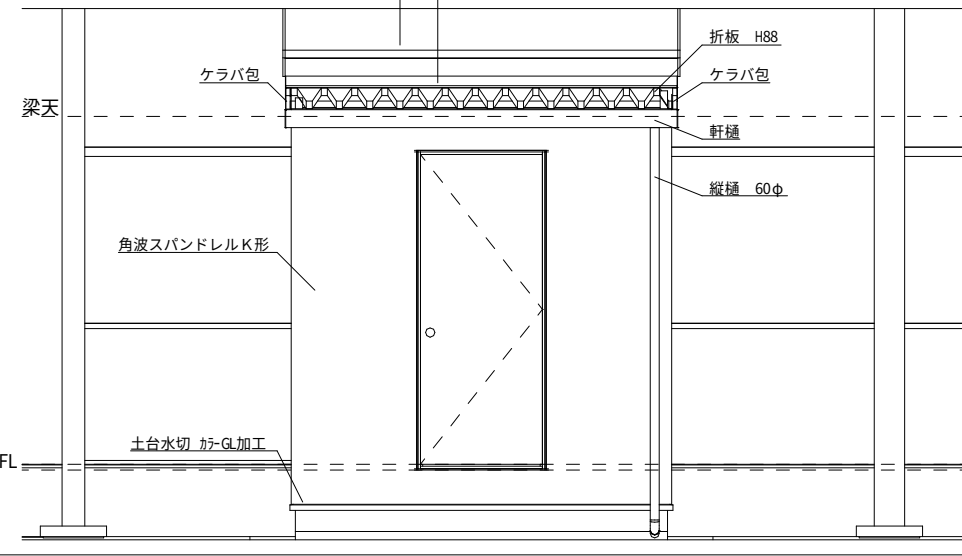
CON土間階段部 断面詳細 1/50



断面図 1/50



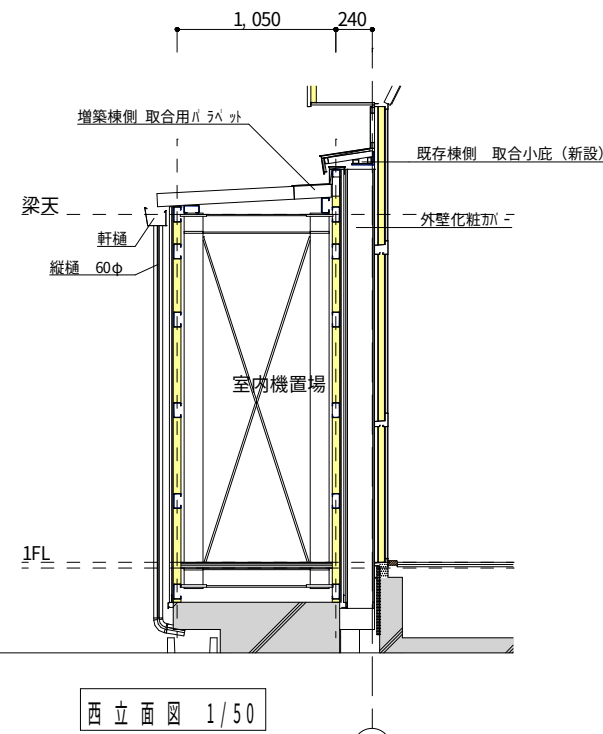
断面図 1/50



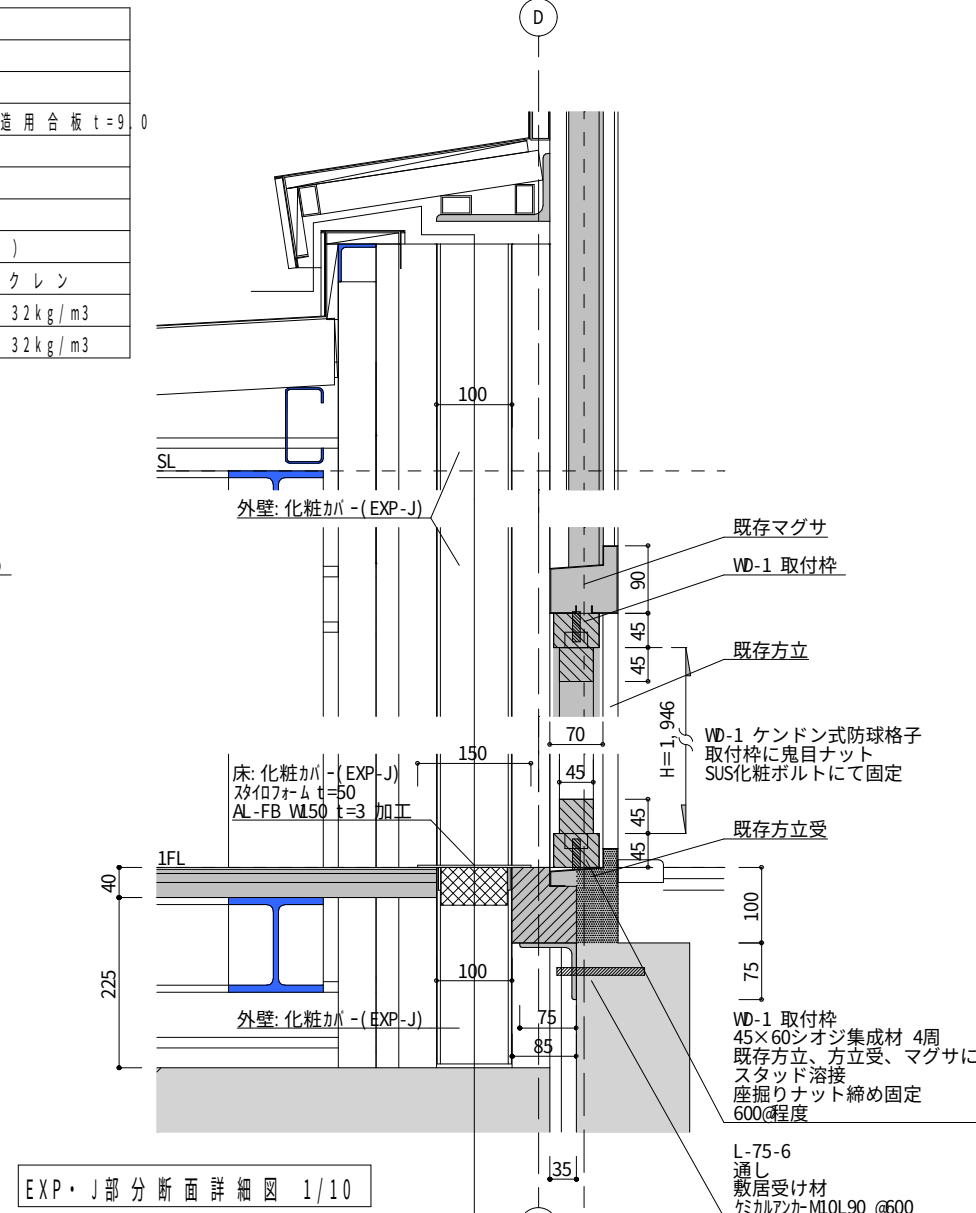
北立面図 1/50

符号・名称・性能	VD 1	ケンドン式防球格子	なし	----	AD 1	片開き戸	なし	----
			なし				なし	
姿図								
取付階・室名・箇所数	1F	室内機置場	3		1F	室内機置場	3	
建具W	建具H	扉見込	1,645	1,946	45	807	2,048	30
建具材質	建具仕上	枠材質	枠仕上	シオジ集成材	OS塗	木	シオジ集成材・OS塗	アルミニウム
ガラリ材質	ガラリ仕上	ガラス種類	ガラス厚	-	-	-	-	下枠・SUS
把手類(内)	把手類(外)	額縁・寄指等	-	-	-	-	-	-
錠形式(内)	錠形式(外)	錠種別	-	-	-	-	-	-
附属金物	認定番号	備考	4周・SUS化粧ボルト固定			付属金物一式、丁番、戸当		

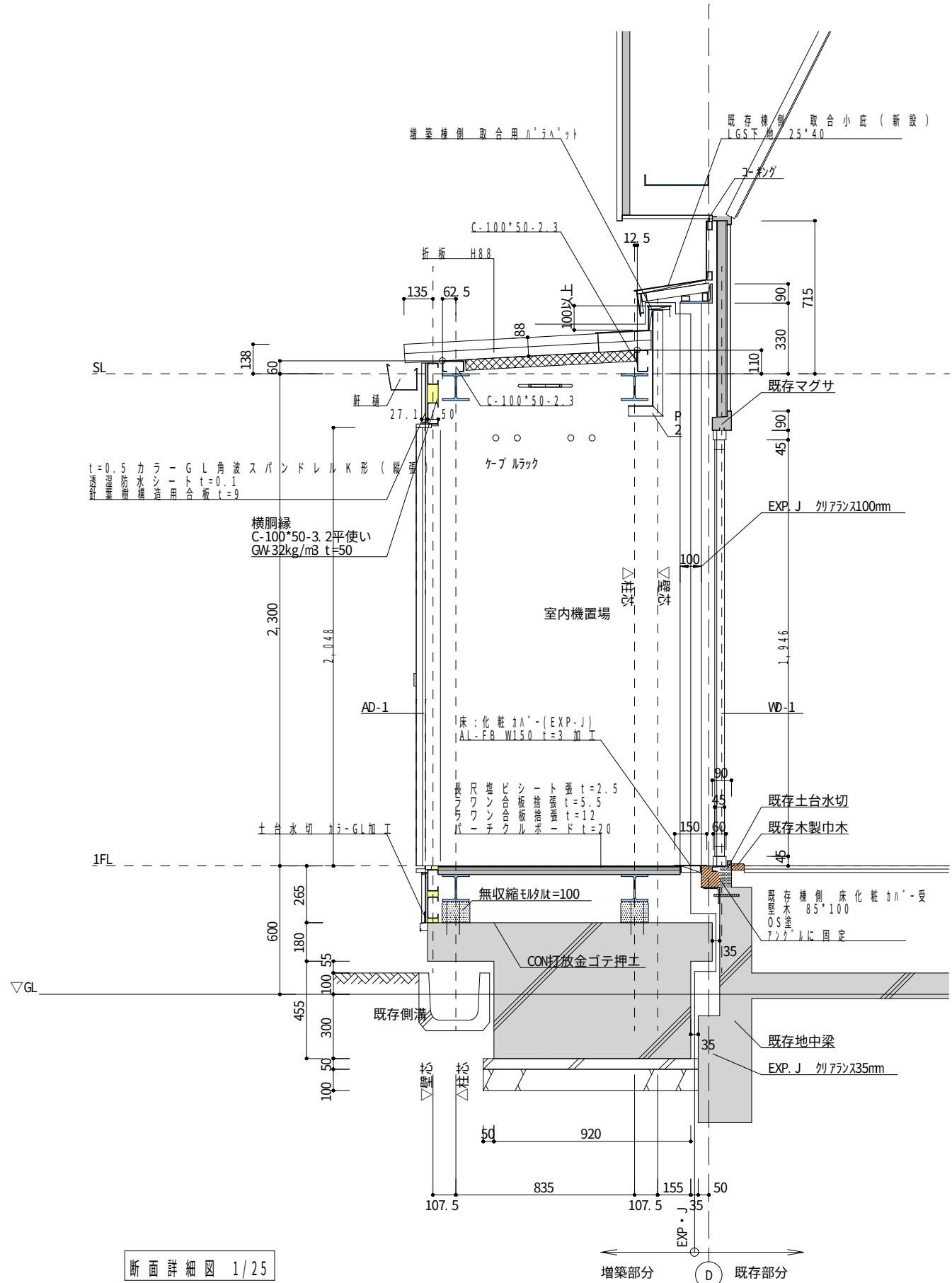
外部仕上り表	
屋根	折板 H88
外壁	角波スパンデル K 形
防湿防水シート	t=0.1、針葉樹構造用合板 t=9
断熱	C-100*50-2.3 @455 (横)
内部仕上り表	
床	長尺ビニシート張 t=2.5
	ラワン合板接着 t=5.5、12 (2重張)
	パーティクルボード t=20、プラモクレン
壁	GWガラスクロス押え保温板 t=50 32kg/m3
天井	GWガラスクロス押え保温板 t=50 32kg/m3



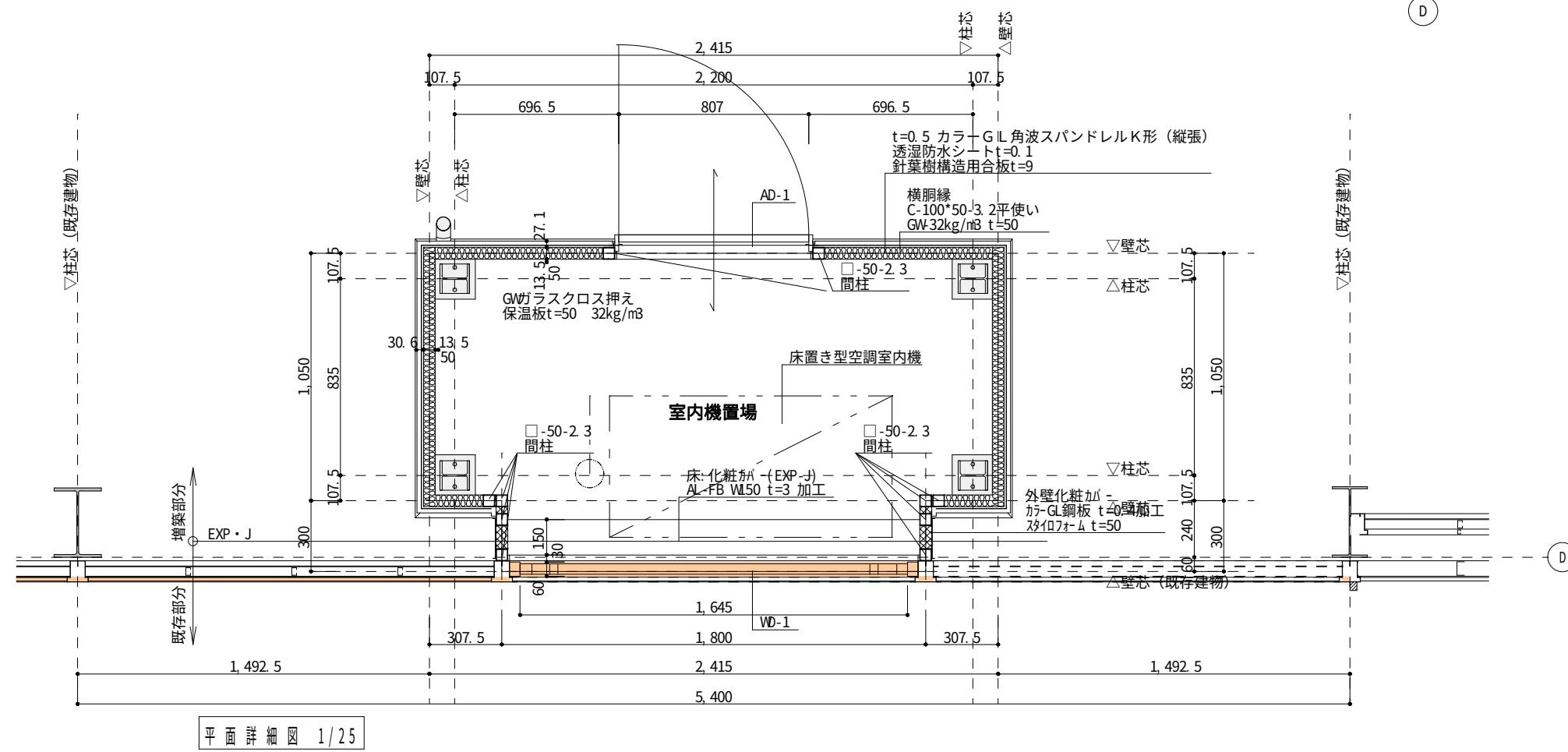
西立面図 1/50



EXP・J部分断面詳細図 1/10



断面図 1/25



平面図 1/25

鉄骨構造基準図(1)

1. 工作一般

(a) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(b) 高張力のひずみ矯正は、冷間矯正とする。

2. 切断・切削加工

(a) 鋼材の切断は、機械切断法、ガス切断法、プラズマ切断法などにより行う。
(b) ガス切断は、原則として、自動ガス切断機とする。
(c) ガス切断層のあらさ及びノッチ深さは、下表とする。

あらさ	100S 以下
ノッチ深さ	1mm 以下

(d) ガス切断面において、上記の精度が確保できないものは、グラインダーなどで修正する。
(e) セン断切断は、板厚 13mm以下のみとする。
(f) 切断面の精度を、切削加工機と同様に加工できる機械切断機（コールドソーなど）は、切断線のままでよい。

3. 開先加工

(a) 開先加工面のあらさ、ノッチ深さは下表とする。

あらさ	200S 以下
ノッチ深さ	2mm 以下

(b) 許容値をこえた場合は、適切な方法で補修する。

4. ひずみの矯正

(a) 常温で矯正する場合は、プレス又はローラー等を使用する。
(b) 加熱で矯正する場合は下表とする。
(加熱とは、点状加熱、線状加熱を示す)

加熱後空冷する場合	850℃ ～ 900℃
加熱後ただちに水冷する場合	850℃ ～ 900℃
空冷後水冷する場合	800℃ ～ 900℃ (但し、水冷開始温度は 500℃以下)

5. 曲げ加工

(a) 常温加工の場合、曲げ内半径は、板厚の2倍以上とする。
(b) 加熱加工の場合は、赤熱状態で行い、青熱脆性域（200℃～400℃）では行ってはならない。

6. 梁貫通補強要領

孔の中心距離は、孔径の3倍以上とする。
・梁端部（スパンの1/10以内かつ2D以内）は避ける
・φ≤2.0D ウェブプレート厚さの 0.5以上のプレート補強（片面）
0.20<φ≤0.3D ウェブプレート厚さの 0.5以上のプレート補強（両面）とする
0.30<φ≤0.4D ウェブプレート厚さの 1.0以上のプレート補強（両面）とする
以上の補強以外を用いる場合は、断面検討を行い提出すること

計算で確認された場合は上記の位置、寸法によらずに良い
上記範囲外の場合、雑詳細図参照とする。

7. 鉄骨段違い要領図

● 通しダイヤフラム形式の場合

鉄骨天端

3

PL-F

PL-Fb

PL-Fa

PL-F

100以上

PL-F : 取り付く柱・梁フランジの最大厚より5mm以上とする
PL-Fa : 取り付く柱フランジの最大厚と同厚以上とし
取り付く梁フランジの最大厚の2サイズ落ち以上とする
PL-Fb : 取り付く梁フランジの最大厚の5mm以上とする

スニップカット
(スニップカットは溶接で埋める事)
ガス抜きφ20

スニップカット
(スニップカットは溶接で埋める事)
ガス抜きφ20

① 視 図

② 視 図

鋼管 板厚 mm	出寸法 e mm
R ー 2.5mm以下	2.5mm
R ー 2.8mm以上	3.0mmかつ厚さ以上

※ダイヤフラムの材質は特記無き限りS490Cとする。

○ 内ダイヤフラム形式の場合

PL-F

PL-F

PL-F

PL-Fa

PL-F

100以上

PL-F : 取り付く梁フランジの最大厚より2mm以上とする
PL-Fa : 取り付く柱フランジの最大厚と同厚以上とし
取り付く梁フランジの最大厚の2サイズ増し以上とする
設計でそうならない時もあるため、注意のこと。
PL-Fb : 取り付く梁フランジの最大厚より2mm以上とする

ガス抜きφ20

ガス抜きφ20

① 視 図

② 視 図

8. 溶接接合

(a) 溶 接 工
溶接工は施工する溶接に適応するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841
(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(b) 溶 接 方 法
MC : アーク手溶接
NGC : セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接
GC : ガスシールドアーク半自動溶接
AAG : アークエアークラウジング
(c) 溶 接 姿 勢

下向 F

立向 V

横向 H

上向 O

(d) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う
(イ) 仮付位置
仮付溶接は溶接の始端、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
(ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

原則としてエンドタブの
ところで仮付けをする
やむを得ない場合
この位置に付ける

裏当て金がある場合は、すみ肉溶接は問題ない
裏当て金がない場合は、すみ肉溶接は避ける

(e) 溶 接 施 工
(イ) エンドタブ
I) 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状の
エンドタブを取り付ける
II) エンドタブの材質は、母材と同質とする

35mm以上
かつ2t以上

III) エンドタブの長さは、MC:35mm以上
NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後
母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者
又は工事監理者の承諾を得る
(ロ) 裏あて金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接
で6mm、半自動溶接で9mm以上とする

r=10mm
r=35mm
スカーラップ

但し梁成が150mm未満の場合
スカーラップr=20mmとする

(二) 裏はつり
規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の
確認を履行し、部材に確認マークをつける
(ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆剤を塗布する。
又、開先部をいためないように、養生を行う

9. 溶接基準

(注) G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

(1) スミ肉溶接

S

t1

S

t

t2

D1

D1

θ=60°

S

S

θ=60°

t1

t ≤ 16mm				
t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする
・tはt1、t2の小なる方とする
・余盛は(1+0.1S)mm以下とする
・軸力が加わる場合Sは母材と
同厚とすることが望ましい

D1 ≥ t/3
t/4 ≤ S ≤ 10mm
t ≤ t1

t	t > 16mm
溶接姿勢	F.V

・両側に補強すみ肉溶接を付加する

(2) 突合せ溶接
T形継手

θ=45°

R=2

G=0(裏はつり後溶接)

t

t

6 ≤ t mm

溶接姿勢 F.V

・両側に補強すみ肉溶接を付加する (AAG)

θ=45°

R=2

t

t1

25mm以上

θ

G

t1

L

t mm	θ	G	t1	L	MC	NGC	GC	
6 ≤ t < 12	45°	7	6	5	45°	6	6	5
12 ≤ t	35°	9	8	35	7	9	8	

溶接姿勢 F.V

・補強すみ肉溶接を付加する

θ=45°

R=2

2/3t

1/3t

t

θ=60°

G=0

t

t ≥ 19mm

溶接姿勢 F.V

・両側に補強すみ肉溶接を付加する

平継手

θ=45°

R=2

G=0

t

t

6 ≤ t mm

溶接姿勢 F.V

・両側に補強すみ肉溶接を付加する

a > 4mmの場合
平継手で板厚が異なるとき

5

1

a

t2

θ=45°

R=2

G=0

t1

θ

G

t1

L

t	6 ≤ t mm
溶接姿勢	F.V

・両側に補強すみ肉溶接を付加する

R=2

θ

t

t1

L

50mm以上

MC NGC | GC || t mm | θ | G | t1 | L | θ | G | t1 | L |
| 6 < t < 12 | 45° | 7 | 6 | 5 | 45° | 6 | 6 | 5 |
| 12 ≤ t | 35° | 9 | 9 | 8 | 35° | 7 | 9 | 8 |

溶接姿勢 F.V

(3) フレアー溶接

φ

θ

S

t

B

プレート

φ

θ

S

t

B

寸法 (mm)			
φ	B	S	
9	7	4	
13	8	4.5	
16	9	5	
19	10	6	
22	11	7	
25	12	8	

・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9mm～16mmは1パス以上、9mm以上は2パス以上とする
溶接棒角度θは30°～40°とする

Project

木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

2

Drawing

鉄骨造基準図(1)

Scale

Date

2025/09

HP

敬啓建築事務所株式会社

京都府知事登録 04A第 02848号

Kei The Architectural design office inc. 一級建築士登録第320505号 敬 啓

S-

02

/04

鉄骨構造基準図(2)

10 . 孔あけ加工

(a) 高力ボルト用孔あけ加工は、ドリルあけとする。

(b) 接合面をプラスト処理する場合は、プラスト前に孔あけ加工とする。

(c) 中ボルト、アンカーボルトは、ドリルあけを原則とするが、板厚13mm以下のときは、せん断孔あけでもよい。

(d) 孔径30mm以上の場合は、ガス孔でもよい。

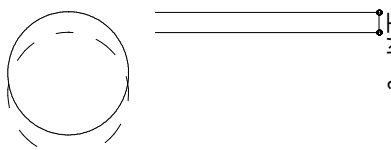
切断面のあらさは、100S以下、孔径精度は、±2mm以下とする。

種 類	孔 径(mm)	備 考
高力ボルト (27mm未満)	d+2.0	※1
高力ボルト (27mm以上)	d+3.0	
中ボルト	d+0.5	※2
アンカーボルト	d+5.0	
座 金	d+0.5	

d：公称軸径

丸 鋼	径+5.0							
異径鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
	21	24	28	31	35	38	43	46

※1 下記によるずれの範囲内に限りリーマーの使用を認める。
但し、リーマの径は、ボルト公称直径+1.0mm以下のものを使用すること。

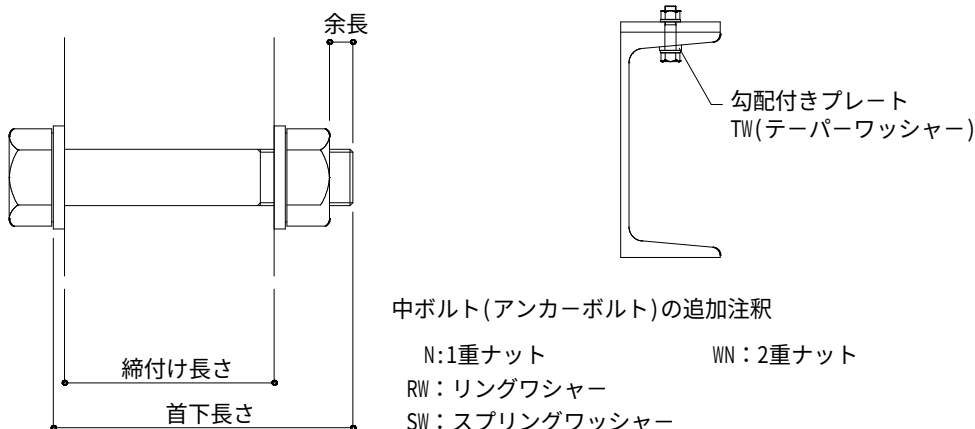


※2 二次的な部材取付け（胴縁・母屋など）はd+1.0mmとする。

11 . ボルト長さ

中ボルト（仕上ボルト）の標準		
ボルトの呼び径	締め付け長さに加える長さ (mm)	
	1重ナット締めの場合	2重ナット締めの場合
M12	25	35
M16	30	45
M20	35	50
M22	40	60
M24	45	65

トルシア形（六角）高力ボルトの標準	
ボルトの呼び径	締め付け長さに加える長さ (mm)
M12	－
M16	30
M20	35
M22	40
M24	45



中ボルト(アンカーボルト)の追加注釈

N:1重ナット WN:2重ナット
RW：リングワッシャー
SW：スプリングワッシャー
UN：緩み防止ナット(Uナット・ハードロック等)
KUN：キャップ付き緩み防止ナット(Uナット等)

12 . 高力ボルト接合

(a) 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。

(b) 仮締めボルトは、本接合のボルトと同軸径の普通ボルトとする。
輸送時にスプライスプレートを仮止める場合は、仮締めボルトを使用すること。
柱を現場溶接とする場合、仮固定用ボルトは、全数を締付けること。

(c) 高力ボルトは1次締めを行い、マーキング後、本締めを行う。

1次締めのトルク値は次記とする。

M16	9.8kN/cm	(1000kgf/cm)
M20	14.7kN/cm	(1500kgf/cm)
M22	14.7kN/cm	(1500kgf/cm)

本締めはピンテールが破断するまでとし、マーキングよりの回転量を確認する。
回転量にばらつきがある場合、1群の平均回転量±30°の範囲を合格とする。
不合格の場合、取り替えることとする。



一次締めのマーキング状態

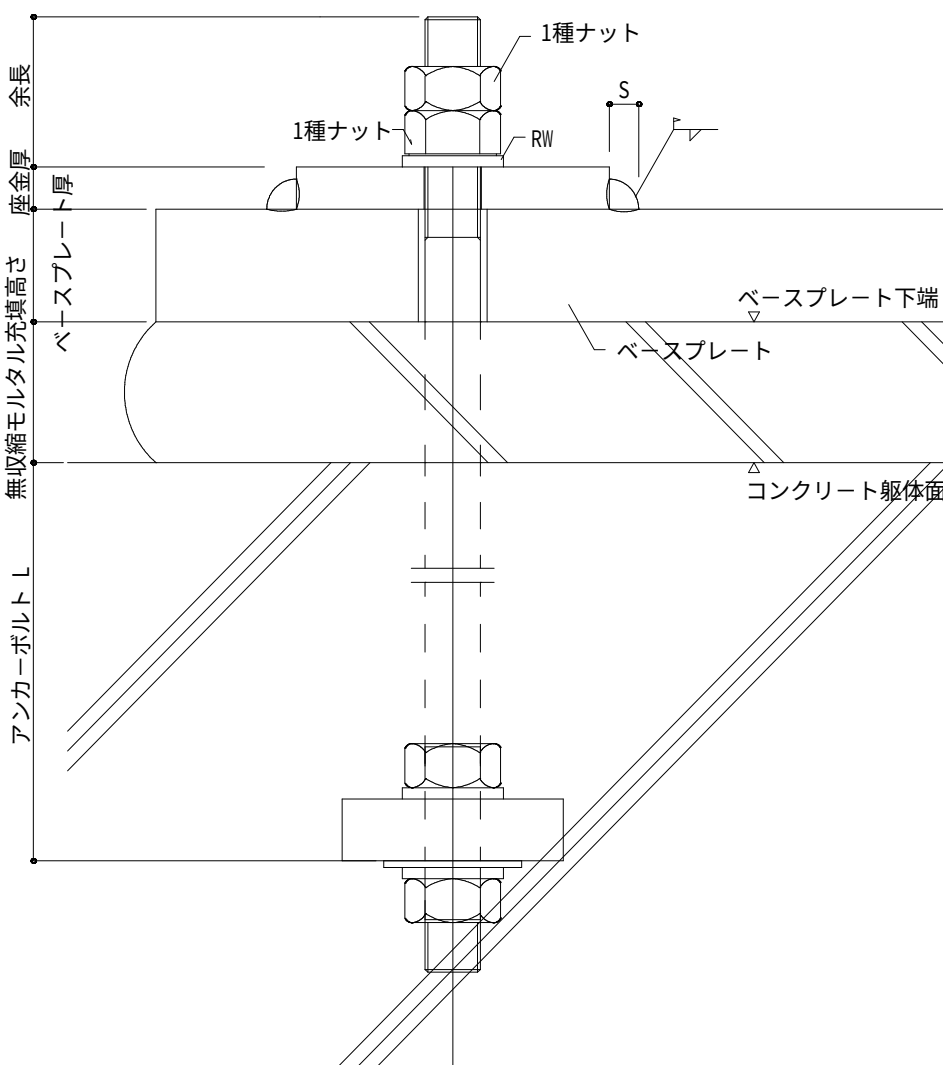
本締めの状態

13 . アンカーボルト接合

アンカーボルトに取付ける座金・アンカープレート					
採用	ボルトの呼び径	座金(t×φ)	余長	隅肉 S	アンカープレート
○	M20	PL-9×φ45	45	5	PL-12×φ60
○	M24・M27	PL-12×φ70	55	5	PL-22×φ85
○	M30・M33	PL-16×φ80	70	7	PL-25×φ100
○	M36	PL-19×φ85	75	9	PL-28×φ110
○	M39	PL-19×φ95	80	9	PL-28×φ120
○	M42	PL-19×φ105	85	9	PL-28×φ130
○	M45	PL-19×φ115	90	9	PL-28×φ140
○	M48	PL-22×φ120	95	12	PL-32×φ150

・座金の材質は PL-25以下は SS400、PL-28以上は SM490Aとする。

・ベースプレート孔径を d+0.5として施工する場合は 座金省略してもよい。

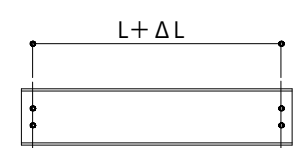
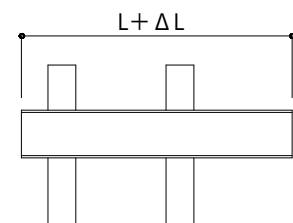
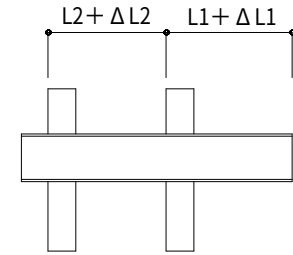
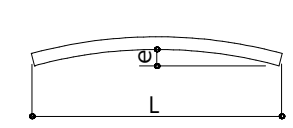
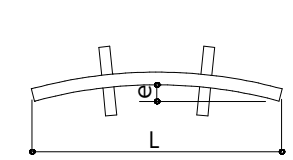
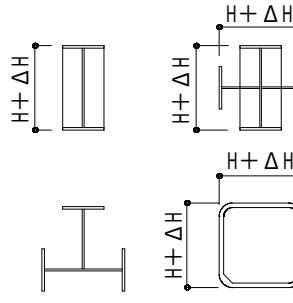
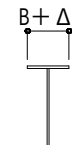
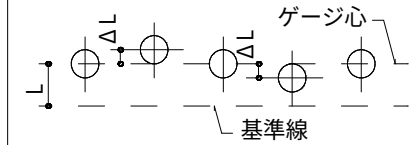
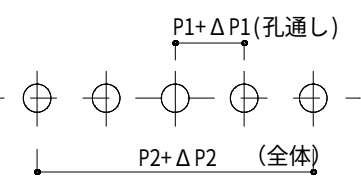
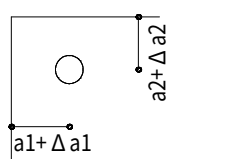


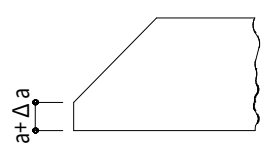
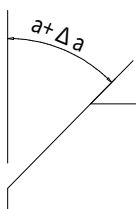
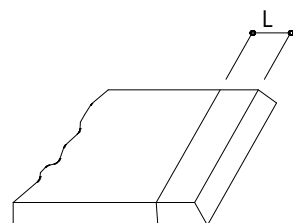
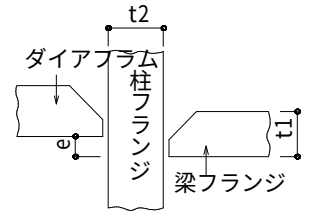
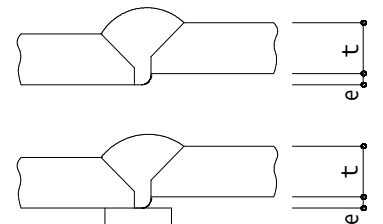
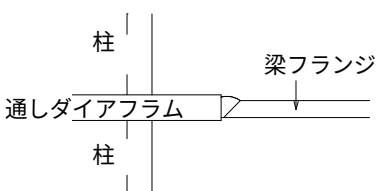
・座金の孔径は ボルトの呼び径 +0.5mm以下とする。

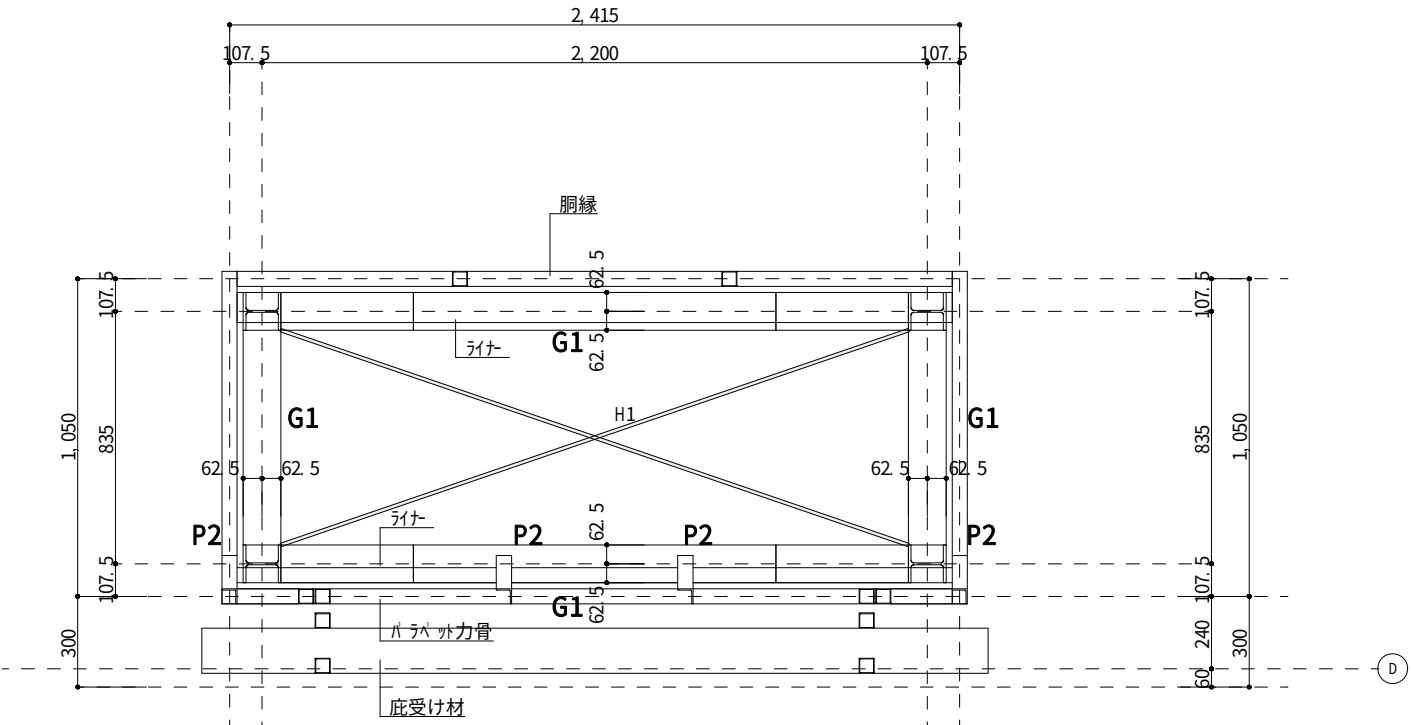
・二次部材は、座金を省略することができる。

・設計図書内で記載するアンカーボルト長 L は、上記 L 部のみを示す。

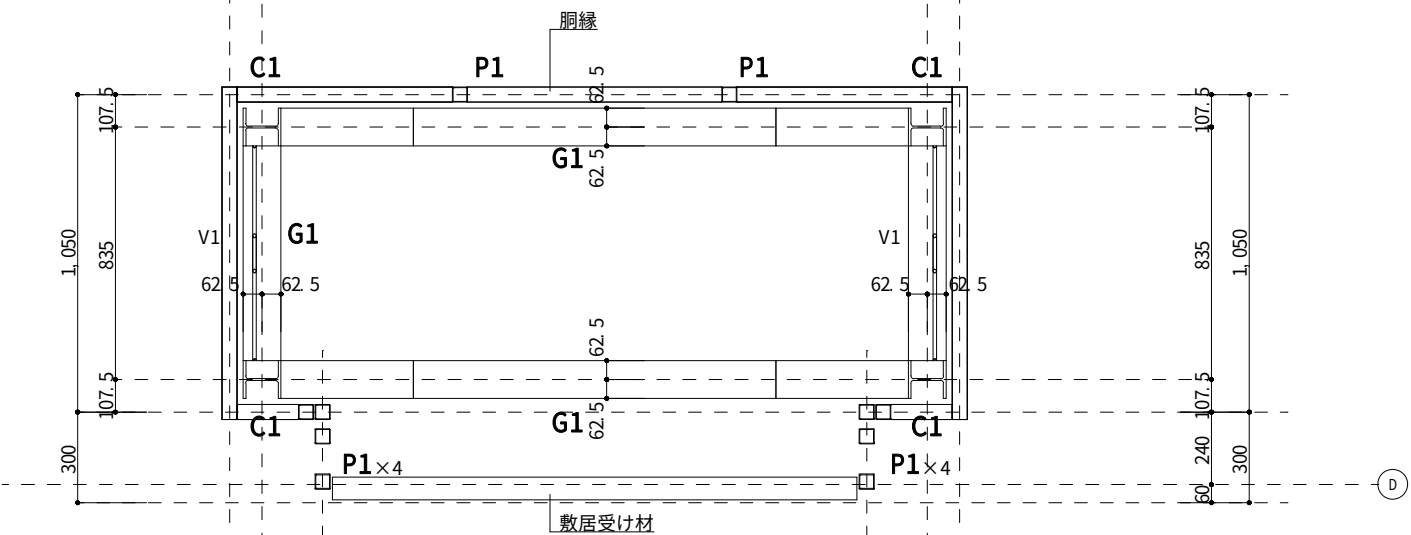
14 . 寸法許容値

名 称	図	許 容 差
(1) 梁の長さ ΔL		-3mm≤ΔL≤+3mm
(2) 柱の長さ ΔL		L<10m -3mm≤ΔL≤+3mm L≥10m -4mm≤ΔL≤+4mm
(3) 階 高 ΔL		-3mm≤ΔL1≤+3mm -3mm≤ΔL2≤+3mm
(4) 梁の曲がり e		e≤L/1000かつ e≤10mm
(5) 柱の曲がり e		e≤L/1500かつ e≤5mm
(6) せ い ΔH		H≤400mm -2mm≤ΔH≤+2mm 400mm<H<800mm -H/200≤ΔH≤+H/200 H>800mm -4mm≤ΔH≤+4mm
(7) 幅 ΔB		-3mm≤ΔB≤+3mm
(8) 孔の心ずれ ΔL		-1mm≤ΔL≤+1mm
(9) 孔間隔のずれ ΔP		-1mm≤P1≤+1mm -2mm≤P2≤+2mm
(10) 孔のはしあき・へりあき Δa		Δa1≥-3mm Δa2≥-3mm かつ「高力ボルト接合設計施工指針」のはしあき・へりあきの最小値を満足すること。

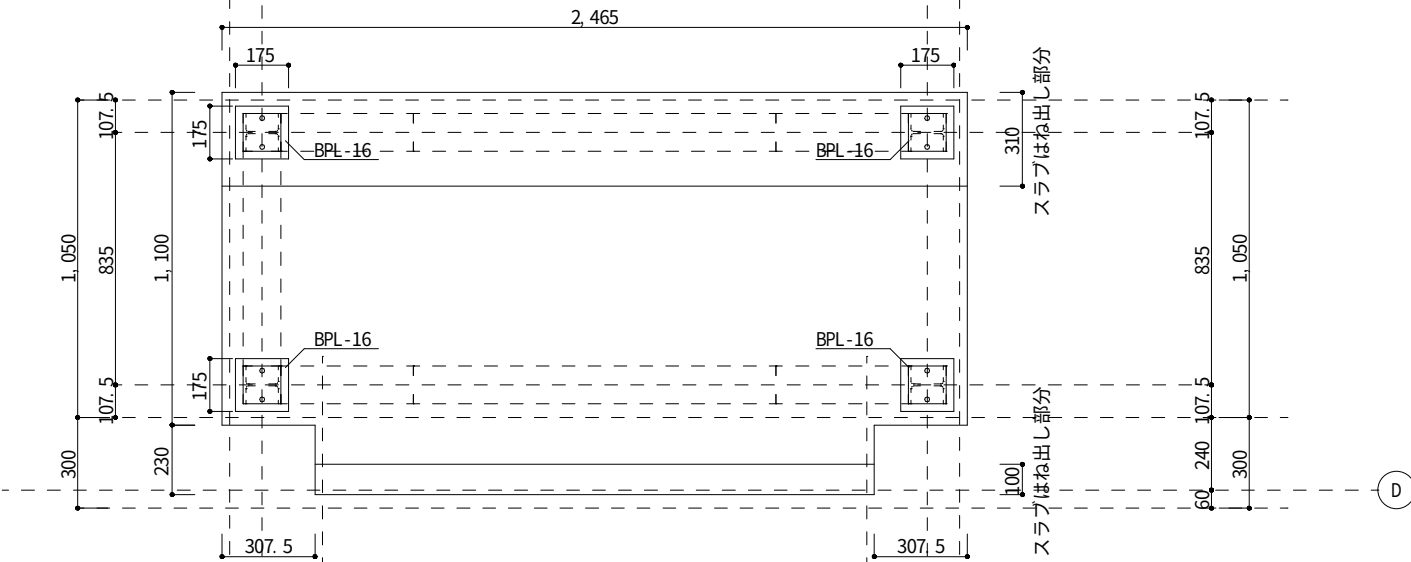
名 称	図	許 容 差
(11) ルート面 Δa		セルフシールドアーク半自動溶接 アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 裏当てあり -2mm≤Δa≤+1mm 裏当てなし -2mm≤Δa≤+2mm サブマージアーク溶接 -2mm≤Δa≤+1mm
(12) ベベル角度 Δa		Δa≥-2.5°
(13)工事現場溶接部保護塗装の塗幅 L		L≥50mm 膜厚は錆が発生しない程度（10～15μ）の1回塗りを標準とする。
(14)柱と梁の仕口のダイアフラムとフランジのずれ		t1≥t2の場合 e≥t1/5 かつ e≤4mm t1<t2の場合 e≥t1/4 かつ e≤5mm
(15) 突き合わせ継手の食い違い		t≤15mmの場合 e≤1.5mm t<15mmの場合 e≤t/10 かつe≤3mm
		梁フランジは 通しダイアフラムの厚み内で 溶接しなければならない



RF 梁伏図 1/50

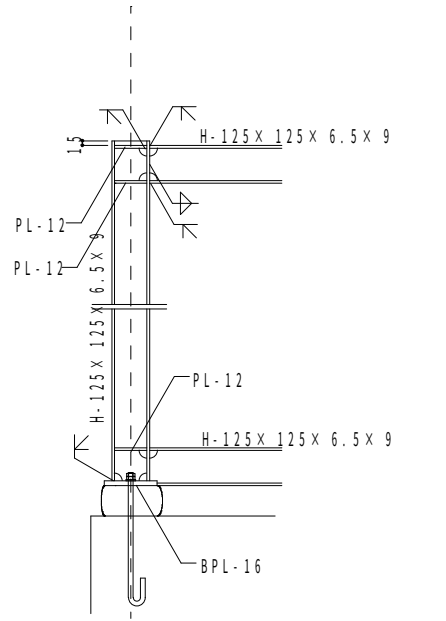


1F 床伏図 1/50

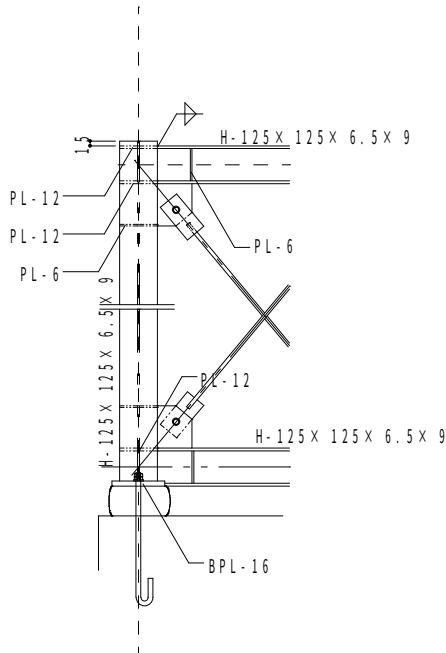


柱 梁伏図 1/50

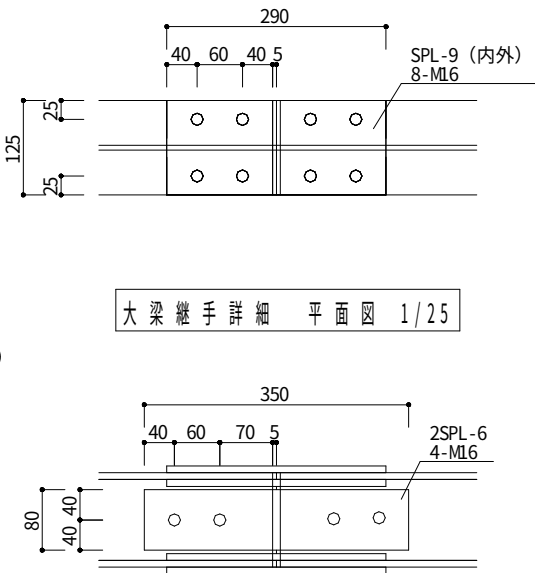
部材リスト	
記号	仕様
C1	H-125X 125X 6.5X 9
P1	□-50-2.3
P2	L-50-4 L=658 加工
G1	H-125X 125X 6.5X 9
筋 線	C-100X 50X 20X 2.3 @455
ライナー	C-100X 50X 20X 2.3
ハバ外力骨	L-50-4
V1, H1	φ12 9→H'198



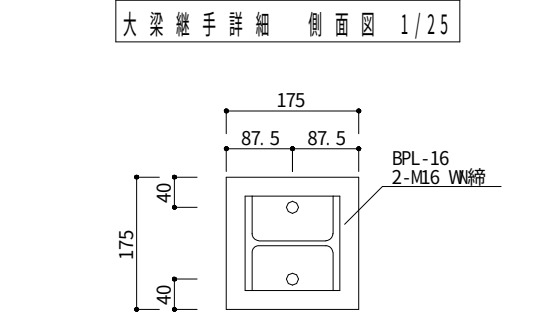
南北方向 詳細図 1/25



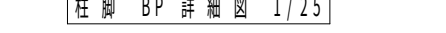
東西方向 詳細図 1/25



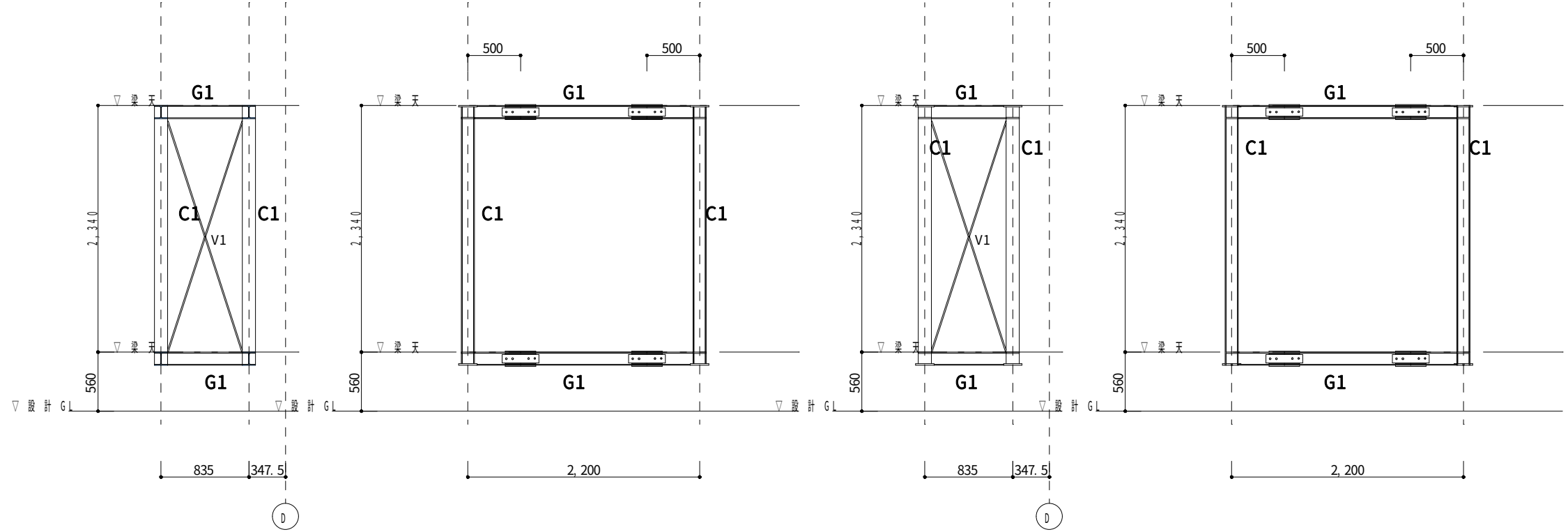
大梁 梁中 詳細 平面図 1/25



大梁 梁中 詳細 断面図 1/25



柱 梁 BP 詳細図 1/25

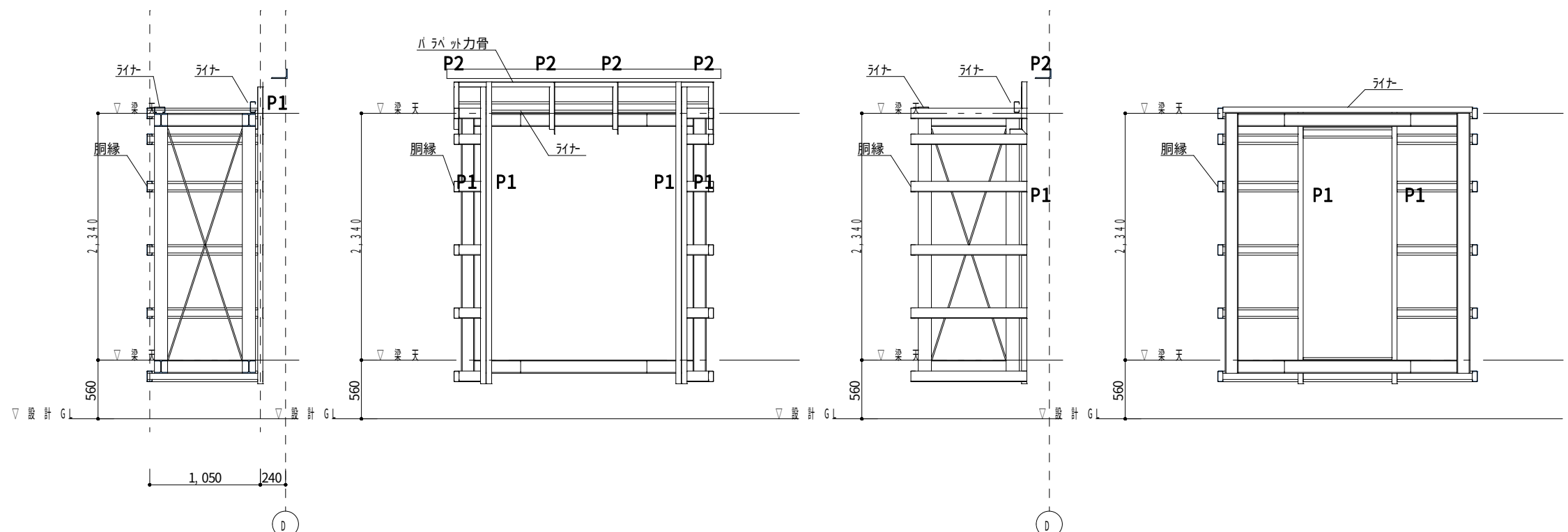


東面 軸組 1/50

南面 軸組 1/50

西面 軸組 1/50

北面 軸組 1/50

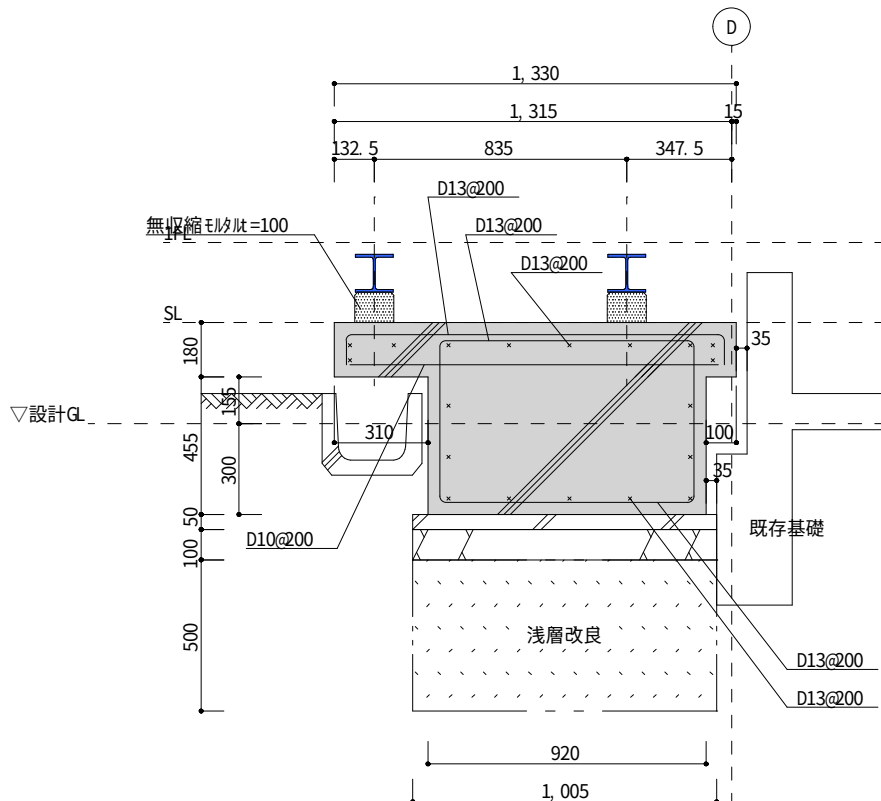


東面 軸組 (付属鉄骨) 1/50

南面 軸組 (付属鉄骨) 1/50

西面 軸組 (付属鉄骨) 1/50

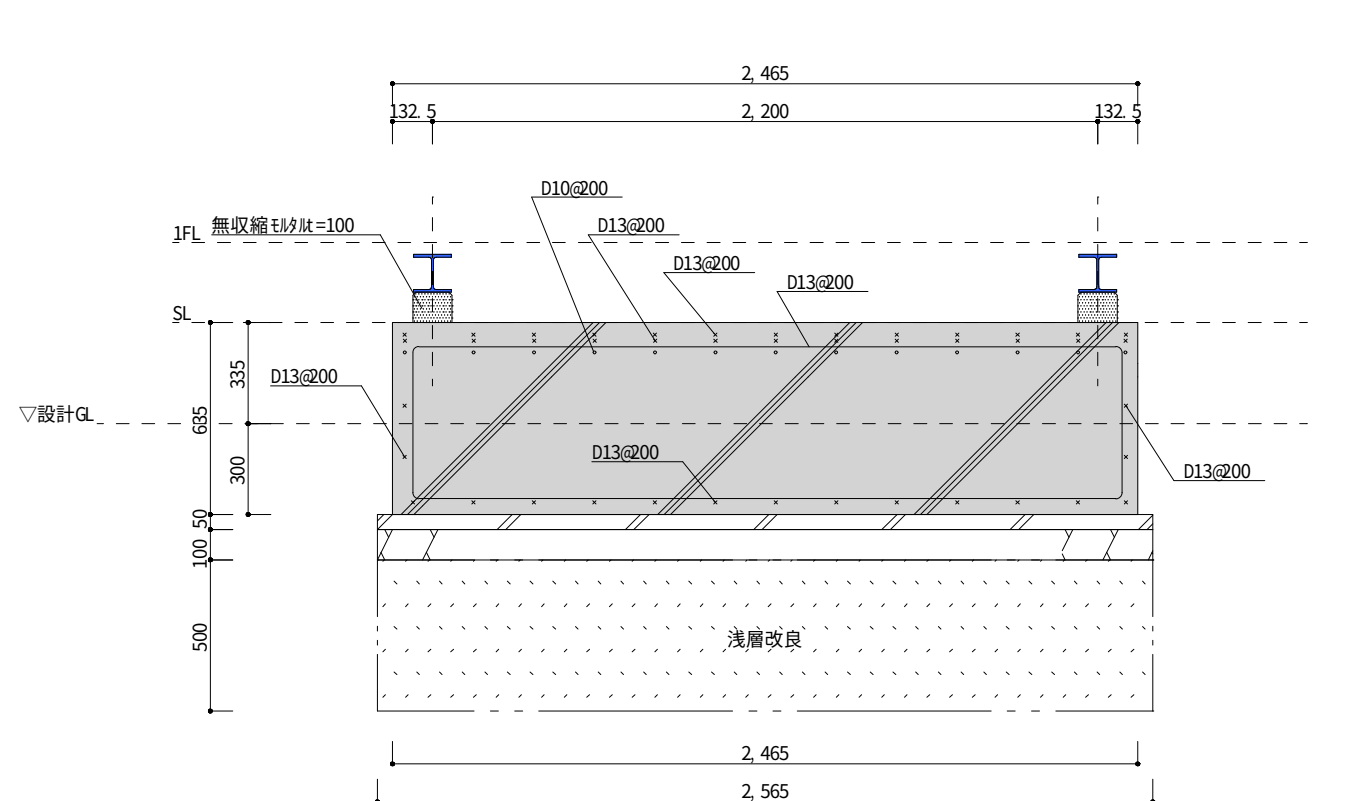
北面 軸組 (付属鉄骨) 1/50



基礎詳細 Y 方向 1/25

<基礎コンクリート>
設計基準強度 FC24 (N/mm2) Fc
調合管理強度 FC24+S (N/mm2) Fq
スランプ 15(cm)

<地盤改良>
浅層改良 D=500 セメント系固化材添加量 70kg/m3



基礎詳細 X 方向 1/25

Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事
増築部分構造図

Scale 1/25, 1/50, 1/10

Date 2025/09

設計 株式会社 京都府知事登録 04A第 02848号
Rei The Architectural design office Inc. 一般建築士登録第320505号 設計

【工事概要】

1 工事場所宇治市木幡内畑 3 4

2 建物概要

機械設備工事特記仕様書 № 1

建 物 名	構 造	階 数	延床面積 (㎡)	消防法令別表第一	耐震安全性の分類	備 考
第一体育館	R C	2			○甲 ○乙	
第二体育館	鉄骨造	1			○甲 ○乙	
					○甲 ○乙	

3 工事科目

●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目	建物名称	第一体育館	第二体育館	
空調調設備		●	●	○
換気設備		●	●	○
排煙設備		○	○	○
自動制御設備		○	○	○
衛生器具設備		○	○	○
給水設備		○	○	○
排水設備		○	○	○
給湯設備		○	○	○
消火設備		○	○	○
ガス設備		●	●	○
厨房機器設備		○	○	○
浄化槽設備		○	○	○
医療ガス設備		○	○	○
撤去工事		●	●	○
		○	○	○

- 【特記事項】
- 1 一般事項
- 1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和 7 年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和 7 年版（以下「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和 7 年版」による。
- 2) 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
- 2 特記事項
- 項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。
※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。

章	項 目	特 記 事 項
一	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	※機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課営繕技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	※機材の品質・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1．4．2（3）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事に施工に当たっては、請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気保安技術者 ○技能士（一般）	※適用する ○適用しない ※配管（配管工事） ○冷凍空調調和機器施工
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが ※できる ○できない
	※足場・作業構台	別契約の関係者・受注者が設置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない ○設置する（○本工事 ○別途）
二	※監督職員事務所 に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編) ・公共建築設備工事標準図(機械設備工事編) ・機械設備工事監理指針 ・機械設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針 ・工事写真撮影ガイドブック機械設備工事 ・公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編) 編(最新版)
	※建設副産物の処理 及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの【 】 ○再生資源利用を図るもの【 】 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○臭化リチウム ○ ○構外指定地に搬出処理 ※（財）城山山砂利採取地整備公社 ○構外搬出適切処理 （運搬及び処分費は ○本工事 ○別途） ○構内指示場所に敷き均し
	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出	詳細は現場説明書「II 特記事項 14 建設副産物の取扱い 2）再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。
	1) 「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。	
	2) 関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。	
	3) 冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く）。（横込：※本工事 ○別途、 処分費：※本工事 ○別途、 運搬費：※本工事 ○別途）	
	○アスベストの処理等	
	1) 次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○ダクトパッキン ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：) ○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：) ○煙道の断熱材 ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：) ○アスベスト成形板 ○含有 ○不含 ○要調査(分析資料数：)	
	アスベスト成形板の処理等	
	施工調査 アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認・施工範囲等の確認 確認範囲 ※成形板の製造年等の確認 ○X線解析法	
三	2) アスベスト含有調査は以下のとおりとする。 （ただし、調査費用は ※本工事 ○別途 とする。） ※ J I S A 1 4 8 1－2 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法－第2部試料採取及びアスベスト含有の有無を判定するための定性分析方法」又は J I S A 1 4 8 1－3 「建材製品中のアスベスト含有方法－第3部：アスベスト含有率の X 線回折定量分析方法」による。	
	3) アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。	

項 目		特 記 事 項		
一	※工事関係書類	営繕工事契約関係書類提出書類式集●一覧表により提出。 ●宇治市k-lh'-ジ参照 <http://www.city.ujl.kyoto.jp>		
	※履行報告	月報 ※2部 ○3部 毎月末にメメ、翌月の5日までに提出する。		
	※工事写真	1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編(最新版)」による。 2) 工事完成時、整理の上、1部提出する。 3) デジタルカメラで撮影可とする。		
	※完成図書	名 称	内 容 大きさ 部 数	
		○完成図	金文字製本 A 4 版 1 部	
		○完成図	○背貼り製本(版) ○A 4 ファイル止め 2 部	
		○施工図	○背貼り製本(版) ○A 4 ファイル止め 2 部	
		●機器完成図等	機器製作図 ファイル止め A 4 版 2 部	
			保守指導案内書 (機器取説書を含む)	
			機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書	
事		○諸官庁提出書類	副 本 1 式	
		○原図	完 成 図 1 部	
		●完成写真	アルバム綴り 2 部	
項	※著作権等	電子納品については、現場説明書による。 当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。		
	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表による。		
共	●総合試運転調整 (測定結果は報告書にて提出)	●風量調整 (測定共) ○水量調整 (測定共) ○室内外空気の温湿度測定 ○室内気流及びじんあいの測定 ●騒音の測定 ○別表2による ○飲料水の水质の測定 ○雑用水の水质の測定 ●室内温度測定 (夏冬の切替による)		
	●耐震施工	1) 設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 2) 下記の設計用水平震度 (KH) により、機器製作固定を行う。		
		設 置 場 所	●特定の施設 ○一般の施設	
			●重要機器 一般機器 重要機器 一般機器	
		上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) 1.5 (2.0) 1.5 (2.0) 1.0 (1.5)	
		中 間 階	1.5 (1.5) 1.0 (1.5) 1.0 (1.5) 0.6 (1.0)	
		1 階 及 び 地 下 階	1.0 (1.0) 0.6 (1.0) 0.6 (1.0) 0.4 (0.6)	
		設 置 場 所	○特定の施設 ○一般の施設	
			水 槽 水 槽	
		上層階、屋上及び塔屋	2.0 1.5	
通		中 間 階	1.5 1.0	
		1 階 及 び 地 下 階	1.5 1.0	
		注1 耐震安全性の分類が甲類の建物は特定の施設を、乙類の建物は一般の施設を適用する。屋外に設置する機器は建物の耐震安全性の分類に準じる。ただし、敷地内に甲類の建物と乙類の建物が混在する場合は、特定の施設を適用する。 注2 () 内の数値は、防震支持の機器の場合に適用する。 注3 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注4 上層階の定義は、6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上階2階。 注5 重要機器 (水槽類) は、下記に示すものとする。 (水槽類にはオイルタンク等を含む。) 【 】 注6 「建築設備耐震設計・施工指針 (2014年版)」による形鋼振れ止め支持を行う場合は「S」種とする。ただし、取付け金物については標準図に準ずる。		
	○一般用弁	標準仕様書第2編2.2.1 (ア) ～ (シ) によるほか、下記による。 1) 水道連結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。 2) 給水・給湯用の青銅弁は、給水用青銅弁を使用する。		
	○フレキブルジョイント	機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、銅板に対してはペロース形、FRPに対しては合成ゴム製とする。		
	○伸縮管継手 (銅管用)	銅管用伸縮管継手は下記による。 ○ペロース形 ○スリーブ形		
	○溶接接合	溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する (○放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査)		
	●地中埋設標及び埋設表示用テープ	1) 給 水 管 地中埋設標 (○要 ○不要) 埋設表示用テープ (○要 ○不要) 2) 消 火 管 地中埋設標 (○要 ○不要) 埋設表示用テープ (○要 ○不要) 3) ガ ス 管 地中埋設標 (●要 ○不要) 埋設表示用テープ (●要 ○不要) 4) 油 管 地中埋設標 (○要 ○不要) 埋設表示用テープ (○要 ○不要) 5) プライン管 地中埋設標 (○要 ○不要) 埋設表示用テープ (○要 ○不要) 用途表示のあるテープ (幅は150mm以上) で、2倍長以上重ね合わせて使用する。		
	●防食処理	土中埋設の排水用塩ビラインング銅管は、防食処置を行う。		
	●保温	1) 保温材の使用は、下記による。		
事		給水管・排水管 ●ポリスチレンフォーム保温材 ○		
		排煙ダクト・煙道、排気筒 ○ロックウール保温材 ○		
		その他 ○グラスウール保温材 ●ロックウール保温材		
		2) 膨張管及び膨張水槽からの補給水管の保温は、冷水管に準ずる。 3) 銅板製タンクの保温 ○必要 ○不要 4) 保温を施す膨張水槽等の蓋の保温 ○必要 ○不要 5) エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜弁までとする。 6) 露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内 ○合成樹脂カバー1 ○合成樹脂製カバー2 ●カラー亜鉛鉄板 ・屋外 ●ステンレス鋼板 (つや消し) 7) 弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ 8) 車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 9) 合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの		
	●塗装	標準仕様書による他下記の配管は塗装 (指定色塗装) を行う。ただし保温を行う配管ダクトを除く ●屋外 (○ダクト ●配管) ○屋内P S・E P S (○ダクト ○配管) ○屋内機械室・電気室 (○ダクト ○配管)		
	○吹出口及び吸込口ボックス	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合は J I S A 4 0 0 9 (空調調和及び換気設備用ダクトの構成部材) によるものとし、厚さ0.6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。		
	○ステンレス製の板厚	ステンレス製ダクトの板厚は J I S A 4 0 0 9 2 0 1 7 による		
	○ボックス	P F 管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。		
	●容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。		
	●誘導電動機	電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、J I S C 4 2 1 3 (低圧三相かご形誘導電動機－低圧トップランナーモータ) による。		
項	○開放形膨張タンク等	開放形膨張タンク、補給水タンク及び消火用充水タンクの材質は次による ○銅板製 ○ステンレス鋼板製		
	○電線及び電線管	電線及び電線管については標準仕様書第4編第1章第5節による		

章	項 目	特 記 事 項
一	●はつり	1) 既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2) 復旧はモルタル補修までとする。
	●インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2編第5章による。 施工後確認試験 ●行方（国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和 7年度））による。
	○防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復旧方式は ○遠方復帰式（電気式（定格入力 D C 2 4 V 0．6 A 以下）） ○手動復帰式
	○消音内貼	ダクト及びチャンパー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は ○不要 ○必要 ・チャンパーの寸法は、外形寸法を示す。 （ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。） ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。
	○ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー類に必要に応じ設ける。
	○取付枠	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。
	●機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等（○溶融亜鉛メッキ ●S U S ） ビット内 ・その他（○一般品 ○ ） ●機器側の材質がS U S 製の場合は、S U S 製とする。
	●防火区画	●平面階 ○図示
	●掲示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板（文字標識）を設ける。
	○天井仕上区分	() 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
二	○給油設備	地下オイルタンク ○設ける ○設けない 遠隔油量指示計 ○設ける ○設けない 副指示計 ○設ける ○設けない オイルサービスタンク 油面計 ○ゲージ式 ○ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○給油ポンプの起動、停止制御用 ○返油ポンプの起動、停止制御用 ○満油警報 ○遠隔警報（○減油 ○満減油）
		油管（露出、トラフ内） ○配管用炭素鋼管（黒） ○ 油管（地中） ○ポリエチレン被覆鋼管 ○
	○建物導入部配管（排気及び通気を除く）	○標準図 施工4(a)（フレキシブルジョイントを使用） ○標準図 施工5(b)（ポールジョイントを使用） ○標準図 施工5(c)（スリクションを使用）
	●鋼材	屋外部分 ○溶融亜鉛めっき（○2種35） ●ステンレス鋼製（S U S 3 0 4）
	○制御及び操作盤	構成 ○進相コンデンサー ○運転時間計 表示等 ○運転（赤色）及び停止（緑色）表示 ○保護継電器の動作表示
	接点及び端子	○遠方発停用端子 ○温度調節器用端子 ○運転時間表示用端子 ○温水出入口温度用端子 ○冷水出入口温度用端子 ○消費電力表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○給水量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○燃料消費量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用）
	●主方式	○全空気方式（○中央 ○各階ユニット） ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式 ○
	●主要熱源機器	○吸収冷凍水機 ○チリングユニット ○空気熱源ヒートポンプユニット ●空冷ヒートポンプ式パッケージ形空調機（○E H P ●G H P ○ ） ○
	●設計時の温湿度条件	場 所 屋 外 屋内（調整目標値） 時 期 温度（D B）湿度（R H）温度（D B）湿度（R H）温度（D B）湿度（R H） 冬 期 0.4 ℃ 67.2 % 19.0 ℃ 40.0 % ℃ % 夏 期 36.3 ℃ 44.3 % 28.0 ℃ 45.0 % ℃ %
	○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法）
三	○ダクトの分岐方法	○割込み工法 ○直付け工法
	●配管材料（図面特記部分は除く）	冷水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ 冷却水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○塩ビラインング銅管（S G P－V A、S G P－F V A） 空調用排水管 ○配管用炭素鋼管（白）（○ねじ接合 ○M Dジョイントによる接合） ○水配管用亜鉛めっき鋼管 ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（R F－V P） ●ビニル管（V P） ●保温付V P管
		補給水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ 膨張管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ エア抜き管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ 冷媒管 ○銅管 ●断熱材被覆銅管（ガス管：ハイグレード仕様） ○パッケージ形空調機と2次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。
	●冷媒管接続方法	●火無工法とする。
	○温度計	○工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計 ○ガラス製二重管温度計
	○定風量ユニット	○メカニカルタイプ
	○変風量ユニット	○風速センサータイプ（○プロペラ形センサー ○熱線センサー）
	○ファンコイルユニット	風量分配ダクトは ○亜鉛鉄板製 ○自己消火性のポリスチレンフォームなど かつ形ファンコイルユニット
	○バーナー制御方式	○オン・オフ制御 ○ハイ・ロー制御 ○比例制御
	○電動機盤	○進相コンデンサー（○要 ○不要）
四	○排熱投入再生器	直置き吸収冷凍水機に（○要する。 ○不要である。）
	○高温再生器の構造	※図面による。
	○集熱リモコン	表示機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 ○室内温度 データー管理機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 ○室内温度 ○外部記憶媒体への出力

木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

機械設備工事特記仕様書 № 2

章	項 目	特 記 事 項																	
空 気 調 和 設 備	○鋼板製煙道	厚さ ○3. 2 mm ○4. 5 mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○掃除口																	
	○ばい煙濃度計	○ファン付 ○ファンなし (電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む) ○固定形 個 ○着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)																	
	○瞬間流量計	○固定形 個 ○着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)																	
	●保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 ●不要 ○必要 露 出 部 ○保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ○ カラー亜鉛鉄板 ● ビニル化粧テープ巻き ・屋外 ●ステンレス鋼板 (つや消し) ●保温化粧ケース (樹脂製) ○アルミ合金製 ●高耐食鋼板 ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加温用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。																	
換 気 設 備	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ○スパイラルダクト ○アルミフレキシブルダクト																	
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式																	
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。																	
		<table><thead><tr><th colspan="2">ダ ク ト の 長 辺</th><th>板 厚</th></tr></thead><tbody><tr><td>4 5 0 mm以下</td><td></td><td>0. 6 mm</td></tr><tr><td>4 5 0 mmを超え 1 2 0 0 mm以下</td><td></td><td>0. 8 mm</td></tr><tr><td>1 2 0 0 mmを超え 1 8 0 0 mm以下</td><td></td><td>1. 0 mm</td></tr><tr><td>1 8 0 0 mmを超えるもの</td><td></td><td>1. 2 mm</td></tr></tbody></table>				ダ ク ト の 長 辺		板 厚	4 5 0 mm以下		0. 6 mm	4 5 0 mmを超え 1 2 0 0 mm以下		0. 8 mm	1 2 0 0 mmを超え 1 8 0 0 mm以下		1. 0 mm	1 8 0 0 mmを超えるもの	
ダ ク ト の 長 辺		板 厚																	
4 5 0 mm以下		0. 6 mm																	
4 5 0 mmを超え 1 2 0 0 mm以下		0. 8 mm																	
1 2 0 0 mmを超え 1 8 0 0 mm以下		1. 0 mm																	
1 8 0 0 mmを超えるもの		1. 2 mm																	
排 煙 設 備	○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板 (補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フードりに取付けする幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ○不要 ○必要																	
	●保 温	浴室・厨房 (多湿箇所) の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ●必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。																	
	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m ²																	
	○ダクトの種別	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト																	
設 計 制 御	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法																	
	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製																	
	○排煙口	1) 形一様 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。																	
	○保温	床下及び暗渠内の保温 ○不要 ○必要 (図示)																	
衛 生 器 具 設 備	○小便器用節水装置	電気供給方式 ○A C 電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池																	
	○自動水栓	電気供給方式 ○A C 電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池 手動スイッチ ○無し ○有り																	
	○大便器用洗浄弁	操作方式 ○手動式 ○電気開閉式 (○センサー式 ○タッチスイッチ式)																	
	○水石けん入れ	○手洗器一体型 ○手洗器分離型 ○																	
給 水 設 備	○身障者用器具	1) 大便器洗浄弁 ○センサー式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。																	
	○給水方式	○水道直結方式 ○高置タンク方式 ○増圧ポンプ方式 (水道用直結加圧形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式 (給水ポンプユニット)																	
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○ステンレス鋼管 (SUS304) (呼び径60 S u以下は拡管式、呼び径75 S u以上は溶接接合) ○ビニル管 (H I V P) ○ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PB、SGP-FPB) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VA、SGP-FVA) ○保温付き (保護材) ポリデン管 地中配管 [屋内] ○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60 S u以下は拡管式、呼び径75 S u以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50 φ以下) (※2種 ○1種) (ポリエチレン管の接合方法は ○電気融着 ○メカニカル) ○ビニル管 (H I V P) ○ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PD、SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD、SGP-FVD) ○ 浴室、便所配管 コンクリート埋設配管 ○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60 S u以下は拡管式、呼び径75 S u以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50 φ以下) (※2種 ○1種) ○ビニル管 (H I V P) ○ポリ粉体ライニング鋼管 (SGP-PD、SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD、SGP-FVD) ○保温付き (保護材) ポリデン管																	
	○緊急遮断弁装置	○要 ○不要 駆動方式 ○電気式 ○機械式																	
給 水 設 備	○量水器	○現地表示式 (直読式) ○遠隔表示式																	

章	項 目	特 記 事 項	
給 水 設 備	○水栓柱	○合成樹脂製 (70×70×1300H) ○ステンレス製 () ○アルミニウム合金製 () 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。	
	○管の埋設深さ	1) 一般敷地 ○300mm 2) 構内車両通路 ○600mm 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。	
	○加入金・負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)	
	○本管引込工事	○本工事 ○別途工事	
排 水 設 備	○排水方式	汚水と雑排水 [屋内] 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ポンプ排水 ○分流式 ○合流式 ○分流式 ○合流式 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽2次側) ○なし	
	○放流式	汚水 雑排水 雨水ポンプアップ 湧水ポンプアップ ○直放流下水管 ○浄化槽 ○ ○直放流下水管 ○浄化槽 ○別途樹・側溝 ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹 ○直放流下水管 ○雨水側溝 ○雨水樹	
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング銅管 (D-V A) ○銅管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ○ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○ 屋内汚水排水管 ○排水用塩ビライニング銅管 (D-V A) ○ビニル管 (VP) ○RF-VP ○耐火二層管 ○	
		通気管 ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○銅管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ○ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○	
		地中配管 [屋内] ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○	
		地中配管 [屋外] ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○コンクリート管	
		銅管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング銅管 (SGP-VA、SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD、SGP-FVD) とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	
	○満水試験継手	○必要 (図示箇所に取付ける) ○不要	
	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)	
	○本管接続工事	○本工事 ○別途工事	
	給 湯 設 備	○給湯方式	○中央式 ○局部式 ガス湯沸器
		○配管材料	○銅管 (壁又は床埋設をする場合は、保護付被覆銅管を使用してもよい。) ○ステンレス銅管 圧縮・プレス接合 ○耐熱性塩ビライニング銅管 ○保温付き (保護材) ポリデン管 ○架橋ポリエチレン管
○保温		ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2-3、5による。	
消 火 設 備	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火 () ○連結送水管 消火	
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。	
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素銅管 (白) ○圧力配管用炭素銅管 (白) 地中配管 ○消火用ポリエチレン管 (PE) 屋内外地中配管 ○外面被覆銅管 (SGP-VS) ○消火用ポリエチレン管	
	○保温	消火用充水タンクの保温を 消火用呼水タンクの保温を 屋外露出管の保温を 屋内露出管の保温を トレンチ内の保温を ○施工する (膨張タンクによる) ○施工しない (膨張タンクによる) ○施工しない ○施工する (膨張タンクによる) ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる) ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる) ○施工しない ○施工する (給水管の保温仕様に準ずる)	
ガ ス 設 備	●ガスの種類	●都市ガス (発熱量 ●45,000 kJ/N m ³ ○ KJ/N m ³) ○液化石油ガス (○50 kg 本立 ○20 kg 本立)	
	●ガスメーター 既設	親メーター ●貸与品 ○購入	
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○配管用炭素銅鋼管 (白) 屋内外地中配管 ●ポリエチレン被覆銅管 ●ガス用ポリエチレン管 ○ 都市ガスの場合は、供給者仕様による。 大阪ガスネットワーク(株)	
	●地中埋設管の接合法	●SGM工法 ○ネジ工法 ●PE管工法	
設 計 備	○ビット内施工法	○溶接工法	
	●負担金	●不要 ○必要 (○別途 ○本工事)	
	●本管接続工事	●本工事 ○別途工事	
	○掘削工法	○パーカッション式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式	
設 計 井	○孔口保護管	深度 () m	
	○ケーシング材質	○配管用炭素銅鋼管 (黒管) ○配管用ステンレス銅鋼管	

その他	●コア抜き (「グイッド」穴明け)	鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管等の位置に裏出しを行う。 参考メーカー 日本無機炭 八幡製鉄所 R C レーダー N J J - 1 0 5 型同等品
	●校正記録	試験器類の校正記録を提出する。
	●交差誘導員	試験器搬入時、撤去材搬出時、外部掘削時に配置する。
	●保安器材	カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。
	○鉄板敷き	1,524×6,096×厚22mm
	●アンカーボルト	中庭外壁に配管する冷温水管支持金具取付はケミカルアンカーを使用する。 鉄筋探査機により探査し鉄筋、配管等の位置に裏出しを行う。

別表 付属品・予備品

○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スパナ、ハンマー）
○マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンプブライヤー ○ラバークップ（大、小）
○イージーキャビネット 箱 ○キーボックス
○盤類予備品（ランプ及びヒューズの100%）

試験・検査

○水圧試験	○排水満水試験	●排水通水試験	●風量測定	●吹出口温度測定
●気密試験(冷媒・ガス配管)	●点火試験	●機器類動作試験		
●騒音測定	○振動測定	●絶縁試験		
○消防設備試験	○水質検査	○水槽水張り試験	●アンカー引張試験(室内機、室外機)	

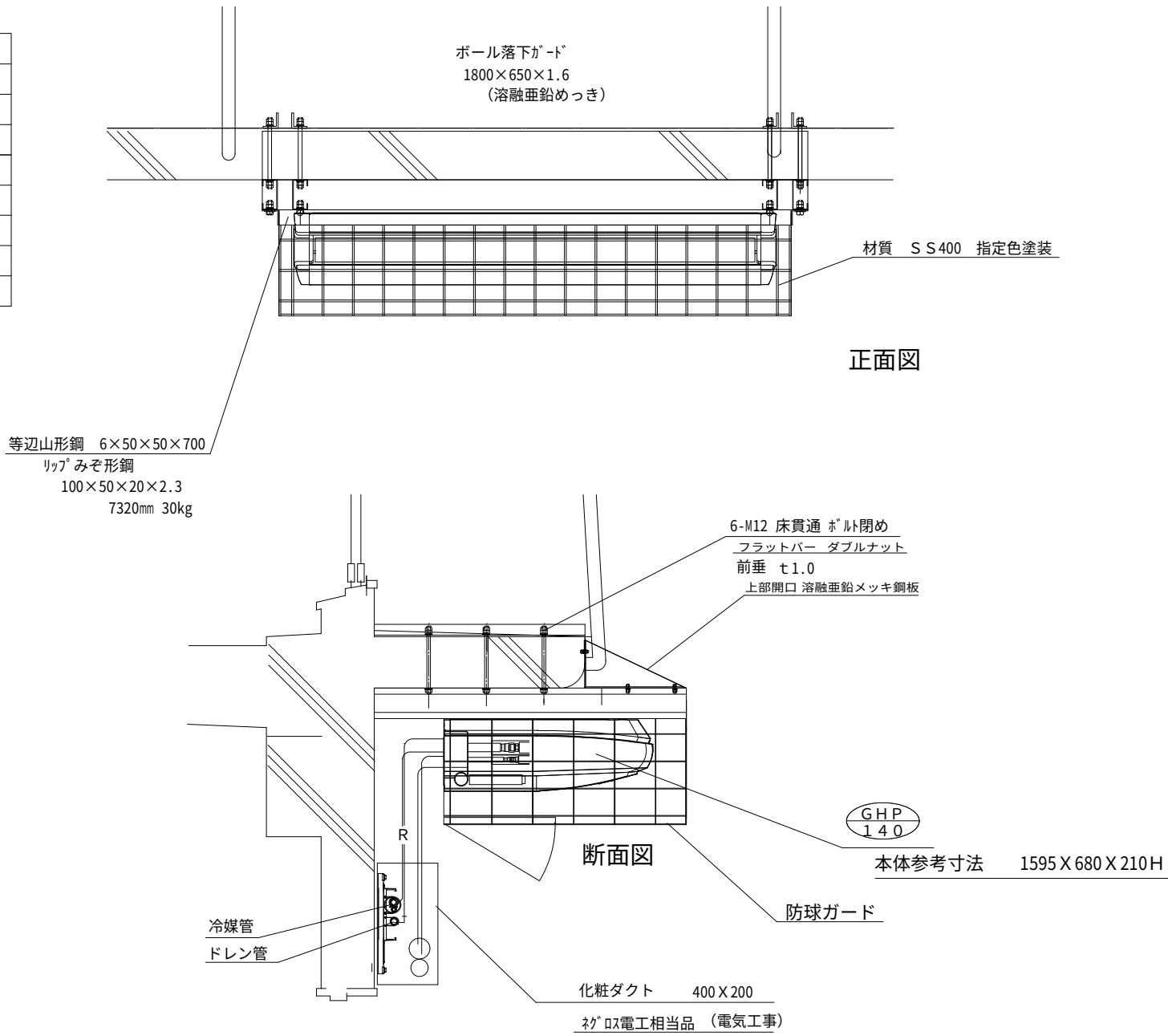
Project		木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事	
Drawing		機械設備工事 特記仕様書-2	
Scale		Date	2025/09
敬 啓 建 築 事 務 所 株 式 会 社 Kei Une Architectural design office inc.		京都府知事登録第 3 0 2 0 5 0 号 第 8 号 営 業 許 可 一級建築士登録第 3 0 2 0 5 0 号 営 業 許 可	
		M-02 ¹¹	

凡 例

記 号	名 称								備 考	
		SGP (白)	VP	保温付 -VP	PE	CUP-L	大阪ガス仕様 PLP	大阪ガス仕様 ELP		
—— R ——	冷 媒 管	国土交通省仕様					●			火無工法
—— D ——	ド レ ン 管	(屋外立管、屋外露出部分)			●					屋外は カラーVP
—— D ——	ド レ ン 管	(室内露出、化粧加 [〃] -内部分)				●				
—— G ——	ガ ス 管	(地中埋設、土間下部分)					●		●	
—— G ——	ガ ス 管	(一般、露出部分)			●					塗装仕上
	空気搬送ファン	(新設 天井吊型)								
	壁付換気扇	(既設 24時間換気用他)								
	雑排水桝	雨水桝								

NO	品 目	製 造 者 名 簿
1	ガスエアコン	アイシン精機（株） ダイキン工業㈱ パナソニック（株） ヤンマーエネルギーシステム㈱
2	換気扇、ファン類	三菱電機（株） パナソニック（株） 日立アプライアンス（株） 東芝キャリア空調（株）
3	保温付硬質塩化ビニル管	積水化学工業㈱ ACD型 因幡電工㈱ NDD型
4	屋内機用防球金具	因幡電機産業㈱ ブラコー㈱ ホーコス㈱

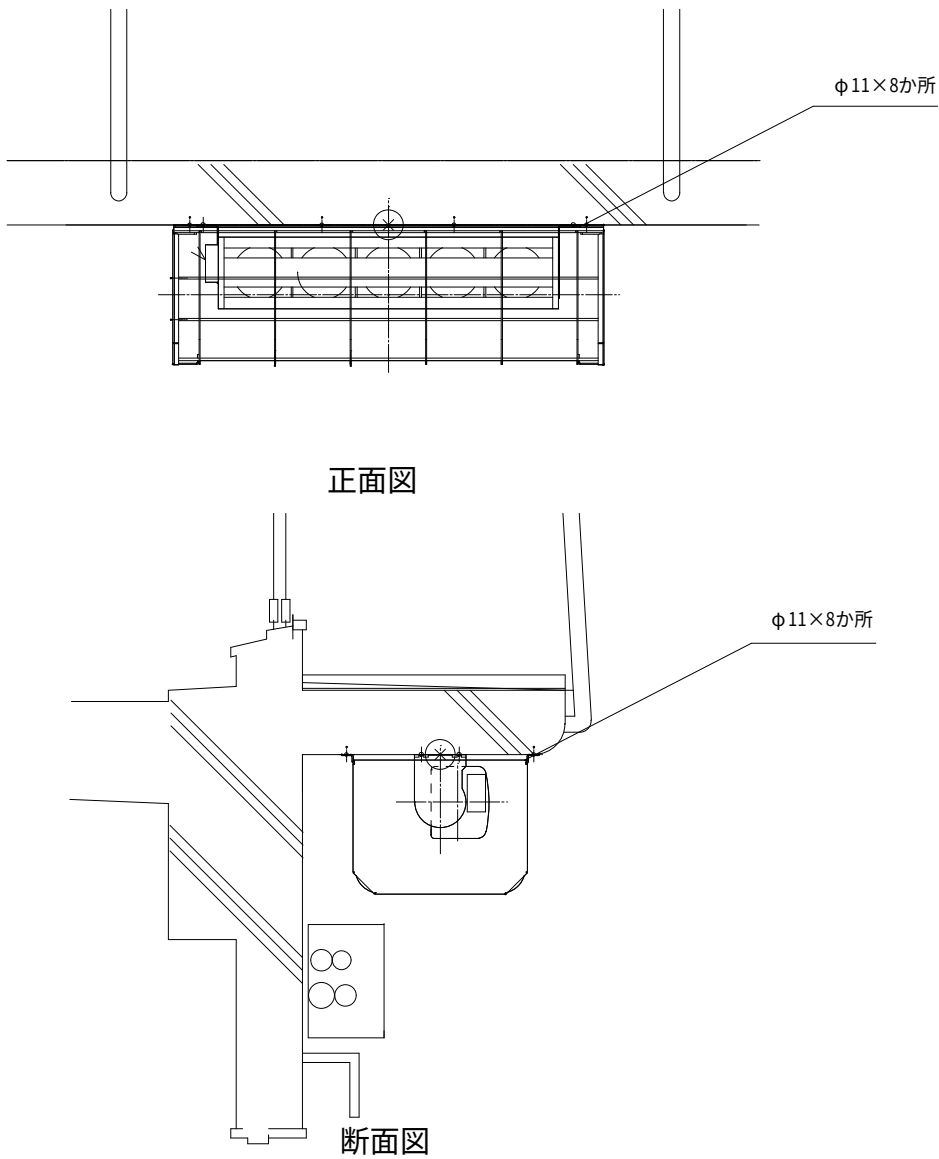
1）上表中●印を適用する
2）管材は下記の通りとする
CUP-L リン脱酸銅継目無銅管（空調用断熱被覆銅管）
SGP（白） 配管用炭素鋼銅管
VP 硬質塩化ビニル管
保温付-VP 保温付硬質塩化ビニル管
PE ガス用ポリエチレン管
PLP ガス用外面ポリエチレン被覆銅管
ELP ガス用塩化ビニル被覆銅管



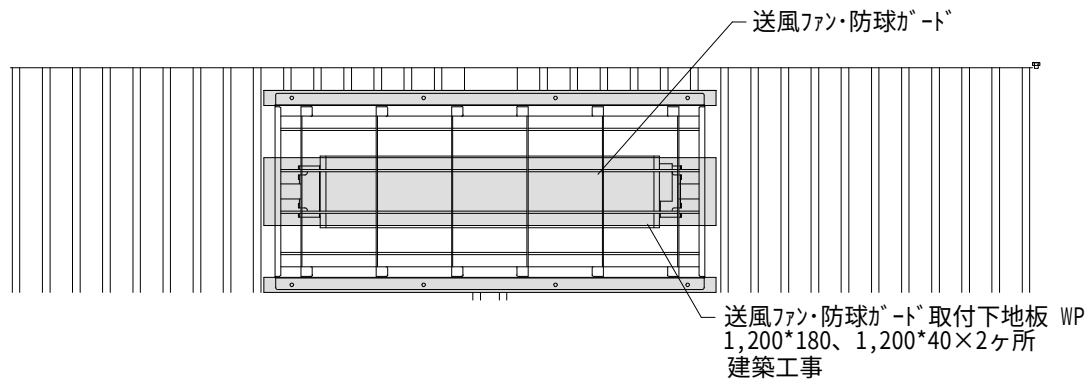
パッケージエアコン 取付参考図 1/30

防球ガード	材質	S S 400 指定色塗装
	参考寸法	1800 X 800 X 350 H
	格子ピッチ	100 X 100
	前垂	溶融亜鉛メッキ鋼板 t1.0
製作図面作成承諾を得ること		

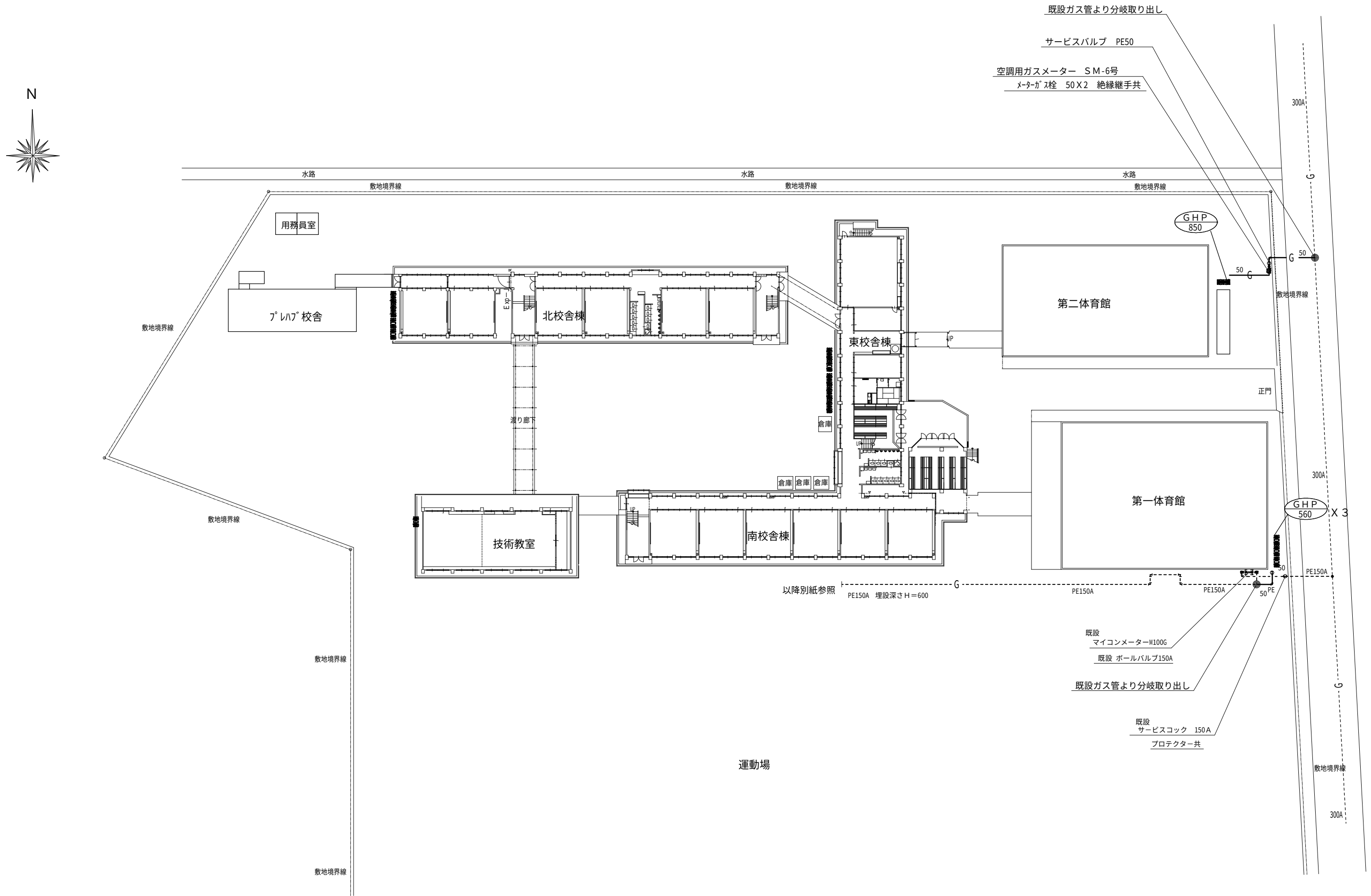
第一体育館 エアー搬送ファン防球ガード取付参考図 1/20



第二体育館 エアー搬送ファン防球ガード取付参考図 1/20



Project			
木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事			
Drowing			
機械設備工事 特記仕様書-3 機器取付参考図			
Scale	1/30	Date	2025/09
№			
畝 啓 建 築 事 務 所 株 式 会 社 京 都 府 知 事 登 録 〇 四 A 第 〇 二 八 四 八 号 Kei Une Architectural design office inc. 一級建築士登録第320505号 畝 啓			
M-03/11			



配置図 1/600

機器表

記 号	名 称	型 式	台数	冷房能力 (Kw)	暖房能力 (Kw)	圧縮電動機 (KW)	送風電動機 (KW)	電 源 (φ V)	消費電力 (W)		本体寸法(mm) W×D×H	製 品 重量 (kg)	冷媒管 (m/m)	風量 m3/min	燃料 (kw/H) 冷房	燃料 (kw/H) 暖房	台数	設 置 場 所	備考
									冷房	暖房									
GHP 560	ガスエンジン	パッケージエアコン		56.0	63.0		0.75×2	1φ×200	1330	1190	2026 880 2228	870	28.58 15.88		46.1	42.7	3	コンクリート基礎	(建築工事)
	ビルマルチ型	室外機 ハイパワープラス							非発電時	非発電時			R5		非発電時	非発電時			
																		ケミカルアンカー M-12 X12本	
GHP 140	ガスエンジン	パッケージエアコン		14.0	16.0			1φ×200V	84	84	1595 680 210	33	15.88 9.52				1 2	防球ガード共	
	天井露出型	屋内機											R2						
	ガスエンジン	パッケージエアコン															3	体育室	
		リモコンスイッチ																	
F-1	エアー搬送ファン			風量 1450m3/h	消費電力	1φ×100V×83W			本体寸法	1016×222×197	11kg						8	体育室	
				コントロールスイッチ														AH-2009SA2型 防球ガード共	
																		リモコンスイッチ	

ケミカルアンカー

ボルト呼径	L(mm)	穿孔径(mm)
M-10	80	13.5
M-12	90	14.5

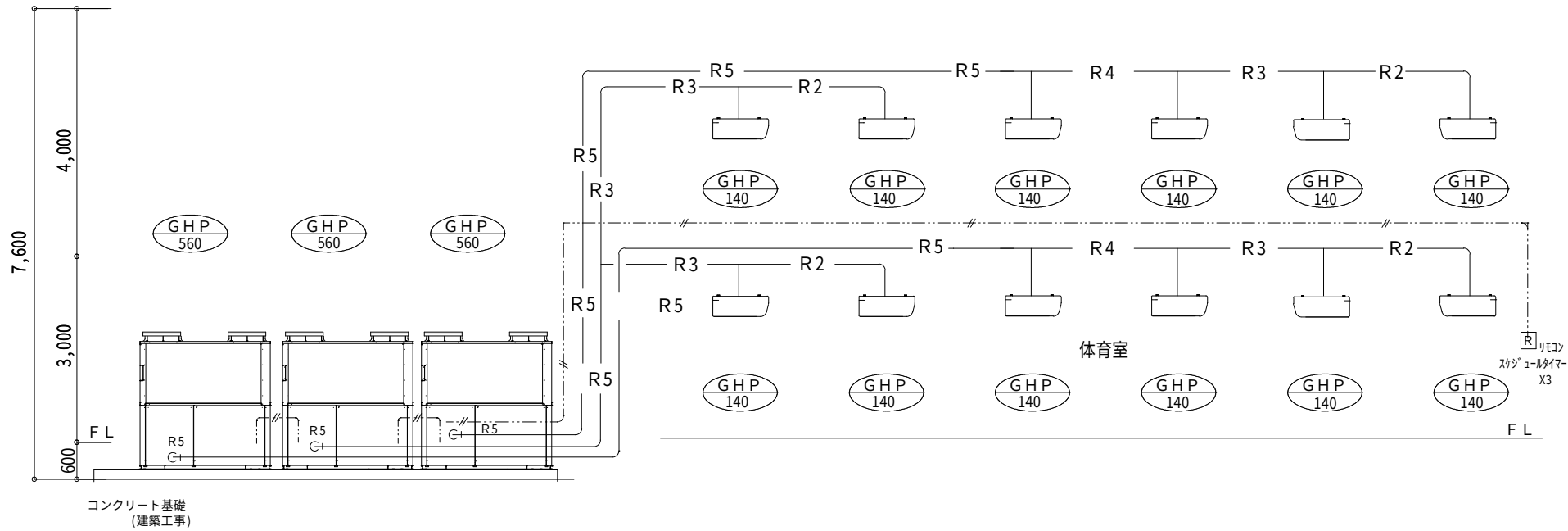
冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
R1	12.7	6.35
R2	15.88	9.52
R3	22.2	9.52
R4	28.6	12.7
R5	28.6	15.88

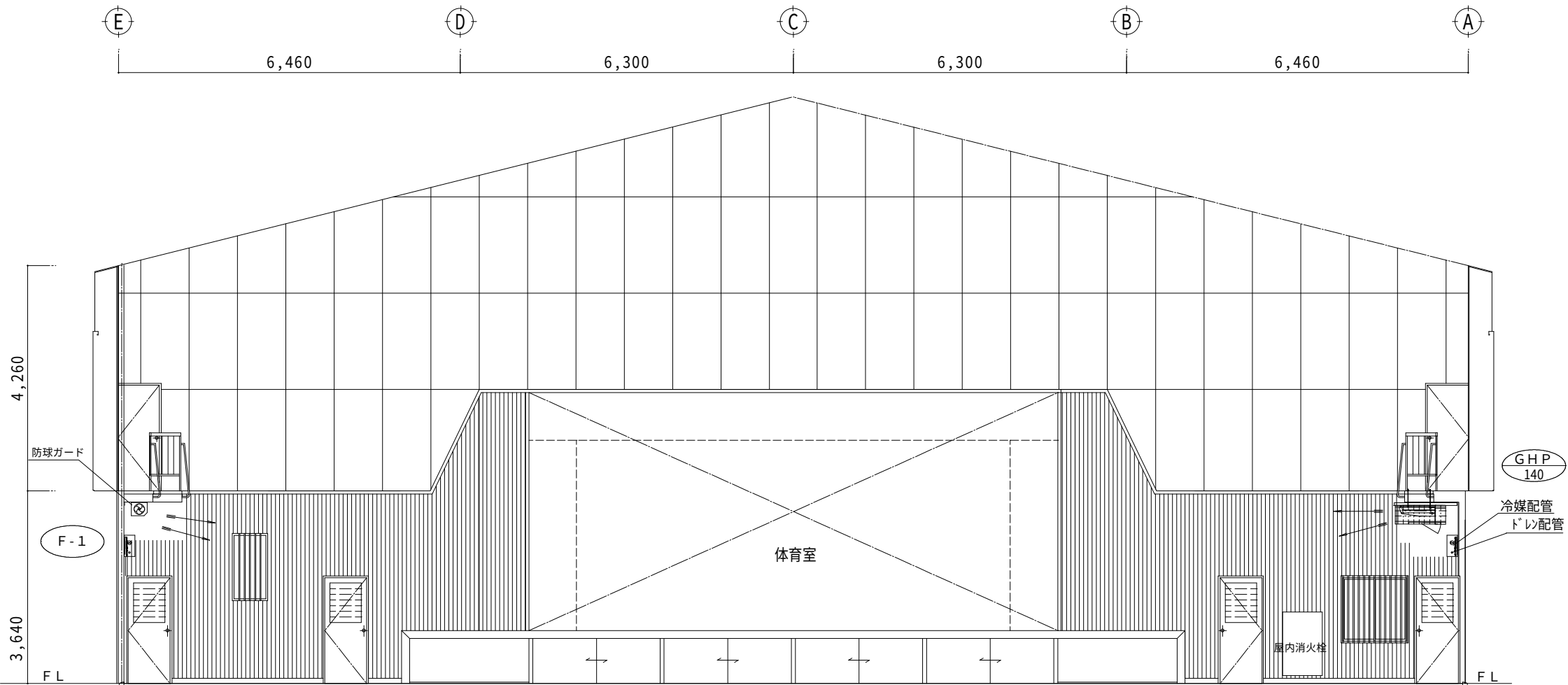
※渡り配線は冷媒共巻きとする。

- 1、室外機と室内機の制御渡り操作線は冷媒管と共巻き。本工事 制御ケーブルはEM-C E E1.25X2 Cとする。
- 2、室外機と室外機の渡りリモコン用配管、配線（EM-C E E1.25X2 C 2本）結線調整は本工事。
- 3、ガスエアコン屋内ユニットリモコンスイッチは4台で1系統運転とする。 防球ガードは取り付ける。
- 4、ガスエアコンウィークリータイマースwitchは4台で1系統運転とする。
- 5、エアー搬送ファンのコントロールスイッチは2台で1系統運転とする。
- 6、エアー搬送ファンのコントロールスイッチは電気設備業者に支給する。機器運転調整は本工事。
- 7 ガスエアコン屋外ユニットは、マルチマウント防振パット 敷きとすること。

註記 1 フィルターの予備は室内機器と同数を納品する。

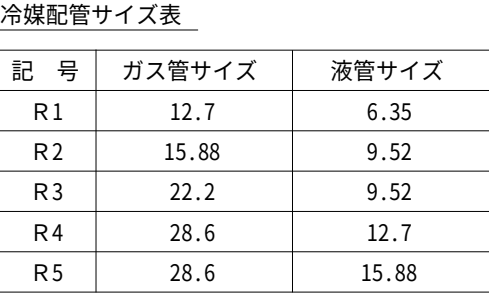


系統図

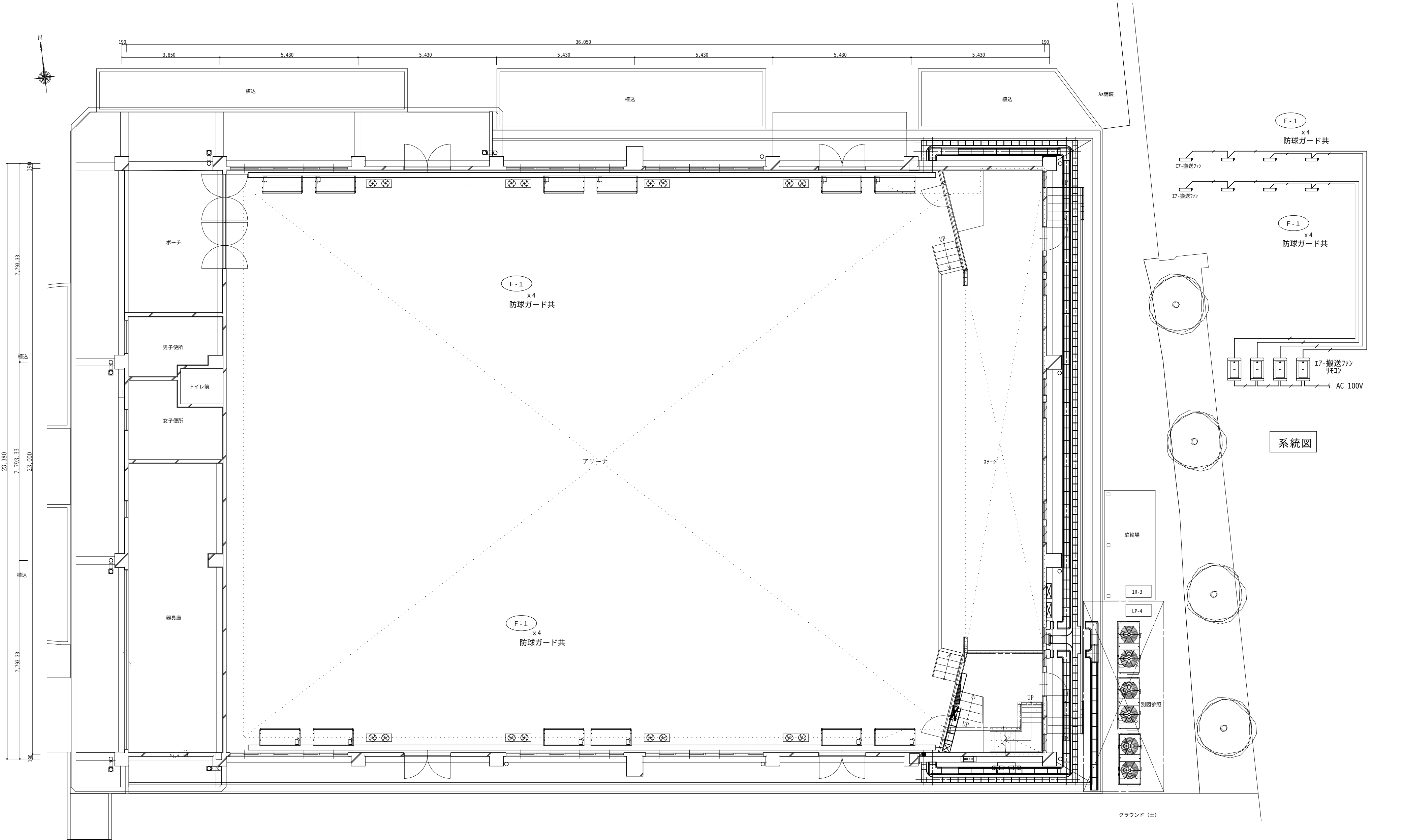


断面図 1/100

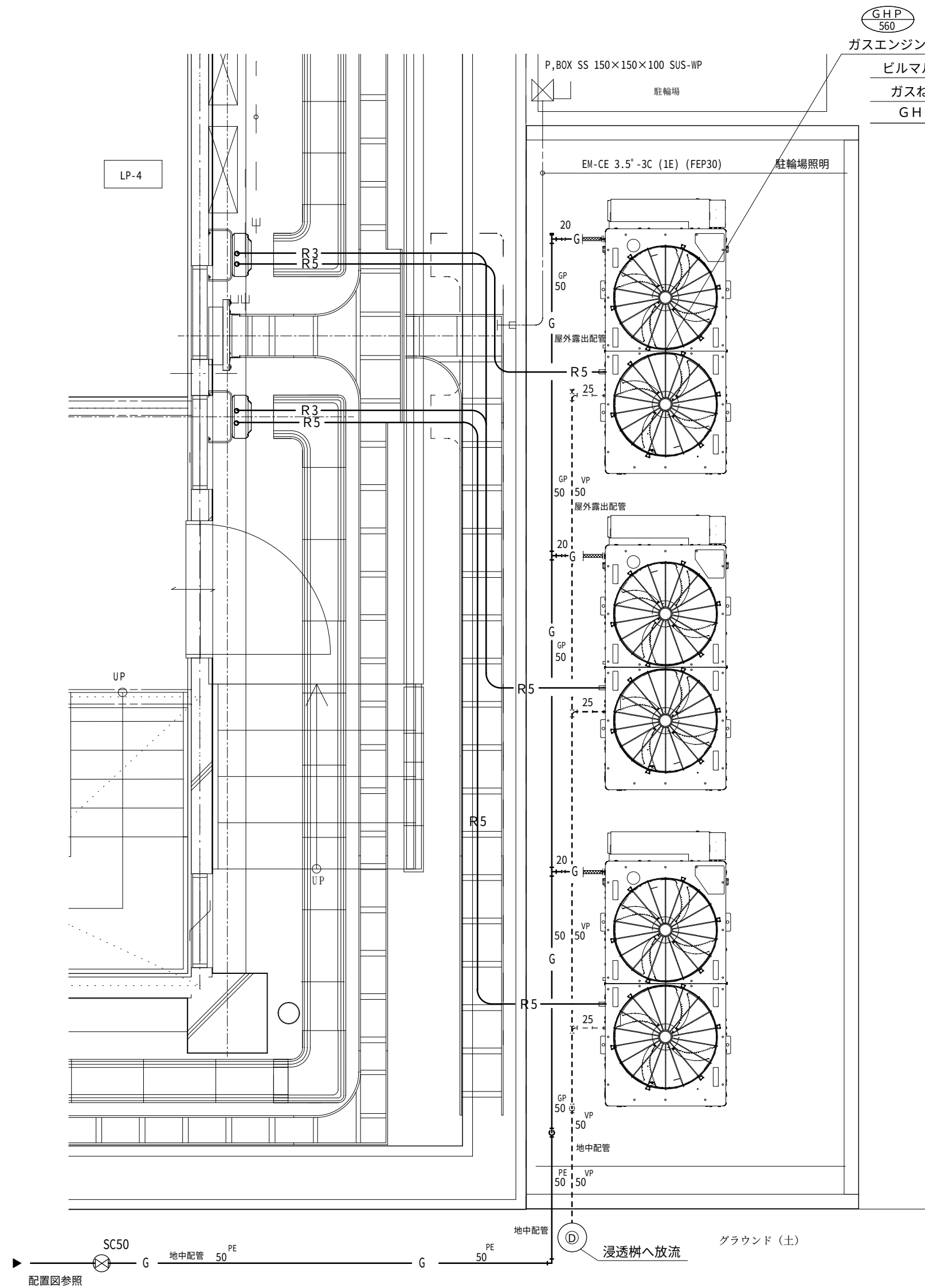
Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事			
Drawing 第一体育館 機器表 系統図 断面図			
Scale 1/100	Date 2025/09	№	
畝 啓 建 築 事 務 所 株 式 会 社 Ichi Une Architectural design office inc.		京都府知事登録 〇 四 A 第 〇 二 八 四 八 号 一級建築士登録第 三 二 〇 五 〇 五 号 畝 啓	
		M- 05 ¹¹	



M-06/11

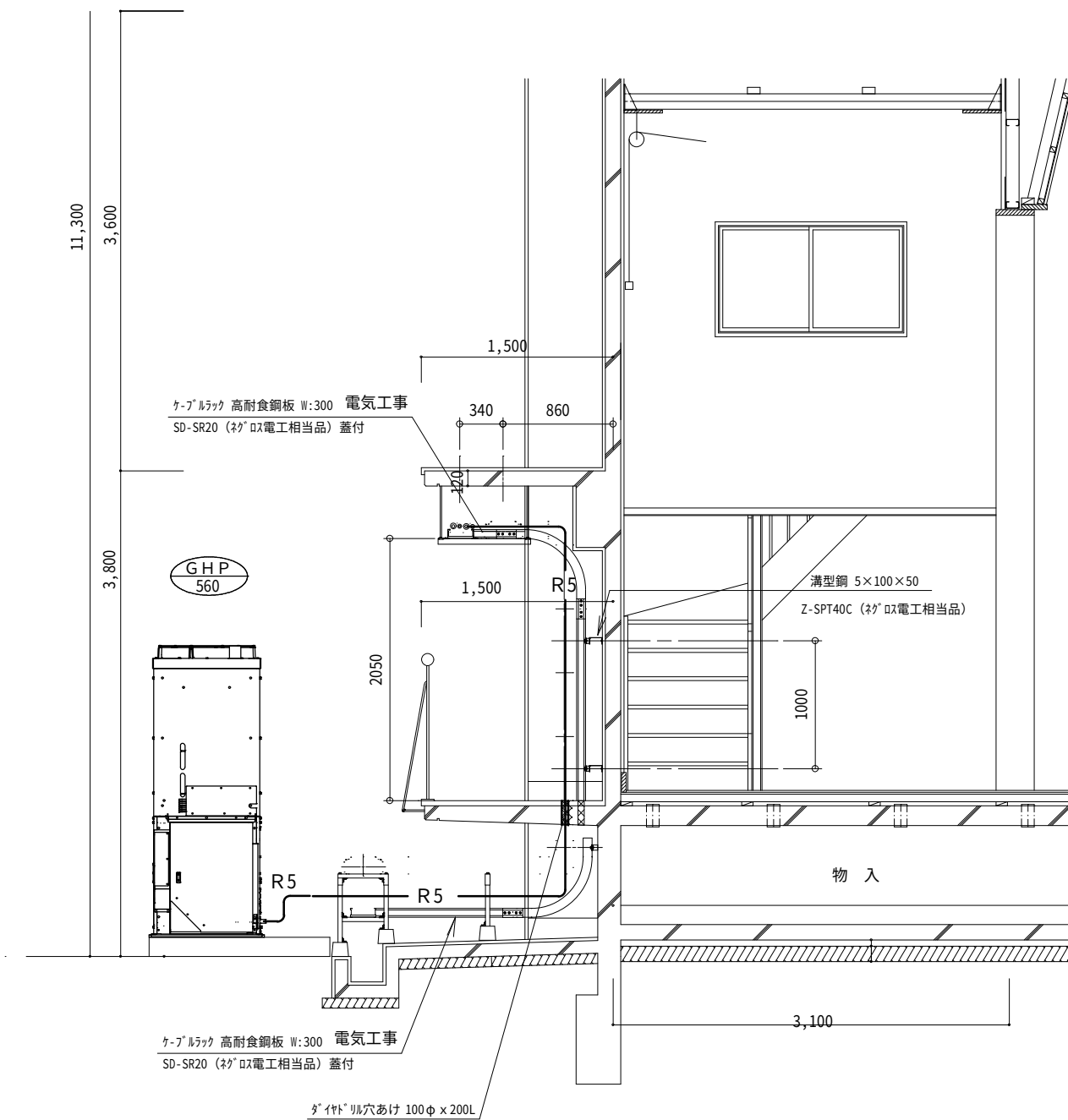


1 階 平面図 1/100

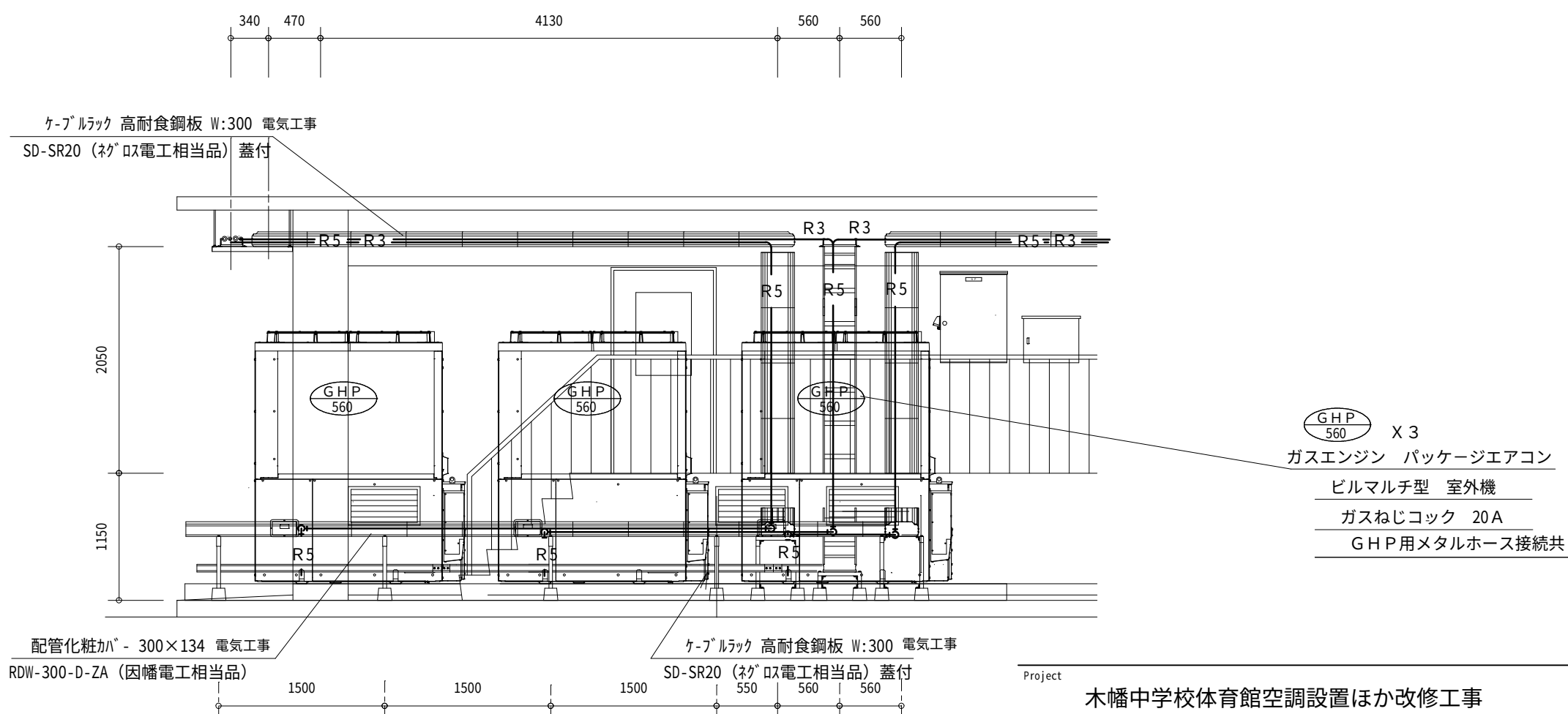


屋外機周り詳細図 1/30

GHP 560 X 3
ガスエンジン パッケージエアコン
ビルマルチ型 室外機
ガスねじコック 20A
GHP用メタルホース接続共



断面詳細図 1/50



断面詳細図 1/50

Project	木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事			
Drawing	第一体育館 屋外機周り詳細図		断面詳細図	機器接続系統図
Scale	1/30	1/50	Date	2025/09
畝 啓 建 築 事 務 所 株 式 有 限 公 司 Kei Une Architectural design office inc. 京都府知事登録第 04A第 02848号 一級建築士登録第320505号 畝 啓				M-08 ⁽¹⁾

機器表

記 号	名 称	型 式	冷房能力 (Kw)	暖房能力 (Kw)	圧縮電動機 (KW)	送風電動機 (KW)	電 源 (φ v)	消費電力 (kW)		本体寸法 (mm) W×D×H	製 品 重量 (kg)	冷媒管 (m/m)		風量 m3/min	燃料 (kW/H) 冷房		燃料 (kW/H) 暖房		台数	設 置 場 所	備 考
								冷房	暖房												
GHP 850	ガスエンジン	パッケージエアコン	85.0	95.0		0.75 x 2	3φ x 200	1.80	1.74	2026 880 2228	810	31.75 19.05	810	78.0	69.2				1	コンクリート基礎	(建築工事)
	ビルマルチ型	室外機																			
		標準仕様																			ケミカルアンカー M-12 X4本
GHP 280	ガスエンジン	パッケージエアコン	28.0	31.5		0.4	3φ x 200	1.36	1.36	1300 505 1855	135	22.22 9.52	80(強)						3	アリーナ	
	屋内機	屋内床置型								+ プレナムチャンバー共	160		60、70								木台、 マルチカット防振バット
		プレナムチャンバー共																			
	ガスエンジン	パッケージエアコン																	1		
		リモコンスイッチ																			
F-1	エアー搬送ファン		風量 1450m3/h	消費電力	1φ X 100V X 83W	本体寸法	1016 X 222 X 197			11kg									4	アリーナ	
			コントロールスイッチ															AH-2009 S A2型			
			防球ガード AH-G30 A型																		

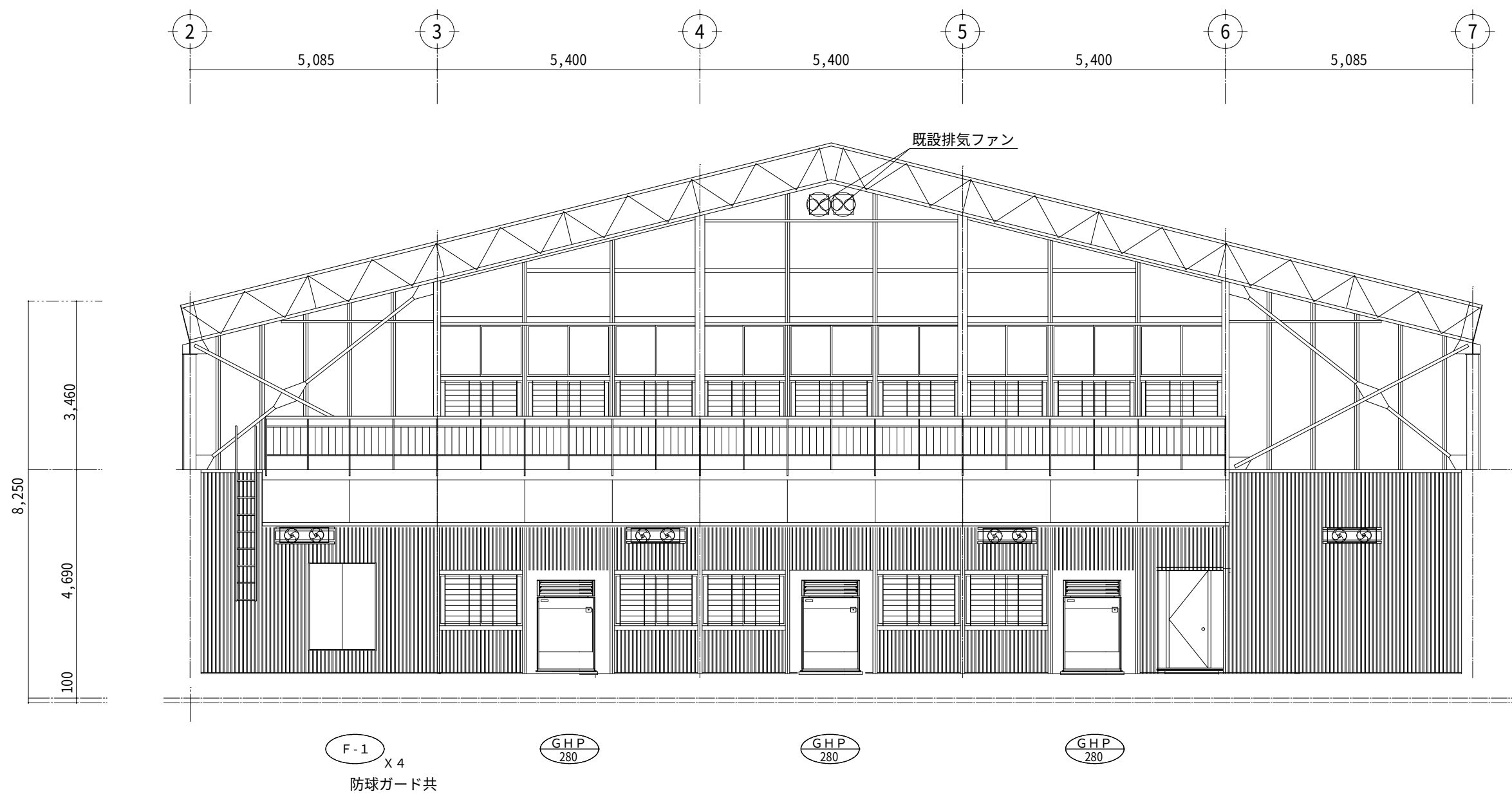
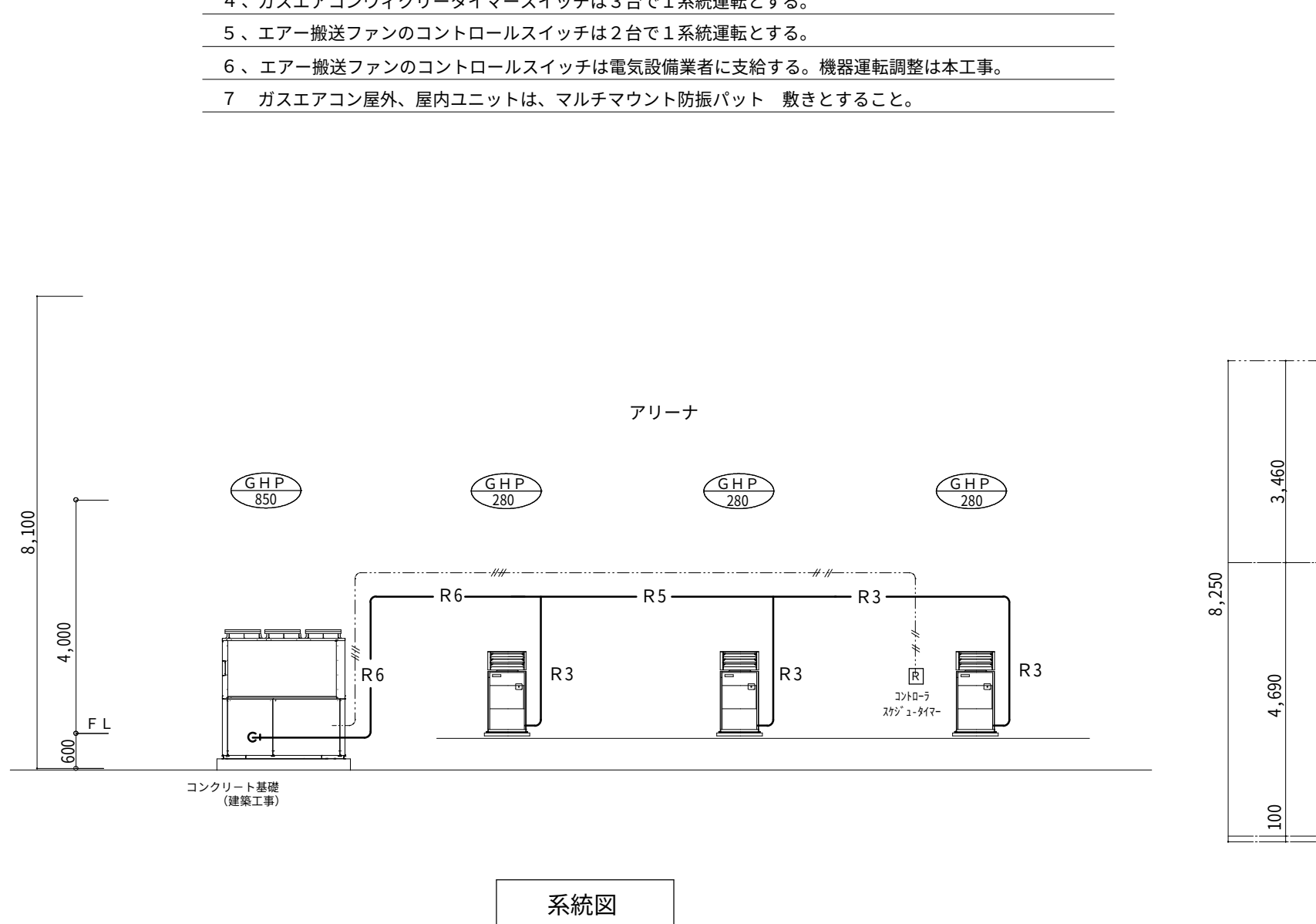
冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
R2	15.88	9.52
R3	22.2	9.52
R4	28.6	12.7
R5	28.6	15.88
R6	31.75	19.05

※渡り配線は冷媒共巻きとする。

註記 1 フィルターの予備は室内機器と同数を納品する。

- 1、室外機と室内機の制御渡り操作線は冷媒管と共巻き。本工事 制御ケーブルはE-M-C-E-E1.25X2Cとする。
- 2、室外機と室外機の渡り用配管、配線（E-M-C-E-E1.25X2C 2本）結線調整は本工事。
- 3、ガスエアコン屋内ユニットリモコンスイッチは3台で1系統運転とする。
- 4、ガスエアコンウィークリタイマースwitchは3台で1系統運転とする。
- 5、エア搬送ファンのコントロールスイッチは2台で1系統運転とする。
- 6、エア搬送ファンのコントロールスイッチは電気設備業者に支給する。機器運転調整は本工事。
- 7 ガスエアコン屋外、屋内ユニットは、マルチマウント防振パット 敷きとすること。



北側立面図 1/100

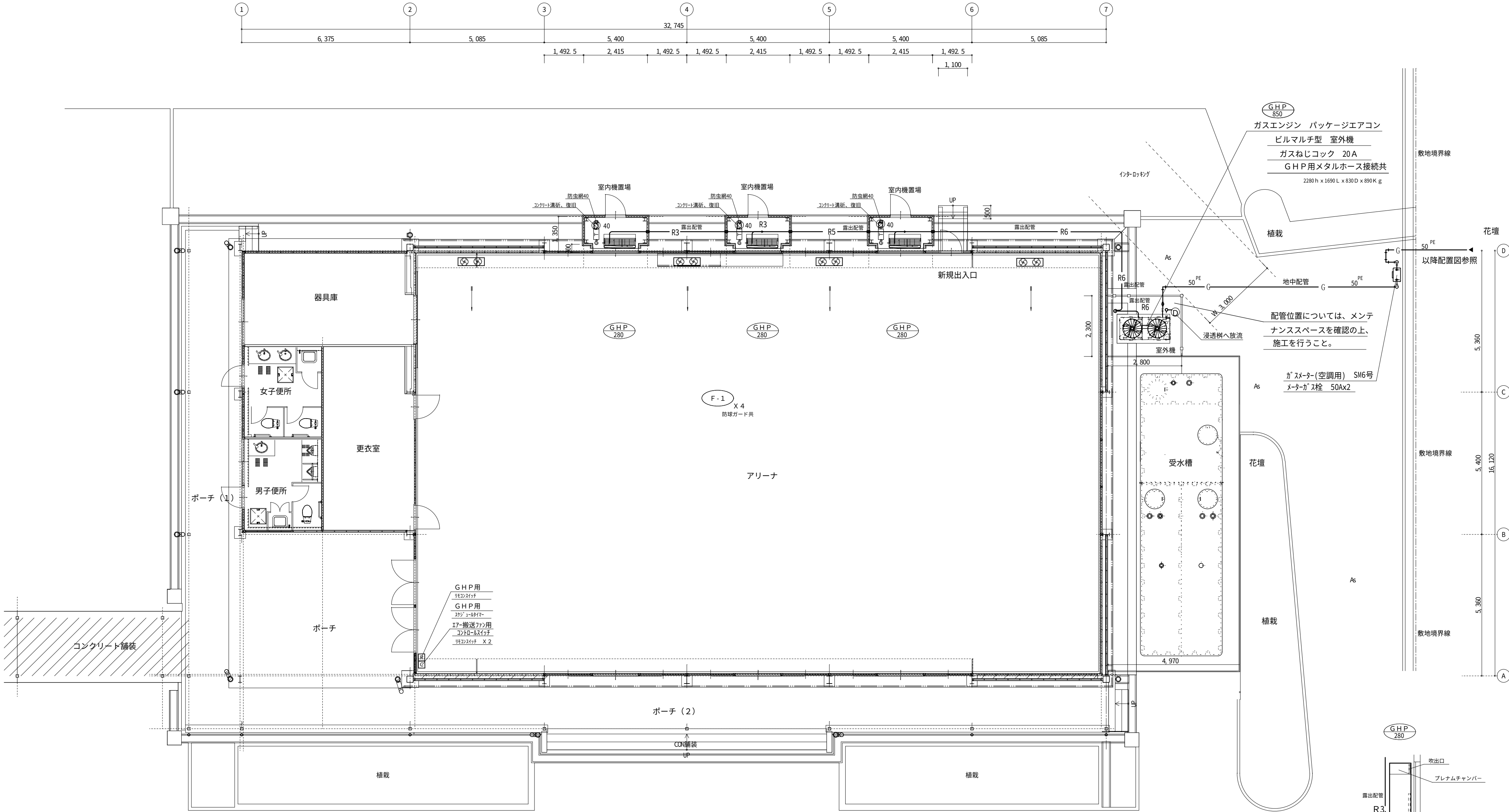
Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

Drawing 第二体育館 機器表 系統図 断面図

Scale 1/100

Date 2025/09

畝啓建築事務所株式会社 京都府知事登録 04A第 02848号
 Kei Une Architectural design office inc. 一級建築士登録第320505号 畝啓

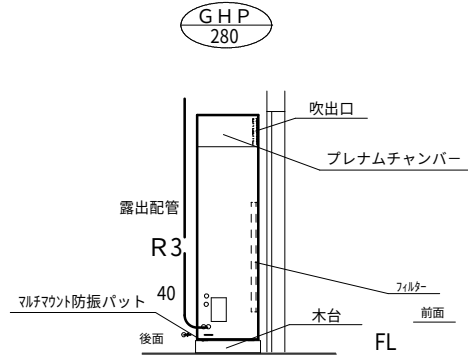


冷媒配管サイズ表

記 号	ガス管サイズ	液管サイズ
R2	15.88	9.52
R3	22.2	9.52
R4	28.6	12.7
R5	28.6	15.88
R6	31.75	19.05

※渡り配線は冷媒共巻きとする。

1 階 平面図 1/100



屋内機断面図

Project

木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

Drawing

第二体育館 1階平面図

Scale

1/100

Date

2025/09

№

設計 株式会社 京都府知事登録 04A第 02848号
Kei Une Architectural design office inc. 一級建築士登録第320505号 設計

M-10^{1/11}

E - 01/24

電気設備工事特記仕様書－２

章	項 目	特 記 事 項
電力 配電設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、９０Ｖとする。
	○交流無停電電源装置（UPS）	用途（ 方式 ○一般形 ○簡易形
発 電 設 備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル
	○連続運転可能時間	○１０時間（乙） ○７２時間（甲） ○
	○発電機	電気方式 三相３線式 電 圧 ○２１０Ｖ ○６．６ｋＶ ○４１５Ｖ 定格出力 ｋＶＡ以上 力率 〇．８
	○原動機	種 別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 ｋＷ（ ＰＳ）以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水槽循環式 現地負荷試験 ○行っ ○行わない
	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス（ ○燃料小出槽 ⅓ ○主燃料槽 ⅓
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 公称最大出力 ｋＷ以上 設置可能建築面積 ㎡５２以下（長辺 ｍ×短辺 ｍ） 系統連系 ○受動 ○能動 パワコンディショナ出力 相 線式 Ⅴ ｋＷ以上 逆潮流 ○有 ※無 交流出力電圧 ○１００Ⅴ ○２００Ⅴ 出力電気方式 ○三相３線式 ○単相３線式 ○単相２線式
	○外部移報	○有 ○無
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
構内 情報設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保安器用接地	○本工事 ○別途工事
	○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置
情報表示 設備	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○親時計及び付属装置	○ＣＲ－ＰＭ ○ＣＷ－ＰＭ ○プログラムタイマ（○カード式 ○キー式 ○ ○子時計 特記なきものは ○ＳＷＡＳ３Ｓ－ＧＳＰＢＳ２ ○
映像 設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
拡声 設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○増幅器	用途 ○全館放送用（○一般放送 ○非常放送） ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
	○スピーカ	特記なきものは ○ＳＣＳ６Ｈｉ－１ⅤＳ－Ｍ ○
誘導 支援 設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式（○磁気式 ○無線式 ○画像認識） ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○トイレ等呼出し装置 ○１室 ○３室 ○５室 ○ 呼出しボタン ○壁付ボタン（プルスイッチの長さは〇．２ｍ程度とする） ○壁付握りボタン（握りボタンの長さは１．２ｍ程度とする） ○通話機能 ○受付呼出し装置 ○誘導音
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○アンテナ	○ＵＨＦ用 ○ＢＳ用 ○ＣＳ用 ○ＡＭ用 ○ＦＭ用 ○ＣＡＴⅤ
	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼銅管 ○一般構造用炭素鋼銅管（溶融亜鉛メッキ仕上げ） ○圧力配管用炭素鋼銅管（溶融亜鉛メッキ仕上げ）
	○電界強度測定	電界強度及び面質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付

章	項 目	特 記 事 項
監視 カメラ 設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
	○伝送方式	○ネットワーク伝送方式 ○デジタル同軸伝送方式 ○
駐 車 場 管 制 設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
防犯・ 入退 室 管 理 設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置 ○入退室管理制御装置
火 災 報 知 設 備	●自動火災報知装置	●工事範囲 ○配管 ○配線 ●機器取付
	○受信機	○形 級 回線 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。
	○光警報装置	○
	○消火ポンプ始動	○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。）
	○機器収容箱	○消火栓一体形 ○単独形
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○連動制御器	○回線 【予備電源（蓄電池）内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体
	○自動閉鎖装置	○防火戸用【ＤＣ２４Ⅴ 〇．６Ａ以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 ＤＣ２４Ⅴ 〇．６Ａ以下 遠方復帰機構（電動式）ＤＣ２４Ⅴ 〇．７Ａ以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 ＤＣ２４Ⅴ 〇．６Ａ以下】
	○非常警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 ＤＣ２４Ⅴ ○電源装置 ○非常電源（蓄電池） ○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス（１３Ａ） ○液化石油ガス
中央 監視 設備	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓（ 窓）を設ける。
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
医 療 関 係 設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製
	○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の 呼出押ボタン ○有線式 ○無線式 ○防滴 ○防湿
構 内 電 線 路	○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。
	●工事範囲 ●配管 ●機器取付	
	●電気方式	高圧 ●三相３線式 ６ｋⅤ 低圧 ●三相３線式 ２００Ⅴ ○ ●単相３線式 １００／２００Ⅴ ○単２線式（○１００Ⅴ ○２００Ⅴ）
	●ふ設方式	●地中線 ●管路式 ●波付硬質合成樹脂管（ＦＥＰ） ○ポリエチレン被覆管（ＰＬＰ） ○埋設深さ 特記なきものはＧＬ（舗装がある場合は、舗装下面） から３００mm以上とする。
	○区分開閉器	○架空線 電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートボール ○高圧負荷開閉器 ７．２ｋⅤ ３００Ａ
	用途	○架空引込用 ○地中引込用
	構造	○耐中埋じん用 ○耐重埋じん用
	形式	○引外し装置付き（ＳＯＧ形） ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
	○マンホール及び ハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○高圧ケーブル	屋外に使用する高圧ケーブルはＥＭ－高圧架構ポリエチレンケーブルは、ＪＣＳ ４３９５「６ ６．００Ⅴ 架構ポリエチレンケーブル（３層押出型）」に（※よる ○よらない）
電 線 路	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、１ヶ所以上で３ｍ余長をとる。
	○端子、高圧ケーブル 端末処理	○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形
	○装柱材	○一般用 ○耐塩形
	○外灯	基礎 ○本工事 ○別途工事 ○外灯ボールの材質が鋼製（ＳＰＣ）の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗 装とする。
	●工事範囲 ●配管 ●機器取付	
	○ふ設方式	○地中線 ●管路式 ●波付硬質合成樹脂管（ＦＥＰ） ○ポリエチレン被覆管（ＰＬＰ） ○埋設深さ 特記なきものはＧＬ（舗装がある場合は、舗装（表層）下面） から３００mm以上とする。
	○架空線	電柱 ○遠心力プレストレストコンクリートボール
	○マンホール及び ハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	●工事範囲 ●配管 ●機器取付	

章	項 目	特 記 事 項
調 波 障 害 査 査	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前 ○工事中 ○完成後
	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表	付属品・予備品
○イージーキャビネット	箱 ○キーボックス ○テスター ○マンホールフック
○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スバナー、ハンマー）	
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、２０％とする。

試験・検査一覧
工事完成に際しては、各種試験、検査に合格の責任を持つ。
検査及び試験を行うべき機材等は標準仕様書による他下記の項目とする。
●受変電機器●動力盤及び電灯盤●耐圧試験●絶縁抵抗測定●接地抵抗測定●機器機能試験●その他監督職員の指示するもの
●工事着手に際し、事前に必要な機器（照明機器、空調機器、放送設備等）の機能確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○工事着工前に既設照明器具で床面照度を測定し、完成後の照度と比較する。（照度測定箇所は監督員の指示する箇所とする。）
○着工前・工事完成後、空調機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
○着工前・工事完成後、放送機器の機能・調整確認を行い、確認結果報告書を提出する。
●後施工アンカーの施工確認試験（引張試験機による引張試験）は、１日の施工本数の３％以上かつ３本以上とする。
例 盤・ケーブルラック・ケーブルダクト、キュービクル等

その他
●試験機器類の校正記録を提出する。
●停電工事の必要な時は、当該高圧受電設備の電気主任技術者と協議し、打合せ記録を提出する。
尚、電気主任技術者の立会費用は本工事に含む。
●工事に係る申請手続き費、消防設備竣工検査費、高圧電気設備検査等の竣工に必要な費用は本工事に含む。
●分電盤等の端子接続部施工管理手順は、電気設備工事監理指針（令和７年度版）の資料５（Ｐ１１７２）に基づき施工する。
●鉄筋コンクリートをダイヤドリル等で貫通する時は、鉄筋探査機で開口位置を確認する。
●整備不良の電動工具等持ち込まない。
●構外搬出適切産廃処分とする（電線、電線管、器具、管球等報告書を提出する）。
●交通誘導員は大型機器搬入時及び監督職員が必要と指示した時は、安全確保のため交通誘導員を２名以上配置する。
●カラーコーン、コーンウェイト、コーンバーにて囲いながら掘削する。

機器取付高さ（参考寸法の為、盤の寸法・取付位置は監督員と協議する。）							
電力 共通	名称	測点	取付高（mm）	電 話	名称	測点	取付高（mm）
	取引用計器	地上～上端	２，０００		端子盤	床上～上端	１，９００
動 力	引込開閉器	〃	１，８００	拡 声 、 時 計	保安器箱	天井下～上端	２００
					壁付位置ボックス	床上～中心	３００
	壁掛型制御盤	床上～上端	１，９００		〃（和室）	〃	１５０
	手元開閉器	床上～中心	１，５００		壁掛スピーカー	天井下～上端	２００
電 灯	操作スイッチ	〃	１，３００	イン ター ホ ン	アッテネーター	床上～中心	１，３００
					壁掛型親時計	床上～上端	１，９００
					子時計	天井下～上端	２００
	分電盤	床上～上端	１，９００		壁掛インターホン	床上～中心	１，５００
	スイッチ（一般）	床上～中心	１，３００		〃（身障者）	〃	１，１００
	〃（身障者便所）	〃	９００		壁付位置ボックス	〃	３００
	コンセント（一般）	〃	３００		〃（和室）	〃	１５０
	〃（和室）	〃	１５０				
	〃（台上）	台上～中心	３００				
	〃（土間）	床上～中心	１，３００		機器収納箱	天井下～上端	２００
テ レ ビ 見 聴	ブラケット（一般）	〃	２，１００	直 列 ユ ニ ツ ト	直列ユニット	床上～中心	３００
	〃（踊場）	〃	２，５００		〃（和室）	〃	１５０
	〃（鏡上）	鏡上端～中心	１５０				

Project 木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

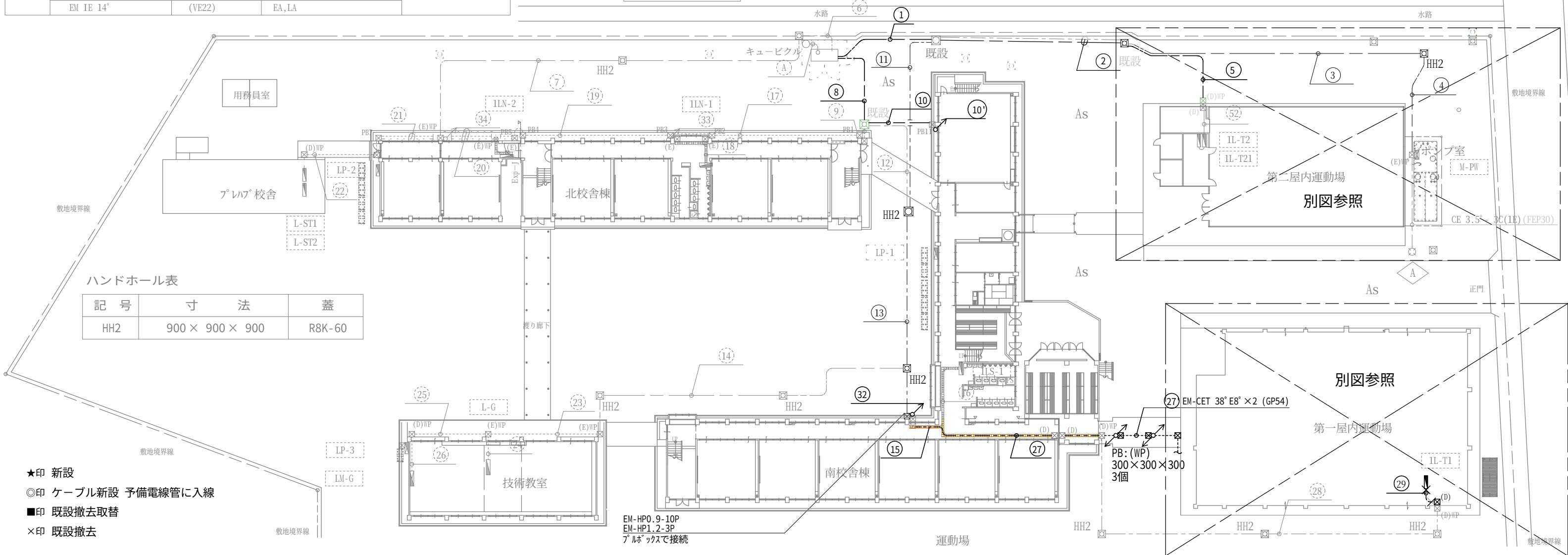
Drawing 電気設備工事特記仕様書－２

Scale _____ Date 2025/09 №

A	6KV CET 38°	(FEF80)	高压引込	地中埋設配管配線
	付属ケーブル	(FEF40)	PAS制御	
	予備	(FEF80)		
A ¹	6KV CET 38°	(PE70)	高压引込	コンクリート柱上配管配線
	付属ケーブル	(PE42)	PAS制御	
	予備	(PE70)		
	EM 1E 14°	(VE22)	EA, LA	

(A)	6kV CET 38°	(PE70)	高压引込	コンクリート柱立上配管配線
	付属ケーブル	(PE42)	PAS制御	
	予備	(PE70)		
	EM IE 14°	(VE22)	EA, LA	

コンクリート柱 12-19-500
PAS 7.2KV 3P300A
ZCT・TC・ZPD付
LA内蔵
支線，支線かゝ



露出配管の塗装は本工事

①	CET 60' IE14'	1φ3Φ	(FEP40)	L3	技術教室	1L-G	地中埋設配管配線
	CET 22' IE14'	1φ3Φ	(FEP40)	L5	第二屋内運動場	1L-T2	
	CE 5.5' - 2C	1φ2Φ	(FEP30)	L8	ポンプ室	M-PW	
	FPC 22' - 3C	3φ3Φ	(FEP40)	M1	消火ポンプ	M-PW	
	CET 22' IE14'	3φ3Φ	(FEP40)	M2	揚水ポンプ	M-PW	
	CET 38'	3φ3Φ	(FEP50)	M5	技術教室	11L-G	
	CEE 2' - 6C		(FEP40)	AL1	漏電警報	2K-1	
	予備		(FEP100)				
	◎CET 22' IE14'	3φ3Φ	(FEP50)	M11	第二屋内運動場	LP-5	
	予備		(FEP30)				
②	CET 22' IE14'	1φ3Φ	(FEP40)	L5	第二屋内運動場	1L-T2	地中埋設配管配線
	CE 5.5' - 2C	1φ2Φ	(FEP30)	L8	ポンプ室	M-PW	
	FPC 22' - 3C	3φ3Φ	(FEP40)	M1	消火ポンプ	M-PW	
	CET 22' IE14'	3φ3Φ	(FEP40)	M2	揚水ポンプ	M-PW	
	CEE 2' - 20C		(FEP40)	AL2	水位警報	M-PW	
	CEE 2' - 5C		(FEP50)	LF5	水位制御	高架水槽	
	CEE 2' - 3C			LF3	水位制御	消火補給水槽	
	■EM-HP1.2-3P		(FEP50)		消火栓起動		
	■EM-HP0.9-10P				自火報		
	予備		(HIVE70)				
③	◎CET 22' IE14'	3φ3Φ	(FEP40)	M11	第二屋内運動場	LP-5	地中埋設配管配線
	CE 5.5' - 2C	1φ2Φ	(FEP30)	L8	ポンプ室	M-PW	
	FPC 22' - 3C	3φ3Φ	(FEP40)	M1	消火ポンプ	M-PW	
	CET 22' IE14'	3φ3Φ	(FEP40)	M2	揚水ポンプ	M-PW	
	CEE 2' - 20C		(FEP40)	AL2	水位警報	M-PW	
	CEE 2' - 5C		(FEP50)	LF5	水位制御	高架水槽	
	CEE 2' - 3C			LF3	水位制御	消火補給水槽	
	■EM-HP1.2-3P		(FEP50)		消火栓起動		
	■EM-HP0.9-10P				自火報		
	予備		(HIVE70)				
④	■CE 5.5' - 2C	1φ2Φ	(FEP50)	L8	ポンプ室	M-PW	地中埋設配管配線
	■FPC 22' - 3C	3φ3Φ		M1	消火ポンプ	M-PW	
	■CET 22' IE14'	3φ3Φ	(FEP50)	M2	揚水ポンプ	M-PW	
	■CEE 2' - 20C		(FEP50)	AL2	水位警報	M-PW	
	■CEE 2' - 5C			LF5	水位制御	高架水槽	
	■CEE 2' - 3C			LF3	水位制御	消火補給水槽	
	■EM-HP1.2-3P		(FEP50)		消火栓起動		
	■EM-HP0.9-10P				自火報		
	予備		(HIVE70)				
	予備		(FEP30)				
⑤	CET 22' IE14'	1φ3Φ	(FEP50)	L5	第二屋内運動場	1L-T2	地中埋設配管配線
	◎CET 22' IE14'	3φ3Φ	(FEP50)	M11	第二屋内運動場	LP-5	
	CET 22' IE14'	1φ3Φ	(GP54)	L5	第二屋内運動場	1L-T2	立上げ露出配管配線
	予備		(GP54)				
⑤2	CET 22' IE14'	1φ3Φ	(EP39)	L5	第二屋内運動場	1L-T2	いんべい配管配線
	予備		(EP39)				

⑥	CET 38° IE14° 1φ3W	(FEP50)	L7	図書室	1L-ST2	地中埋設配管配線
	CET 38° IE14° 1φ3W	(FEP50)	L2B	コンピュータ教室	2LN-3	
	CET 22° IE14° 3φ3W	(FEP50)	M4	コンピュータ教室	11N-2	
	予備	(FEP50)				
	予備	(FEP50)				
⑦	CET 38° IE14° 1φ3W	(FEP50)	L7	図書室	1L-ST2	地中埋設配管配線
	CET 38° IE14° 1φ3W	(FEP50)	L2B	コンピュータ教室	2LN-3	
	CET 22° IE14° 3φ3W	(FEP50)	M4	コンピュータ教室	11N-2	
	予備	(FEP50)				
	予備	(FEP50)				
	CET 38° IE14° 1φ3W	(GP54)				露出配管配線 立上部
	CET 38° IE14° 1φ3W	(GP54)				
	CET 22° IE14° 3φ3W	(GP54)				
	予備	(GP54)				
	予備	(GP54)				
⑧	CET150° IE22° 1φ3W	(FEP100)	L1A	東校倉庫棟	11S-1	地中埋設配管配線
	CET 60° IE14° 1φ3W	(FEP50)	L2A	北校倉庫棟	11A-1	
	CET 60° 1φ3W	(FEP50)	L1B	東校倉庫棟	3LS-1	
	CET 38° IE14° 1φ3W	(FEP50)	L4	第一屋内運動場	1L-T1	
	CET 38° 1φ3W	(FEP50)	L6	職員室2フロア	2L-S	
	CET 22° 1φ3W	(FEP50)	L11	東校倉庫空調盤	LP-1	
	CET 22° 1φ3W	(FEP50)	L12	北校倉庫空調盤	LP-2	
	CET 22° 3φ3W	(FEP50)	M7	音楽室空調	4M-SO	
	CET 22° 3φ3W	(FEP50)	M8	職員室空調	2M-S	
	CET 22° 3φ3W	(FEP50)	M9	東校倉庫空調盤	LP-1	
	CET 22° 3φ3W	(FEP50)	M10	北校倉庫空調盤	LP-2	
	◎CET 38° IE14° 1φ3W	(FEP80)	L13	第一屋内運動場	LP-4	
	⑨	CET 60° IE14° 1φ3W	(FEP50)	L2A	北校倉庫棟	
CET 22° 1φ3W		(FEP50)	L12	北校倉庫空調盤	LP-2	
CET 22° 3φ3W		(FEP50)	M10	北校倉庫空調盤	LP-2	
CPSES 0.9-2C		(FEP30)	サマコ	GHP空調機間取り配線		
予備		(FEP30)				
予備		(FEP50)				
⑩	CET 38° 1φ3W	(FEP50)	L6	職員室2フロア	2L-S	地中埋設配管配線
	CET 22° 1φ3W	(FEP50)	L11	東校倉庫空調盤	LP-1	
	CET 22° 3φ3W	(FEP50)	M7	音楽室空調	4M-SO	
	CET 22° 3φ3W	(FEP50)	M8	職員室空調	2M-S	
	CET 22° 3φ3W	(FEP50)	M9	東校倉庫空調盤	LP-1	
	CPSES 0.9-2C	(FEP30)	サマコ	GHP空調機間取り配線		
	◎CET 38° IE14° 1φ3W	(FEP30)	L13	第一屋内運動場	LP-4	
	予備	(FEP100)				
	予備	(FEP80)				
	予備	(FEP50)×3				
⑩	CET 38° 1φ3W	(GP54)		職員室2フロア	2L-S	立上げ露出配管配線
	CET 22° 1φ3W	(GP42)		東校倉庫空調盤	LP-1	
	CET 22° 3φ3W	(GP42)		音楽室空調	4M-SO	
	CET 22° 3φ3W	(GP42)		職員室空調	2M-S	
	CET 22° 3φ3W	(GP42)		東校倉庫空調盤	LP-1	
	◎CET 38° IE14° 1φ3W	(GP42)	L13	第一屋内運動場	LP-4	
	CPSES 0.9-2C	(GP28)	サマコ	GHP空調機間取り配線		

(11)	CET 60° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L13	技術教室	1L-G	地中埋設配管配線
	CET 38°	3φ3W	(FEP50)	M5	技術教室	1LM-G	
	CET 2°-20C		(FEP50)	AL2	水位制御	M-PW	
	CET 2°-6C			AL1	漏電警報	2K-1	
	CET 2°-5C		(FEP50)	LF5	水位制御	高架水槽	
	CET 2°-3C			LF3	水位制御	消火補給水槽	
	■EM-HP1.2-3P		(FEP50)		消火栓起動		
	■EM-HP0.9-10P				自火報		
予備		(FEP50)					
(12)	CET150° IE22°	1φ3W	(FEP80)	L1A	東校舎棟	1LS-1	地中埋設配管配線
	CET 60° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L1B	東校舎棟	3LS-1	
	CET 38° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L4	第一屋内運動場	1L-T1	
	CET 2°-6C			AL1	漏電警報	2K-1	
	予備		(FEP50)				
(13)	CET150° IE22°	1φ3W	(FEP80)	L1A	東校舎棟	1LS-1	地中埋設配管配線
	CET 60° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L1B	東校舎棟	3LS-1	
	CET 60° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L3	技術教室	1L-G	
	CET 38° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L4	第一屋内運動場	1L-T1	
	CET 38°	3φ3W	(FEP50)	M5	技術教室	1LM-G	
	CET 2°-20C		(FEP50)	AL2	水位制御	M-PW	
	CET 2°-6C			AL1	漏電警報	2K-1	
	CET 2°-5C		(FEP50)	LF5	水位制御	高架水槽	
	CET 2°-3C			LF3	水位制御	消火補給水槽	
	■EM-HP1.2-3P		(FEP50)		消火栓起動		
	■EM-HP0.9-10P				自火報		
	予備		(FEP50)				
	(14)	CET 60° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L3	技術教室	
CET 38°		3φ3W	(FEP50)	M5	技術教室	1LM-G	
予備			(FEP50)				
予備			(FEP50)				
予備			(FEP50)				
(15)	CET150° IE22°	1φ3W		L1A	東校舎棟	1LS-1	ケブﾞｸﾞﾗｯﾌﾟ W:400 底蓋・ﾎﾞｰﾄﾞ 付
	CET 60° IE14°	1φ3W		L1A2	東校舎棟	2LS-1	
	CET 38° IE14°	1φ3W		L4	第一屋内運動場	1L-T1	
	EM-CPEES 1.2-1P				照明ﾒﾓﾝ		
	★CET 38° IE14°	1φ3W		L13	第一屋内運動場	LP-4	
(16)	CET150° IE22°	1φ3W		L1A	東校舎棟	1LS-1	ケブﾞｸﾞﾗｯﾌﾟ W:400 底蓋・ﾎﾞｰﾄﾞ 付
	CET 60° IE14°	1φ3W		L1A2	東校舎棟	2LS-1	
	EM-CPEES 1.2-1P				照明ﾒﾓﾝ		
	EEP 2.0-3C(1B)×21φ2W				用務員倉庫		
	予備						
(17)	CET 60° IE14°	1φ3W	(GP70)	L2A	北校舎棟	1LN-1	露出配管配線
	CET 22°	1φ3W	(GP42)	L12	北校舎棟空調盤	LP-2	
	CET 22°	3φ3W	(GP42)	M10	北校舎棟空調盤	LP-2	
	CPEES 0.9-2C		(GP28)	空調ﾒﾓﾝ	GHP空調機間渡り配線		
	予備		(GP54)				
(18)	CET 60° IE14°	1φ3W		L2A	北校舎棟	1LN-1	ケブﾞｸﾞﾗｯﾌﾟ W:300 底蓋・ﾎﾞｰﾄﾞ 付
	CET 38° IE14°	1φ3W			1LN-1 →	1LN-2	
	CET 22° IE5.5°					2LN-1	
	CET 14° IE5.5°					3LN-1	
	EM-CPEES 1.2-1P				照明ﾒﾓﾝ		
(19)	CET 38° IE14°	1φ3W	(GP54)		1LN-1 →	1LN-2	露出配管配線
	CET 22°	1φ3W	(GP42)	L12	北校舎棟空調盤	LP-2	
	CET 22°	3φ3W	(GP42)	M10	北校舎棟空調盤	LP-2	
	CPEES 0.9-2C		(GP28)	空調ﾒﾓﾝ	GHP空調機間渡り配線		
	予備		(GP54)				
	予備						

(20)	CET 14' IE5.5' 1φ3W	(GP36)	ILN-2 →	L-ST1	露出配管配線 ケーブルダクト W:200 底蓋・セパ付	
	CET 22' IE14' 3φ3W	(GP54) M4	コンピュータ教室	ILN-2		
	CET 22' 1φ3W	(GP42) L12	北校舎棟空調盤	LP-2		
	CET 22' 3φ3W	(GP42) M10	北校舎棟空調盤	LP-2		
	CPEES 0.9-2C	(GP28) 空調機	GRP空調機間渡り配線			
	予備	(GP54)				
	予備	(GP54)				
(21)	CET 14' IE5.5' 1φ3W	(GP36)	ILN-2 →	L-ST1	露出配管配線	
	CET 38' 1φ3W	(GP54) L7	図書室空調	L-ST2		
	CET 22' 1φ3W	(GP42) L12	北校舎棟空調盤	LP-2		
	CET 22' 3φ3W	(GP42) M10	北校舎棟空調盤	LP-2		
	CPEES 0.9-2C	(GP28) 空調機	GRP空調機間渡り配線			
	予備	(GP54)				
(22)	CET 14' IE5.5' 1φ3W	(GP36)	ILN-2 →	IL-ST1	露出配管配線	
	CET 38' 1φ3W	(GP54) L7	図書室空調	IL-ST2		
(23)	CET 60' IE14' 1φ3W	(GP70) L3	技術教室	IL-G	露出配管配線	
	CET 38' 3φ3W	(GP54) M5	技術教室	ILM-G		
(24)	CET 60' IE14' 1φ3W	(GP70) L3	技術教室	IL-G	露出配管配線	
	CET 14' IE14' 1φ3W	(GP42) M5	L-G →	ILM-G		
(25)	CET 14' IE14' 1φ3W	(GP42)	L-G →	ILM-G	露出配管配線	
	CET 38' 3φ3W	(GP54) M5	技術教室	ILM-G		
(26)	CET 14' IE14' 1φ3W	(EP39)	L-G →	ILM-G	露出配管配線	
	CET 38' 3φ3W	(EP51) M5	技術教室	ILM-G		
	CE5.5'-4C(1E) 1φ3W	(EP25)				
	CE5.5'-4C(1E) 3φ3W	(EP25)				
(27)	CET 38' IE14' 1φ3W		L4	第一屋内運動場	IL-T1	ケーブルダクト W:200 底蓋・セパ付
	★CET 38' IE14' 1φ3W		L13	第一屋内運動場	LP-4	
	CET 38' IE14' 1φ3W	(FEP50)	L4	第一屋内運動場	IL-T1	
	予備	(FEP50) × 2				
(28)	CET 38' IE14' 1φ3W	(GP54) L4	第一屋内運動場	IL-T1	露出配管配線	
	予備	(GP54) × 2			立上部	
(29)	× CET 38' IE14' 1φ3W	× (EP51) L4	第一屋内運動場	IL-T1	露出配管配線	
	× EEF 2.0-3C(1E) 1φ2W	× (EP25)	防犯灯			
(32)	CET 60' IE14' 1φ3W	L11B	東校舎棟	3LS-1	ケーブルダクト W:400 高耐食鋼板 (指定色) 蓋・セパ付	
	CET 60' IE14' 1φ3W	L1A2	東校舎棟	2LS-1		
	CET 2' - 6C	AL1	漏電警報	2K-1		
	CET 2' -20C	AL2	水位警報	M-PI		
	CET 2' - 5C	LF5	水位制御	高架水槽		
	CET 2' - 3C	LF3	水位制御	消防補給水槽		
	EN-CPEES 1.2-1P		照明機			
	★CET 38' IE14' 1φ3W	L13	第一屋内運動場	LP-4		
	CET 22' IE5.5' 1φ3W	(GP42)		2LS-1		
	CET 14' IE5.5' 1φ3W	(GP36)		3LS-1		
(33)	EN-CPEES 1.2-1P	(GP16)	照明機		露出配管配線	
	CET 38' IE14' 1φ3W	(GP54) L2B	コンピュータ教室	2LS-3	露出配管配線	

注記事項
1. 機器類は全て広角型、V T・C Tはモールド型とする。
2. 電流計（低圧用）はデジタルデマンドメーターを使用する。
3. 分岐回路用ブレーカーは全て埋込型フラッシュプレートとする。
4. 特記箇所を除き、低圧盤裏面は銅帯バーにて製作する。
5. 特記箇所を除く低圧回路で一般配線を使用する箇所は耐熱電線（HIE）を使用する。
6. キュービクルは全面底板付とする。（ケーブル立ち上り箇所は鉄板2分割とする。） また、扉はストッパー付とする。 更にキュービクル扉の裏面に単線結線図をカードホルダーに入れて取付けること。
7. キュービクルの内面、外面共指定色焼付け塗装仕上げとする。 全艶（2.5Y9/1）
8. キュービクル架台チャンネルは溶融亜鉛メッキ品とする。（取替）
9. 低圧配電盤の裏面に負荷側引出用端子を設ける。
10. キュービクルの寸法は参考とし、特記に幅寸法は取付けM C Bにて検討し製作する。
11. 回路名称銘板の仕様：材質アクリル樹脂製、地色：白色、文字：裏面より彫刻後黒色塗料充填、字体：丸ゴシック、ビス止めとする。
12. LBSはストライカ機構、安全ロック機構、相間・側面バリア付とする。
13. 扉表面に危険物表示板を取り付ける。
14. 予備として電力ヒューズを種別・容量毎1組納入する。
15. 盤内LED照明付とし、扉の開閉により連動する。（既設接続）
16. 工事にあたっては指定の電気主任技術者と協議の上で行う。費用含む。
契約業者：近建ビル管理株式会社
17. 電力会社、所轄消防署への申請を行うこと。費用含む。
18. 配線用遮断器の二次側に幹線ケーブル接続端子台を設け接続する。
19. 配線用遮断器の負荷名称を配電盤裏面に貼り付ける。
20. 変圧器・コンデンサの機器銘板を各盤扉の内側に貼り付ける。
21. 加圧力カギ M16×4 本で施工する。既設キュービクル含めて耐震計算する。 加圧力カギについては引張試験を行う。 ※既設キュービクルは名神電機製 また、新設電灯盤を含めて換気計算を行う。
22. キュービクルの扉の計器室には、納入ガラスを使用する。
23. 変圧器は油入・2026タイプ型とする。
24. ▲は警報接点移報を示す。
25. 火災予防上支障がないと認める構造を有するキュービクルで製作する。

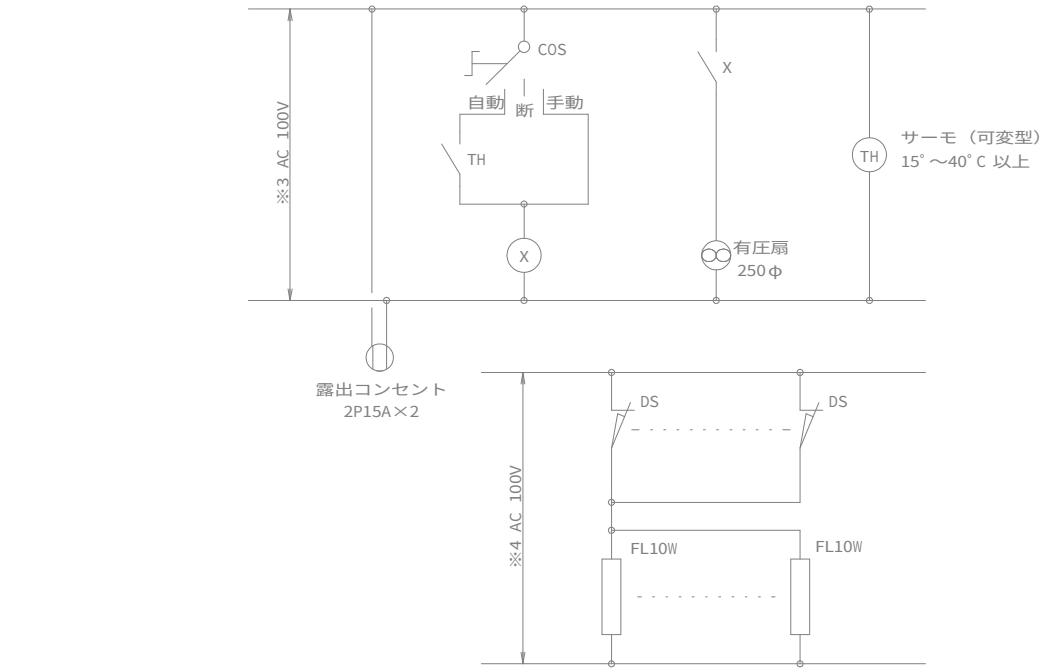
記号	警報表示名称
既設 OL-1	高圧地絡
既設 OL-2	低圧動力盤 漏電
既設 OL-3	低圧電灯盤 漏電
増設 OL-11	低圧電灯盤 漏電
既設 OL-4	リアル温度異常
既設 OL-5	コンデンサ異常
既設 OL-6	動力変圧器温度異常
増設 OL-12	電灯変圧器温度異常
既設 OL-7	電灯変圧器温度異常
既設 OL-8	動力デマンド警報
既設 OL-9	電灯デマンド警報
増設 OL-13	電灯デマンド警報
既設 OL-10	温度異常

→ 警報盤（高圧地絡）へ

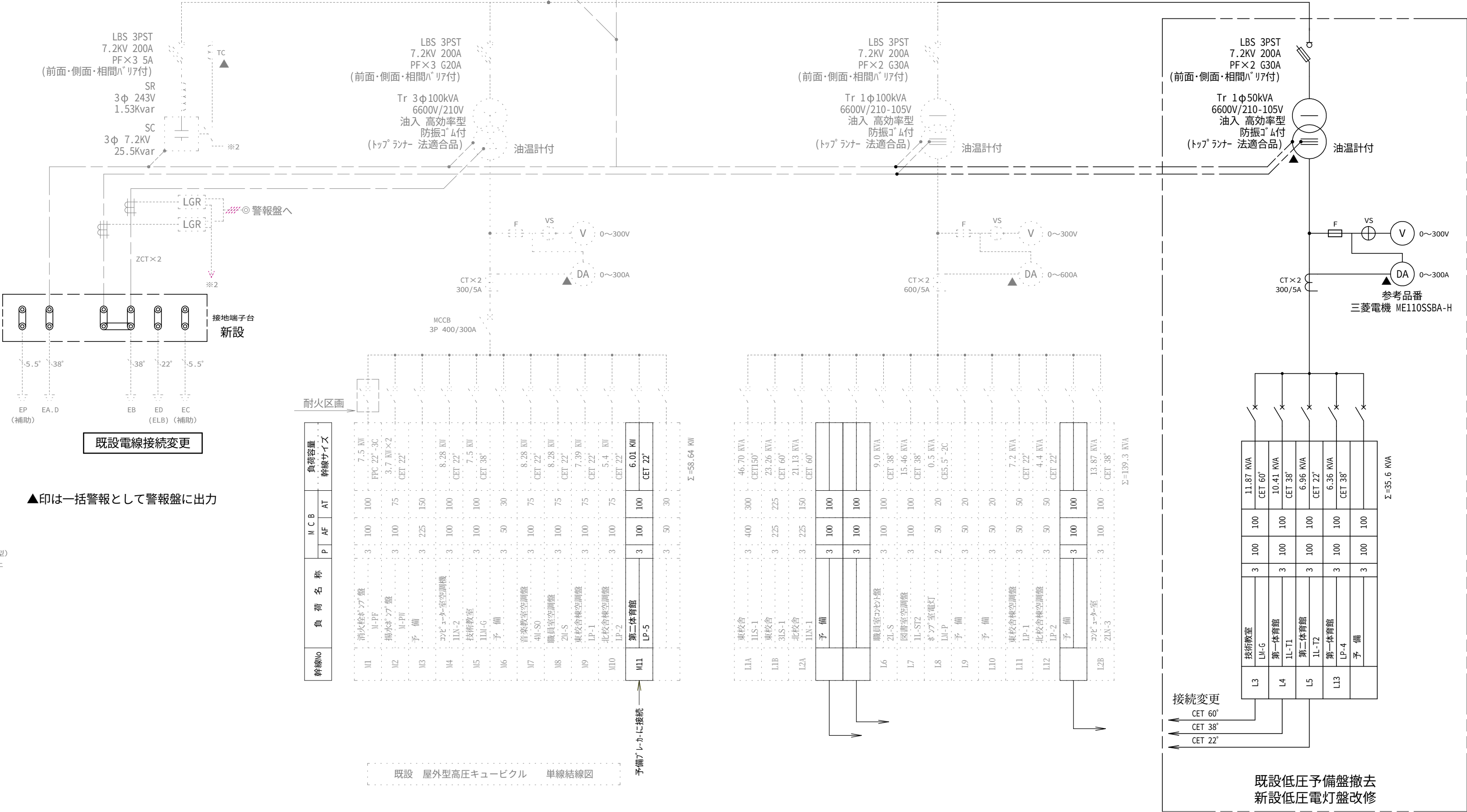
→ 警報盤（低圧動力盤 漏電）へ

→ 警報盤（低圧電灯盤 漏電）へ

警報盤（キュービクル異常）へ一括警報とする。

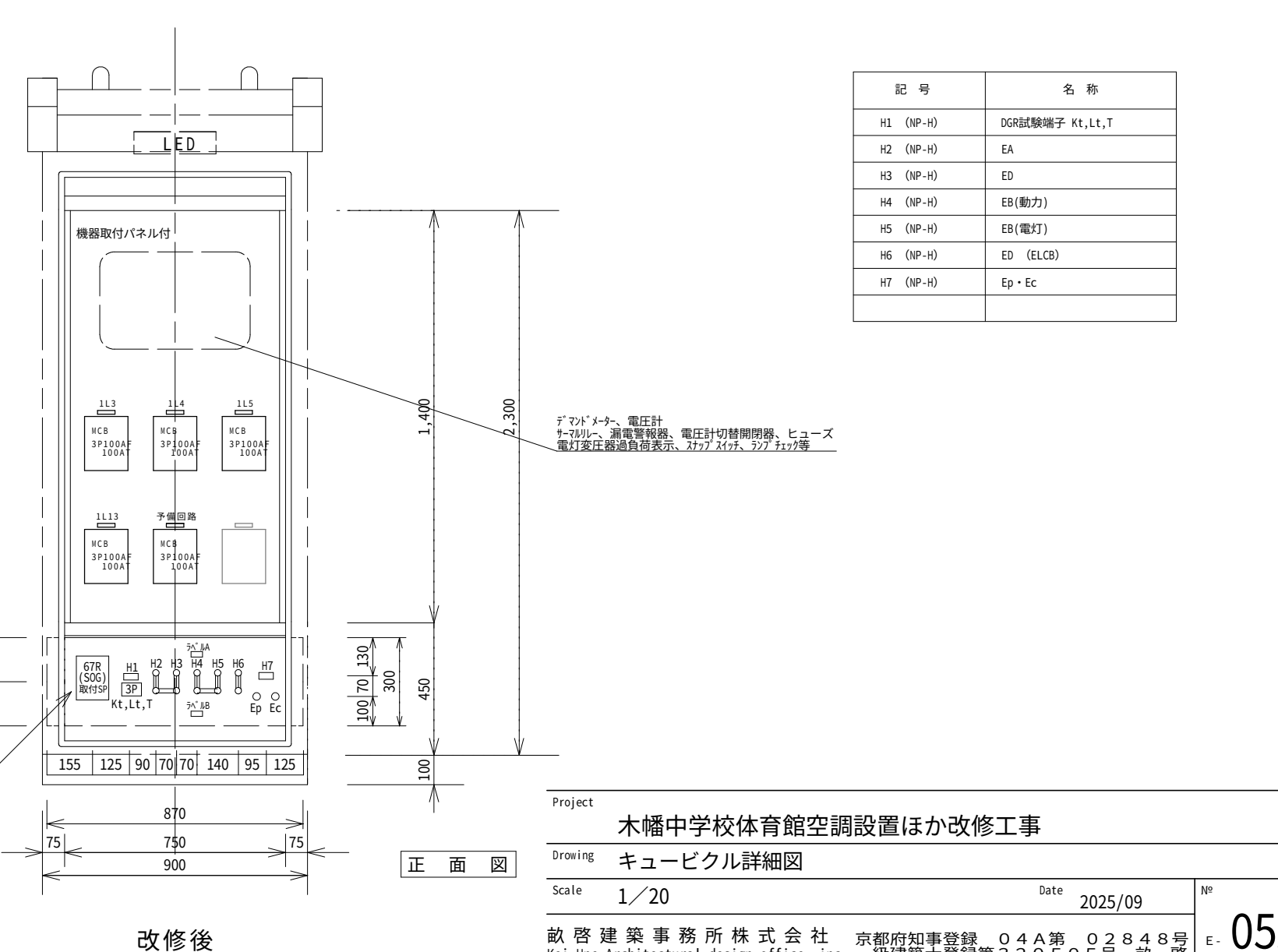
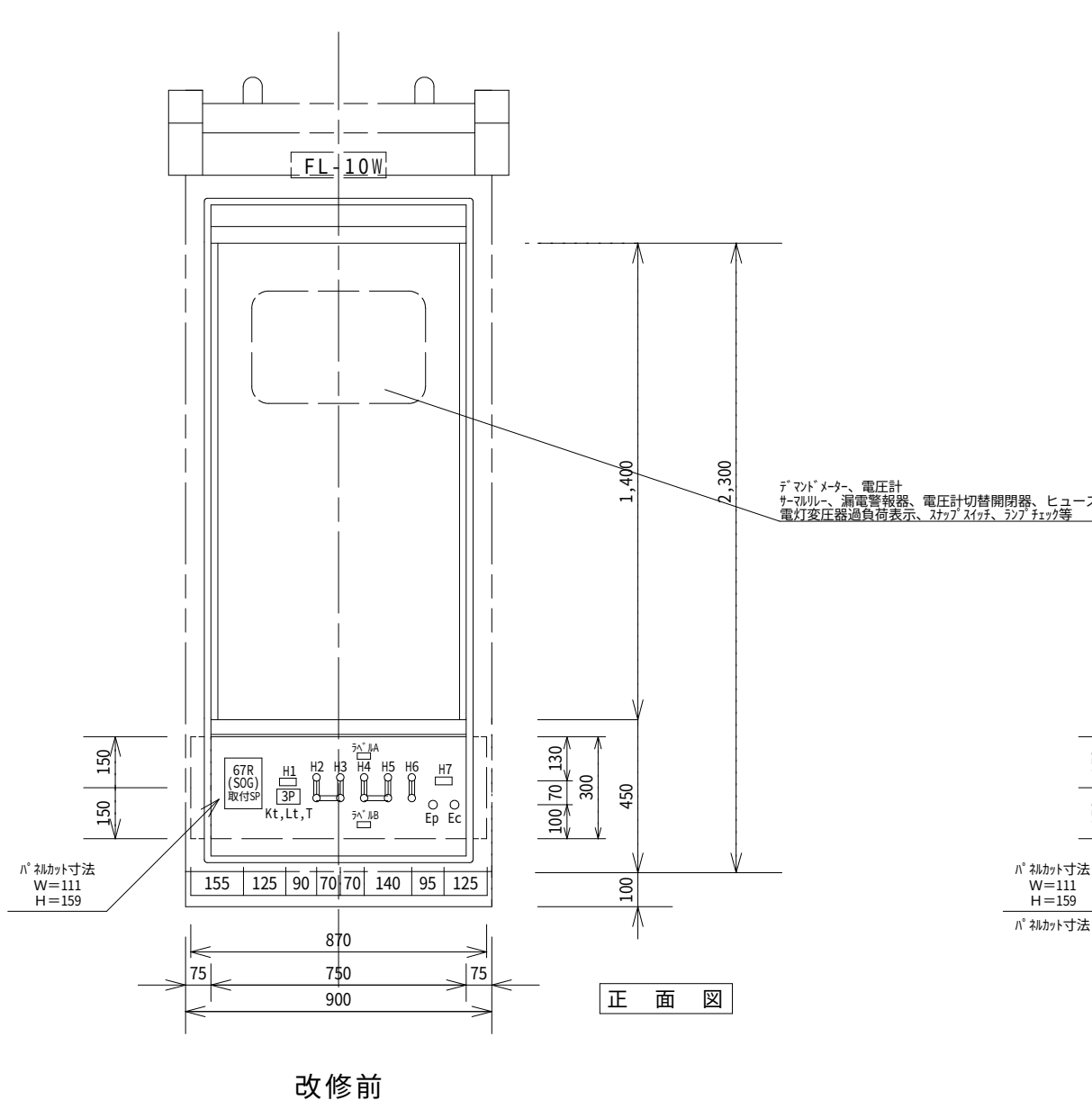
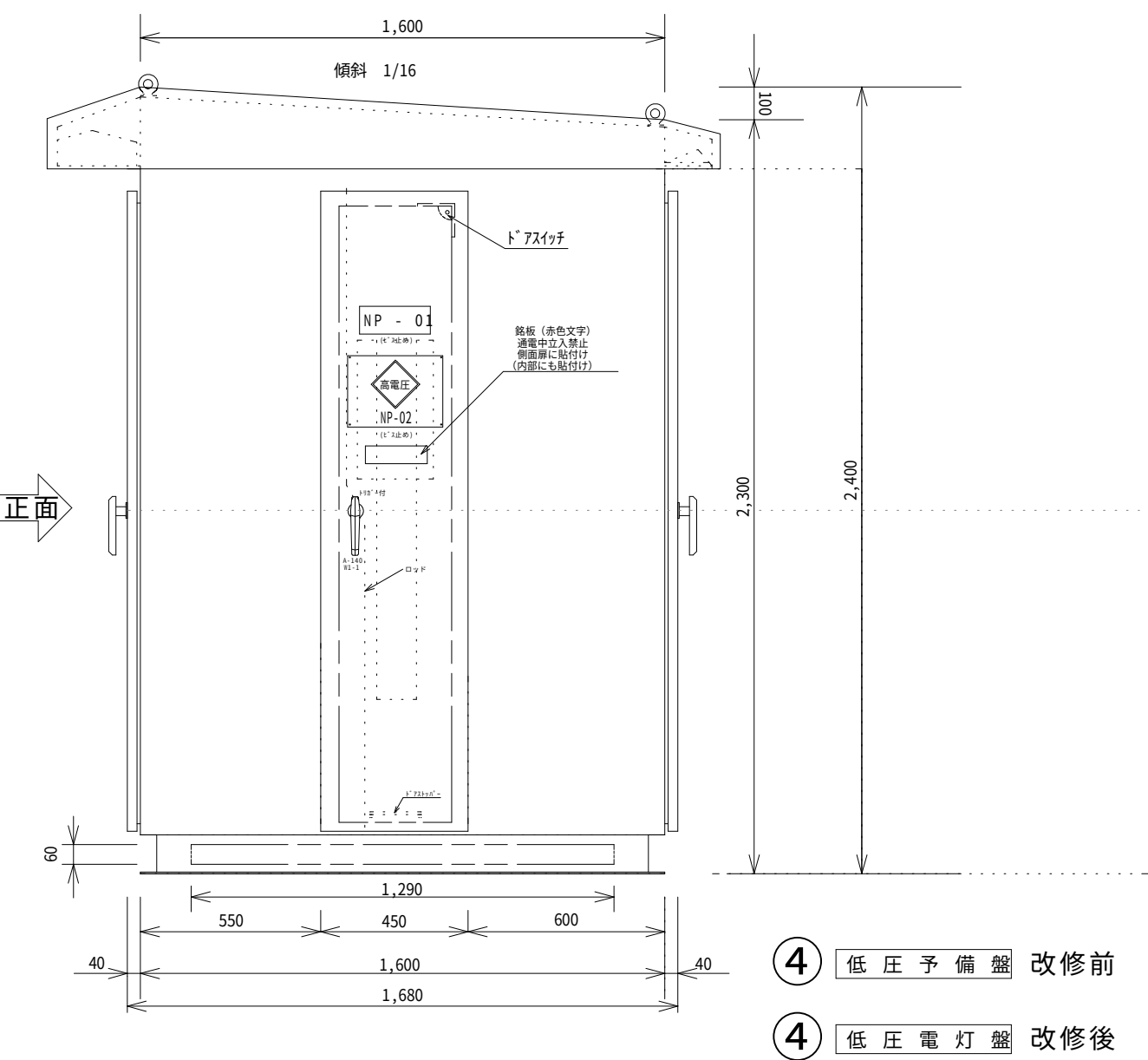
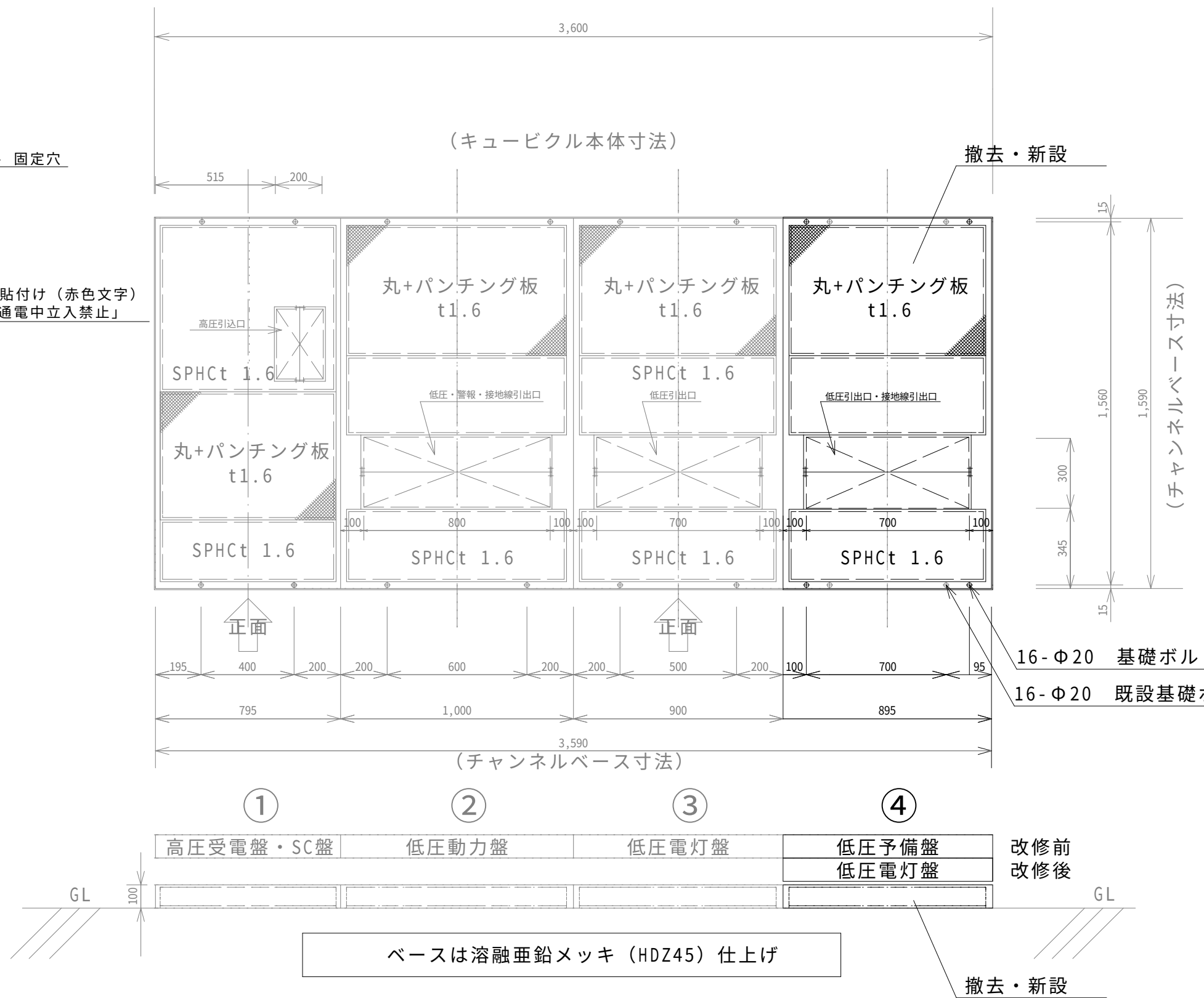
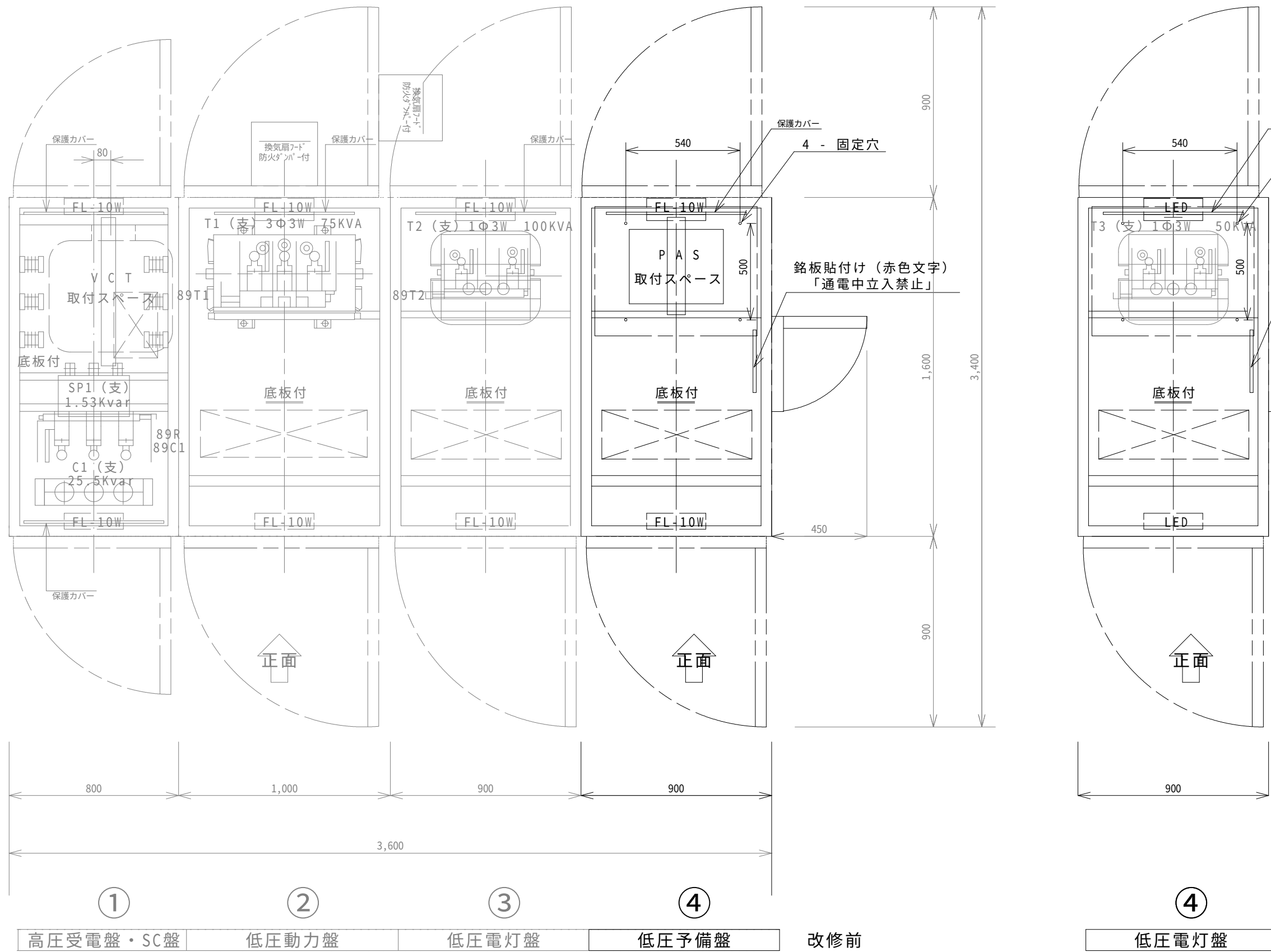


▲印は一括警報として警報盤に出力



消防庁告示第7号適合品

Project	木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事		
Drawing	高圧受変電設備 改修図		
Scale		Date	2025/09
No			04



記 号	名 称
H1 (NP-H)	DGR試験端子 Kt,Lt,T
H2 (NP-H)	EA
H3 (NP-H)	ED
H4 (NP-H)	EB(動力)
H5 (NP-H)	EB(電灯)
H6 (NP-H)	ED (ELCB)
H7 (NP-H)	Ep・Ec

分電盤結線図

新設
C

電灯分電盤（LP-4）
鋼板製屋外露出壁掛け型
国交省仕様

備 考	負 荷 名 称	容 量 (VA)	回路 番号		回路 番号	容 量 (VA)	負 荷 名 称	備 考
200V	空調屋外機	1260	401		402	1260	空調屋外機	200V
"	"	1260	403		404	520	空調屋内機	"
"	空調屋内機	520	405		406	520	"	"
100V	点検用コンセント	150	301		302		駐輪場照明	100V

※（注記）分岐開閉器は協約形（コンパクトサイズ）とする。

ED ©
EDELB ©
TOTAL=5590VA

CE3.5°-3C(1E)
L-B盤内の端子台で接続

ED ©
EDELB ©
TOTAL= 5.88KW

新設

空調機リモコン盤	1R-1
鋼板製屋内露出壁掛け型	
製造者標準盤	

盤寸法は参考

- | | | | |
|---|--------------|--------|-------|
| ① | 空調機集中リモコン | (空調工事) | × 1 個 |
| ② | スケジュールタイマ- | (空調工事) | × 3 個 |
| ③ | 搬送ファンリモコン | (空調工事) | × 4 個 |
| ④ | コンセント (発電回路) | (電気工事) | × 3 個 |

①②③④ 盤内マateralBOX (電気工事) に取付

新設

空調機リモコン盤	1R-2
鋼板製屋内露出壁掛け型	
製造者標準盤	

盤寸法は参考

- | | | | |
|---|------------|--------|-------|
| ① | 空調機リモコン | (空調工事) | × 1 個 |
| ② | スケジュールタイマー | (空調工事) | × 1 個 |
| ③ | 搬送ファンリモコン | (空調工事) | × 2 個 |

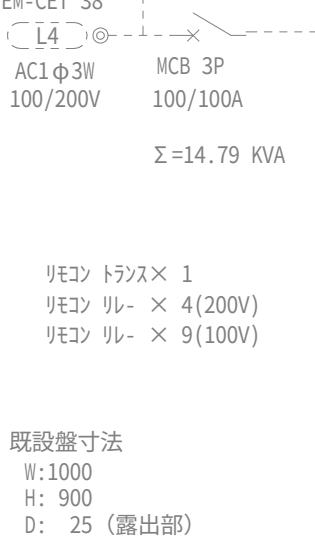
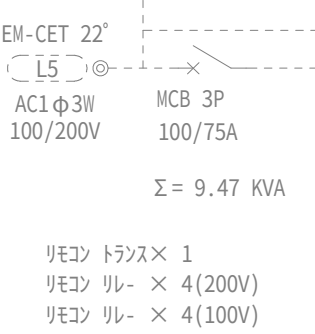
①②③ 盤内メタルBOX（電気工事）に取付

新設

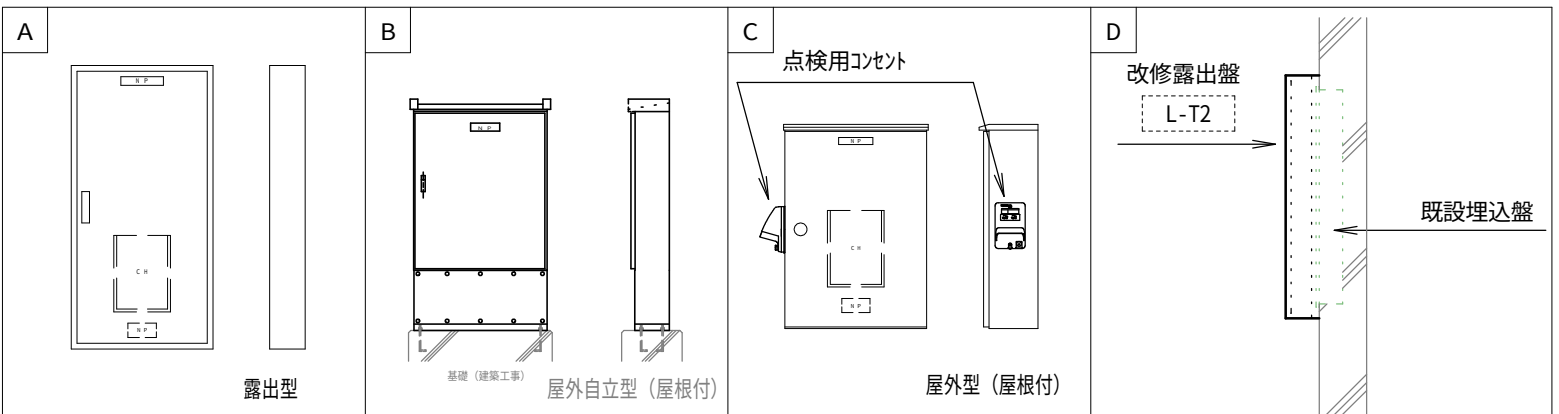
空調機自立操作盤	1R-3
SUS製屋外露出壁掛け型	
製造者標準盤	

配線ダクト
NDB56同等品

配線ダクト
NDB56同等品

盤名称 盤形式	主回路	回路	負荷名称	負荷容量 (VA)	分岐開閉器					電圧	備 考	
					MCB	ELB	P	AF	AT			
1L-T1 [D] 体育館 (1) 既設	EM-CET 38°  AC1φ3W 100/200V MCB 3P 100/100A Σ=14.79 KVA リモコン トランス× 1 リモコン リレ- × 4(200V) リモコン リレ- × 9(100V) 既設盤寸法 W:1000 H: 900 D: 25 (露出部)		リモコントランス		○		2	30	20	100		
		1	既設		○		〃	〃	〃	200		
		2	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		3	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		4	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		5	既設		○		〃	〃	〃	100		
		6	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		7	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		8	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		9	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		10	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		11	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		12	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		13	誘導灯		○		〃	〃	〃	〃	接続	
		14	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		15	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		16	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		17	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		18	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		19	既設			○		〃	〃	〃	〃	
20	既設			○		〃	〃	〃	〃			
	予備回路に接続		エア-搬送ファン	664	○		〃	〃	〃	〃	接続	
			予備		○		〃	〃	〃	〃		
			予備		○		〃	〃	〃	〃		
			予備		○		〃	〃	〃	〃		
1L-T2 [A] 体育館 (2) 既設	EM-CET 22°  AC1φ3W 100/200V MCB 3P 100/75A Σ= 9.47 KVA リモコン トランス× 1 リモコン リレ- × 4(200V) リモコン リレ- × 4(100V)		リモコントランス		○		2	30	20	100		
			1L-T21		○		3	50	30	200/100	CE5.5-3C E2.0	
			誘導灯		○		2	30	20	100		
		1	体育館照明 (1)		○		〃	〃	〃	〃		
		2	体育館照明 (2)		○		〃	〃	〃	〃		
		3	体育館照明 (3)		○		〃	〃	〃	〃		
		4	体育館照明 (4)		○		〃	〃	〃	〃		
		5	体育館換気扇南側		○		〃	〃	〃	100		
		6	体育館換気扇北側		○		〃	〃	〃	〃		
		7	器具・更衣室照明		○		〃	〃	〃	〃		
		8	北面外灯		○		〃	〃	〃	〃	接続	
		9	予備		○		〃	〃	〃	〃		
		10	南側差込		○		〃	〃	〃	〃		
		11	北側差込		○		〃	〃	〃	〃		
		12	プレーヤー電源		○		〃	〃	〃	〃		
		13	既設		○		〃	〃	〃	〃		
		14	外灯・道路照明 トランス・点検室		○		〃	〃	〃	〃		
		15	I7-搬送	332	○		〃	〃	〃	〃	〃	接続
					予備							

盤形式



Project

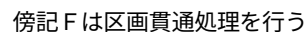
木幡中学校体育館空調設置ほか改修工事

Drawing 分電盤結線図

Scale _____ Date 2025/09

畝 啓 建 築 事 務 所 株 式 会 社 京 都 府 知 事 登 録 0 4 A 第 0 2 8 4 8 号
 Kei Une Architectural design office inc. 一 級 建 築 士 登 録 第 3 2 0 5 0 5 号 畝 啓

E - 06_{/24}

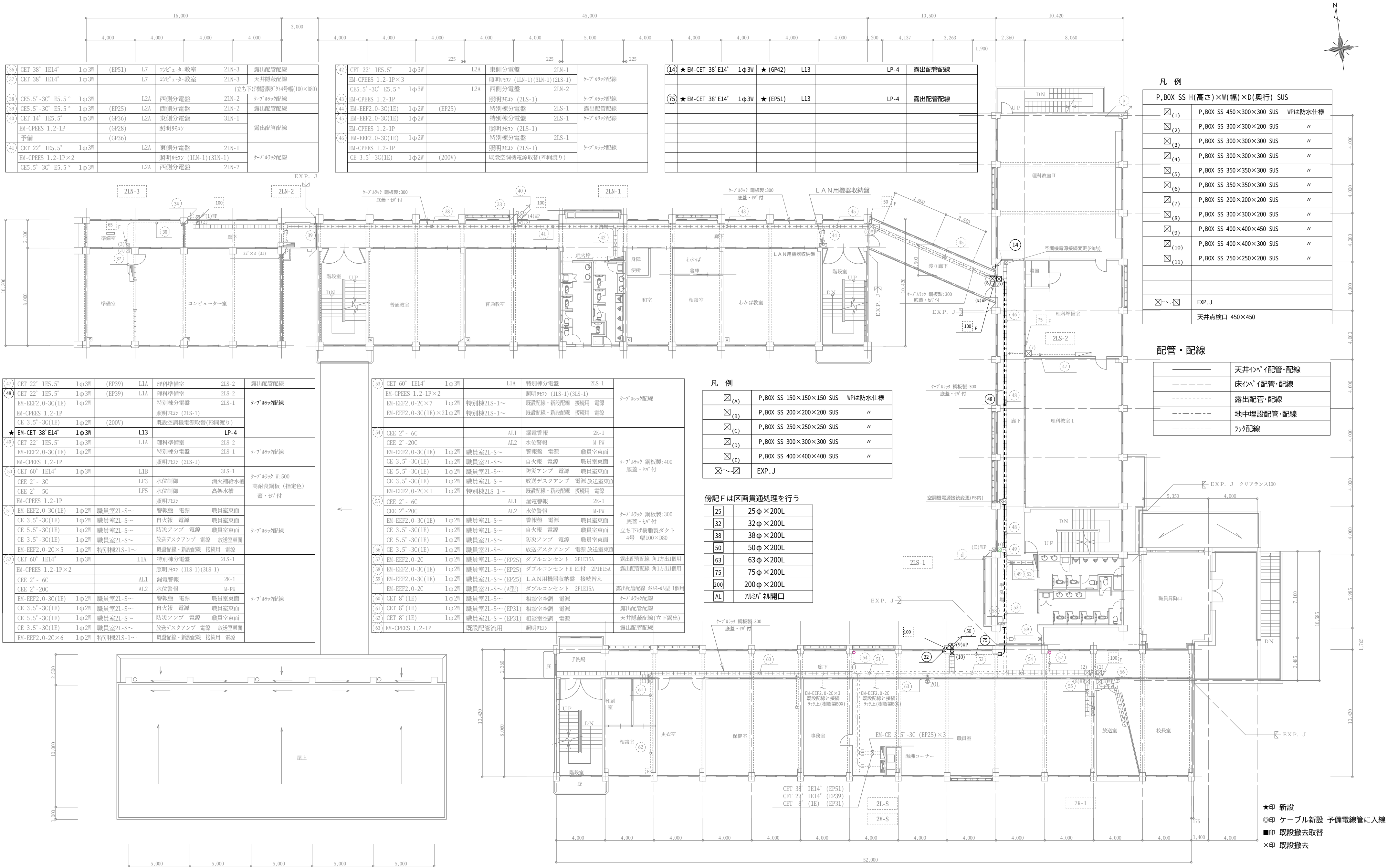


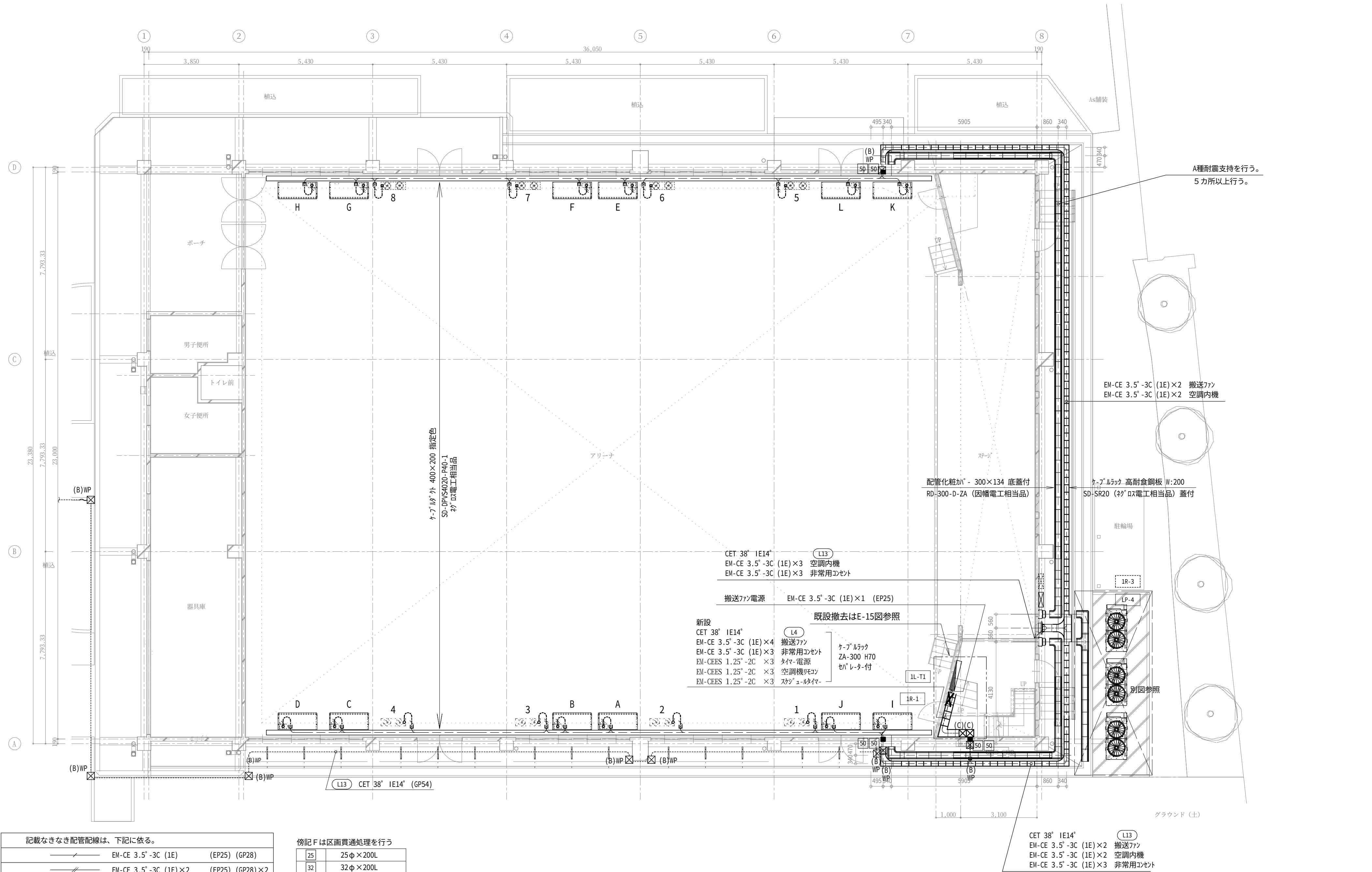
P,BOX SS H(高さ)×W(幅)×D(奥行) SUS		
☒ (A)	P,BOX SS 150×150×150 SUS	WPは防水仕様
☒ (B)	P,BOX SS 200×200×200 SUS	〃
☒ (C)	P,BOX SS 250×250×250 SUS	〃
☒ (D)	P,BOX SS 300×300×300 SUS	〃
☒ (E)	P,BOX SS 400×400×400 SUS	〃

 (7)	P,BOX SS 400×400×400 SUS	〃
 (8)	P,BOX SS 400×350×300 SUS	〃
 (9)	P,BOX SS 700×500×500 SUS	〃
 (10)	P,BOX SS 400×500×450 SUS	〃
 (11)	P,BOX SS 400×500×500 SUS	〃
 (12)	P,BOX SS 200×200×100 SUS	〃

 ₍₁₃₎	P,BOX SS 200×200×200 SUS	〃
 ₍₁₄₎	P,BOX SS 400×400×200 SUS	〃
 ₍₁₅₎	P,BOX SS 400×400×500 SUS	〃
 ₍₁₆₎	P,BOX SS 400×400×300 SUS	〃
 ~ 	EXP. J	

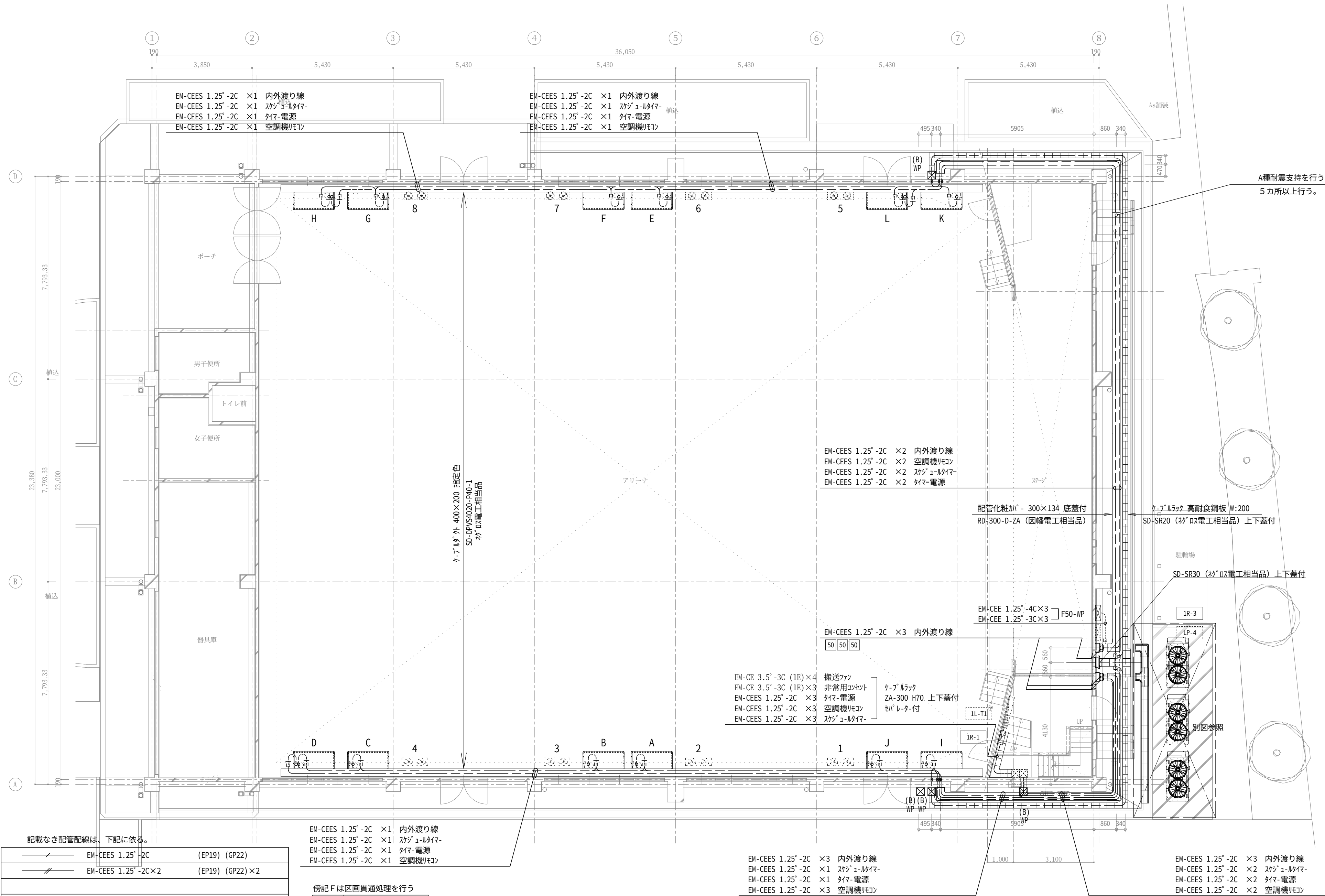
Scale 1/200 Date 2025/09





記載なき配管配線は、下記に依る。			
		EM-CE 3.5' -3C (1E)	(EP25) (GP28)
		EM-CE 3.5' -3C (1E)×2	(EP25) (GP28)×2
		EM-FCPEES 1.2-1P	(EP31) (GP28)
		EM-FCPEE 1.2-1P	(EP25) (GP22)
凡 例		P_BOX SS 200×200×200 SUS	WPは防水仕様
		P_BOX SS 300×300×300 SUS	"
		P_BOX SS 400×400×300 SUS	"

傍記 F は区画貫通処理を行う	
	25φ×200L
	32φ×200L
	38φ×200L
	50φ×200L
	63φ×200L
	75φ×200L
	100φ×200L
	75mm 開口



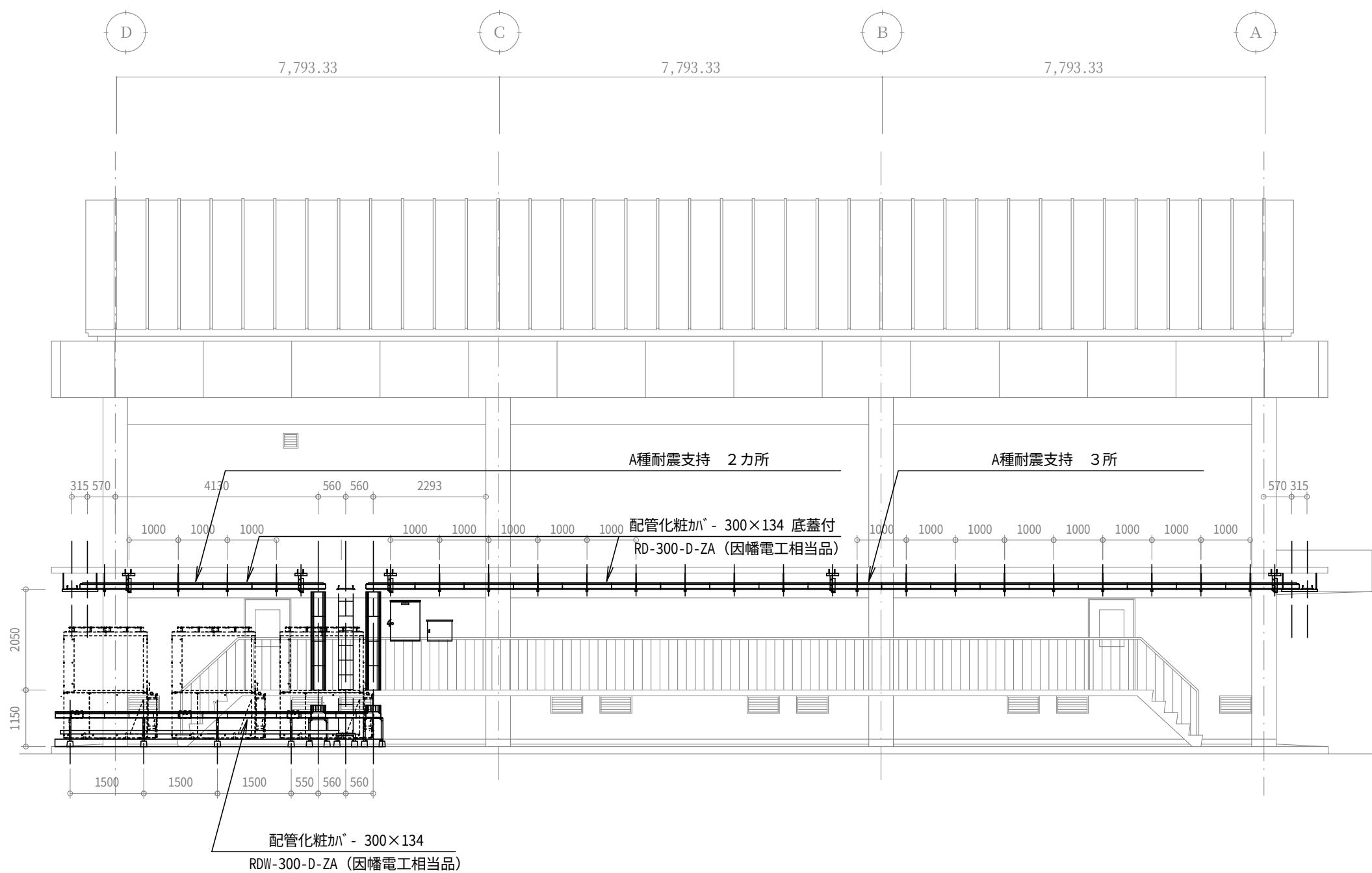
記載なき配管配線は、下記に依る。

	EM-CEES 1.25°-2C	(EP19) (GP22)
	EM-CEES 1.25°-2C×2	(EP19) (GP22)×2
凡 例		P_BOX SS 200×200×200 SUS WPは防水仕様
		P_BOX SS 300×300×300 SUS //
		P_BOX SS 400×400×300 SUS //

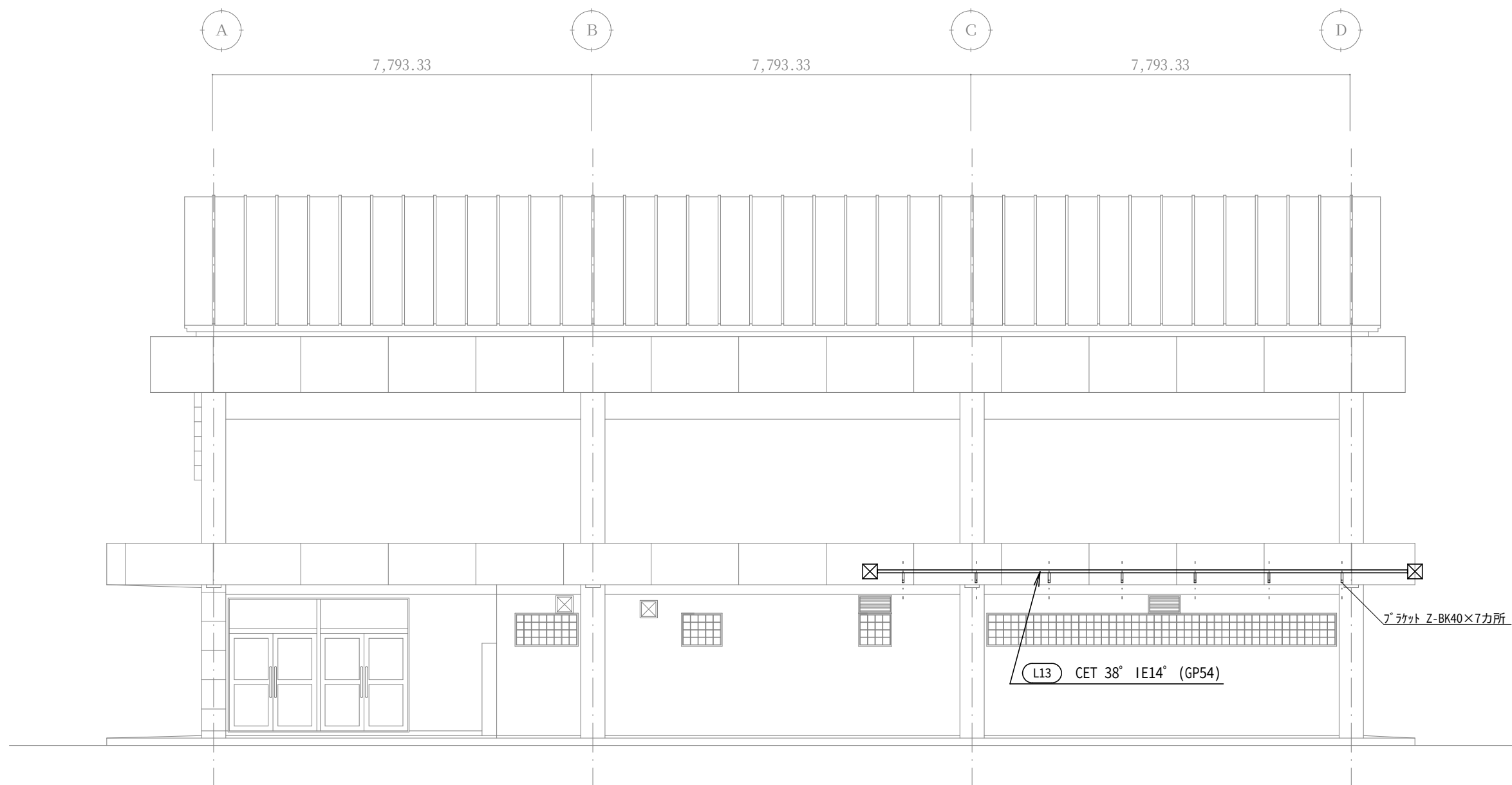
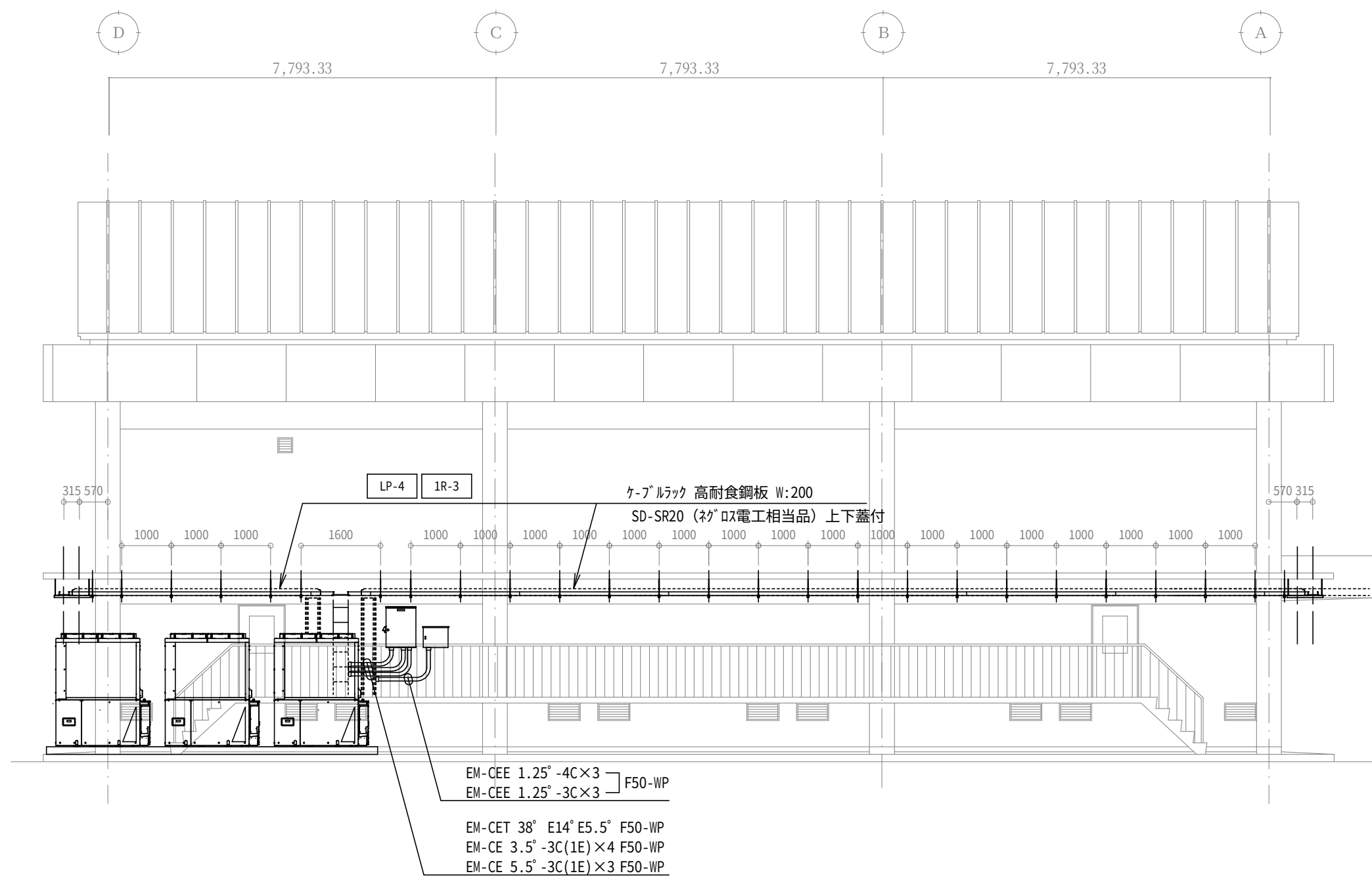
EM-CEES 1.25°-2C	×1	内外渡り線
EM-CEES 1.25°-2C	×1	スケジュールタイマ-
EM-CEES 1.25°-2C	×1	タイマ-電源
EM-CEES 1.25°-2C	×1	空調機リモコン

傍記 F は区画貫通処理を行う

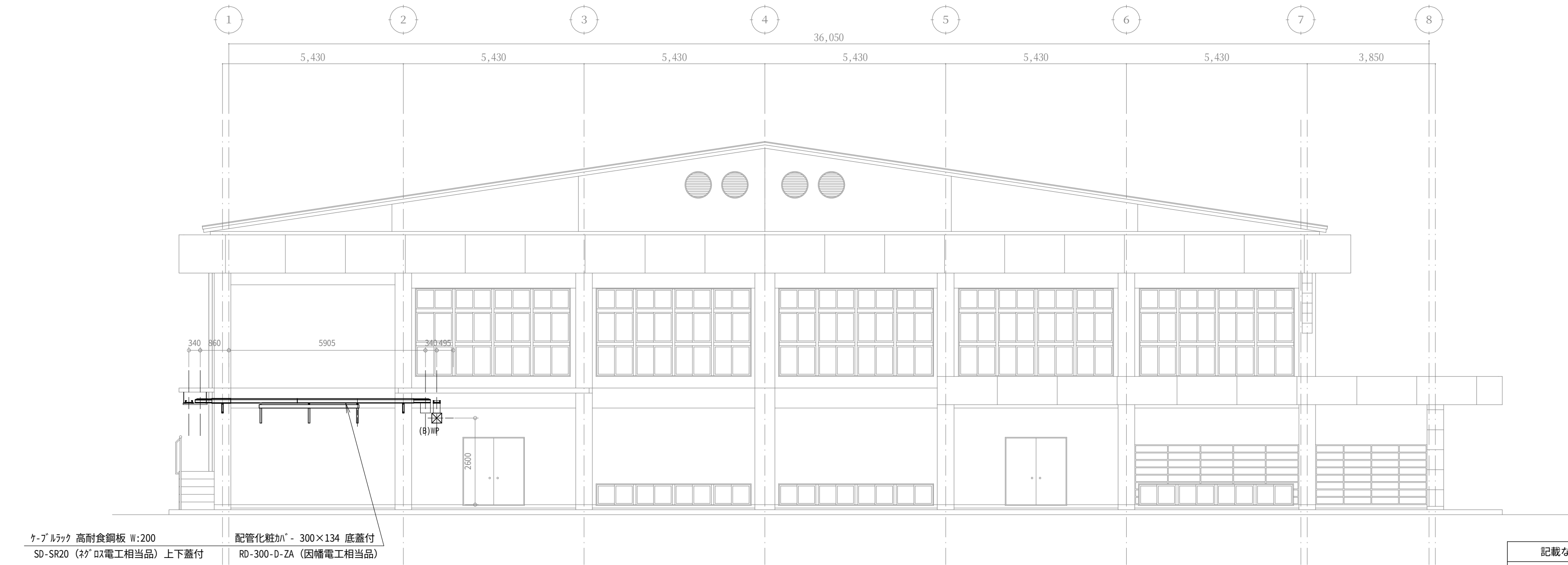
25	25φ×200L
32	32φ×200L
38	38φ×200L
50	50φ×200L
63	63φ×200L
75	75φ×200L
100	100φ×200L
AL	アルミハコ開口



東側立面図 S=1:100

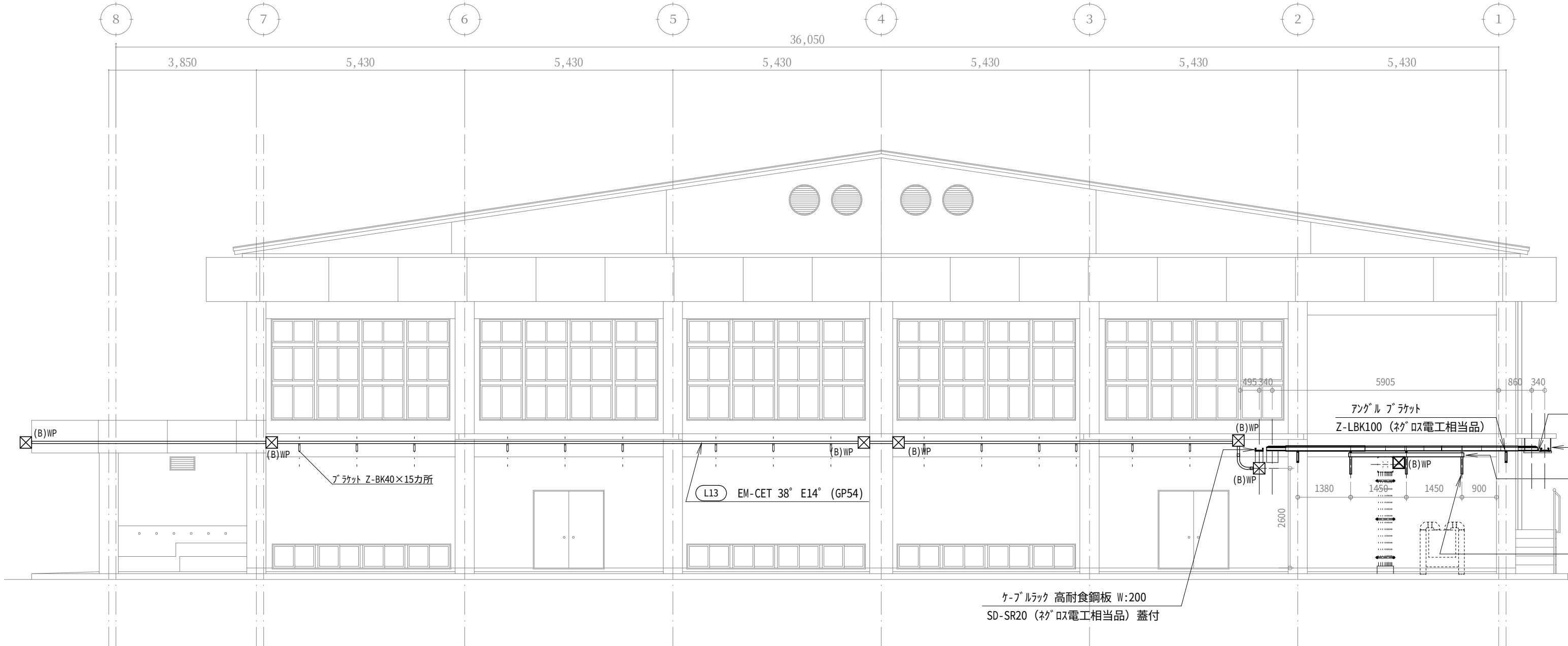


西側立面図 S=1:100



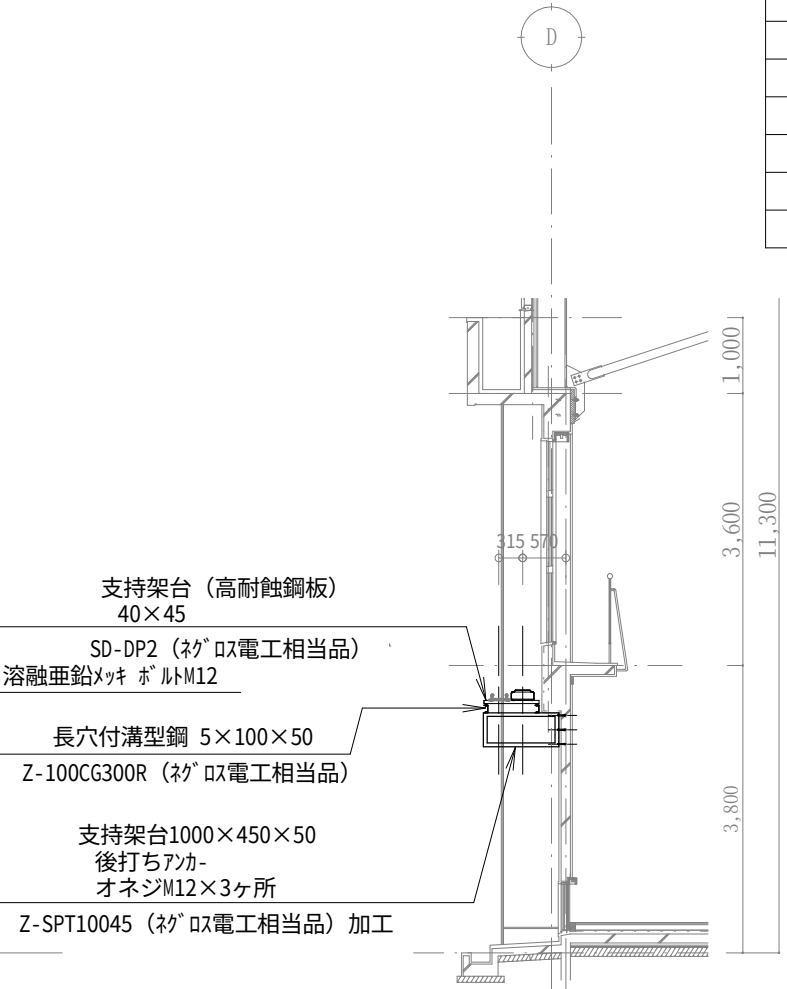
北側立面図 S=1:100

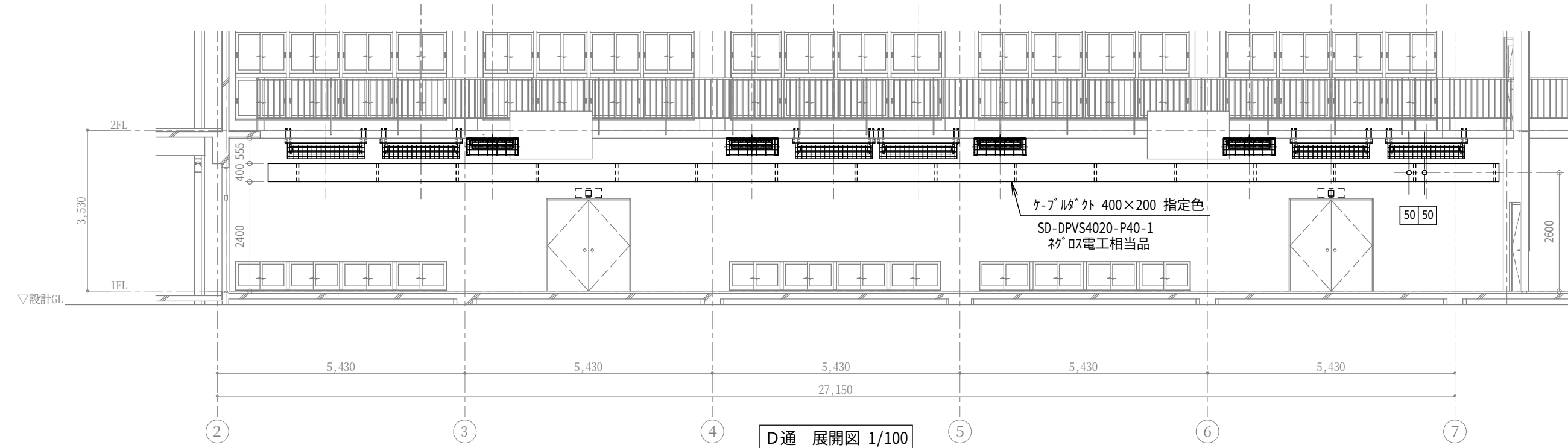
記載なき配管配線は、下記に依る。			
		EM-CE 3.5°-3C (1E) (EP25) (GP28)	
		EM-FCPEES 1.2-1P (EP31) (GP28)	
		EM-FCPEE 1.2-1P (EP25) (GP22)	
凡 例		P,BOX SS 200×200×200 SUS	WPは防水仕様
		P,BOX SS 300×300×300 SUS	〃
		P,BOX SS 400×400×300 SUS	〃



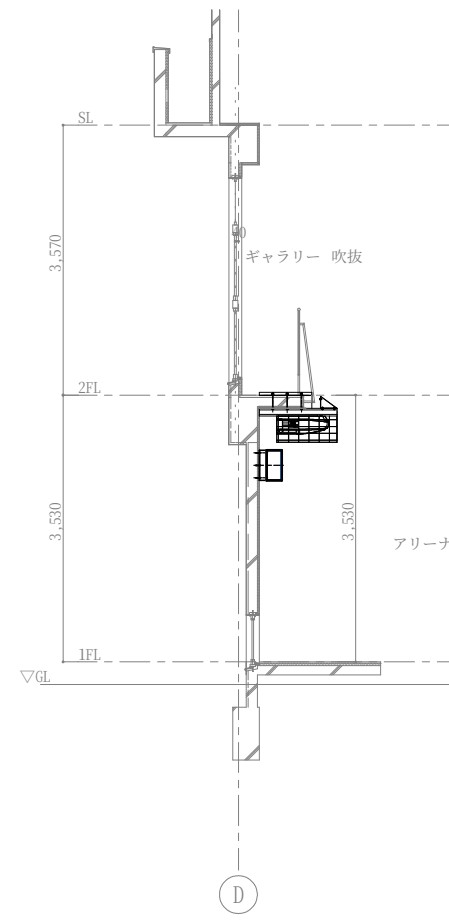
南側立面図 S=1:100

傍記 F は区画貫通処理を行う	
25	25φ×200L
32	32φ×200L
38	38φ×200L
50	50φ×200L
63	63φ×200L
75	75φ×200L
100	100φ×200L
AL	7/8インチ開口

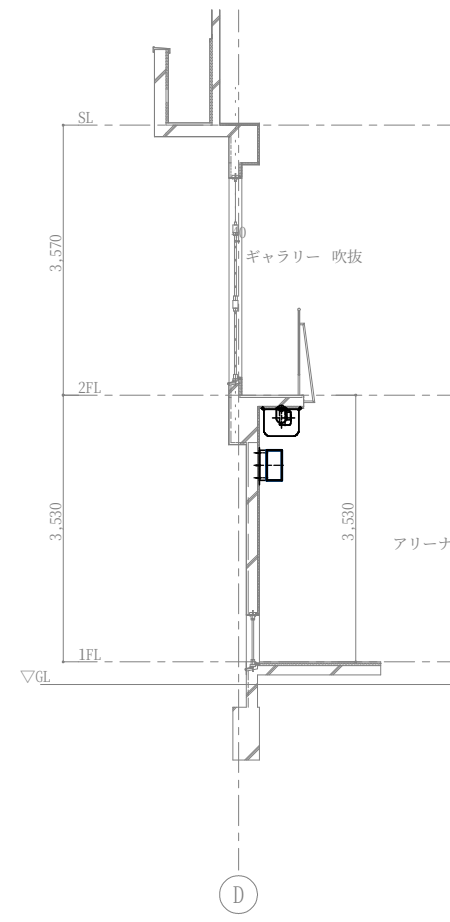




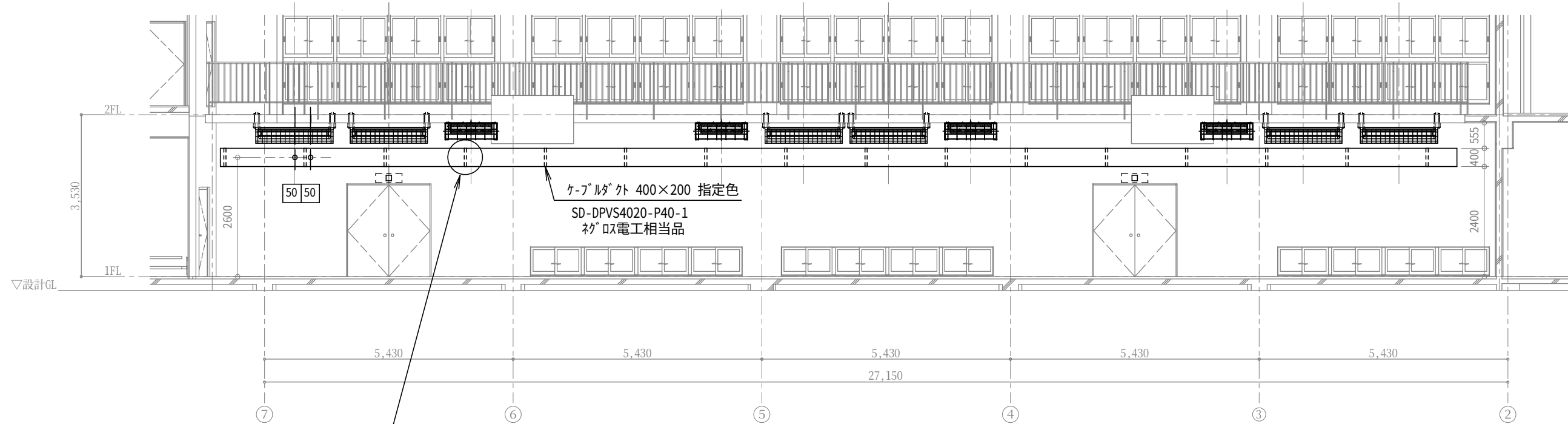
D通 展開図 1/100



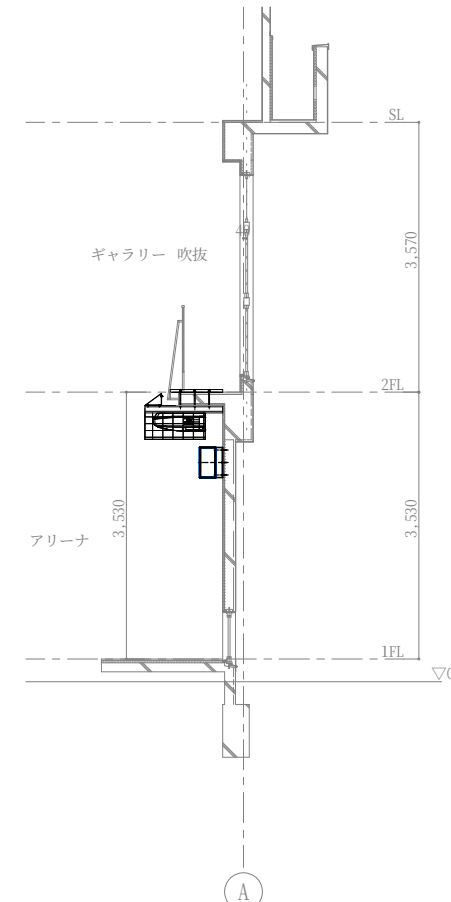
D通 断面図 1/100



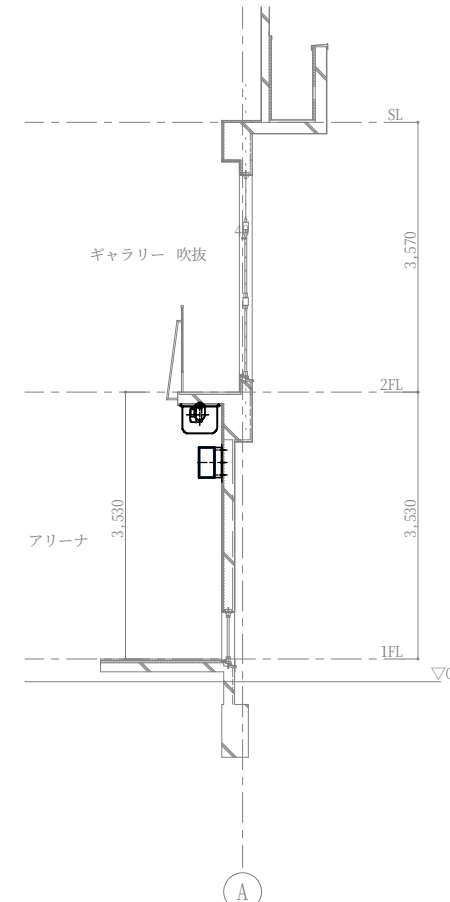
D通 断面図 1/100



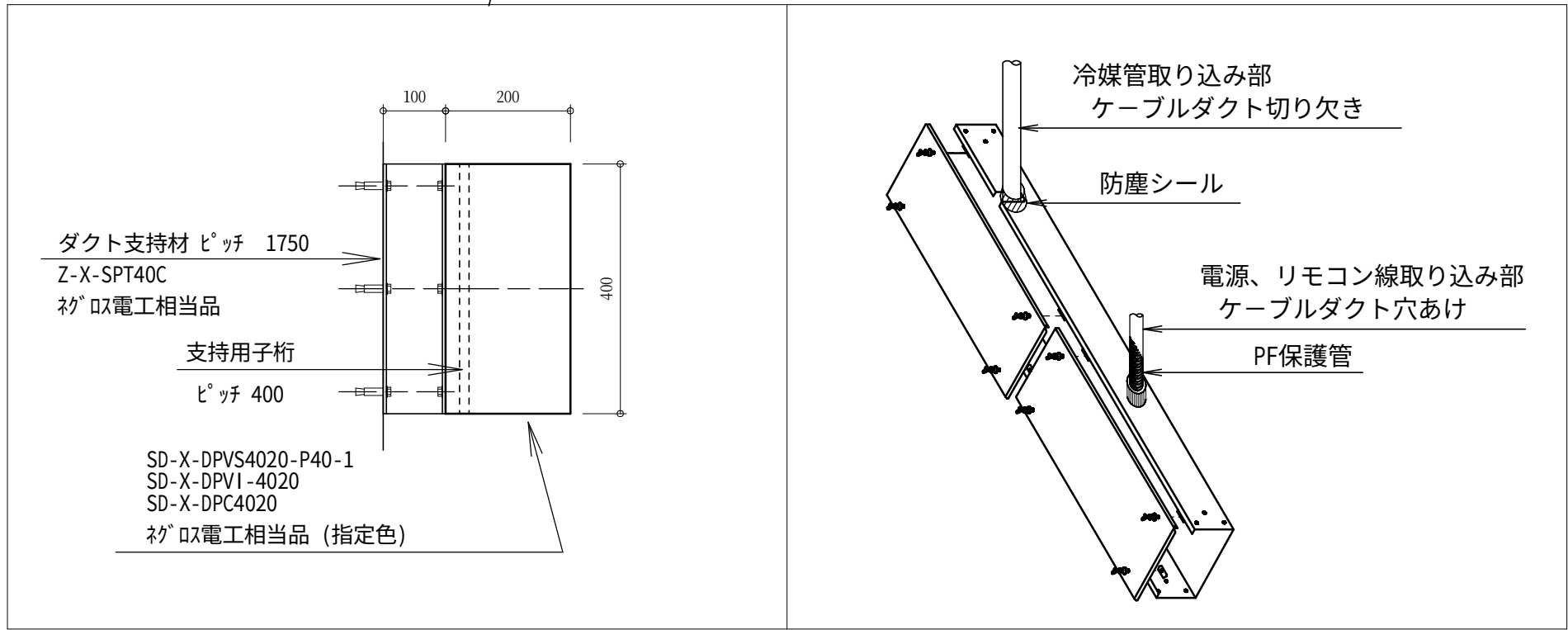
A通 展開図 1/100

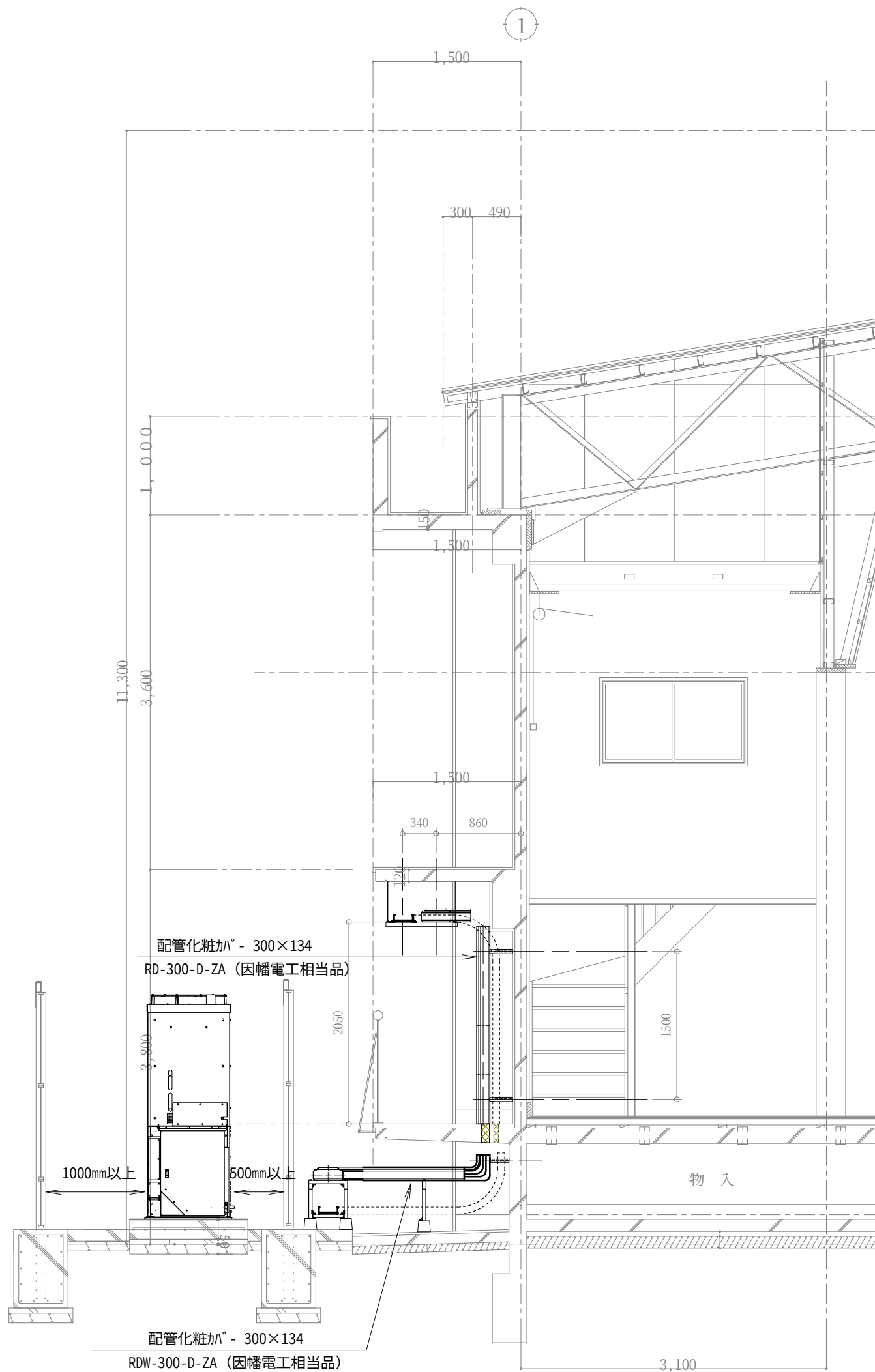


A通 断面図 1/100

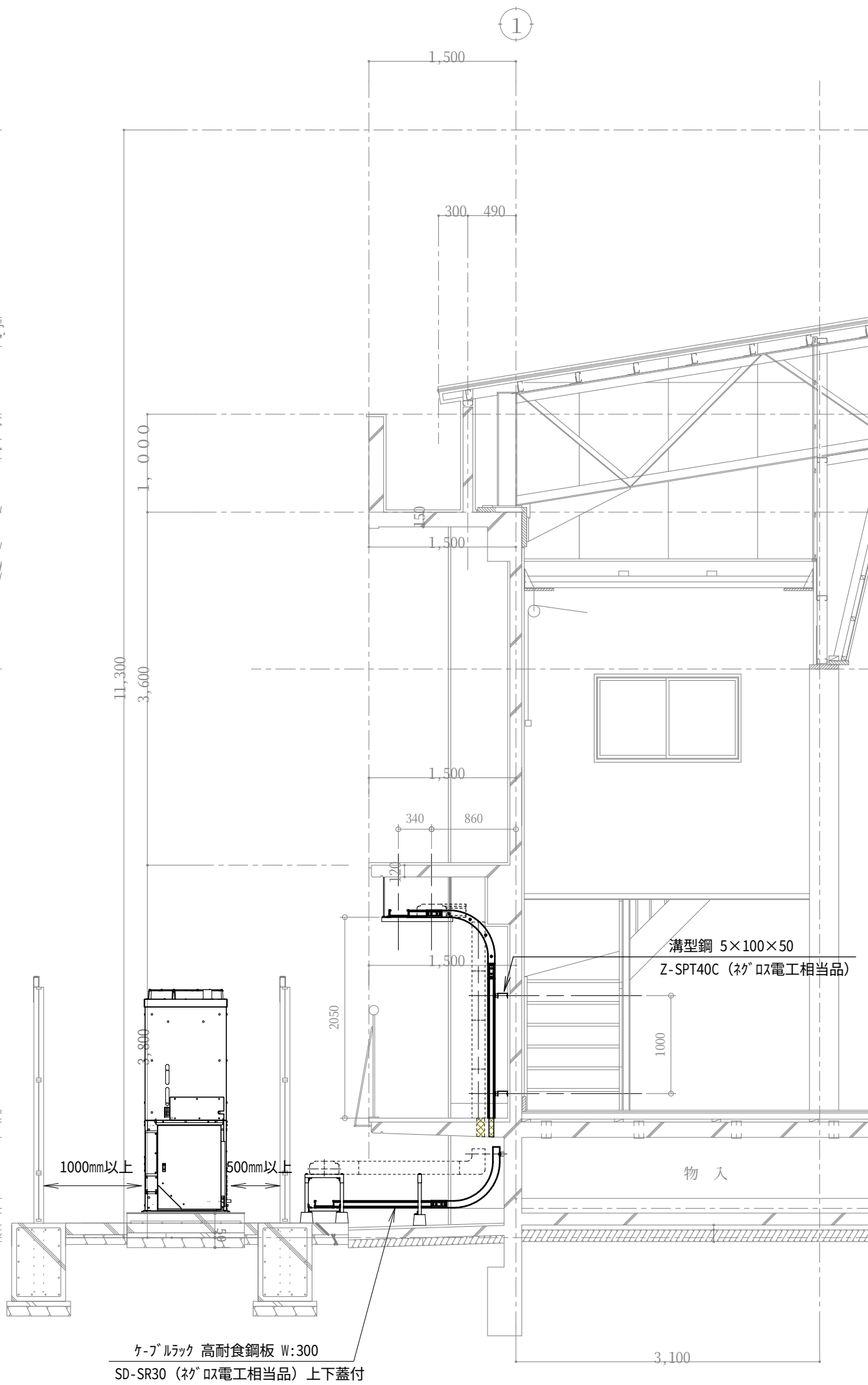


A通 断面図 1/100

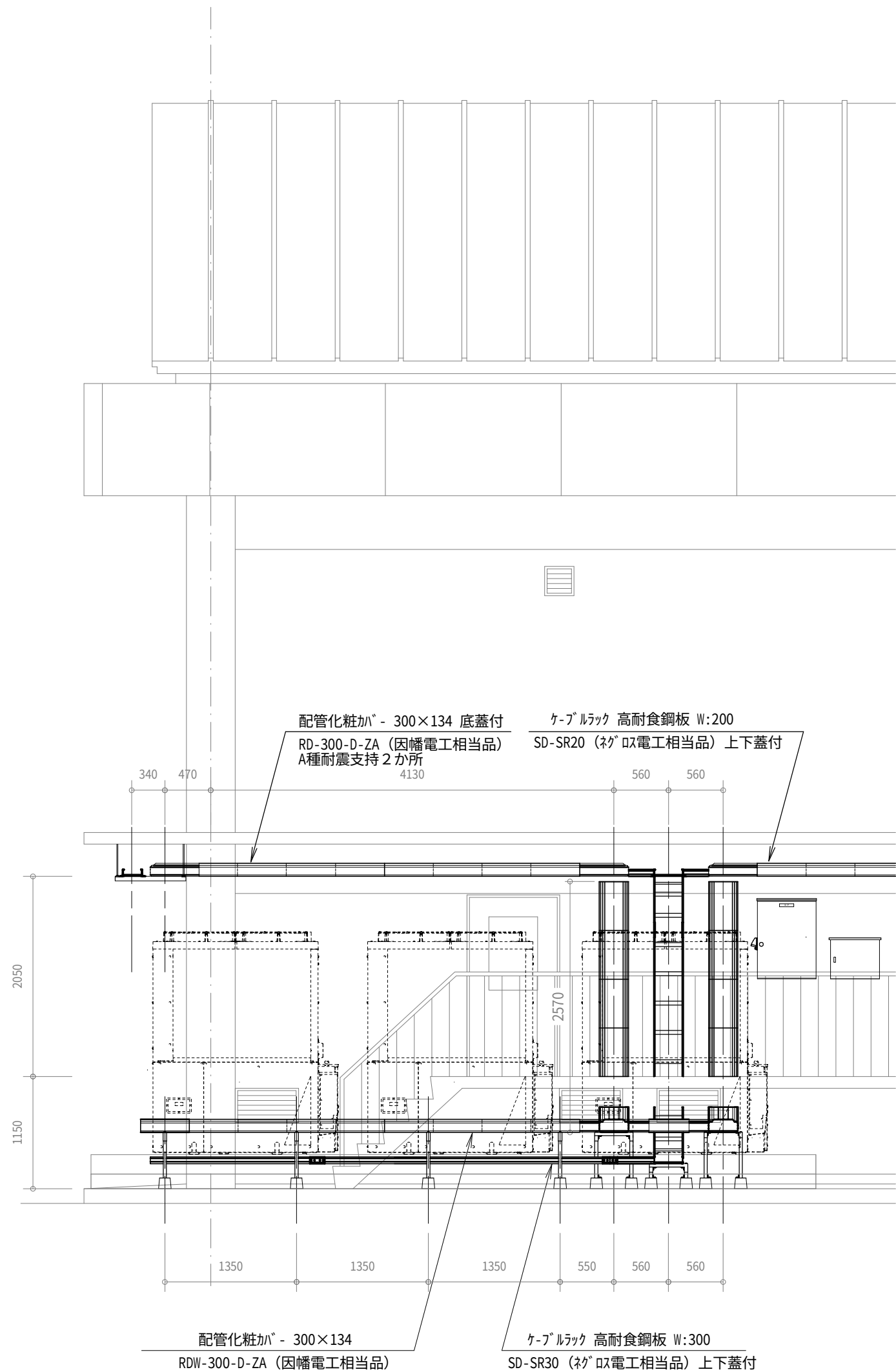


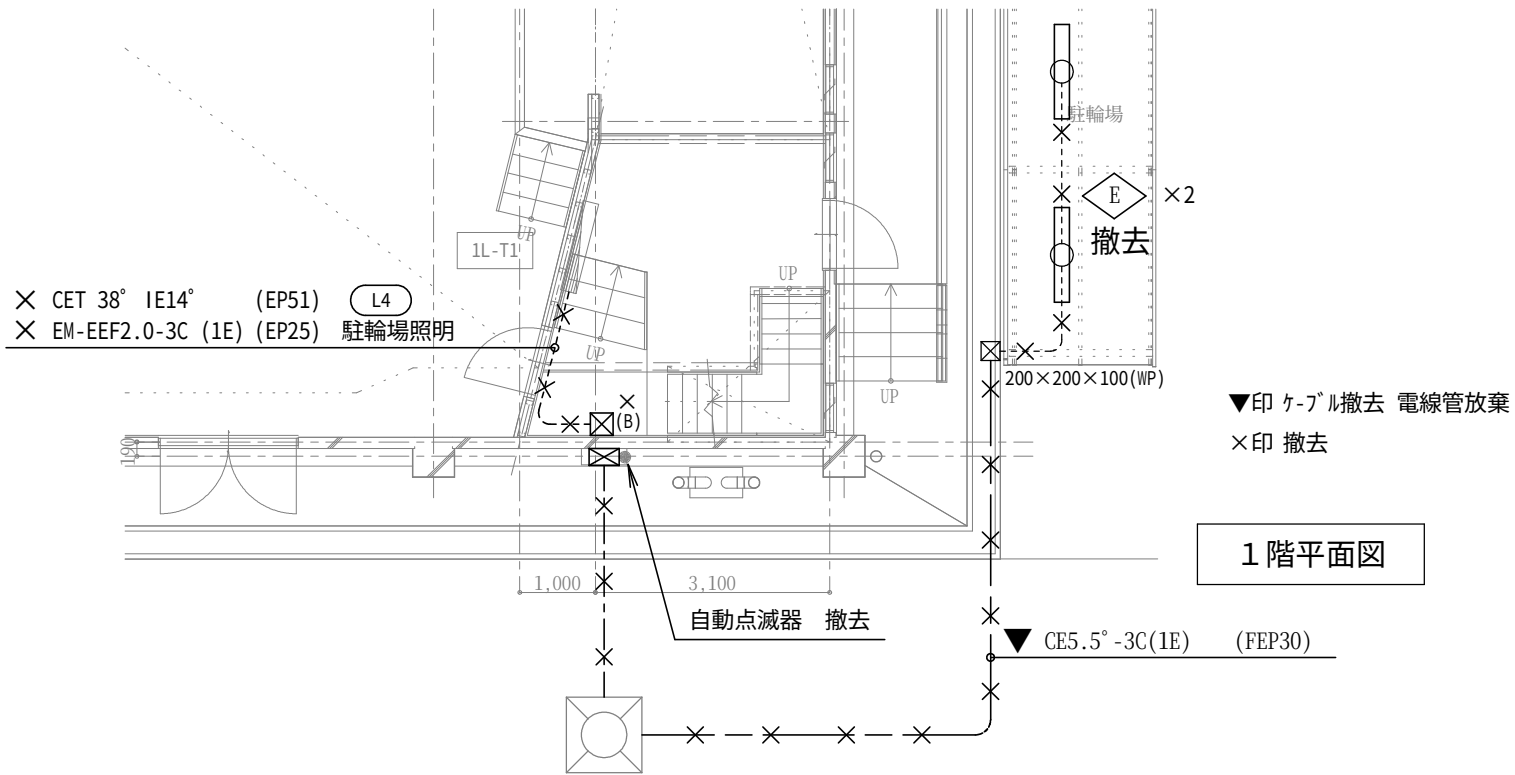
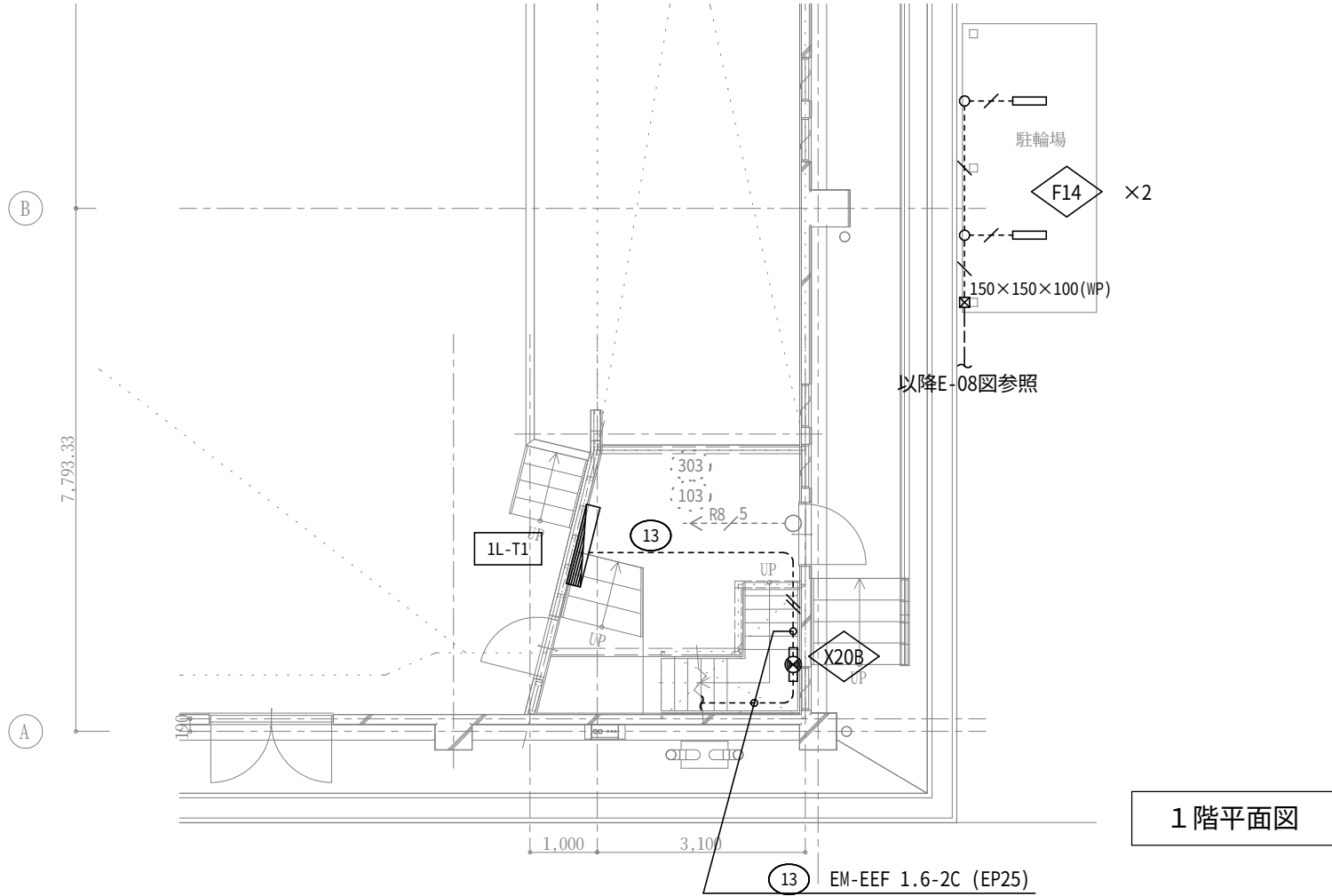
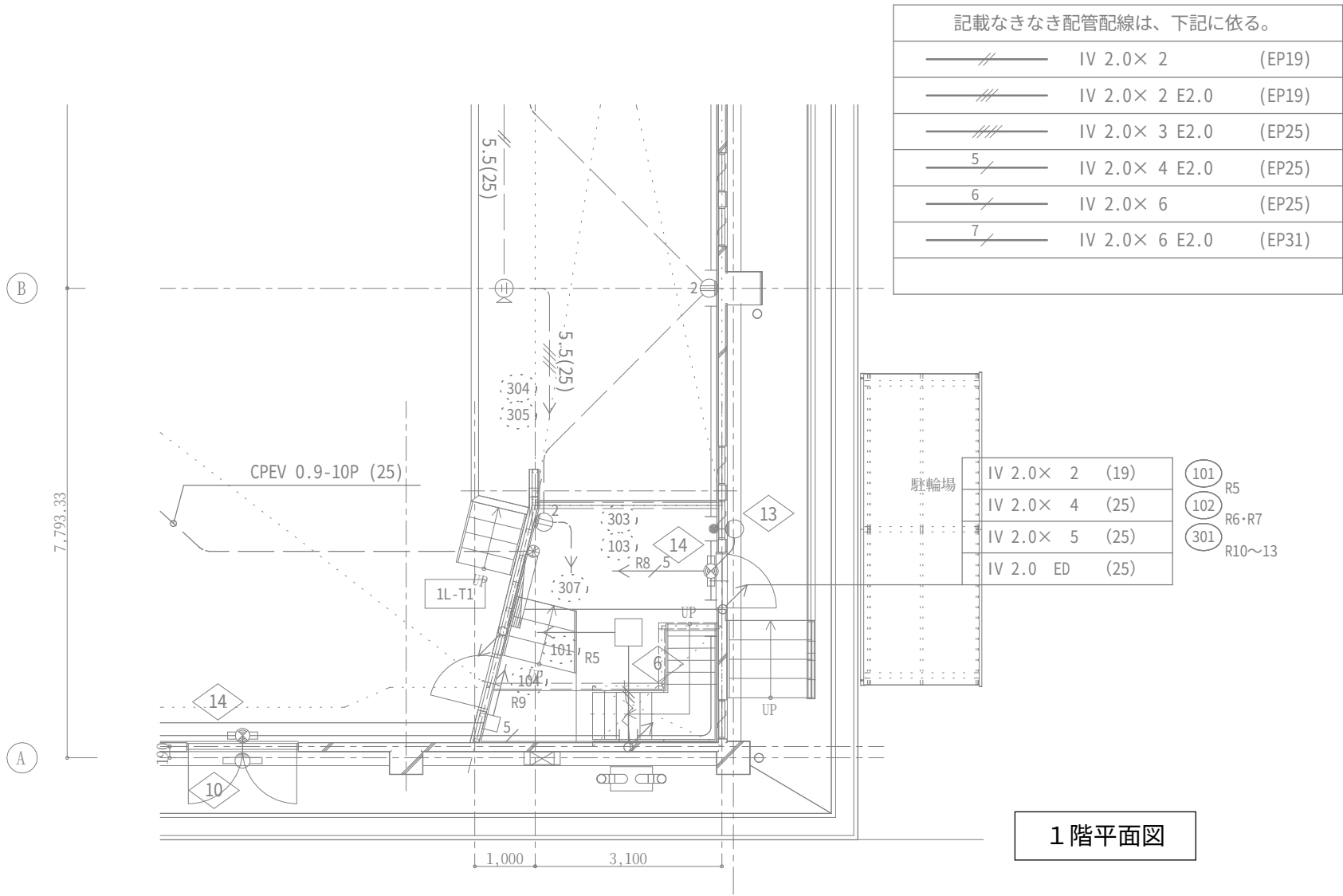


Y方向 断面詳細図 S=1:50



Y方向 断面詳細図 S=1:50





幹線廻り改修後はE-10図参照

傍記 F は区画貫通処理を行う

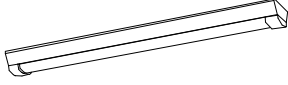
25	25φ×200L
32	32φ×200L
38	38φ×200L
50	50φ×200L
63	63φ×200L
75	75φ×200L
100	100φ×200L
AL	75mm 枠開口

記載なき配管配線は、下記に依る。			
		EEF 1.6-2C	(EP19) (GP22)
		EEF 1.6-3C (1E)	(EP25) (GP22)
凡 例		P, BOX SS 200×200×200 SUS	WPIは防水仕様
		P, BOX SS 300×300×300 SUS	〃
		P, BOX SS 400×400×300 SUS	〃

E

LSS1MP/RP-3000LM

LED 20.8W



防湿・防雨型

パナソニック製 品番 XLW433NENKLE9

ガード SUS製 品番FK41554

本体 NNK41151

ライトバー NNW4311ENK

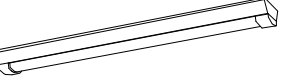
F14

LSS1MP/RP-4-30

LED 20.6W

iDシリーズ直付型40形 iスタイル 防湿型・防雨型

直付XLW433NENZLE9



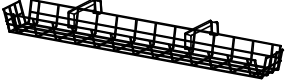
一般タイプ 3200lmタイプ
消費電力20.6W、定格出力型、電圧100～242V
本体：ステンレス（高反射白色粉体塗装）
防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白）
+アクリルコーティング
光源寿命40000時間（光束維持率85%）
IP23防湿型、昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

F14

ガード

蛍光灯用ステンレスガード

FK41554



ガード・取付金具：ステンレス（クリア塗装）

幅210・長1357・高153

X20B

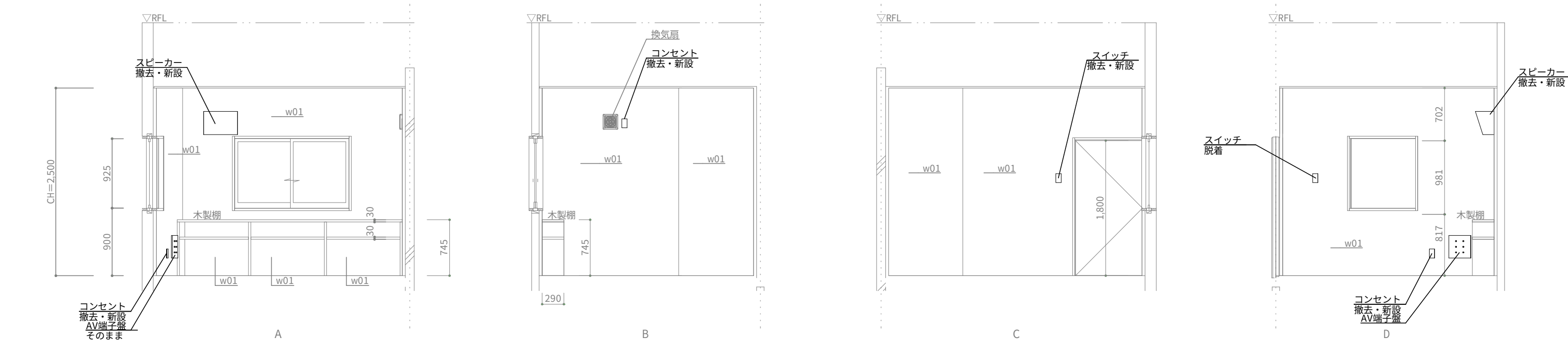
NNCF22135J LE9

新設

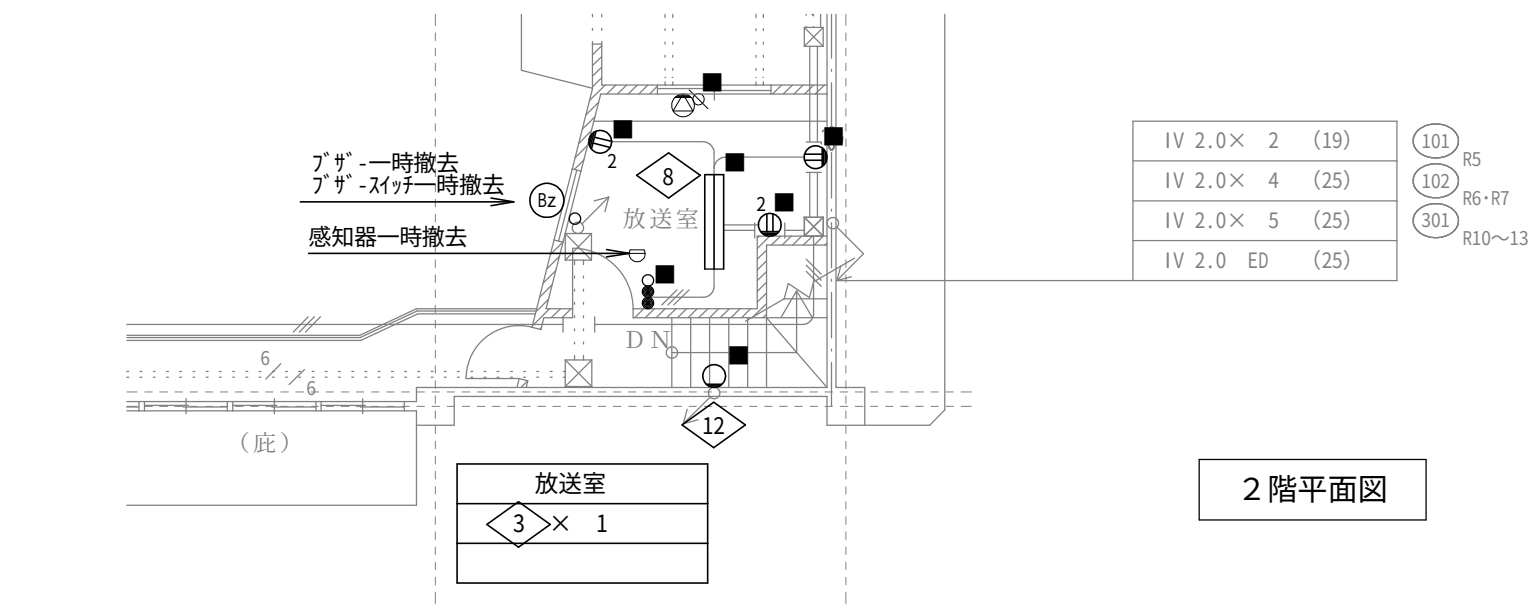
一体型階段灯通路誘導灯兼用型 ミドルタイプ20形



ひとセンチサ段間光30分、Hf1.6形器具2灯相当
非常時本体組込LED点灯、非常灯時品番番号：LAL-E-015
本体：鋁板（白色塗装）、レンズ：ガラス
常用光ユニット（カバー）：ポリカーボネート（乳白）
電圧：100～242V対応、蓄電池：ニッケル水素蓄電池
自己点検機能付、リモコン：FSK90910K（別売）

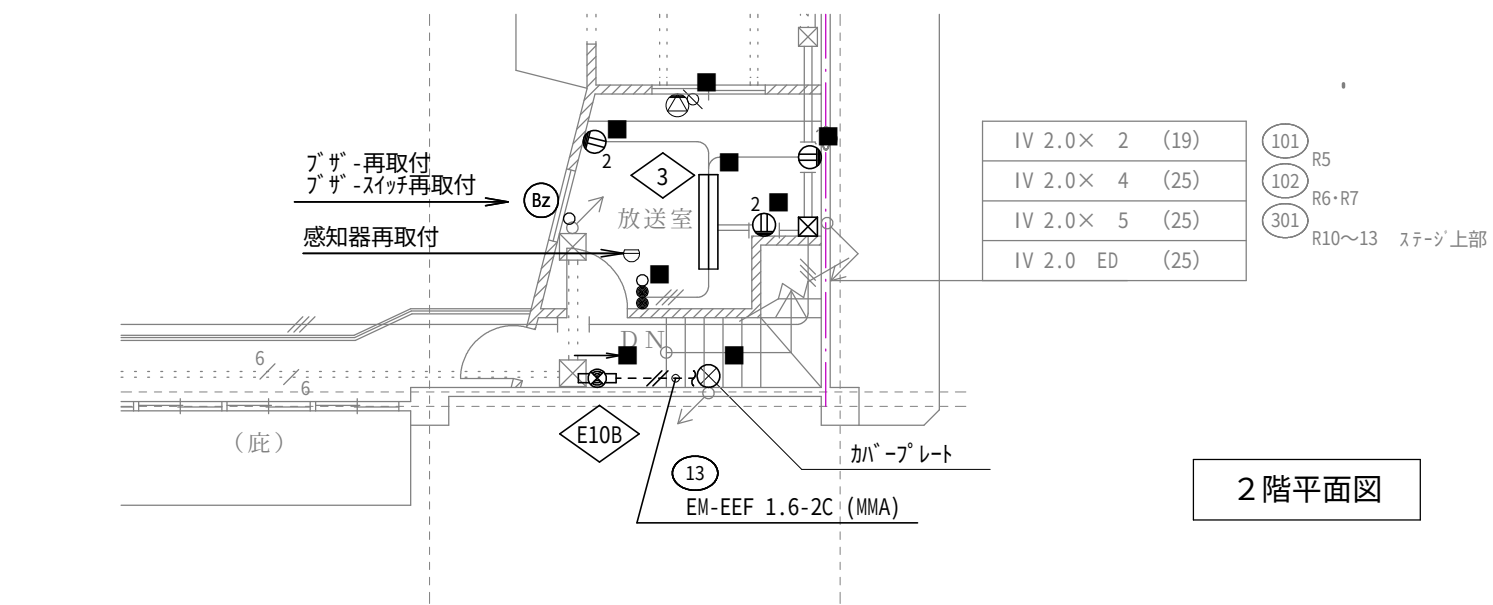


改修前



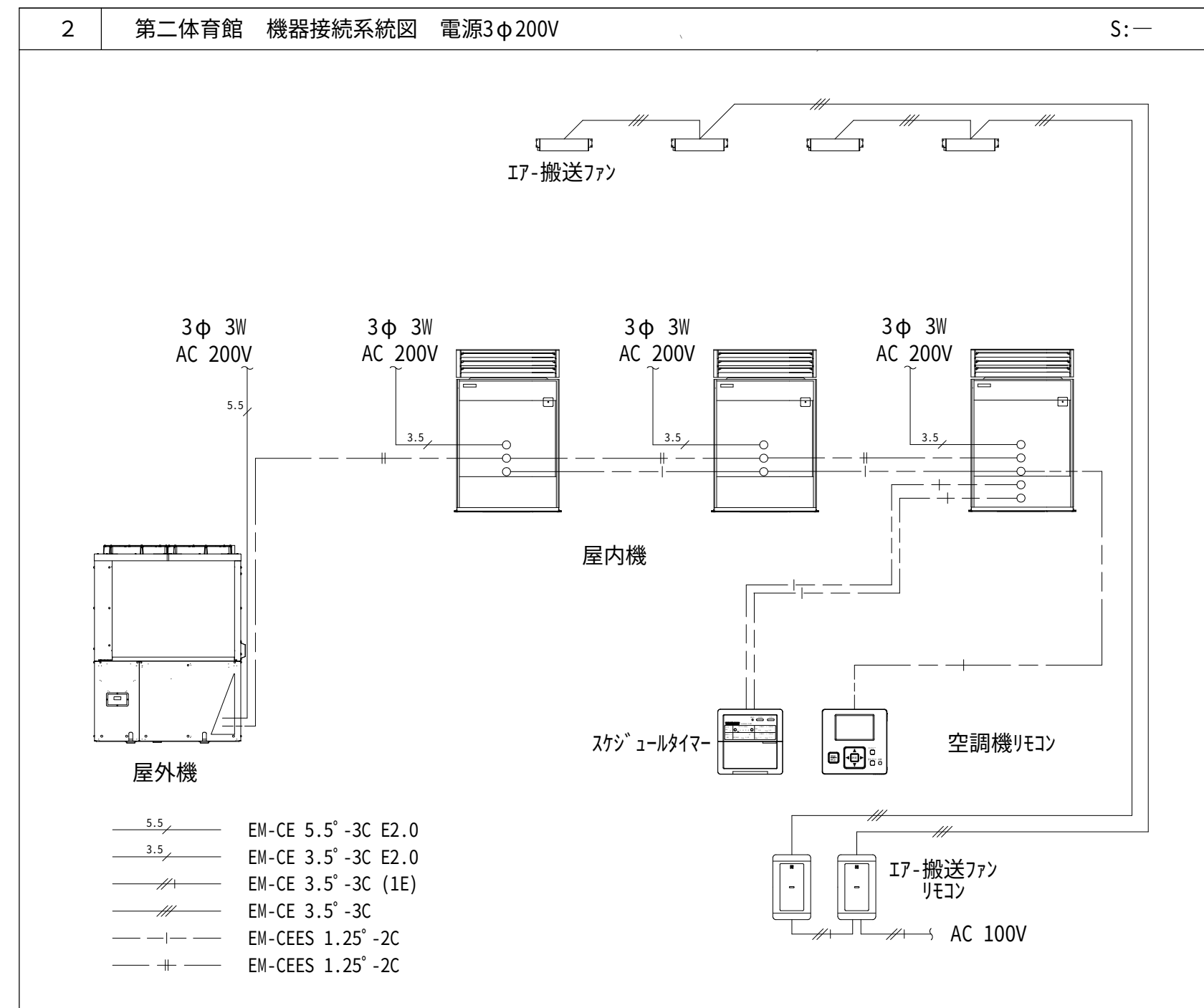
2階平面図

改修後



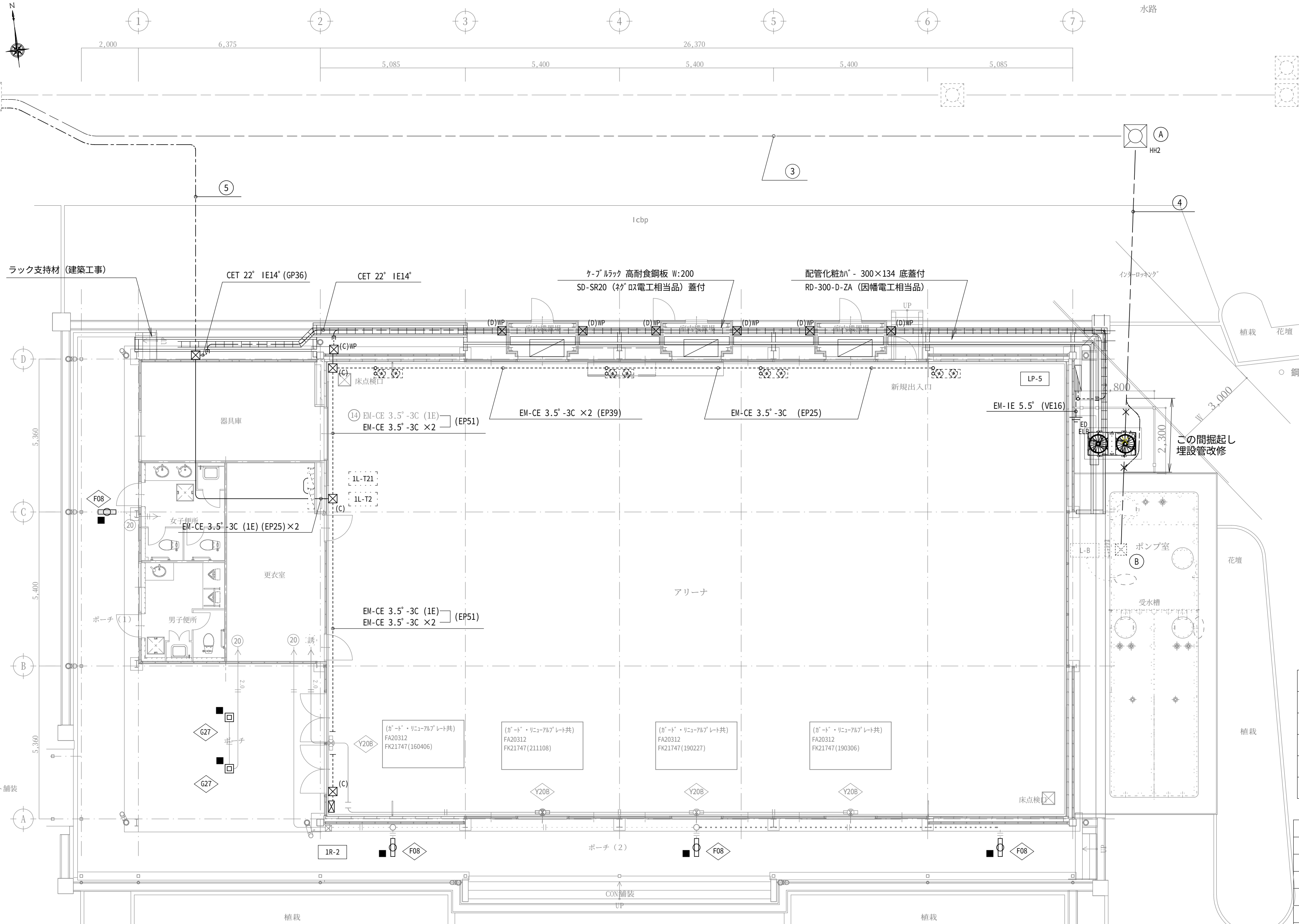
2階平面図

8		FL 40W-2
撤去		
3	6900LM	LSS9 -4 -65 LN
新設		
iDシリーズ直付型40形 Dスタイル W150 直付XF460AENLE9		
一般タイプ、6900Lmタイプ 消費電力43.1W、定格出力型、電圧100~242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光束維持時間（光束維持率85%） 昼白色（5000K）、Ra83 電源装置はライトバー側に内蔵		
E10B		ST1-FSF22-BL LED 1.1W
新設		
LED C級 避難口誘導灯片面型 FA10312CLE1+FK10367		
LED誘導灯コンパクトスクエア C級 片面型 壁・天井面付型 一般型（20分間） ニッケル水素蓄電池 リモコン自己点検機能付 型式認定番号：IAS111-3618 C級 通路誘導灯片面型		



配管・配線	
————	天井いんべい
-----	床いんべい
-----	露出
-----	地中埋設
-----	ラック配線

Project	受学管8-2 木幡中学校体育館空調設置及び長寿命化改修工事		
Drawing	第二体育館 詳細図、配線系統図		
Scale	1/50	Date	2025/09
啟 啓 建 築 事 務 所 株 式 有 限 公 司 kei Une Architectural design office inc.			京都府知事登録 04A第 02848号 一級建築士登録第320505号 啟
			E- 18 ²⁴



⑤	CET 22° IE14°	1φ3W	(FEP50)	L5	第二屋内運動場	1L-T2	地中埋設配管配線
	CET 22° IE14°	3φ3W	(FEP50)	M11			
③	CE 5.5° - 2C	1φ2W	(FEP30)	L8	ポンプ室	M-PW	地中埋設配管配線
	FPC 22° - 3C	3φ3W	(FEP40)	M1	消火ポンプ	消火ポンプ盤	
	CET 22° IE14°	3φ3W	(FEP40)	M2	揚水ポンプ	M-PW	
	CEE 2° -20C		(FEP40)	AL2	水位警報		
	CEE 2° - 5C		(FEP50)	LF5	水位制御	高架水槽	
	CEE 2° - 3C		(FEP50)	LF3	水位制御	消火補給水槽	
	EM-HP1.2-3P		(FEP50)		消火栓起動		取替
	EM-HP0.9-10P				自火報		取替

④	★ FPC 22° - 3C	3φ3W	(FEP50)	M1	消火ポンプ	消火ポンプ盤	92-JA1-FPEM×3	地中埋設配管配線 7スリット舗装部分 断りは本工事 本復旧は電気工事 掘削深さGL-600以上
	★ CE 5.5° - 2C	1φ2W	(FEP50)	L8	ポンプ室	M-PW	82-JA0×2	
	★ CET 22° IE14°	3φ3W		M2	揚水ポンプ	M-PW	92-JA2-EM×3	
	★ CEE 2° -20C		(FEP50)	AL2	水位警報		MZ2	
	★ CEE 2° - 5C			LF5	水位制御	高架水槽	MZ1	
	★ CEE 2° - 3C			LF3	水位制御	消火補給水槽	M1-T	
	★ EM-HP1.2-3P		(FEP50)		消火栓起動		取替	
	★ EM-HP0.9-10P				自火報		取替	
	予備		(FEP50)					

★印 ケーブル撤去新設電線管一部改修

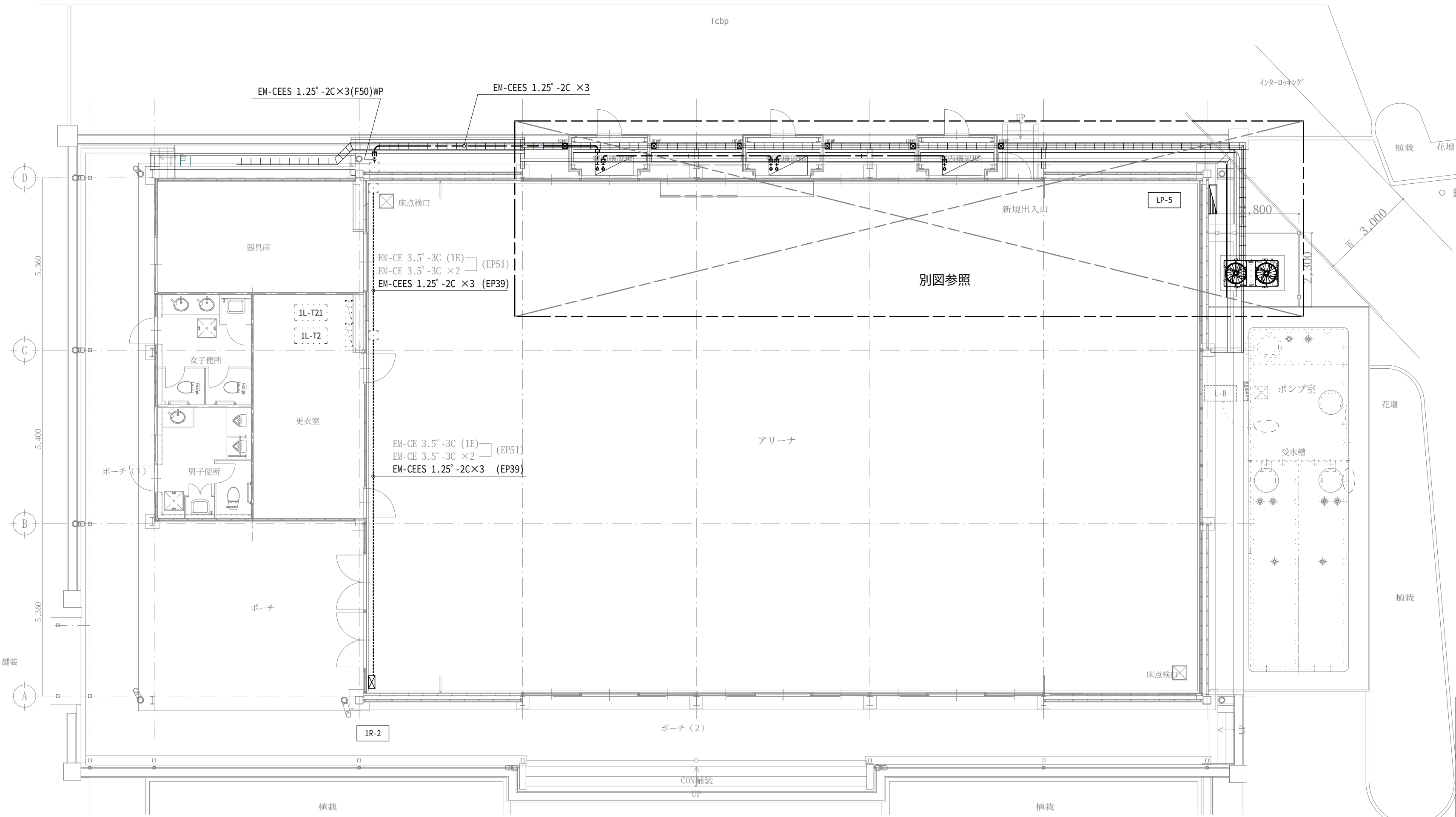
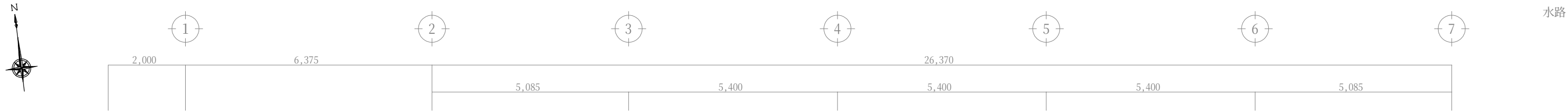
F08	790 LM	LSS1MP/RP-2-07	LED 6.0W
脱着 4台			
防湿型・防雨型			
G27	2700 LM	EFK9441W	LED 19.7W
脱着 2台			
ENDO同等品			
埋込穴：□300 埋込深さ：143 (mm)			

- 印 照明器具脱着
- 印 埋設管改修による既設ケーブル撤去及び新設
- 印 ハンドホール内にて既設ケーブル切断後新設ケーブル敷設
- 印 ハンドホール内にてモールド工法にて接続

――	天井いんべい
――	床いんべい
――	露出
――	地中埋設
――	ラック配線

凡 例	
〔 20 20 〕	E7-搬送ファン 1φ100V 142W 機械設備工事
□	メタルモール ジェクションボックス
WP ⊗	防雨入線カバー WP91319 相当品

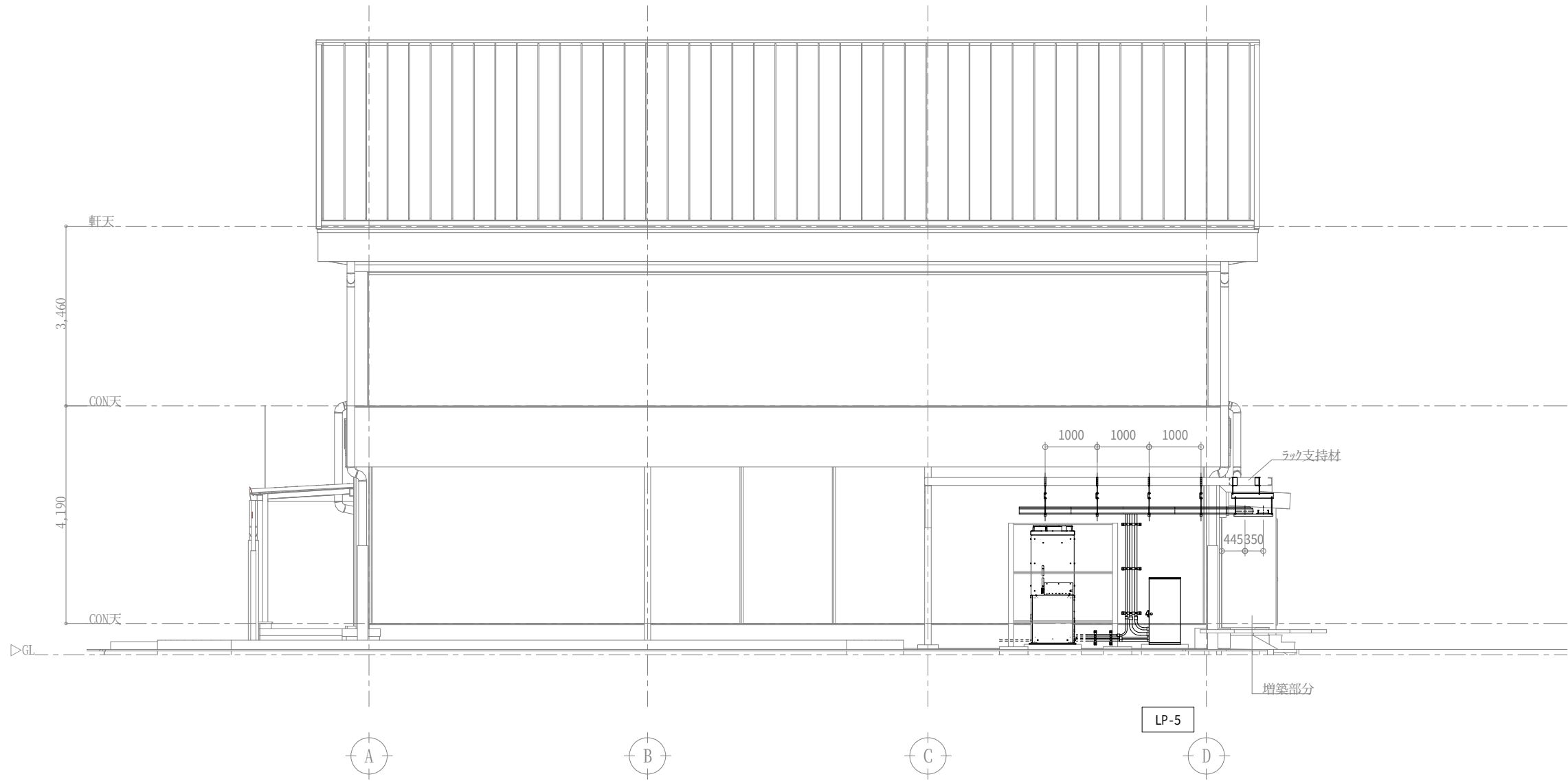
記載なき配管配線は、下記に依る。		
――	EM-CE 3.5° -3C (1E) (EP25) (GP28)	
―― 5.5	EM-CE 5.5° -3C (1E) (EP31) (GP28)	
――	EM-FCPEES 1.2-1P (EP31) (GP28)	
――	EM-FCPEE 1.2-1P (EP25) (GP22)	
凡 例	⊗ (A)	P,BOX SS 150×150×150 SUS WPは防水仕様
	⊗ (B)	P,BOX SS 200×200×200 SUS "
	⊗ (C)	P,BOX SS 300×300×300 SUS "
	⊗ (D)	P,BOX SS 300×300×200 SUS



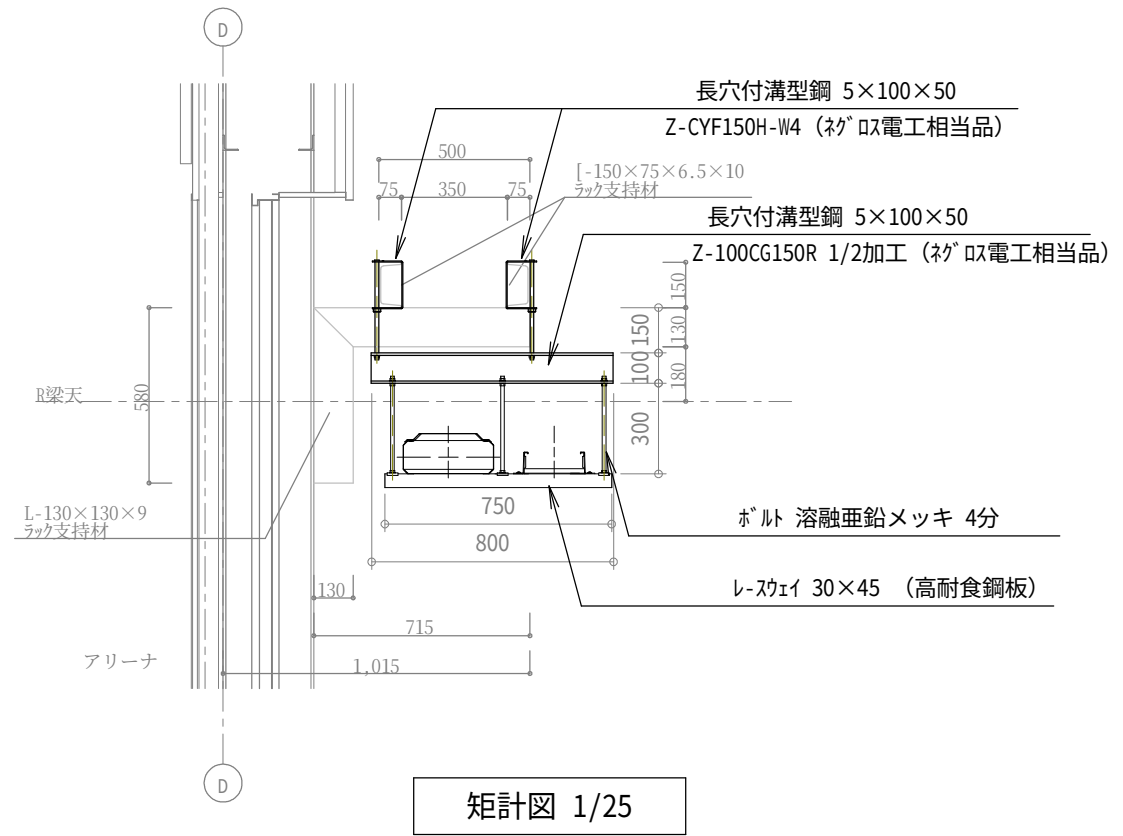
配管・配線	
———	天井いんべい
-----	床いんべい
-----	露出
-----	地中埋設
-----	ラック配線

凡 例	
[20 20]	エア搬送ファン 1φ100V 142W 機械設備工事
□	メタルモール ジェクションボックス
WP ⊗	防雨入線カバー WP91319 相当品

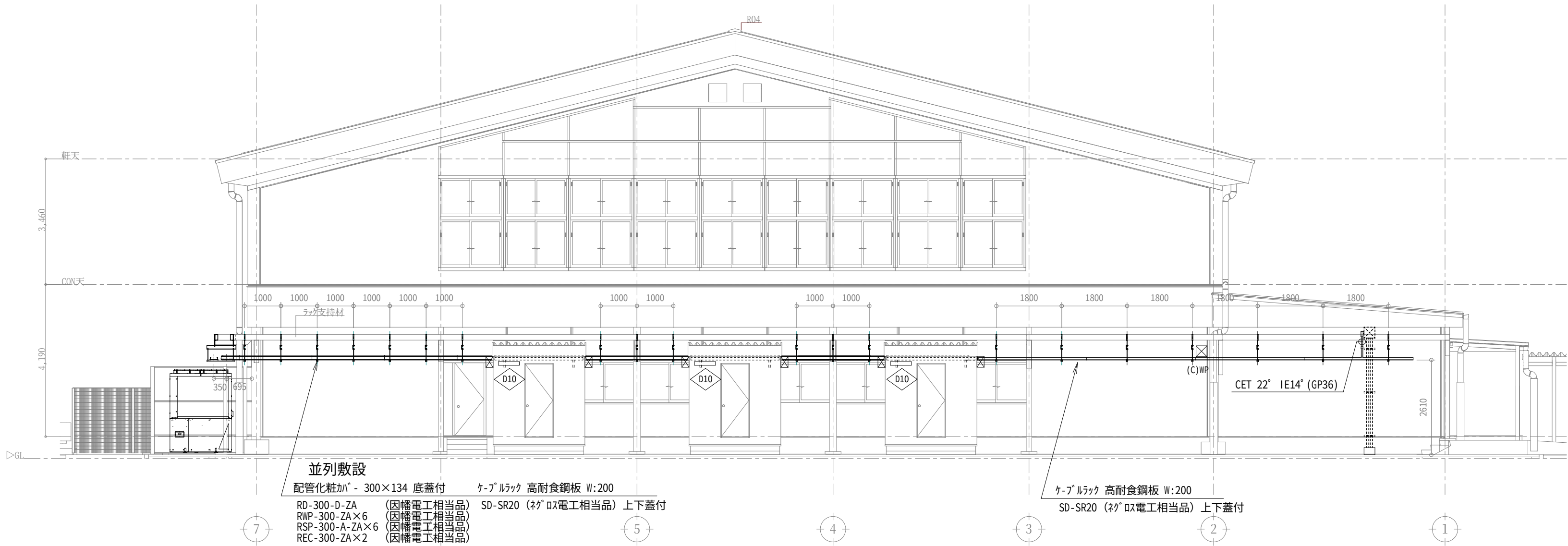
記載なき配管配線は、下記に依る。		
——— /	EM-CE 3.5" -3C (1E) (EP25) (GP28)	
——— +	EM-CEES 1.25" -2C (EP19) (GP22)	
———	EM-CEES 1.25" -2C (EP19) (GP22)	
凡 例	⊗ (A)	P,BOX SS 150×150×150 SUS WPIは防水仕様
	⊗ (B)	P,BOX SS 200×200×200 SUS //
	⊗ (C)	P,BOX SS 300×300×300 SUS //



東側立面図 1/100

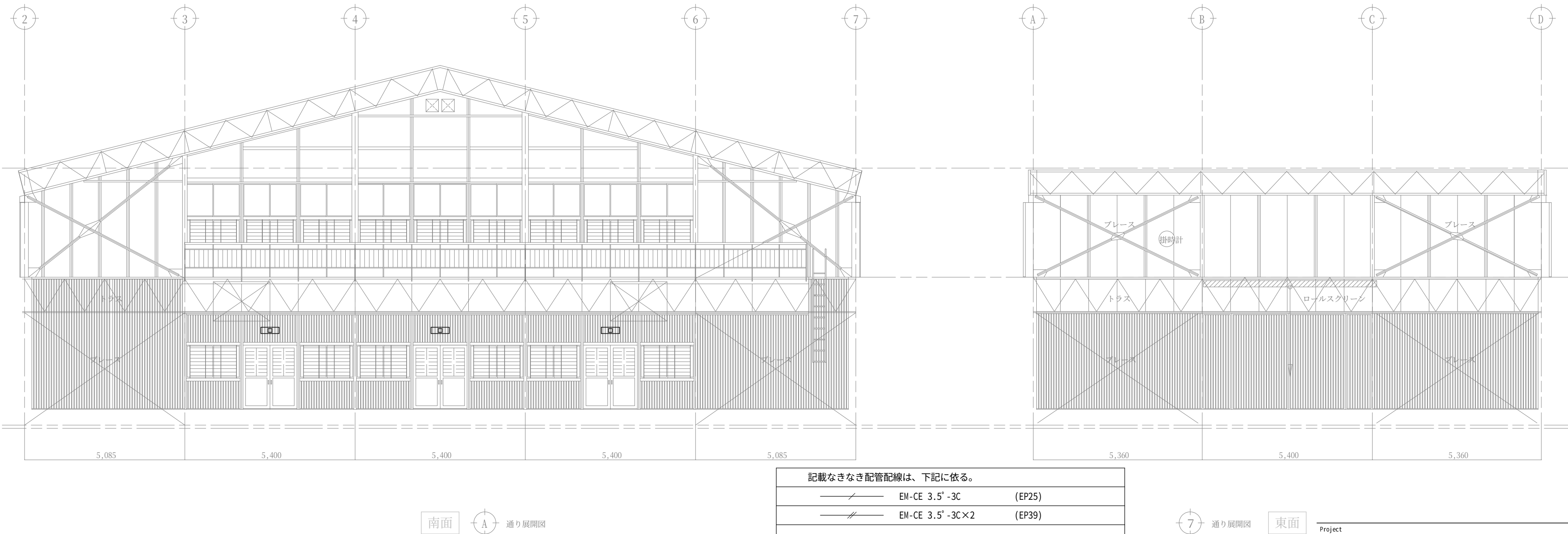
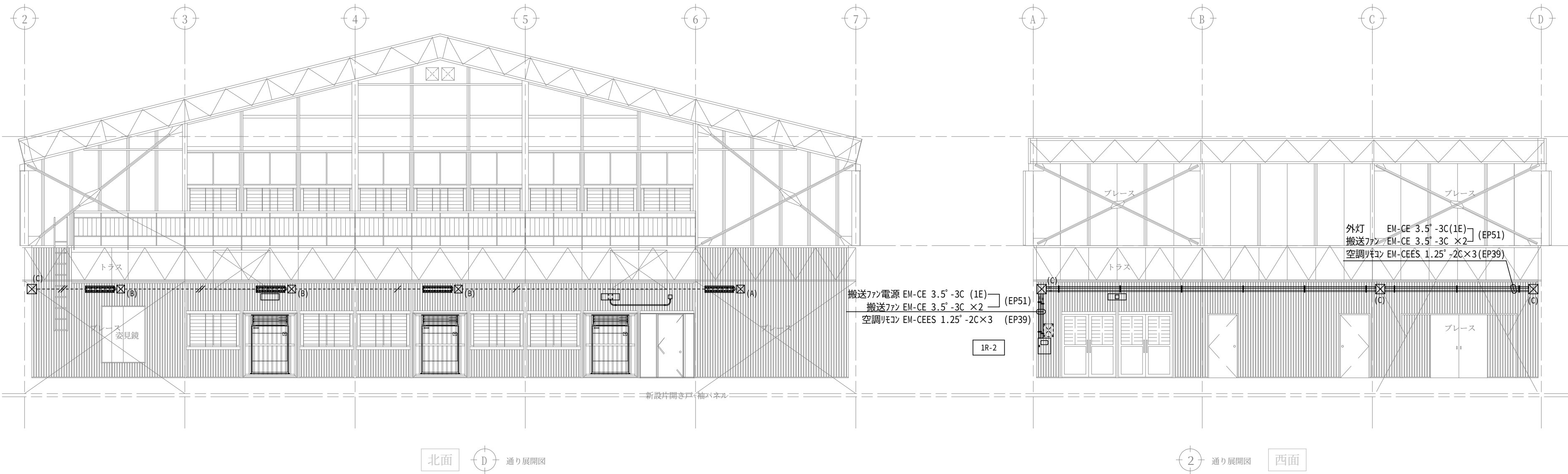


矩計図 1/25

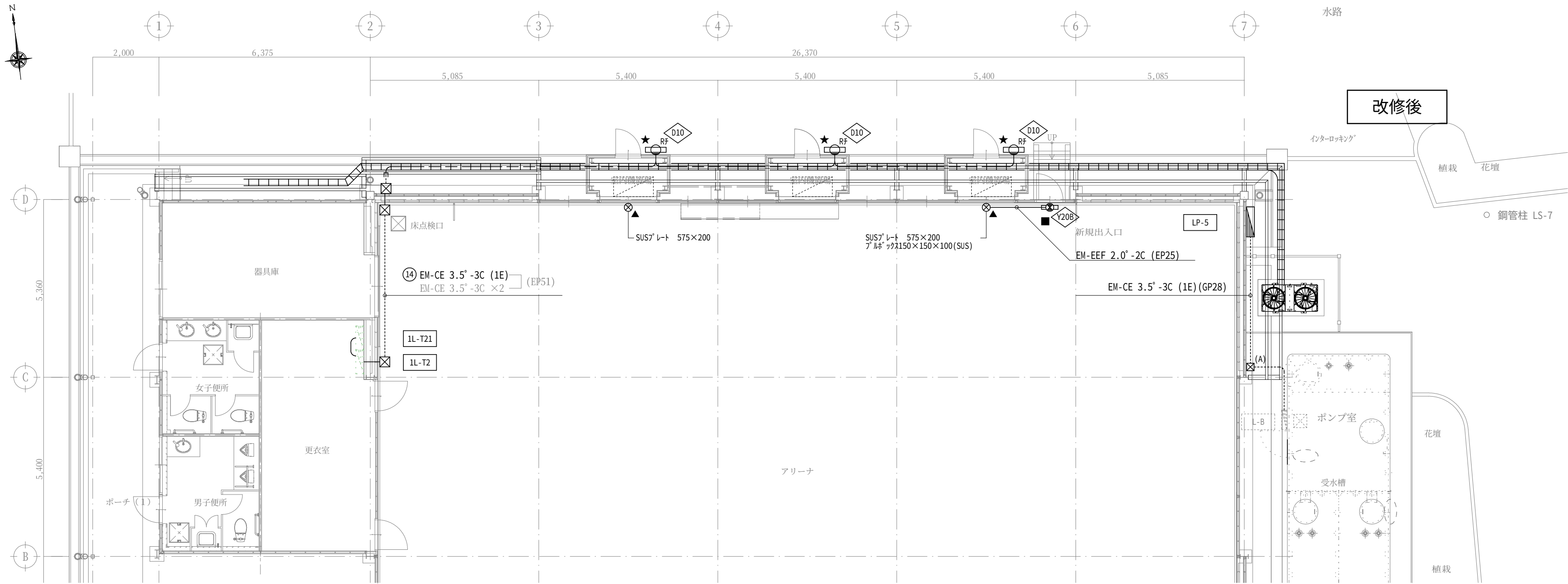


北側立面図 1/100

記載なき配管配線は、下記に依る。			
		EM-CE 3.5° -3C (1E) (EP25) (GP28)	
		EM-CEES 1.25° -2C (EP31) (GP28)	
		EM-CEES 1.25° -2C (EP25) (GP22)	
凡 例	☒ (A)	P,BOX SS 150×150×150 SUS	WPは防水仕様
	☒ (B)	P,BOX SS 200×200×200 SUS	〃
	☒ (C)	P,BOX SS 300×300×300 SUS	〃

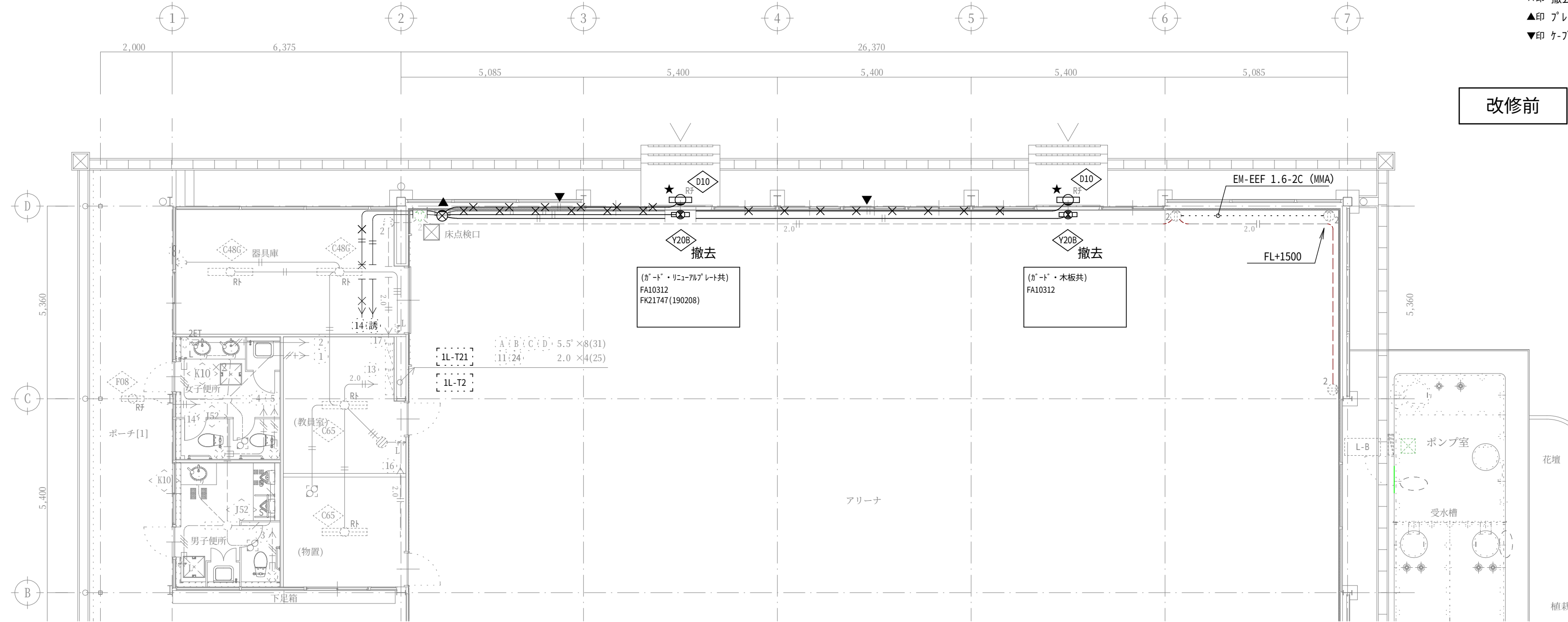


記載なき配管配線は、下記に依る。			
		EM-CE 3.5°-3C	(EP25)
		EM-CE 3.5°-3C×2	(EP39)
凡 例	☒ (A)	P, BOX SS 150×150×150 SUS	WPは防水仕様
	☒ (B)	P, BOX SS 200×200×200 SUS	〃
	☒ (C)	P, BOX SS 300×300×300 SUS	〃



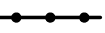
D10	1020LM	LBF3MP/RP-2-06	LED 10.2W
新設 LEDウォールライト 20形 NNFW21800KLE9			
LED内蔵・電源ユニット内蔵 防湿型・防雨型 5000K・Ra83 光束維持時間40000時間(光束維持率85%) 器具光束990lm、消費電力10W、電圧100~242V 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート(乳白) 天井直付型・壁直付型、保護等級：IP23			
Y20B	FA10312+FK11747 ガード付		
撤去 C級			
Y20B	FA10312+FK11747 ガード付		
新設 B級・B L形 避難口誘導灯片面型 SH1-FBF22-BL FA20312CLE1+FK20300			
LED誘導灯コンパクトスクエア B級・B L形 片面型 壁・天井直付型 一般型(20分間) ニッケル水素蓄電池 リモコン自己点検機能付 型式認定番号：1AM111-3209 ガード付(FA025612)			

- ★印 既設撤去新設
- 印 新設
- ×印 撤去
- ▲印 プレート取替
- ▼印 ケーブル撤去 電線管放棄



配管・配線	
——	天井いんべい
----	床いんべい
-----	露出
-----	地中埋設
-----	ラック配線

記載なき配管配線は、下記に依る。		
—— / —— EM-CE 3.5°-3C (1E) (EP25) (GP28)		
—— EM-EEF 1.6-2C (EP25) (GP22)		
—— —— VVF 1.6-2C (EP25) (GP22)		
凡 例	☒ (A)	P,BOX SS 150×150×150 SUS WPは防水仕様
	☒ (B)	P,BOX SS 200×200×200 SUS "
	☒ (C)	P,BOX SS 300×300×300 SUS "

凡例・特記事項	
	交通誘導員の配備位置を示す。(作業中適宜移動) 大型重機による進入及び作業を行う場合は、必要に応じて増員する
	資材置き場、作業員用駐車場 仮囲い(カラーコーン)を設置
	工事用車両・利用者進入路を示す

